

一般国道170号西石切立体交差事業に伴う

鬼虎川遺跡第62・63次発掘調査報告

2008. 3

東大阪市教育委員会

一般国道170号西石切立体交差事業に伴う

鬼虎川遺跡第62・63次発掘調査報告

2008. 3

東大阪市教育委員会



銅劍鑄型

はしがき

本調査地周辺は、国道170号および308号の敷設、国道308号の拡幅、近鉄東大阪線・阪神高速道路東大阪線・第二阪奈有料道路の開通により、それまでの田園風景は一変し、住宅・工場・会社などが建ち並ぶ都市化へと変容しました。その後、西石切交差点での渋滞現象もおこり、南北方向に貫く国道170号の立体交差事業を含む道路整備の必要性をもたらしました。

鬼虎川遺跡は、これまでの発掘調査によって、弥生時代中期の代表的な拠点集落としてよく知られています。しかし、本遺跡は後期旧石器時代以降現在に至るまで、食物の獲得地・集落・生産域として、ほとんど人跡の途絶えたことはありません。

今回の調査では、弥生時代の集落状況を確認するとともに、中期末葉の整地層から銅剣の鋳型を検出し、本遺跡が弥生時代における青銅器供給地であったことをも裏付けられました。さらに、古代から近世にわたる耕作状況などからこの時期の歴史的景観をも再確認することができました。

本書の内容は、地域史解明の一助になるものと思っています。

現地調査および遺物整理・報告書作成にあたってご協力・ご教示を賜った関係諸機関・諸氏に感謝するとともに、今後一層のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

平成20年3月

東大阪市教育委員会

例　　言

1. 本書は一般国道170号西石切立体交差事業に伴う鬼虎川遺跡第62・63次発掘調査の概要報告書である。
2. 調査地は大阪府東大阪市弥生町1371-3、1371-4と西石切町5丁目190-8である。
3. 第62・63次調査は大阪府八尾土木事務所の依頼を受けて、東大阪市教育委員会文化財課が実施した。
4. 調査にかかる費用は全額大阪府八尾土木事務所が負担・用意した。
5. 第62次調査は平成18年6月7日から11月10日まで、第63次調査は平成18年10月31日から11月21日まで発掘調査を行ない、遺物整理および報告書作成作業は平成20年3月31日まで実施した。
6. 調査は若松博恵・武田雄志が担当し、遺物整理については主に才原金弘と武田が行なった。
7. 動物遺体の同定については大阪市立大学大学院医学研究科分子生体医学大講座器官構築形態学(解剖学第2)の安部みき子氏に、石製品など石材の同定については大阪市立自然史博物館の川端清司氏に依頼し、報文を賜った。
8. 基本杭・調査杭打設は、株式会社アスカ、写真測量は株式会社ジオテクノ関西、遺物写真はO.P.C カメラ店に委託して実施した。
9. 銅剣鋳型の螢光X線分析については奈良文化財研究所の村上隆氏の協力を得て分析結果を賜り、巻頭写真是同所の牛島茂氏の協力を得た。
10. 本書はI～III-1、V-1・5およびVI-2を若松、III-c-1)を才原、III-2・3a・b・c-2)、V-2・3・4とVI-1を武田、IV-1を安部、IV-2を川端、IV-3を村上が執筆し、若松が編集した。遺物の記述にあたっては、土器・石器・木製品・骨角牙製品については、第62・63次それぞれ掲載順に通し番号、1・2……、同定資料としての動物遺体は同様に資料番号として別の通し番号、資1・資2……を付した。
11. 現地の土色及び土器等の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財團法人色彩研究所色票監修『新版 標準土色帖』(2000年版)に準拠し、記号表記もこれに従った。
12. 調査及び報告書作成にあたっては下記の方々のご協力・ご教示を賜った。記して謝意を表します(敬称略・順不同)。
大阪府八尾土木事務所、金剛土木株式会社、清起建設株式会社、安西工業株式会社、奈良文化財研究所、大阪府立弥生文化博物館、大阪府文化財センター、尼崎市立田能資料館、徳島市立考古資料館、京都国立博物館、金闇恕、水野正好、近藤喬一、難波洋三、岩永省三、澤澤芳樹、宮井善朗、吉田広、村川行弘、村上隆、柳田康雄、中西克宏
13. 現地調査及び遺物整理・報告書作成には下記の方々の参加を得た。
福田由里子、内藤隆、佐野耕平、山上憲一、西尾さつき、戎井健二、内田友希、西村慶子、八田美代子、西川美奈子、西川由里子、秋吉由美子、片山くみ子、水沼優、柏元まさか

本文目次

I.	調査に至る経過.....	1
II.	位置と環境.....	2
III.	第62次調査の概要.....	6
1.	調査の方法と経過.....	6
2.	基本層位.....	9
3.	調査内容.....	11
a.	層位	11
b.	遺構	16
c.	遺物	34
IV.	自然科学.....	92
1.	鬼虎川遺跡の動物遺体の分析.....	92
2.	鬼虎川遺跡出土の銅劍鋒型の石質について.....	104
3.	銅劍鋒型の蛍光X線分析.....	108
V.	第63次調査の概要.....	109
1.	調査に至る経緯.....	109
2.	調査経過.....	110
3.	層位.....	110
4.	各層位の状況.....	111
5.	小結.....	111
VI.	調査の総括.....	112
1.	鬼虎川出土銅劍鋒型の型式的位置付け.....	112
2.	第62・63次調査のまとめ.....	114

挿図目次

第1図	遺跡周辺図.....	3
第2図	各次数調査地位置図.....	4
第3図	調査トレンチ位置および地区割図.....	6
第4図	掘り上げ田状況と国道170号線および関連調査トレンチ位置図	7
第5図	第62次基本層位図.....	10
第6図	第62次層位断面図.....	13・14
第7図	弥生時代遺構平面図.....	17・18
第8図	弥生時代遺構断面図.....	20
第9図	大溝関連図.....	26
第10図	第15C層上面遺構平面・断面図.....	26

第11図	第11・12層上面遺構平面・断面図	29
第12図	第8・10層上面遺構平面図	30
第13図	第7層上面遺構平面・断面図	31
第14図	第3層上面遺構平面図	33
第15図	第62次大溝1出土土器実測図	35
第16図	第62次大溝1出土土器実測図	36
第17図	第62次大溝1出土土器実測図	38
第18図	第62次大溝1出土土器実測図	39
第19図	第62次大溝1出土土器実測図	40
第20図	第62次大溝1出土土器実測図	41
第21図	第62次第15層出土土器実測図	43
第22図	第62次第15層出土土器実測図	44
第23図	第62次第15層出土土器実測図	46
第24図	第62次第15層出土土器実測図	47
第25図	第62次第15層出土土器実測図	48
第26図	第62次第15層出土土器実測図	49
第27図	第62次第15層出土土器実測図	50
第28図	第62次第15層出土土器実測図	51
第29図	第62次第15層出土土器実測図	52
第30図	第62次第15層出土土器実測図	53
第31図	第62次第15層出土土器実測図	55
第32図	第62次第15層出土土器実測図	57
第33図	第62次第15層出土土器実測図	58
第34図	第62次第15層出土土器実測図	59
第35図	第62次第15層出土土器実測図	60
第36図	第62次第15層出土土器実測図	61
第37図	第62次第15層出土土器実測図	62
第38図	第62次第15層出土土器実測図	63
第39図	第62次第15層出土土器実測図	65
第40図	第62次第15層出土土器実測図	66
第41図	第62次第15層出土土器実測図	67
第42図	第62次第15層出土土器実測図	68
第43図	第62次第15層出土土器実測図	69
第44図	第62次第15層出土土器実測図	70
第45図	第62次第15層出土土器実測図	71
第46図	第62次第15層出土土器実測図	72
第47図	第62次第15層出土土器実測図	73
第48図	第62次上層出土土器実測図	74
第49図	第62次ミニチュア土器・骨角製品実測図	75
第50図	第62次土製品実測図	77

第51図	第62次土製品実測図	78
第52図	第62次土製品実測図	79
第53図	第62次銅劍鋳型実測図	81
第54図	鋳型各面名称	82
第55図	銅劍各部名称	82
第56図	第62次石器実測図	83
第57図	第62次石器実測図	85
第58図	第62次石器実測図	86
第59図	第62次石器実測図	88
第60図	第62次石器実測図	89
第61図	第62次石器実測図	90
第62図	石材顕微鏡写真	106
第63図	大阪周辺の基盤地質構造図	107
第64図	第63次調査地位置図	109
第65図	第63次層位図	110
第66図	第63次調査地現況写真	111
第67図	第56次（9工区）・62次調査弥生時代遺構平面図	115・116

表 目 次

第1表	鬼虎川遺跡調査一覧	5
第2表	第62次・第56次層位対比表	10
第3表	第62次検出弥生時代土坑計測値・埋土表	21
第4表	第62次検出弥生時代ピット計測値・埋土表	22～25
第5表	各時期における哺乳類の出現頻度	93
第6表	弥生時代中期の遺構および層位における哺乳類の出現頻度	94
第7表	下顎骨の計測値	94
第8表	肩甲骨の計測値	94
第9表	尺骨の計測値	94
第10表	動物遺体の遺構・層位別出土一覧	95～103
第11表	石材同定表	106
第12表	非破壊的手法による蛍光X線分析の結果	108
第13表	第63次・第52次層層位関係対比表	111

図版目次

卷頭

銅劍鉢型

- 図版1 遺構 1. 調査地周辺航空写真(1950年ごろ)
2. 調査地周辺航空写真(1984年撮影)
- 図版2 遺構 1. 第62次調査地遠望 北東より
2. 第62次調査地近景 南より
- 図版3 遺構 1. 第62次北壁断面1(第7~9層)
2. 第62次北壁断面2(第9~12層)
- 図版4 遺構 1. 第62次北壁断面3(第12~15層)
2. 第62次北壁断面4(第16~20層)
- 図版5 遺構 1. 第62次8・9地区付近西壁断面1(第1~7層)
2. 第62次8・9地区付近西壁断面2(第7~12層)
- 図版6 遺構 1. 第62次8・9地区付近西壁断面3(第12~14層)
2. 第62次8・9地区付近西壁断面4(第14~23層)
- 図版7 遺構 1. 第62次3・4地区付近西壁断面1(第3~8層)
2. 第62次3・4地区付近西壁断面2(第9~12層)
- 図版8 遺構 1. 第62次3・4地区付近西壁断面3(第14~23層)
2. 第62次第17層上面遺構1 1~6地区 北より
- 図版9 遺構 1. 第62次第17層上面遺構2 1地区 東より
2. 第62次第17層上面遺構3 2地区 東より
- 図版10 遺構 1. 第62次第17層上面遺構4 6地区 東より
2. 第62次第17層上面遺構 ピット35断面 2地区 南より
- 図版11 遺構 1. 第62次第16層上面遺構1 1~6地区 北より
2. 第62次第16層上面遺構2 6~9地区 南より
- 図版12 遺構 1. 第62次第16層上面遺構3 4~6地区 南より
2. 第62次第16層上面遺構4 6地区 東より
- 図版13 遺構 1. 第62次第16層大溝断面1 5地区 南より
2. 第62次第16層大溝断面2 7地区 南より
- 図版14 遺構 1. 第62次第16層上面遺構 溝1 土坑19 ピット116・124・126・127・171
4地区 東より
2. 第62次第16層上面遺構 土坑14断面 2地区 西より
- 図版15 遺構 1. 第62次第16層上面遺構 土坑25断面 6地区 東より
2. 第62次第16層上面遺構 ピット139断面 6地区 西より
- 図版16 遺構 1. 第62次第15C層上面遺構 土坑33 9地区 東より
2. 第62次第15C層上面遺構 土坑33断面 9地区 北東より
- 図版17 遺構 1. 第62次第12層上面遺構 足跡群1 2地区 西より
2. 第62次第12層上面遺構 溝2・土坑35 9地区 東より

- 図版18 遺構 1. 第62次第11層上面遺構 溝3 1～6地区 北より
2. 第62次第11層上面遺構 溝3断面 2地区 南より
- 図版19 遺構 1. 第62次第10層上面遺構 足跡群2 4～6地区 南より
2. 第62次第10層上面遺構 足跡群2 6～9地区 南より
- 図版20 遺構 1. 第62次第8層上面遺構 溝6・足跡群3 2～4地区 北より
2. 第62次第8層上面遺構 溝7～9 8・9地区 西より
- 図版21 遺構 1. 第62次第7B層上面遺構 溝10 3～5地区 北より
2. 第62次第7B層上面遺構 溝10断面1 3地区 南より
- 図版22 遺構 1. 第62次第7B層上面遺構 溝10断面2 5地区 南より
2. 第62次第7A層上面遺構 溝11 3・4地区 南より
- 図版23 遺構 1. 第62次第7A層上面遺構 溝12 6地区 東より
2. 第62次第3層上面遺構 井路 1～6地区 南より
- 図版24 遺構 1. 第62次第3層上面遺構 井路 杭打設状況 3地区 西より
2. 第62次第3層上面遺構 井路 杭打設状況 5地区 西より
- 図版25 遺構 1. 第62次第3層上面遺構 大溝2 4・5地区 東より
2. 第62次第3層上面遺構 溝13 木柵出土状況 3地区 東より
- 図版26 遺物 第62次大溝1出土弥生土器 壺・甕・高杯
- 図版27 遺物 第62次大溝1・第15層出土弥生土器 甕・壺
- 図版28 遺物 第62次第15層出土弥生土器 壺
- 図版29 遺物 第62次第15層出土弥生土器 壺・細頸壺
- 図版30 遺物 第62次第15層出土弥生土器 壺蓋・甕蓋・高杯
- 図版31 遺物 第62次第15層出土弥生土器 高杯
- 図版32 遺物 第62次第15層出土弥生土器 高杯
- 図版33 遺物 第62次第15層出土弥生土器 高杯・水差形土器
- 図版34 遺物 第62次第15層出土弥生土器 水差形土器・鉢・甕
- 図版35 遺物 第62次第15層出土弥生土器 甕
- 図版36 遺物 1. 第62次大溝1出土弥生土器 壺
2. 第62次大溝1出土弥生土器 甕
- 図版37 遺物 1. 第62次大溝1出土弥生土器 壺
2. 第62次大溝1出土弥生土器 壺
- 図版38 遺物 1. 第62次大溝1出土弥生土器 壺
2. 第62次大溝1出土弥生土器 壺
- 図版39 遺物 1. 第62次大溝1出土弥生土器 壺
2. 第62次大溝1出土弥生土器 壺・無頸壺・長頸壺・鉢
- 図版40 遺物 1. 第62次大溝1出土弥生土器 鉢・高杯
2. 第62次大溝1出土弥生土器 甕
- 図版41 遺物 1. 第62次大溝1出土弥生土器 甕
2. 第62次大溝1出土弥生土器 甕
- 図版42 遺物 1. 第62次大溝1出土弥生土器 甕
2. 第62次大溝1出土弥生土器 甕

- 图版43 遗物 1. 第62次大溝1出土弥生土器 壶
2. 第62次大溝1出土弥生土器 壶
- 图版44 遗物 1. 第62次大溝1出土弥生土器 壶·壺蓋
2. 第62次大溝1出土弥生土器 壺蓋
- 图版45 遗物 1. 第62次第15層出土弥生土器 壺
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺
- 图版46 遗物 1. 第62次第15層出土弥生土器 壺
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺
- 图版47 遗物 1. 第62次第15層出土弥生土器 壺
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺
- 图版48 遗物 1. 第62次第15層出土弥生土器 壺
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺
- 图版49 遗物 1. 第62次第15層出土弥生土器 壺
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺
- 图版50 遗物 1. 第62次第15層出土弥生土器 壺
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺
- 图版51 遗物 1. 第62次第15層出土弥生土器 壺
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺
- 图版52 遗物 1. 第62次第15層出土弥生土器 壺
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺
- 图版53 遗物 1. 第62次第15層出土弥生土器 壺
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺
- 图版54 遗物 1. 第62次第15層出土弥生土器 壺
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺
- 图版55 遗物 1. 第62次第15層出土弥生土器 壺
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺
- 图版56 遗物 1. 第62次第15層出土弥生土器 壺
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺
- 图版57 遗物 1. 第62次第15層出土弥生土器 壺
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺
- 图版58 遗物 1. 第62次第15層出土弥生土器 壺
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺
- 图版59 遗物 1. 第62次第15層出土弥生土器 壺
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺
- 图版60 遗物 1. 第62次第15層出土弥生土器 壺
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺
- 图版61 遗物 1. 第62次第15層出土弥生土器 壺·無頸壺
2. 第62次第15層出土弥生土器 無頸壺
- 图版62 遗物 1. 第62次第15層出土弥生土器 長頸壺·細頸壺
2. 第62次第15層出土弥生土器 細頸壺·壺蓋

- 図版63 遺物 1. 第62次第15層出土弥生土器 壺蓋
2. 第62次第15層出土弥生土器 高杯
- 図版64 遺物 1. 第62次第15層出土弥生土器 高杯
2. 第62次第15層出土弥生土器 高杯
- 図版65 遺物 1. 第62次第15層出土弥生土器 高杯
2. 第62次第15層出土弥生土器 高杯・鉢
- 図版66 遺物 1. 第62次第15層出土弥生土器 鉢
2. 第62次第15層出土弥生土器 鉢
- 図版67 遺物 1. 第62次第15層出土弥生土器 鉢
2. 第62次第15層出土弥生土器 鉢
- 図版68 遺物 1. 第62次第15層出土弥生土器 鉢
2. 第62次第15層出土弥生土器 鉢
- 図版69 遺物 1. 第62次第15層出土弥生土器 鉢
2. 第62次第15層出土弥生土器 鉢
- 図版70 遺物 1. 第62次第15層出土弥生土器 鉢
2. 第62次第15層出土弥生土器 鉢
- 図版71 遺物 1. 第62次第15層出土弥生土器 鉢
2. 第62次第15層出土弥生土器 鉢
- 図版72 遺物 1. 第62次第15層出土弥生土器 水差形土器
2. 第62次第15層出土弥生土器 水差形土器
- 図版73 遺物 1. 第62次第15層出土弥生土器 壺
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺
- 図版74 遺物 1. 第62次第15層出土弥生土器 壺
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺
- 図版75 遺物 1. 第62次第15層出土弥生土器 壺
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺
- 図版76 遺物 1. 第62次第15層出土弥生土器 壺
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺
- 図版77 遺物 1. 第62次第15層出土弥生土器 壺
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺
- 図版78 遺物 1. 第62次第15層出土弥生土器 壺
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺
- 図版79 遺物 1. 第62次第15層出土弥生土器 壺
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺
- 図版80 遺物 1. 第62次第15層出土弥生土器 壺
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺
- 図版81 遺物 1. 第62次第15層出土弥生土器 壺
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺
- 図版82 遺物 1. 第62次第15層出土弥生土器 壺
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺

- 図版83 遺物 1. 第62次第15層出土弥生土器 壺
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺
- 図版84 遺物 1. 第62次第15層出土弥生土器 壺
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺
- 図版85 遺物 1. 第62次第15層出土弥生土器 壺
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺
- 図版86 遺物 1. 第62次第15層出土弥生土器 壺
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺
- 図版87 遺物 1. 第62次第15層出土弥生土器 壺
2. 第62次上層出土須恵器 壺・壺・杯、土師器 壺・高杯・椀・杯
- 図版88 遺物 1. 第62次ミニチュア土器 壺・鉢・高杯・蓋
2. 第62次土製品
- 図版89 遺物 1. 第62次土製品（表）
2. 第62次同上（裏）
- 図版90 遺物 1. 第62次土製品（表）
2. 第62次同上（裏）
- 図版91 遺物 1. 第62次土製品（表）
2. 第62次同上（裏）
- 図版92 遺物 1. 第62次土製品
- 図版93 遺物 1. 第62次土製品・骨角製品
- 図版94 遺物 1. 第62次銅劍鋸型
- 図版95 遺物 1. 第62次石器（表）
2. 第62次同上（裏）
- 図版96 遺物 1. 第62次石器（表）
2. 第62次同上（裏・側面）
- 図版97 遺物 1. 第62次石器（表）
2. 第62次同上（裏）
- 図版98 遺物 1. 第62次石器（表）
2. 第62次同上（裏）
- 図版99 遺物 1. 第62次石器（表）
2. 第62次同上（裏）
- 図版100 遺物 1. 第62次石器（表）
2. 第62次同上（裏）
- 図版101 遺物 1. 第62次石器（表）
2. 第62次同上（裏）
- 図版102 遺物 1. 第62次石器（表）
2. 第62次同上（裏）
- 図版103 遺物 1. 第62次石器（表）
2. 第62次同上（裏）
- 図版104 遺物 1. 第62次石器（表）

2. 第62次同上。(裏)
- 図版105 遺物 1. 第62次石器(表)
2. 第62次同上(裏)
- 図版106 遺物 1. 第62次動物遺体
- 図版107 遺物 1. 第62次動物遺体
- 図版108 遺物 1. 第62次動物遺体
- 図版109 遺物 1. 第62次動物遺体
- 図版110 遺構 1. 第63次南壁断面1
2. 第63次南壁断面2
- 図版111 遺物 1. 第63次出土弥生土器
2. 第63次出土須恵器・土師器

I. 調査に至る経過

調査は一般国道170号の西石切立体交差事業に伴う発掘調査の一貫として平成18年に実施した。国道170号と国道308号とが交叉する「被服団地前」は交通渋滞をきたす場所として早くからその解消が求められてきた。平成9年4月の第二阪奈有料道路の開通によりその混雑は増し、平成10年に西石切立体交差事業は国庫補助事業として採択された。国道308号の中央分離帯には阪神高速道路東大阪線・第二阪奈有料道路連絡道および近畿日本鉄道東大阪線の橋脚が存立し、これらは国道170号の上部に位置することから、立体交差事業はアンダーパス工法が選択された。

「被服団地前」交差点付近は弥生時代中期の拠点集落として周知されている鬼虎川遺跡が広がり、1975年以降、60次におよぶ発掘調査が行なわれている。これまでの調査で東北部域（第18・25・29・32・33次など）から縄文時代前期の縄文海進による海食崖を検出し、その付近からは前期～中期の土器・石器や魚介類などの動物遺体が出土した。弥生時代の遺構・遺物は多数確認している。前期は遺跡北西部に長原式土器と前期土器を作う貝塚（第21・27次）、ほぼ中央部に前期土器を多量に含む大溝（第40・46・45次など）などが見られるが、集落状況は不明である。遺跡北側からは（北端部付近は希薄）中期の大溝・井戸などの土坑・柱穴などのピット群・貝塚、そして方形周溝墓・土坑墓・土器棺墓などの遺構と多量の弥生土器・石器・木製品などが検出され、複数の大溝を伴う大集落（環濠集落）が形成されていた。後期になると集落は縮小化した。古墳時代前期には集落の中心は南部へ（第36次など）、後期には東北部へと移行していったようである（第23次など）。飛鳥時代以降の遺構・遺物は希薄で、西部域を中心に生産域と化す。奈良から平安時代前半には条里制に伴う遺構が見られるようになり、中世にはその坪境などに道・溝が設けられ、近世になると掘り上げ田に伴う井路が形成されていた。

立体交差計画域が遺跡中央部を縦断することから、事業者である大阪府（大阪府八尾土木事務所）と調査主体者の東大阪市（東大阪市教育委員会文化財課）は協議に入り、調査域の確認（特に北部）と国道170号現道下埋設管等の移設・埋設先である両側拡幅箇所の発掘調査を実施することで合意し、平成6年度以降道路拡幅域の確保に伴い随時調査を続行している。

平成6年度に調査対象の北限および遺跡の北端を確定した国道308号以北の国道170号北西側部の調査（第38次）、8年度に同北東側部の調査（第42次）を行ない、中・近世の溝および自然流路と近世から近代の掘り上げ田の井路などを検出し、弥生時代前・中期の遺物包含層をも確認したが出土遺物は希薄であった。第44次調査では古代の墨書き土器・弥生時代中期遺物包含層から大量の弥生土器などとともにヒスイ製獣形勾玉が出土し、弥生中期前半から中半の大溝と2基の土坑墓を検出した。第49次調査では弥生時代中期の自然流路・中・近世の溝および近世から近代の掘り上げ田の井路などを検出した。第52次調査では弥生時代前期から中期の溝・ピット・自然流路・中・近世の溝および自然流路と近世から近代の掘り上げ田の井路・弥生土器や中世末の板卒塔婆などを検出した。第53次調査では条里制に伴う東西方向の道・溝を確認し、弥生時代中期遺物包含層からは多量の弥生土器と細形銅劍形磨製石劍などが出土し、弥生時代前期から中期の土坑墓・土器棺墓・柱穴・土坑群や大溝を検出した。第56次調査は第52次の西南および南に位置し、弥生時代中期遺物包含層から大量の弥生土器などとともに土器棺・土偶が出土し、弥生時代前期から中期の大溝・ピット・土坑群などと、平安時代までの南北方向の坪境遺構を検出した。第58次および第60次調査では弥生時代中期遺物包含層から大量の弥生土器などとともに土偶（第58次）が出土し、弥生時代中期の大溝・ピット・土坑群と古代以降の耕作跡などを検出した。

II. 位置と環境

鬼虎川遺跡は生駒山の西麓、標高4～8mの扇状地末端部から沖積平野にかけて広がり、現在の東大阪市弥生町・西石切町・宝町・新町一帯に位置する旧石器時代から江戸時代にわたる複合遺跡である。北端中央部から南東部にかけて国道170号（外環状線）がほぼ南北に走り、北部にはこれに直行するように東西方向の国道308号が延び、その中央分離帯域には近畿日本鉄道東大阪線および阪神高速道路東大阪線と第二阪奈有料道路連絡道が内包されている。西部には南から北方向に流れる恵智川があり、東からそれに注ぎ込む新川などの川がある。現在は住宅・工場・会社・病院などが建ち並び、水田・畑地はほとんど見ることはできない。しかし、50年ほど前までは小集落が点在し、掘り上げ田などの田園が広がるのどかな地域であった。

本遺跡は弥生時代中期を中心とした大集落跡としてよく知られているが、人跡は後期旧石器時代にまで遡る。この時期の遺跡としては東接する西ノ辻遺跡をはじめ、千手寺山・正興寺山・山畠遺跡などがあり、ナイフ型石器・翼状剥片が出土している。

縄文時代の遺跡は山麓部から段丘・扇状地上などに点在し、まずは有舌尖頭器が出土した草香山・貝花遺跡と本遺跡がある。早期では多くの押型文土器とともに石器・土偶と炉跡・集石造構を検出した神並遺跡があり、この土器は西ノ辻・日下・山畠遺跡からも出土している。前期は温暖化がピークに達し（縄文海進）、本遺跡東部などからこの時期の海食崖が検出され、前・中期の土器や魚介類などの動物遺体が出土している。中期の遺跡としては善根寺・繩手・馬場川遺跡があるが、それほど顕著ではない。しかし後期には多くの土器・石器などとともに住居跡・配石造構などが見られる縄手遺跡があり、日下・芝ヶ丘・神並・鬼塚・馬場川遺跡とともに本遺跡からもこの時期の土器が出土している。そして晩期になると貝塚・墓地や多量の土器・石器が確認されている日下遺跡をはじめ、鬼塚・馬場川・宮ノ下などの遺跡で集落が営まれていた。

弥生時代になると集落形成は主に平野部に移り、本遺跡の西端に長原式土器と前期土器を包含した貝塚があり、本遺跡中央部や植附・中垣内遺跡、本市中南部の山賀遺跡などから前期土器が出土している。中期には本遺跡において数条の大溝を伴う大集落が営まれ、土器・石器・木製品などの大量の遺物と方形周溝墓や貝塚などを検出しており、これに近い状況は本市中央部の瓜生堂遺跡でも見られる。やや遅れて中期後半から後期前半には西ノ辻遺跡で集落が形成された。後期になると集落は小規模化するものの、本遺跡や段上・上六万寺・北鳥池遺跡などの平野部の集落と、山畠・岩瀧山遺跡などの高地性集落が営まれていた。

古墳時代前期には本遺跡南部および五合田・西岩田遺跡などから多くの土師器が出土し、集落が点在して形成されていた。中・後期になると植附・芝ヶ丘・神並・西ノ辻・山畠・市尻遺跡などとともに本遺跡北部でも集落が営まれていたが、いずれもそれほど大きくない。本市には前期の大型古墳は見られないが、塚山・えの木塚・客坊山1号墳など中期以降古墳は築かれるようになり、山畠古墳群・花草山古墳群・客坊山古墳群・神並古墳群・雲井古墳群などの群集墳・植附・段上・巨摩廃寺遺跡などに小型低丘墳と、小規模ではあるが後期古墳が山麓部を中心に数多く築造された。

飛鳥・奈良時代以降は仏教の受容を反映するかのように若江寺・河内寺・法通寺・石凝寺、やや後出する客坊廃寺などの寺院が建立された。本遺跡や西ノ辻・神並・鬼塚遺跡などからは掘立柱建物・井戸・溝・須恵器・土師器や墨書き土器などが出土し、この時期の集落・耕作関連の遺構が検出されている。

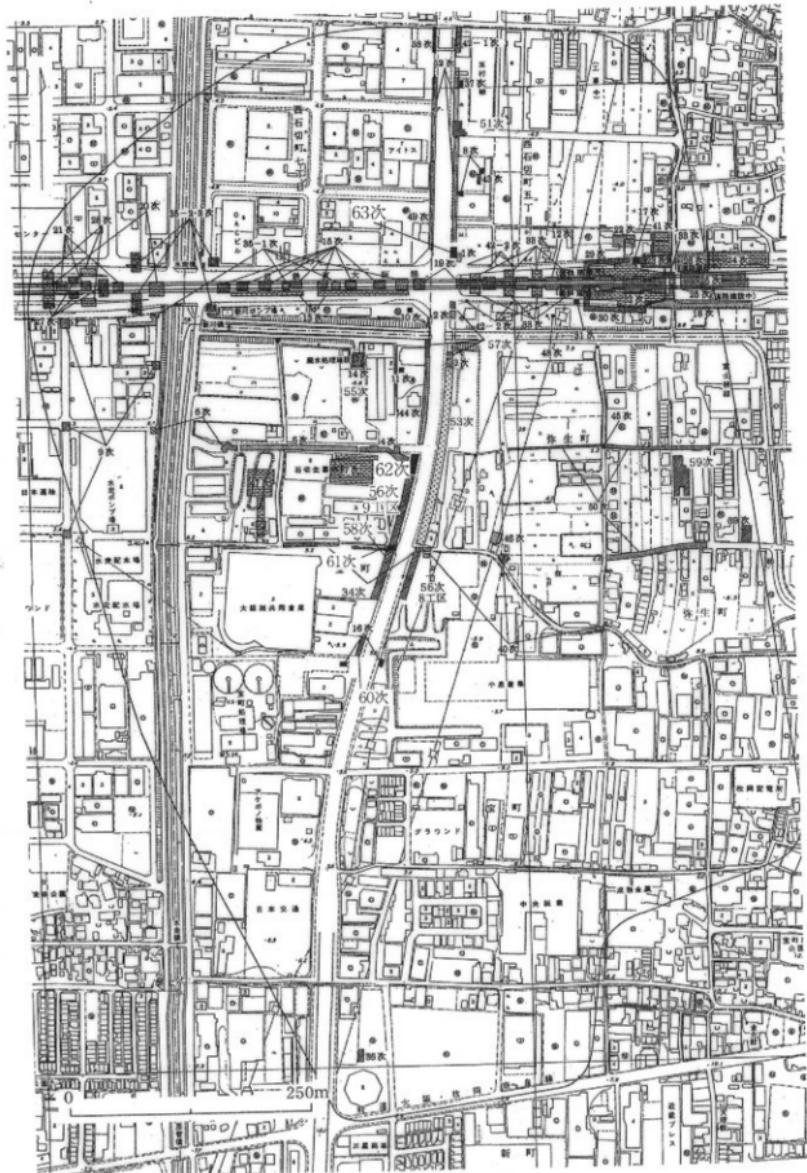
平安時代前半からは条里制に伴う東西・南北方向の溝・畔などの造構、平安時代後半から鎌倉時代

には広い範囲にわたり整地活動が見られ、西ノ辻・神並遺跡などで掘立柱建物跡などの集落遺構とともに客土層や耕作跡が確認されている。また、西接する水走遺跡ではこの時期に堰・堤防を設けて大掛かりな開発を行なうとともに、大塚を伴う集落も形成された。

南北朝期を含む室町時代には西ノ辻遺跡をはじめ、のちの暗峠越奈良街道・東高野街道などの道路沿いなどに村落が営まれ、その状況はほとんど江戸時代以降まで存続した。またこの時期、平野部の若江城を中心として客坊城・往生院城などの城が数多く築造されたが、安土・桃山時代までは廃絶または城としての機能をなくしてしまった。江戸時代になると大利川の付け替え工事が行なわれ、平野部における生産域の状態を一変させた。旧の河川・池は埋め立てられてその周辺を含め田畠が整備され、本遺跡西部域ではいわゆる掘り上げ田が形成された。



第1図 遺跡周辺図 (1/25000)



第2図 各次数調査地位置図

第1表 鬼怒川遺跡調査一覧 <一般国道170号西石切立体交差事業関連>

事務局名	開催地	会員登録料 (円)	実施期間	運営主委	銀行名	開設行番号	開設行支店名	開設行支店番号	開設行支店電話番号	中間一定の距離、近畿圏に限り「JFH」の略称。
「六甲山文化祭」主催団体会員登録料(丁目3-1)	西石切町1丁目3-1	30	1994.01.15-1994.03.31	「六甲山文化祭」主催団体会員登録料(丁目3-1)	西日本銀行	00000000000000000000000000000000	西日本銀行	00000000000000000000000000000000	西日本銀行	西日本銀行
「一級風景道」主催団体会員登録料(西石切町内)	西石切町内	130	1994.12.29-1995.02.06	「六甲山文化祭」主催団体会員登録料(西石切町内)	西日本銀行	00000000000000000000000000000000	西日本銀行	00000000000000000000000000000000	西日本銀行	西日本銀行
「六甲風景道」主催団体会員登録料(西石切町内)	西石切町内	178.21	1996.10.15-1996.12.31	「六甲山文化祭」主催団体会員登録料(西石切町内)	西日本銀行	00000000000000000000000000000000	西日本銀行	00000000000000000000000000000000	西日本銀行	西日本銀行
「六甲山文化祭」主催団体会員登録料(西石切町内)	西石切町内	105.9	1998.07.28-1998.09.30	「六甲山文化祭」主催団体会員登録料(西石切町内)	西日本銀行	00000000000000000000000000000000	西日本銀行	00000000000000000000000000000000	西日本銀行	西日本銀行
「六甲山文化祭」主催団体会員登録料(西石切町内)	西石切町内	286	1995.07.30-2000.06.30	「六甲山文化祭」主催団体会員登録料(西石切町内)	西日本銀行	00000000000000000000000000000000	西日本銀行	00000000000000000000000000000000	西日本銀行	西日本銀行
「六甲山文化祭」主催団体会員登録料(西石切町内)	西石切町内	115.0	2000.06.10-2001.03.25	「六甲山文化祭」主催団体会員登録料(西石切町内)	西日本銀行	00000000000000000000000000000000	西日本銀行	00000000000000000000000000000000	西日本銀行	西日本銀行
「六甲山文化祭」主催団体会員登録料(西石切町内)	西石切町内	86.6	2000.03.01-2002.12.16	「六甲山文化祭」主催団体会員登録料(西石切町内)	西日本銀行	00000000000000000000000000000000	西日本銀行	00000000000000000000000000000000	西日本銀行	西日本銀行
「六甲山文化祭」主催団体会員登録料(西石切町内)	西石切町内	110	2003.04.01-2003.11.06	「六甲山文化祭」主催団体会員登録料(西石切町内)	西日本銀行	00000000000000000000000000000000	西日本銀行	00000000000000000000000000000000	西日本銀行	西日本銀行
「六甲山文化祭」主催団体会員登録料(西石切町内)	西石切町内	206.6	2003.07.15-2004.03.31	「六甲山文化祭」主催団体会員登録料(西石切町内)	西日本銀行	00000000000000000000000000000000	西日本銀行	00000000000000000000000000000000	西日本銀行	西日本銀行
「六甲山文化祭」主催団体会員登録料(西石切町内)	西石切町内	200	2003.12.22-2004.06.15	「六甲山文化祭」主催団体会員登録料(西石切町内)	西日本銀行	00000000000000000000000000000000	西日本銀行	00000000000000000000000000000000	西日本銀行	西日本銀行
「六甲山文化祭」主催団体会員登録料(西石切町内)	西石切町内	100	2004.06.05-2004.11.12	「六甲山文化祭」主催団体会員登録料(西石切町内)	西日本銀行	00000000000000000000000000000000	西日本銀行	00000000000000000000000000000000	西日本銀行	西日本銀行
「六甲山文化祭」主催団体会員登録料(西石切町内)	西石切町内	36.8	2004.12.24-2005.01.17	「六甲山文化祭」主催団体会員登録料(西石切町内)	西日本銀行	00000000000000000000000000000000	西日本銀行	00000000000000000000000000000000	西日本銀行	西日本銀行
「六甲山文化祭」主催団体会員登録料(西石切町内)	西石切町内	100	2006.06.07-2006.11.10	「六甲山文化祭」主催団体会員登録料(西石切町内)	西日本銀行	00000000000000000000000000000000	西日本銀行	00000000000000000000000000000000	西日本銀行	西日本銀行
「六甲山文化祭」主催団体会員登録料(西石切町内)	西石切町内	30	2006.01.31-2006.11.06	「六甲山文化祭」主催団体会員登録料(西石切町内)	西日本銀行	00000000000000000000000000000000	西日本銀行	00000000000000000000000000000000	西日本銀行	西日本銀行

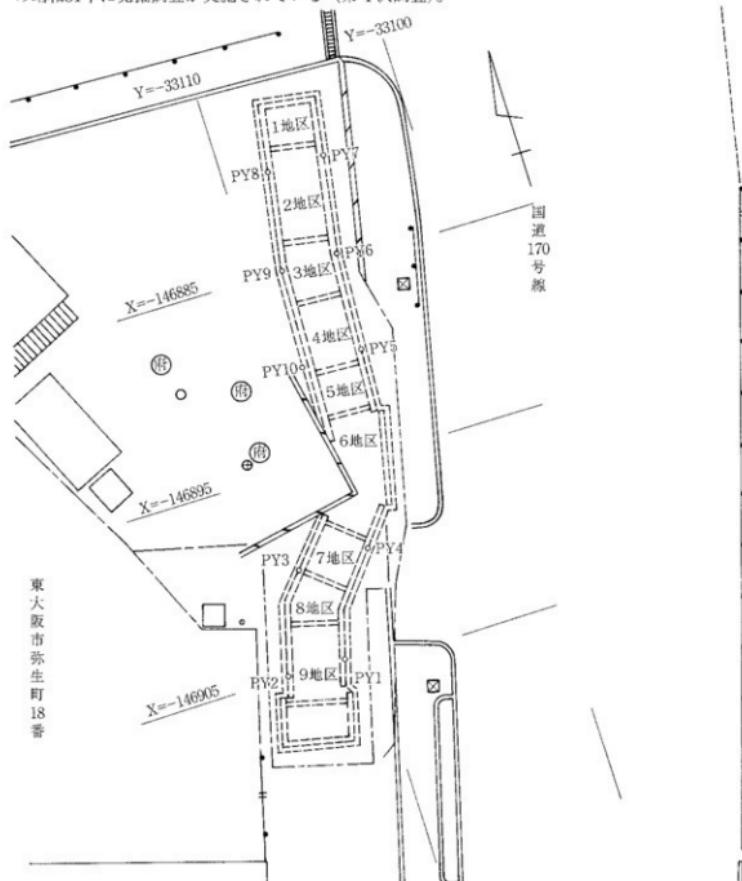
第1～35次調査については、「一般国道170号西行55・59次調査」は、一般国道170号西行55・59次調査に伴う虎尾川遭路第326次定期監査報告書」参照。

III. 第62次調査の概要

1. 調査の方法と経過

調査の方法

今回の両調査地は、国道170号拡張予定地でその西歩道と拡幅域にあたり（12工区）、第56次調査地9工区）の北に位置する（工区名は平成10年度－1工区、平成11年度－2工区……に順じている）。調査は平成18年6月7日から11月10日まで行なった。各調査工区は東西幅約3mで南北方向は約30mと矩形で細長く、計約100m²であった。矩形部は西から伸びている水道の到達樹部にあたり、布設時の昭和51年に発掘調査が実施されている（第4次調査）。



第3図 調査トレンチ位置および地区割図 (1/250)



第4図 挖り上げ田状況と国道170号線および関連調査トレンチ位置図

調査地は、現地表（GL）下約1.5~18mの道路舗装・盛土などを機械掘削し、以下、人力併用掘削部を設けながらGL約-6mまで人力掘削による調査を実施した。調査地の一部は覆工板が敷設された。

調査にあたっては、道路敷き隣接地で掘削深度が6m近くになることなどから、調査区域は土留め鋼矢板を打設するとともに2段の支保工が架設された。南北方向の腹起に対する東西方向の切梁によって生じた小区画を利用して地区割とし、それに基づいて遺物の取り上げなどを行なった。また遺構・断面図の製作にあたっても国家座標値と併行して用いた（第3図参照）。

調査地は西接する土地への車輛等の通行と残土搬出箇所・通路の確保のため、調査地の南側に覆工板が敷設された。平成18年5月初旬に鋼矢板を打設して、GL-1.8mまで立会しながらの機械掘削を行ない、覆工板敷設と1段目支保工を架設し、その後人力掘削による調査に入った。

調査地周辺には掘り上げ田に伴う井路が存した（第4図）。この部分については一部機械による掘削を行なった。

以下、日誌より調査経過を抄録する。

<調査日誌抄>

- 6月7日 調査地内の機械掘削。
- 6月13日 1段目支保工架設。
- 6月21日 人力掘削だけによる調査開始。
- 6月27日 基準点設置開始（～29日）。
- 6月29日 掘り上げ田に伴う井路検出と掘削。
- 7月12日 井路平面図作成。
- 7月25日 土坑1を検出。
- 7月27日 旧耕土および床土を掘削。
- 8月1日 第4層上面で自然流路検出。
- 8月3日 第4層上面動溝遺構の写真撮影と図作成。
- 8月7日 第5層上面で溝検出、写真・図作成。

- 8月8日 第6層上面足跡・溝、写真・図作成。
- 8月16日 第8層上面鋤溝・足跡、写真・図作成。
- 8月17日 第10層上面足跡、写真・図作成。
- 8月24日 第12層上面土坑検出。29日には同上面で足跡検出。
- 9月4日 第11層上面溝検出。
- 9月8日 断面分層、写真・図作成。
- 9月15日 2段目支保工架設。
- 9月20日 第15層掘削、弥生土器など多量の遺物出土。
- 9月27日 第16層上面遺構検出。
- 10月21日 1回目写真測量（第16層上面）。
- 10月23日 第16層掘削。
- 10月26日 第17層上面遺構検出。
- 10月28日 2回目写真測量（第17層上面）。
- 10月30日 第17層以下の掘削。
- 11月6日 断面分層、写真・図作成。
- 11月8日 断面掘削終了
- 11月10日 調査終了。

整理等作業経過

発掘調査にはほぼ平行して出土遺物の洗浄とその登記作業をしていったが（出土遺物台帳作成）、調査終了後、同作業を本格的に行なうとともに注記、接合作業を実施した。その後、遺物による遺構・層位の時期を確認しながら、報告書刊行に向けて必要な遺物をセレクトし、石膏復元および実測図の作成を行なった。この間、第15層5地区内の遺物洗浄および登記作業中に銅剣鋲型を検出し、関係諸氏および諸機関の協力を得て確認し、その重要さから新聞発表（平成19年6月10日掲載）をするとともに郷土博物館において展示公開した。

動物遺体は洗浄・クリーニングしたのち、安部みき子氏に同定を依頼した。また、銅剣鋲型などの石製品については川嶋清司氏に石材同定を依頼した。

銅剣鋲型の蛍光X線分析およびカラー写真撮影は奈良文化財研究所の協力を得た。

報告書の体裁は、昨年度の『鬼虎川遺跡第58・60次発掘調査報告』の項目を基に執筆分担を確認した。

土器・石器・木製品・土製品・骨角牙製品の実測図は工区別に、主に層位・遺構ごとにレイアウトし、原稿執筆しながら割付を行ない、トレースして遺物版下を作成した。

層位図・遺構図は張り合わせ作業をはじめ図面の整理・検討を行ない、アコード株式会社に委託して実施した写真測量図の校正を行なった。層位・遺構図は工区別にレイアウトし、原稿執筆しながら割付を行ない、トレースして遺構版下を作成した。

上記の遺物（土器・石器・木製品・土製品・骨角牙製品および動物遺体など）の写真撮影はO.P.Cカメラ店に委託して実施し、選択した遺構写真を含め、焼付けしたのち写真版下を作成した。

遺構・遺物等の主要原稿・版下等の完成後、委託原稿等をも集成して、日次・総括・報告書抄録等を加えて編集し、印刷へ渡した。

報告書原稿・版下類校了後、資料管理のための遺物・図面等の登録に着手した。

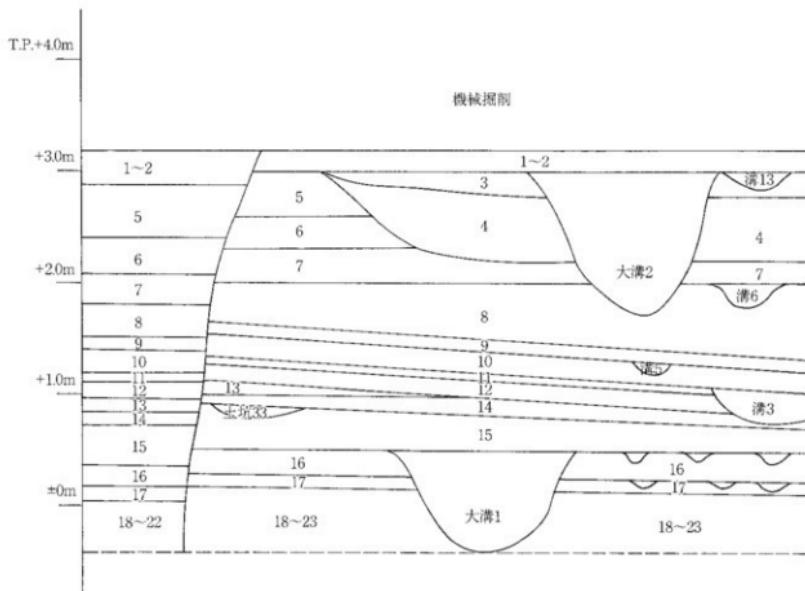
2. 基本層位

調査地点周辺は、大幹線道路である大阪外環状線（国道170号）の布設に合わせて厚く盛土されていた。本調査地では56次（9工区）調査地と同一または相当層がいくつか見られた。しかし、9地区に第56次調査時の鋼矢板抜き取りによる地滑りが生じていたため、調査時点で層位の統一はできなかった。そのため両調査地の層位の相関関係を、いくつかの特徴的な層をもととして基本層位を記しておく。

- 第1・2層 盛土。国道170号に合わせて埋められたもの及び擾乱土。
- 第3・4層 近、現代の耕作土。上面で流路・掘り上げ田に伴う井路・大溝・溝を検出した。
- 第5～7層 近世の耕作土。土師器・須恵器・瓦器・陶磁器が出土し、上面で流路・溝・土坑・ピットを検出した。
- 第8層 小礫混じりシルト・シルトで構成する平安時代の堆積層。土師器・須恵器が出土し、上面で溝・足跡を検出した。
- 第9層 粗～中粒砂で構成する奈良～平安時代の堆積層。土師器・須恵器が出土し、上面で溝・土坑・足跡を検出した。
- 第10層 中粒砂混じり粘土～シルトで構成する奈良時代の堆積層。土師器・須恵器が出土し、上面で溝・足跡を検出した。
- 第11層 粗～中粒砂で構成する飛鳥～奈良時代の堆積層。上面で溝を検出した。
- 第12層 小礫・粗粒砂混じり粘土で構成する飛鳥時代の堆積層。弥生土器・土師器・須恵器が出土し、上面で溝・足跡を検出した。
- 第13層 シルトで構成する古墳時代の堆積層。弥生土器・須恵器が出土した。
- 第14層 中粒砂が混じるシルト質粘土・粘土で構成する弥生時代後期の整地土。弥生土器が出土し、上面で土坑・落ち込みを検出した。
- 第15層 中～細粒砂混じり粘土・シルト質粘土で構成する弥生時代中期末の整地土。弥生土器・石器・動物遺体などの遺物が多量に出土した。上面で土坑・土器棺・落ち込みを検出した。
- 第16層 中粒砂混じり粘土で構成する弥生時代中期中葉～後葉の堆積層。弥生土器・石器が出土し、上面で大溝・溝・土坑・ピットを検出した。
- 第17層 細粒砂混じり粘土で構成する弥生時代中期前葉の堆積層。上面で溝・土坑・ピットを検出した。
- 第18層 粘土で構成する弥生時代前期後半の堆積層。
- 第19層 粘土質シルト・シルトで構成する弥生時代前期後半の堆積層。
- 第20層 シルトが混入する粘土で構成する弥生時代前期前半～中葉の堆積層。本調査地では遺構は検出していない。
- 第21層 オリーブ黒色粘土層。
- 第22層 黒色粘土層。
- 第23層 灰色粘土層。
- 第21層以下は、河内湖・潟期の無遺物の自然堆積層。

第2表 第62次・第56次層位対比表

時代・時期	基本層位名等	62次(主な遺構)	56次(9.1.区)(主な遺構)
現代	盛土	盛土・1・2層	盛土・1層
近代	耕作土・床土	3層(井路・大溝)	2・3層(流路)
		4層	
江戸	耕作土・整地上	5層	4層(流路・溝・土坑)
		6層	5層(溝・土坑・ピット)
室町			6層
鎌倉		7層(溝)	7・8・8'層
平安	堆積層	8層(足跡・溝)	9・9'層(足跡・溝)
奈良～平安	堆積層	9層	10層(足跡・土坑) 11層(溝)
奈良	堆積層	10層(足跡・溝)	12・13層(足跡・溝)
飛鳥～奈良	堆積層	11層(溝)	
飛鳥	堆積層	12層(足跡・溝・土坑)	14・15層(足跡・溝)
古墳	堆積層	13層	
弥生後期	整地上	14層	16層(落ち込み・土坑)
弥生中末期	整地土	15層(土坑)	17層(落ち込み・土器棺)
弥生中期前葉～後葉	堆積層	16層(大溝・溝・土坑・ピット)	18層(大溝・土坑・ピット)
弥生中期前葉	堆積層	17層(土坑・ピット)	19層(溝・土坑・ピット)
弥生前期後半	堆積層	18層	20・21層
弥生前期前半～中葉	堆積層	19層	22層
縄文晩期以前	堆積層	20層	23・24層(溝・土坑・ピット)
	堆積層	21層	25層
	堆積層	22層	26層
	堆積層	23層	27・28層



第5図 第62次基本層位図

3. 調査内容

a. 層位（第6図 図版3～8）

今回の調査では第1～23層に分層した。層によっては土質や色調が若干異なるものもあり、それらはさらに細分した。

第1層 7～9地区に堆積する。近、現代の盛土および旧耕土。3層に細分した。

第1 A層 暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）粘土～シルト。厚さは15cmを測る。

第1 A'層 暗オリーブ色（5Y4/3）極細粒砂混じり粘土。厚さは10cmを測る。

第1 B層 灰色（5Y4/1）シルト質粘土。厚さは10cmを測る。

第2層 7～9地区に堆積する。旧耕土の床土。5層に細分した。

第2 A層 灰色（7.5Y4/1）極細粒砂混じり粘土。部分的に小礫が混じる。厚さは20cmを測る。

第2 B層 灰オリーブ色（5Y4/2）砂質シルト。マンガン粒を含む。厚さは25cmを測る。

第2 C層 灰オリーブ色（5Y4/2）砂質シルト。厚さは30cmを測る。

第2 D層 灰オリーブ色（7.5Y4/2）砂質シルト。厚さは15cmを測る。

第2 E層 灰色（10Y4/1）シルト～粘土。厚さは10cmを測る。

第3層 1～6地区に堆積する。2層に細分した。

第3 A層 灰オリーブ色（7.5Y4/2）シルト。厚さは20cmを測る。上面で井路、大溝、溝を検出した。

第3 B層 オリーブ灰色（5GY5/1）シルト。厚さは25cmを測る。

第4層 1～8地区に堆積する。調査地北へ続く落ち込み内の堆積である。下部では砂粒が混じる。9層に細分した。

第4 A層 暗オリーブ灰色（2.5GY3/1）粘土。厚さは20cmを測る。

第4 B層 暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）小礫混じりシルト。厚さは20cmを測る。

第4 C層 灰オリーブ色（7.5Y4/2）極細粒砂。厚さは5cmを測る。

第4 D層 オリーブ灰色（2.5GY5/1）砂混じり粘土。厚さは20cmを測る。

第4 E層 暗オリーブ灰色（5GY3/1）シルト混じり粘土。厚さは20cmを測る。

第4 F層 灰色（10Y4/1）小礫混じりシルト～粘土。厚さは10cmを測る。

第4 G層 灰色（10Y4/1）砂質シルト。厚さは15cmを測る。

第4 H層 灰色（10Y4/1）小礫混じりシルト。厚さは20cmを測る。

第4 I層 暗オリーブ灰色（5GY4/1）シルト～粘土。厚さは15cmを測る。

第5層 6～9地区に堆積する。土師器、須恵器、瓦器が出土した。2層に細分した。

第5 A層 オリーブ褐色（2.5Y4/3）シルト。厚さは20cmを測る。

第5 B層 灰色（7.5Y4/1）小礫混じりシルト～粘土。厚さは20cmを測る。

第6層 6～9地区に堆積する。土師器、須恵器、瓦器が出土した。2層に細分した。

第6 A層 灰色（10Y4/1）小礫混じり粘土。厚さは20cmを測る。

第6 B層 暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）小礫混じり粘土。厚さは20cmを測る。

第7層 調査地全体に堆積する。土師器、須恵器、瓦器が出土した。3層に細分した。

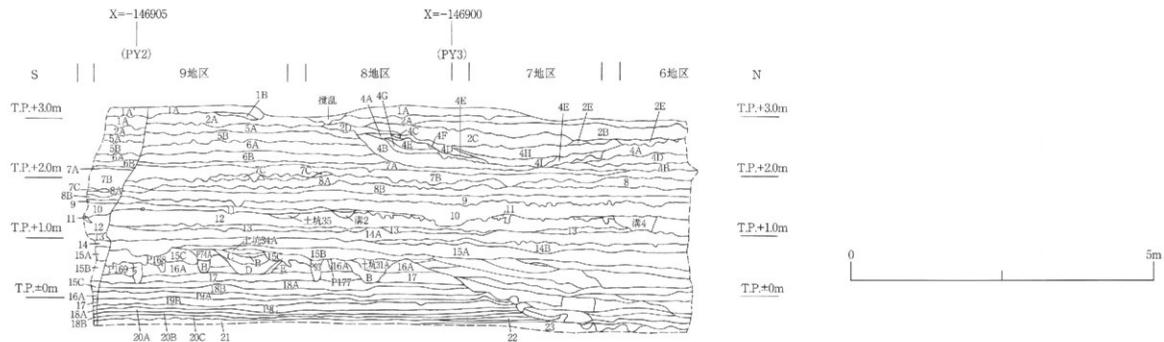
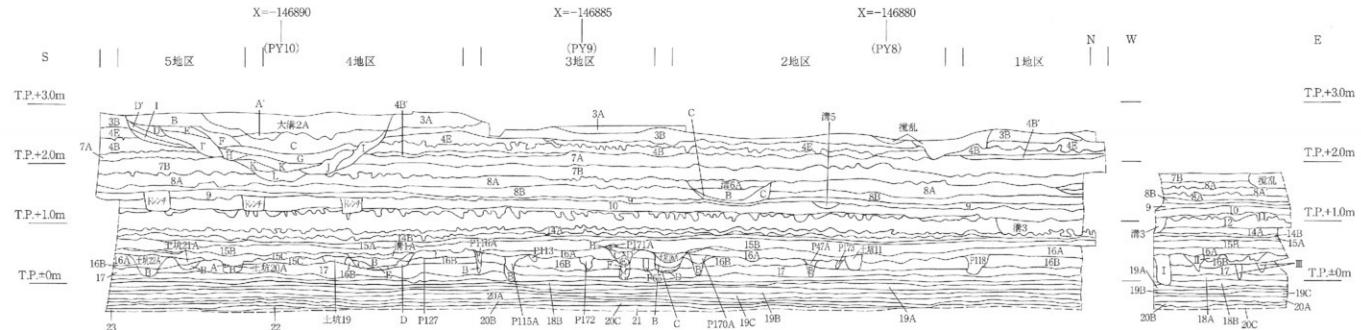
第7 A層 暗オリーブ灰色（5GY4/1）砂混じり粘土。厚さは25cmを測る。北へ向かって厚さを増す。

上面で南北へ延びる溝を検出した。

第7 B層 暗オリーブ灰色（5GY3/1）小礫混じり粘土。厚さは20cmを測る。上面で南北へ延びる溝を検出した。

第62次調査場所一覧

- 1 A層：灰オリーブ色 (25GY4/1) 粘土～シルト
 1 A'層：暗オリーブ色 (5Y4/1) 中粒砂混じり粘土
 1 B層：灰色 (5Y4/1) 砂質粘土
 2 A層：灰色 (75Y4/1) 植物砂混じり粘土
 2 B層：灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂質シルト
 2 D層：灰オリーブ色 (75Y4/2) 砂質シルト
 2 E層：灰オリーブ色 (10Y4/1) シルト～粘土
 3 A層：灰オリーブ色 (75Y4/2) シルト
 3 B層：オリーブ色 (5GY5/1) シルト
 4 A層：暗オリーブ色 (25GY3/1) 粘土
 4 B層：暗オリーブ色 (25GY3/1) 細粒混じりシルト
 4 C層：灰オリーブ色 (75Y4/2) 植物砂
 4 D層：オリーブ色 (25GY4/1) 砂混じり粘土
 4 E層：暗オリーブ色 (5GY3/1) シルト混じり粘土
 4 F層：灰色 (10Y4/1) 小粒混じりシルト～粘土
 4 G層：灰色 (10Y4/1) 砂質シルト
 4 H層：灰色 (10Y4/1) 小粒混じりシルト
 4 I層：暗オリーブ色 (5GY4/1) シルト～粘土
 5 A層：オリーブ色 (25Y4/4) シルト
 5 B層：灰色 (75Y4/1) 小粒混じりシルト～粘土
 6 A層：灰色 (10Y4/1) 小粒混じり粘土
 6 B層：暗オリーブ色 (25GY4/1) 小粒混じり粘土
 7 A層：暗オリーブ色 (5GY4/1) 小粒混じり粘土
 7 B層：暗オリーブ色 (5GY4/1) 小粒混じり粘土
 7 C層：暗オリーブ色 (5GY4/1) 小粒混じり粘土
 8 A層：暗赤色 (5GY4/1) シルト
 8 A'層：暗オリーブ色 (25GY4/1) 中～細粒砂混じりシルト～粘土
 8 B層：暗赤色 (5GY4/1) 小粒混じりシルト
 9 層：暗赤色 (75GY4/1) 中～細粒砂
 10層：オリーブ色 (10Y3/1) 中粒砂混じりシルト
 11層：灰色 (10Y4/1) 粘土～中粒砂
 12層：灰色 (75Y4/1) 粘土
 13層：暗赤色 (75GY3/1) シルト
 14A層：黑色 (N2/0) 粘土
 14B層：オリーブ色 (75Y3/1) 中粒砂混じりシルト～粘土
 15A層：黑色 (N2/0) シルト～粘土
 15B層：黑色 (N2/0) 中～細粒砂混じりシルト～粘土
 15C層：黑色 (N2/0) 細粒砂混じりシルト～粘土
 16A層：黑色 (75Y1/2) 中粒砂混じり粘土
 16B層：黑色 (5Y2/1) 中粒砂混じり粘土
 17層：オリーブ色 (5Y3/1) 細粒砂混じり粘土
 18A層：オリーブ色 (75Y3/1) 粘土
 18B層：オリーブ色 (75Y3/1) 粘土
 19A層：オリーブ色 (75Y3/1) 砂質シルト
 19B層：黑色 (75Y2/1) 粘土シルト
 19C層：黑色 (75Y2/1) 粘土
 20A層：黑色 (10Y2/1) 粘土
 20B層：黑色 (5Y2/1) 粘土
 20C層：黑色 (75Y4/1) 粘土
 21層：オリーブ色 (5Y3/1) 粘土
 22層：黑色 (10Y2/1) 粘土
 23層：灰色 (10Y4/1) 粘土
- 選色土色
 大陸2 A : オリーブ黒色 (GY3/2) 小粒混じり砂質シルト
 大陸2 A' : オリーブ黒色 (5Y3/2) 砂質シルト
 大陸2 B : オリーブ黒色 (75Y3/2) 砂質シルト (小粒・植物体塊が少量混じる)
 大陸2 C : オリーブ黒色 (10Y3/2) 砂質シルト (植物体塊が少量混じる)
 大陸2 D : 灰色 (10Y4/1) 砂質シルト
 大陸2 D' : 灰色 (75Y4/1) 小粒混じり砂質シルト
 大陸2 E : 灰色 (10Y5/1) 砂質シルト
 人間2 F : オリーブ黒色 (75Y3/1) 小粒混じり砂質シルト
 大陸2 G : 脱オリーブ黒色 (25GY3/1) 小粒混じり砂質シルト
 人間2 H : 脱オリーブ黒色 (25GY4/1) 砂質シルト～粘土
 大陸2 I : 細粒灰黑色 (10GY4/1) 小粒混じり砂質シルト～粘土
 大陸2 J : 細粒灰黑色 (10GY4/1) 粘土～シルト
 大陸2 K : 脱オリーブ灰黑色 (25GY4/1) 粘土～シルト (小粒が少量混じる)
 大陸2 L : 脱オリーブ灰黑色 (25GY4/1) 小粒混じり粘土
 大陸2 M : 増殖灰黑色 (10GY4/1) 粘土～シルト
- 調査場所
 第1 A : 黒色 (5Y2/1) 粘土 (炭化物、上部が混じる)
 第1 B : 黒色 (GY2/1) 細粒砂混じり粘土 (土器が混じる)
 第1 C : 黑色 (75Y2/1) 粘土
 第1 D : 黒色 (25GY2/1) 細粒砂混じり粘土
 第1 E : 黑色 (75Y2/1) 中粒砂混じり粘土
 第2 : 灰色 (10Y4/1) 中粒砂混じり粘土
 第3 : オリーブ黒色 (10Y3/1) 小粒混じり粘土
 第4 : 灰色 (10Y4/1) 中粒砂混じり粘土
 第5 : 細粒灰黑色 (75GY4/1) 脱泥じらシント質粘土と粘・細粒砂が混じる層
 第6 A : 增オリーブ灰黑色 (25GY4/1) 小粒混じり砂質シルト～粘土
 第6 B : 增オリーブ灰黑色 (25GY4/1) 砂質シルト～粘土
 第6 C : 增オリーブ灰黑色 (5GY4/1) 砂質シルト～粘土 (小粒が少量混じる)
- 土壤
 上11 : 黑色 (10Y2/1) 中粒砂混じり粘土
 土坑16A : 黑色 (75Y2/1) 粘土 (植物体塊、上部が混じる)
 土坑16B : 黑色 (10Y2/1) 中～細粒砂混じり粘土
 土坑16C : 黑色 (N15/0) 中粒砂混じり粘土
 土坑16D : 灰黑色 (N2/0) 粘土
 土坑16E : 黑色 (10Y2/1) 细粒砂混じり粘土
 土坑16F : 黑色 (5Y2/1) 细粒砂混じり粘土 (土器が少量混じる)
 上12B : 黑色 (75Y2/1) 中～細粒砂混じり粘土
 土坑21A : 黑色 (5Y2/1) 细粒砂混じり粘土
 土坑21B : 黑色 (75Y2/1) 中～細粒砂混じり粘土
 土坑22A : 黑色 (75Y2/1) 中粒砂混じり粘土 (炭化物、下部が少量化する)
 土坑22B : 黑色 (75Y2/1) 中粒砂混じり粘土 (土器が混じる)
 土坑31A : オリーブ黒色 (10Y3/1) シルト～粘土
 土坑31B : オリーブ黒色 (75Y2/2) 中粒砂混じり粘土
 土坑34A : 黑色 (N2/0) シルト質粘土
 土坑34B : 黑色 (75Y2/1) 中粒砂混じり粘土
 土坑34C : 黑色 (N2/0) 中粒砂混じり粘土
 土坑34D : 黑色 (N15/0) 中粒砂混じり粘土 (堆の土が混じる)
 土坑34E : 黑色 (10Y2/1) 中～細粒砂混じり粘土
 土坑35 : 灰色 (10Y4/1) 中粒砂混じり砂質シルト
- P - 47A : 黑色 (75Y2/1) 粘土
 P - 47B : 黑色 (5Y2/1) 砂質シルト
 P - 113 : 黑色 (75Y2/1) 粘土 (炭化物が混じる)
 P - 115A : 黑色 (75Y2/1) 粘土 (炭化物が混じる)
 P - 115B : 黑色 (5Y2/1) 粘土
 P - 116A : 黑色 (75Y2/1) 粘土 (炭化物が混じる)
 P - 116B : オリーブ黒色 (75Y3/1) 粘土
 P - 127 : 黑色 (75Y2/1) 粘土 (炭化物が混じる)
 P - 168 : オリーブ黒色 (10Y3/1) 中～細粒砂混じりシルト～粘土
 P - 169 : オリーブ黒色 (10Y3/1) 粘土～細粒砂混じりシルト～粘土
 P - 172A : 黑色 (10Y2/1) 粘土
 P - 172B : 灰黑色 (N3/0) 粘土
 P - 173A : 黑色 (75Y2/1) 粘土 (炭化物が表面に混じる)
 P - 173B : 黑色 (10Y2/1) 细粒砂混じり粘土 (炭化物が少量化する)
 P - 173C : オリーブ黒色 (5Y3/1) 粘土
 P - 173D : 黑色 (5Y2/1) 细粒砂混じり粘土
 P - 173E : 黑色 (5Y2/1) 中粒砂混じり粘土
 P - 173F : 黑色 (75Y2/1) 细粒砂混じり粘土
 P - 173G : 黑色 (10Y2/1) 中粒砂混じり粘土
- I : オリーブ黒色 (75Y3/1) 粘土
 II : 黑色 (75Y2/1) 粘土 (炭化物が混じる)
 III : 黑色 (10Y2/1) 粘土



第6図 第62次層位断面図

- 第7C層 暗オリーブ灰色（5GY3/1）砂混じり粘土。厚さは10cmを測る。
- 第8層 調査地全体に堆積する。土師器、須恵器、瓦器が出土した。3層に細分した。
- 第8A層 暗緑灰色（7.5GY4/1）シルト。厚さは30cmを測る。北へ向かって厚さを増す。調査地北では間に暗オリーブ灰色（2.5GY3/1）中～細粒砂混じり粘土（第8A'層）。上面で溝、足跡群を検出した。
- 第8B層 暗緑灰色（7.5GY4/1）小疊混じりシルト。厚さは20cmを測る。
- 第9層 調査地全体に堆積する。暗緑灰色（7.5GY4/1）粗～中粒砂。厚さは10～20cmを測る。南へ向かって厚さを増す。土師器、須恵器が出土した。
- 第10層 調査地全体に堆積する。オリーブ黒色（10Y3/1）中粒砂混じりシルト。部分的に粘性が強い。厚さは20cmを測る。上面で東西へ延びる溝、足跡群を検出した。土師器、須恵器が出土した。
- 第11層 調査地全体に堆積する。灰色（10Y4/1）粗～中粒砂。厚さは10cmを測る。上面で南北へ延びる溝を検出した。
- 第12層 調査地全体に堆積する。灰色（7.5Y4/1）粘土。部分的に粗粒砂が混じる。厚さは30cmを測る。上面で南北へ延びる溝、土坑、足跡群を検出した。土師器、須恵器、動物遺体が出土した。
- 第13層 6～9地区に堆積する。暗緑灰色（7.5GY3/1）シルト。厚さは10cmを測る。土師器、須恵器が出土した。
- 第14層 調査地全体に堆積する。弥生土器が出土した。2層に細分した。
- 第14A層 黒色（N2/0）粘土。厚さは20cmを測る。
- 第14B層 1～8地区に堆積する。オリーブ黒色（7.5Y3/1）中粒砂混じりシルト質粘土。厚さは10cmを測る。
- 第15層 調査地全体に堆積する。弥生時代中期末の整地土である。多量の弥生土器、石器、動物遺体が出土した。4層に細分した。
- 第15A層 黒色（N2/0）シルト質粘土。厚さは30cmを測る。南へ向かって厚さを増す。
- 第15B層 黒色（N2/0）中～細粒砂混じりシルト質粘土。厚さは30cmを測る。炭化物を多く含む。5地区は下部に灰黄色（25Y6/2）シルトが入り込む。
- 第15C層 4～9地区に堆積する。黒色（N2/0）細粒砂混じりシルト質粘土。厚さは15cmを測る。炭化物を少量含む。上面で土坑を検出した。
- 第15C'層 4、5地区に堆積する。黒色（N2/0）粘土混じり粗～中粒砂。厚さは20cmを測る。
- 第16層 調査地全体に堆積する。弥生土器、石器が出土した。2層に細分した。
- 第16A層 黒色（7.5Y2/1）中粒砂混じり粘土。厚さは20cmを測る。上面で弥生時代中期の南北へ延びる大溝、溝、土坑、ピットを検出した。
- 第16B層 1～5地区に堆積する。黒色（5Y2/1）中粒砂混じり粘土。厚さは20cmを測る。
- 第17層 調査地全体に堆積する。オリーブ黒色（5Y3/1）細粒砂混じり粘土。厚さは20cmを測る。上面で弥生時代中期の土坑、ピットを検出した。
- 第18層 調査地全体に堆積する。2層に細分した。
- 第18A層 オリーブ黒色（7.5Y3/1）粘土。厚さは10cmを測る。
- 第18B層 オリーブ黒色（7.5Y2/2）粘土。厚さは10cmを測る。
- 第19層 調査地全体に堆積する。3層に細分した。

- 第19A層 オリーブ黒色（7.5Y3/1）粘質シルト。厚さは5cmを測る。
- 第19B層 黒色（7.5Y2/1）粘質シルト。厚さは5cmを測る。
- 第19C層 黒色（7.5Y2/1）粘土。厚さは5cmを測る。
- 第20層 調査地全体に堆積する。3層に細分した。
- 第20A層 黒色（10Y2/1）粘土。厚さは10cmを測る。暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）シルトが帶状に入る。
- 第20B層 黒色（5Y2/1）粘土。厚さは5cmを測る。
- 第20C層 黒色（7.5Y2/1）粘土。厚さは5cmを測る。暗オリーブ灰色（2.5GY3/1）シルトがプロックで入る。
- 第21層 調査地全体に堆積する。オリーブ黒色（5Y3/1）粘土。厚さは5cmを測る。
- 第22層 調査地全体に堆積する。黒色（10Y2/1）粘土。厚さは5cmを測る。
- 第23層 調査地全体に堆積する。灰色（10Y4/1）粘土。厚さは10cm以上を測る。
- 第18層以下は無遺物層であり、水平堆積を示している。自然堆積層である。

b. 遺構

本調査では弥生時代中期から近、現代までの遺構を検出した。以下、各時期の遺構を弥生時代から順を追って記す。「検出長」「検出幅」と記載する遺構は、調査地外へ延びるか、他の遺構と切り合い関係にあることを示す。

〔弥生時代中期〕

弥生時代の遺構面を2面検出した。第17層上面及び、第16層上面で検出した土坑、ピットは一覧表（第2・3表）で表記しているが、特筆すべきものは本文中で説明する。

第17層上面遺構（第7・8図 図版8~10）

第17層上面では土坑8基、ピット97基を検出した。遺構は調査地全体で検出し、ほとんどが不整形である。

土坑1（1地区）は不整形の土坑である。長軸約50cm、短軸約30cm、深さ約10cmを測る。断面形は皿状を呈する。埋土は黒色（10Y2/1）シルト質粘土である。埋土から弥生土器が出土したが、細片であるため詳細な時期は不明である。

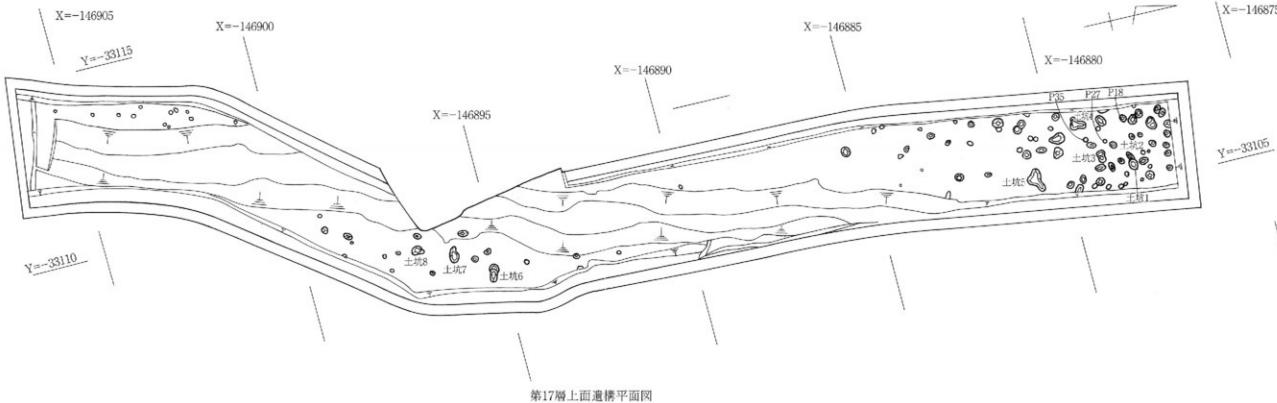
土坑3（1地区）は不整形の土坑である。長軸約30cm、短軸約20cm、深さ約20cmを測る。断面形はU字状を呈する。埋土は黒色（7.5Y2/1）細粒砂混じり粘土である。埋土から弥生土器・動物遺体が出土したが、細片であるため詳細な時期は不明である。

土坑5（2地区）は東西に長い土坑である。長軸約60cm、短軸約40cm、深さ約15cmを測る。断面形は浅い皿状を呈する。埋土は炭化物が少量混じる黒色（7.5Y2/1）粘土である。埋土からは弥生土器が出土したが、細片であるため詳細な時期は不明である。

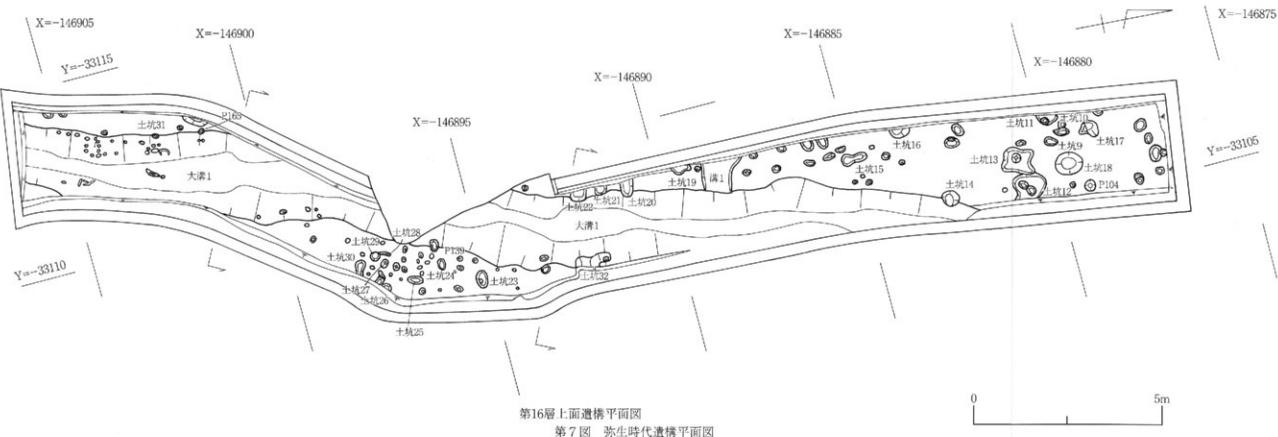
土坑6（6地区）は東西に長い土坑である。長軸約40cm、短軸約25cm、深さ約15cmを測る。断面形は皿状を呈する。埋土は植物遺体を微量に含む黒色（10Y2/1）粘土である。遺物は出土しなかった。

ピット18（1地区）はほぼ円形を呈するピットである。直径約40cm、深さ約30cmを測る。断面形はU字状を呈する。埋土は暗灰色（N3/0）粘土である。土器などは出土していない。杭が打設されていた。

ピット27（1地区）はほぼ円形を呈するピットである。直径約30cm、深さ約25cmを測る。断面形は



第17層上面遺構平面図



第16層上面遺構平面図
第7図 弥生時代遺構平面図

U字状を呈する。埋土は暗灰色（N2.5/0）粘土である。杭が打設されていた。埋土からは弥生土器が出土したが、細片であるため詳細な時期は不明である。

ピット35（2地区）はほぼ円形を呈するピットである。直径約40cm、深さは約25cmを測る。断面形はU字状を呈する。埋土は黒色（7.5Y2/1）炭化物混じりシルト質粘土である。土器などは出土していない。杭が打設されていた。

第16A層上面遺構（第7・8図 図版11～15）

第16A層上面では溝2条（大溝を含む）、土坑24基、ピット76基を検出した。最低3時期の遺構の切り合いが確認できた。遺構からは弥生時代中期の土器（Ⅱ～Ⅳ様式）が出土した。

大溝1（2～9地区）は南北へ延びる大溝である。検出長約25.0m、幅約2.0m、深さ約1.0mを測る。断面形は逆台形である。埋土は黒色（10Y2/1）粘土を主体とし、底面付近では中粒砂が混じる。上層では多量の遺物、植物遺体、炭化物を含んでいる。8、9地区では溝斜面に逆茂木と思われる杭を打設している。南では第56次調査（9工区）で検出された大溝3に繋がることが確認できた。総検出長は約50mである（第9図参照）。遺物は弥生土器壺（31）・甕（118）、大型蛤刃石斧（861）、柱状片刃石斧（866）、石鑿（894）、石劍（916）、動物遺体イノシシ（資料3）などが出土した。

溝1（4地区）は東西へ延びる溝である。西は調査地外へ延び、東は大溝1に切られているため、全形は不明である。検出長約1.0m、幅約1.0m、深さ約30cmを測る。断面形は皿状を呈する。埋土は黒色（5Y2/1）粘土を主体とし、底面付近では中～細粒砂が混じる。弥生土器が出土したが、細片であるため詳細な時期は不明である。

土坑14（2地区）は調査地東で検出した土坑である。半円形で検出した。東を大溝1に切られているため、全形は不明である。検出長約45cm、検出幅約40cm、深さ約25cmを測る。断面形はU字状を呈する。埋土は緑黒色（7.5GY2/1）粘土である。遺物は弥生土器が出土したが、細片であるため詳細な時期は不明である。

土坑20（5地区）は東西に長い土坑である。西は調査地外へ延びるため、全形は不明である。また、東で大溝1を切っている。検出長約50cm、幅約40cm、深さ約40cmを測る。断面形はU字状を呈する。埋土は黒色（5Y2/1）粘土を主体とし、上層では細粒砂、下層では中～細粒砂が混じる。弥生土器が出土したが、細片であるため詳細な時期は不明である。

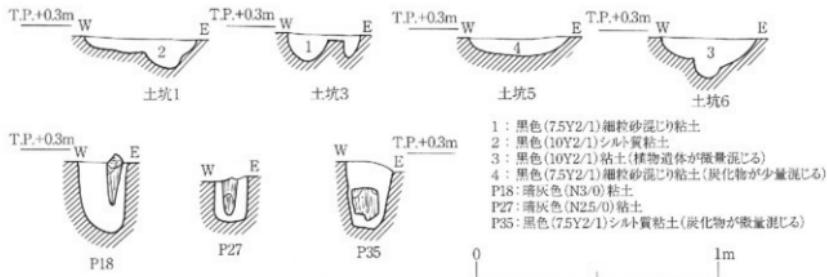
土坑25（6地区）は南北に長い土坑である。長軸約15cm、短軸約20cm、深さ約25cmを測る。断面形はU字状を呈する。埋土は炭化物が少量混じる黒色（N2/0）粘土である。埋土から弥生土器が出土したが、細片であるため詳細な時期は不明である。

土坑32（5地区）は南北に長い土坑である。東は調査地外へ延びるため、全形は不明である。検出長約1.0m、幅約30cm、深さ約15cmを測る。断面形は浅い皿状を呈する。埋土はオリーブ黒色（10Y3/1）粘土である。遺物は弥生土器細片と動物遺体のイノシシ（資料43）が出土した。

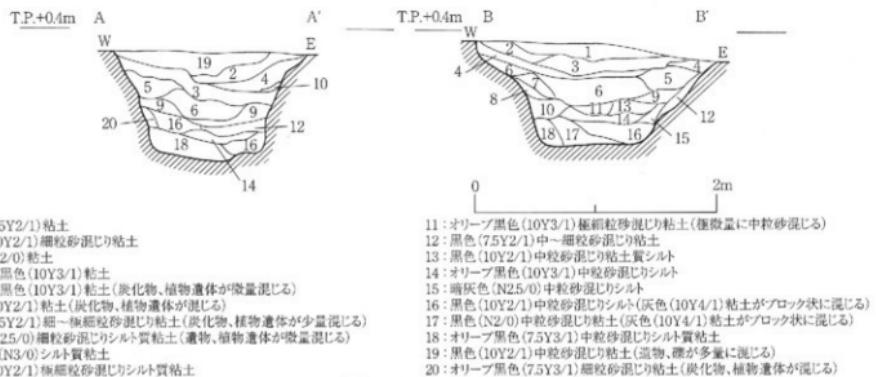
ピット104（1地区）は円形を呈する。直径約10cm、深さ約10cmを測る。断面形はU字状を呈する。埋土はオリーブ黒色（10Y3/1）細～極細粒砂混じり粘土である。埋土から弥生土器が出土したが、細片であるため詳細な時期は不明である。

ピット139（6地区）は円形を呈する。直径約30cm、深さ約30cmを測る。断面形はU字状を呈する。埋土は炭化物が混じるオリーブ黒色（10Y3/1）粘土である。土器などの出土はないが、杭が打設されていた。

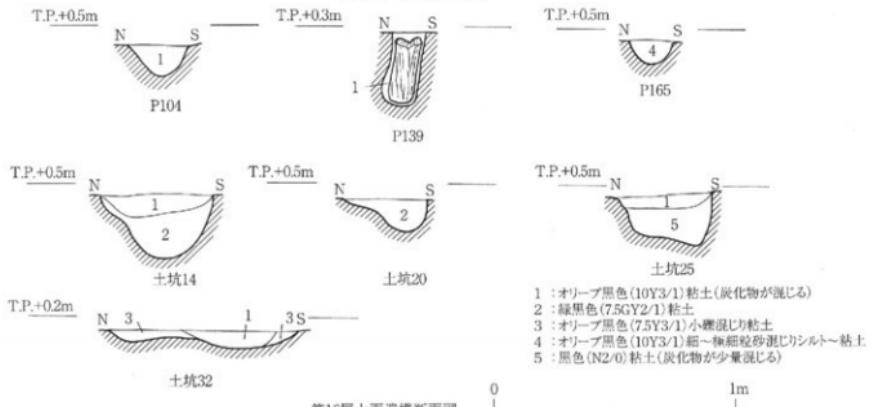
ピット165（8地区）は円形を呈する。直径約10cm、深さ約10cmを測る。断面形はU字状を呈する。



第17層上面遺構断面図



大溝1 土層断面図



第19層上面遺構断面図
第8図 弥生時代遺構断面実測図

第3表 第62次検出弥生時代・I・坑計測値・埋土表

遺構名	地区	層位	検出長(cm) (※1)	検出幅(cm) (※1)	深さ(cm) (※1)	出土遺物 (※2)	土色・備考
土坑1	1	17層	46	25	12	Y	②
土坑2	1	17層	20	20	3		③
土坑3	1	17層	30	20	20	Y・B	①
土坑4	2	17層	36	20	6	Y	①
土坑5	2	17層	65	42	15	Y	④
土坑6	6	17層	40	22	16		⑥
土坑7	6	17層	47	30	25		⑦
土坑8	6	17層	22	20	3		⑧
土坑9	2	16層	32	25	15	Y・S	①
土坑10	2	16層	45	20	9	Y	①・③
土坑11	2	16層	(50)	(20)	(30)		第6図参照
土坑12	2	16層	(84)	(70)	(11)	Y	①
土坑13	2	16層	69	65	12	Y・S	⑨
土坑14	2	16層	(45)	(40)	(26)	Y	⑨・⑩
土坑15	3	16層	67	35	8	Y	⑩
土坑16	2・3	16層	(55)	(30)	(33)	Y	第6図参照
土坑17	1	16層	42	40	16	Y	⑨
土坑18	2	16層	70	60	20	Y・S・W	⑨
土坑19	4	16層	(46)	(26)	(16)	Y	第6図参照
土坑20	5	16層	(48)	(35)	(15)	Y	第6図参照
土坑21	5	16層	(50)	(25)	(20)	Y	第6図参照
土坑22	5	16層	(70)	(25)	(35)	Y	第6図参照
土坑23	6	16層	45	28	30	Y	⑨・⑫
土坑24	6	16層	30	20	30	Y	⑬
土坑25	6	16層	38	22	22	Y	⑨・⑬
土坑26	6	16層	(55)	(35)	(20)	Y	⑪
土坑27	6	16層	25	20	20	Y	⑬
土坑28	6	16層	20	5	5		⑬
土坑29	6	16層	30	25	15	Y・S	⑭
土坑30	6	16層	35	25	20		⑬
土坑31	8	16層	(100)	(20)	(40)		第6図参照
土坑32	5	16層	(78)	(40)	(9)	Y・S・B	⑨・⑪

※1：調査地外または他の遺構と切り合ひ関係にあるものは、括弧表記とした。

※2：弥生土器は「Y」、石器は「S」、木材などは「W」、動物遺体は「B」と表記し、遺物の出土が無いものは空欄とした。

- ①黒色 (7SY2/1) 細粒砂混じり粘土
- ②黒色 (10Y2/1) シルト質粘土
- ③オリーブ黒色 (7.5Y3/1) 細粒砂混じりシルト質粘土
- ④黒色 (7.5Y2/1) 細粒砂混じり粘土 (炭化物が少量混じる)
- ⑤黒色 (10Y2/1) 中粒砂混じりシルト質粘土
- ⑥黒色 (10Y2/1) 粘土 (植物遺体を微量に含む)
- ⑦黒色 (7.5Y2/1) 中粒砂混じり粘土
- ⑧黒色 (7.5Y2/1) 細～極細粒砂混じりシルト質粘土
- ⑨オリーブ黒色 (10Y3/1) 粘土 (炭化物が混じる)
- ⑩緑黒色 (7.5GY2/1) 粘土
- ⑪オリーブ黒色 (7.5Y3/1) 小粒混じり粘土
- ⑫オリーブ黒色 (10Y3/1) 細～極細粒砂混じりシルト～粘土
- ⑬黒色 (N2/0) 粘土 (炭化物が少量混じる)
- ⑭黒色 (10Y2/1) 細粒砂混じり粘土

第4表 第62次検出弥生時代ピット計測値・埋土表

造構名	地区	層位	長径(cm) (※1)	短径(cm) (※1)	深さ(cm) (※1)	出土遺物 (※2)	土色・備考
P-1	1	17層	40	20	10		(1)
P-2	1	17層	20	20	6	Y	(2)
P-3	1	17層	25	20	4	Y	(1)
P-4	1	17層	30	30	12	Y·S	(1)
P-5	1	17層	40	25	15	Y	(2)
P-6	1	17層	10	10	7		(1)
P-7	1	17層	30	20	16	W	(1)
P-8	1	17層	10	10	4		(2)
P-9	1	17層	25	15	21	Y	(1)
P-10	1	17層	15	15	14	Y	(2)
P-11	1	17層	10	10	3		(1)
P-12	1	17層	20	15	11		(1)
P-13	1	17層	10	10	8	Y	(1)
P-14	1	17層	15	10	20		(2)
P-15	1	17層	10	10	4		(1)
P-16	1	17層	30	25	7		(2)
P-17	1	17層	20	20	6	Y	(1)
P-18	1	17層	40	40	30	W	(6)
P-19	1	17層	(10)	(10)	(3)		(2)
P-20	1	17層	15	5	4		(1)
P-21	1	17層	5	5	2		(1)
P-22	1	17層	15	15	9		(1)
P-23	1	17層	10	10	17	Y	(1)
P-24	1	17層	5	5	2		(1)
P-25	1	17層	30	15	9	Y	(2)
P-26	1	17層	15	15	7		(1)
P-27	1	17層	30	30	25	Y·W	(7)
P-28	1	17層	15	10	7	Y	(1)
P-29	1	17層	30	20	9		(4)
P-30	1	17層	(25)	(10)	(4)	Y	
P-31	1	17層	20	20	18	Y	(1)
P-32	1	17層	25	15	19	Y	(1)
P-33	1·2	17層	15	15	5		(2)
P-34	1·2	17層	20	20	5	Y	(1)
P-35	2	17層	40	40	26	W	(8)
P-36	2	17層	(20)	(20)	(11)	S	(4)
P-37	2	17層	20	15	10		(2)
P-38	2	17層	20	20	11		(2)
P-39	2	17層	30	30	19	Y	(2)
P-40	2	17層	35	30	19		(3)
P-41	2	17層	20	20	14		(1)
P-42	2	17層	20	5	4		(2)
P-43	2	17層	20	15	8		(1)
P-44	2	17層	25	25	8	Y	(2)
P-45	2	17層	10	10	8		(1)
P-46	2	17層	10	10	10		(1)
P-47	2	17層	(20)	(10)	(30)	Y	第6回参照
P-48	2	17層	40	25	18	Y·S	(1)
P-49	2	17層	10	10	11	Y	(2)
P-50	2	17層	15	10	3		(2)
P-51	2	17層	(15)	(15)	(10)	Y	(1)
P-52	2	17層	30	30	23	Y	(2)
P-53	2	17層	15	10	2		(2)
P-54	2	17層	20	20	7		(2)
P-55	2	17層	20	20	20		(2)
P-56	2	17層	15	10	3		(1)
P-57	2	17層	5	5	6		(2)
P-58	2	17層	(20)	(10)	(4)		(2)
P-59	2	17層	20	20	4		(3)

遺構名	地区	層位	長径(cm) (※1)	短径(cm) (※1)	深さ(cm) (※1)	出土遺物 (※2)	上色・備考
P-60	2	17層	5	5	2		(1)
P-61	2	17層	5	5	5		(2)
P-62	3	17層	20	10	3		(2)
P-63	3	17層	5	5	3		(1)
P-64	3	17層	20	10	4		(3)
P-65	3	17層	(15)	(10)	(20)	Y	第6図参照
P-66	3	17層	15	15	5		(3)
P-67	3	17層	25	25	5	W	(9)
P-68	4	17層	10	10	8		(3)
P-69	5	17層	10	10	9		(2)
P-70	5	17層	(15)	(10)	(5)		(2)
P-71	5	17層	20	10	9		(4)
P-72	1	17層	15	15	8		(1)
P-73	6	17層	15	15	19		(2)
P-74	6	17層	20	10	4		(1)
P-75	6	17層	20	20	10		(10)
P-76	6	17層	10	5	4	Y	(2)
P-77	6	17層	20	10	5		(11)
P-78	6	17層	10	5	4		(2)
P-79	6	17層	(10)	(5)	(3)		(2)
P-80	6	17層	5	5	2		(2)
P-81	6	17層	20	15	7		(12)
P-82	6	17層	15	15	5		(13)
P-83	7	17層	10	10	5		(2)
P-84	7	17層	5	5	3		(5)
P-85	8	17層	5	5	3		(5)
P-86	8	17層	5	5	6		(2)
P-87	8	17層	5	5	3		(5)
P-88	8	17層	5	5	2		(5)
P-89	8	17層	5	5	3		(5)
P-90	8	17層	5	5	9		(1)
P-91	8	17層	5	5	4		(2)
P-92	9	17層	5	5	3		(3)
P-93	9	17層	(5)	(5)	(4)		第6図参照
P-94	9	17層	5	5	4		(5)
P-95	9	17層	5	5	6		(5)
P-96	9	17層	5	5	7		(5)
P-97	9	17層	5	5	3		(2)

※1：調査地外または他の遺構と切り合い関係にあるものは、括弧表記とした。

※2：弥生土器は「Y」、石器は「S」、木材などは「W」、動物遺体は「B」と表記し、遺物の出土が無いものは空欄とした。

- ①黒色（7SY2/1）細粒砂混じり粘土
- ②黒色（10Y2/1）シルト質粘土
- ③オリーブ黒色（7.5Y3/1）細粒砂混じりシルト質粘土
- ④黒色（7.5Y2/1）細粒砂混じり粘土（炭化物が少量混じる）
- ⑤黒色（10Y2/1）中粒砂混じりシルト質粘土
- ⑥暗灰色（N3-0）粘土
- ⑦暗灰色（N25-0）粘土
- ⑧黒色（7.5Y2/1）シルト質粘土（炭化物が微量混じる）
- ⑨黒色（10Y2/1）粘土（植物遺体を微量含む）
- ⑩黒色（7.5Y2/1）中粒砂混じり粘土（植物遺体を含む）
- ⑪黒色（7.5Y2/1）細～極細粒砂混じりシルト質粘土
- ⑫黒色（7.5Y2/1）極細粒砂混じりシルト質粘土
- ⑬オリーブ黒色（7.5Y3/1）中粒砂混じり粘土

第4表 第62次検出歿生時代ピット計測値・埋土表

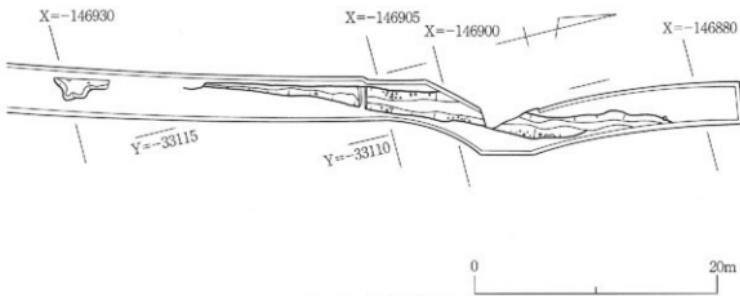
遺構名	地区	層位	長径(cm) (※1)	短径(cm) (※1)	深さ(cm) (※1)	出土遺物 (※2)	土色・備考
P-98	1	16層	25	20	18	Y	①
P-99	1	16層	50	40	28	Y	①・③
P-100	1	16層	30	20	13	Y	①
P-101	1	16層	35	35	15	Y	①
P-102	1	16層	35	20	33	Y	①
P-103	1	16層	30	30	26	Y	①
P-104	1	16層	15	15	10	Y	①
P-105	2	16層	30	20	13	Y・W	①
P-106	2	16層	20	10	23	Y	①
P-107	2	16層	10	10	10		①
P-108	2	16層	35	30	11	Y	①
P-109	3	16層	15	15	19		②
P-110	3	16層	30	25	21	Y・W	②
P-111	3	16層	30	20	20	Y	②
P-112	3	16層	(30)	(30)	(30)	Y	②
P-113	3	16層	30	15	26	Y	②
P-114	3	16層	(35)	(30)	(40)	Y	①
P-115	3	16層	(20)	(15)	(36)	Y	第6回参考
P-116	2	16層	40	30	30	Y	①
P-117	1	16層	(25)	(10)	(36)	Y	第6回参考
P-118	3	16層	10	10	4		①
P-119	3	16層	15	15	6	Y	①
P-120	3	16層	10	10	6		①
P-121	3	16層	15	10	4	Y	①
P-122	3	16層	30	20	4	Y	①
P-123	4	16層	20	20	4		①
P-124	4	16層	20	20	19		①
P-125	4	16層	15	15	10	Y	①
P-126	4	16層	(20)	(10)	(14)	Y	第6回参考
P-127	4	16層	15	15	5		⑥
P-128	6	16層	20	20	11	Y	⑥
P-129	5	16層	10	10	8		⑥
P-130	6	16層	5	5	5		⑥
P-131	8	16層	15	10	12		③
P-132	6	16層	10	10	9		⑥
P-133	6	16層	5	5	3		⑥
P-134	6	16層	15	15	9		⑥
P-135	6	16層	5	5	6		⑥
P-136	6	16層	15	15	10		⑥
P-137	6	16層	20	10	19		⑥
P-138	6	16層	15	15	8	W	①
P-139	6	16層	30	30	30		⑥
P-140	6	16層	20	15	6	Y	⑥
P-141	6	16層	5	5	3		⑥
P-142	6	16層	15	15	20	Y	⑥
P-143	6	16層	10	10	14	Y	⑥
P-144	6	16層	15	10	14		⑥
P-145	6	16層	10	5	4		⑥
P-146	6	16層	10	10	6		⑥
P-147	6	16層	10	10	9		⑥
P-148	6	16層	(15)	(12)	(22)		①
P-149	6	16層	(20)	(20)	(30)	Y	⑥
P-150	6	16層	10	10	9	Y	⑥
P-151	6	16層	5	5	3		⑥
P-152	6	16層	15	10	18		⑥
P-153	6	16層	20	20	30	Y	⑥
P-154	7	16層	10	10	8		⑥
P-155	6	16層	10	10	6		⑥
P-156	6	16層	10	10	6		⑥

遺構名	地区	層位	長径(cm) (※1)	短径(cm) (※1)	深さ(cm) (※1)	出土遺物 (※2)	土色・備考
P-157	6	16層	10	10	8		(5)
P-158	6	16層	10	10	11		(5)
P-159	6	16層	5	5	3		(6)
P-160	6	16層	10	10	4	Y	(5)
P-161	6	16層	10	10	7	Y	(6)
P-162	6	16層	15	15	8		(6)
P-163	6	16層	20	20	10		(6)
P-164	8	16層	15	15	9		(4)
P-165	8	16層	10	20	13		(4)
P-166	9	16層	20	20	5		(4)
P-167	9	16層	(15)	(8)	(7)		第6図参照
P-168	9	16層	(20)	(10)	(12)		第6図参照
P-169	6	16層	25	15	13		(5)
P-170	2	16層	(30)	-	(20)	W	第6図参照
P-171	3	16層	(70)	-	(60)		第6図参照
P-172	3	16層	(30)	-	(24)		第6図参照
P-173	3	16層	(14)	-	(10)		第6図参照

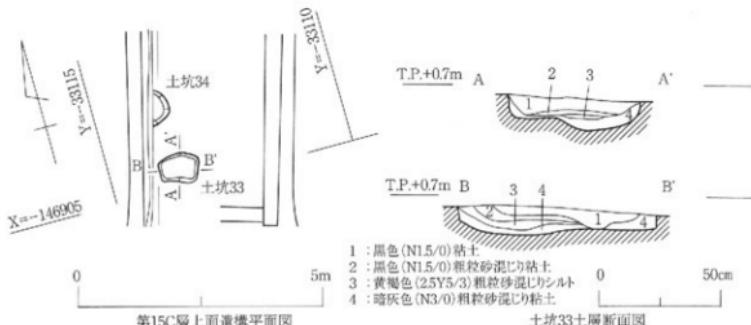
*1：調査地外または他の遺構と切り合い関係にあるものは、括弧表記とした。

*2：弥生土器は「Y」、石器は「S」、木材などは「W」、動物遺体は「B」と表記し、遺物の出土が無いものは空欄とした。

- ①オリーブ黒色(10Y3/1) 粘土(炭化物が混じる)
- ②緑黒色(75GY2/1) 粘土
- ③オリーブ黒色(75Y3/1) 小穂混じり粘土
- ④オリーブ黒色(10Y3/1) 細～極細粒砂混じりシルト～粘土
- ⑤黒色(N2/0) 粘土(炭化物が少量混じる)
- ⑥黒色(10Y2/1) 細粒砂混じり粘土
- ⑦暗灰色(N3/0) 細粒砂混じり粘土
- ⑧黒色(7.5Y2/1) シルト質粘土(炭化物が微量混じる)



第9図 大溝関連図



第10図 第15C層上面遺構平面・断面図

埋土はオリーブ黒色（10Y3/1）細～極細粒砂混じり粘土である。遺物は出土しなかった。

第15層

第15層は整地土である。土器の大半がこの層から出土した。また、完形品がほとんど無く、接合できるものも少なかった。大半は破片ばかりである。これらのことは整地土であることの一根据となる。埋土は黒色（N2/0）粘土を主体とし、砂粒の混入から3層に細分した（第6図参照）。最下層にあたる第15C層上面で遺構を検出した。

第15C層上面遺構（第10図 図版16）

土坑33（9地区）は東西に長く、長方形を呈する。長さ約80cm、幅約60cm、深さ約15cmを測る。断面形は浅い皿状を呈する。墓坑の可能性が考えられるが、人骨は確認できなかった。出土遺物は弥生土器の細片が数点と動物遺体が2点である。埋土は暗灰～黒色（N2.5/0）粘土を主体としているが、間に黄褐色（2.5Y5/3）粗粒砂混じりシルトが入り込む。砂層の入り方から、落ち込みの可能性も考えられる。

土坑34（9地区）は半円形で検出した。西は調査地外へ延びるため、全形は不明である。検出長約

70cm、検出幅約40cm、深さ約40cmを測る。断面形は逆台形を呈する。遺物は弥生土器とサヌカイトが出土したが、細片であるため詳細な時期は不明である。

弥生時代以後

第15層より上層は遺物、遺構とともに稀薄であり、遺構の時期は各層の出土遺物から推定した。

〔飛鳥～奈良時代〕

第12層上面遺構（第11図 図版17）

第12層上面では、溝1条、土坑1基、足跡群を検出した。

溝2（9地区）は南北へ延びる溝である。北は調査地外へ延び、南が丸く終わる。検出長約3.4m、幅約30cm、深さ約8cmを測る。断面形は皿状を呈する。埋土は灰色（10Y4/1）中粒砂混じり粘質シルトである。遺物は出土しなかった。

土坑35（9地区）は半円形で検出した。西は調査地外へ延びるため、全体は不明である。検出長約70cm、深さ約10cmを測る。断面形は皿状を呈する。埋土は灰色（10Y4/1）中粒砂混じり粘質シルトである。遺物は出土しなかった。

足跡群1は調査地全域で検出した。人間のほか、牛馬などの偶蹄類の足跡が確認できた。進行方向に規則性はない。埋土は灰色（10Y4/1）粗～中粒砂である。第11層の堆積時に形成されたものと考えられる。

〔奈良時代〕

第11層上面遺構（第11図 図版18）

第11層上面では、溝1条を検出した。

溝3（1～6地区）は南北へ延びる溝である。両端が調査地外へ延びるため、全形は不明である。検出長約18.0m、幅約60cm、深さ約30cmを測る。断面形は皿状を呈する。埋土はオリーブ黒色（10Y3/1）小疊混じり粘土である。植物の種子とサヌカイトが出土したが、混入品であり、時期は特定できない。

〔中世〕

第5～9層内から中世の遺物が出土した。瓦器などがある。

第10層上面遺構（第12図 図版19）

第10層上面では、溝1条、足跡群を検出した。

溝5（2地区）は東西へ延びる溝である。両端が調査地外へ延びるため、全形は不明である。検出長2.2m、幅約60cm、深さ約15cmを測る。断面形は皿状を呈する。埋土は暗緑灰色（7.5GY4/1）砂混じりシルト質粘土と粗～細粒砂が混じる層である。遺物は出土しなかった。

足跡群2（2～9地区）では人間のほか、牛馬などの足跡が確認できた。進行方向に規則性はない。足跡は溝5の北にはみられない。いくつかの足跡から遺物は出土したが、摩滅が著しいことから流入によるものと考えられる。埋土は暗緑灰色（7.5GY4/1）砂混じりシルト質粘土と粗～細粒砂が混じる層である。

第8層上面遺構（第12図 図版20）

第8A層上面では、溝4条、足跡群を検出した。

溝6（2地区）は東西へ延びる溝である。西は調査地外へ延びるため、全形は不明である。検出長約1.0m、幅約1.6m、深さ約40cmを測る。断面形は皿状を呈する。埋土は暗オリーブ灰色（25GY4/1）小穢泥じり砂質シルト～粘土である。遺物は埴輪が出土した。

溝7（8・9地区）は南北へ延びる溝である。長さ約3.0m、幅約60cm、深さ約5cmを測る。断面形は浅い皿状を呈する。埋土は暗緑灰色（10G4/1）細礫、粗～細粒砂混じりシルト質土である。土師器などの遺物が出土したが、細片であるため詳細な時期は不明である。

溝8（7～8地区）は南北へ延びる溝である。長さ約1.1m、幅約20cm、深さ約3cmを測る。断面形は浅い皿状を呈する。埋土は暗緑灰色（10G4/1）粗～細粒砂混じりシルト質土である。遺物は出土しなかった。

溝9（7地区）は南北へ延びる溝である。検出長約90cm、幅約20cm、深さ約2cmを測る。断面形は浅い皿状を呈する。埋土は暗緑灰色（5G4/1）粗～細粒砂混じりシルト質土である。遺物は出土しなかった。

溝7～9は同一方向であることから、耕作などに伴う鋤溝の可能性がある。

足跡群3（2～9地区）は人間のほか、牛馬などの足跡が確認できた。進行方向に規則性はない。足跡は溝6の北にはみられない。埋土は暗オリーブ灰色（5GY3/1）シルト質土を主体とし、調査地北側では南側に比べて粘性が強い。南側では粗～細粒砂が混じる。

第7層上面遺構（第13図 図版21～23）

第7層は3層に細分できた。第7A層と第7B層の上面で遺構を検出した。

第7A層上面遺構

第7A層上面では、溝2条を検出した。

溝11（3、4地区）は南北へ延びる溝である。断続的に続く溝であり、検出長約3.5m、幅約20cm、深さ約6cmを測る。断面形は浅い皿状を呈する。埋土は灰色（10Y4/1）シルト質土である。遺物は出土しなかった。

溝12（6地区）は南北へ延びる溝である。検出長約1.1m、幅約30cm、深さ約2cmを測る。断面形は浅い皿状を呈する。埋土は灰色（10Y4/1）粘土～シルトである。溝11と同じく断続的に続く溝である可能性がある。遺物は出土しなかった。

溝11、12は同一方向であることから、耕作などに伴う鋤溝の可能性がある。

第7B層上面遺構

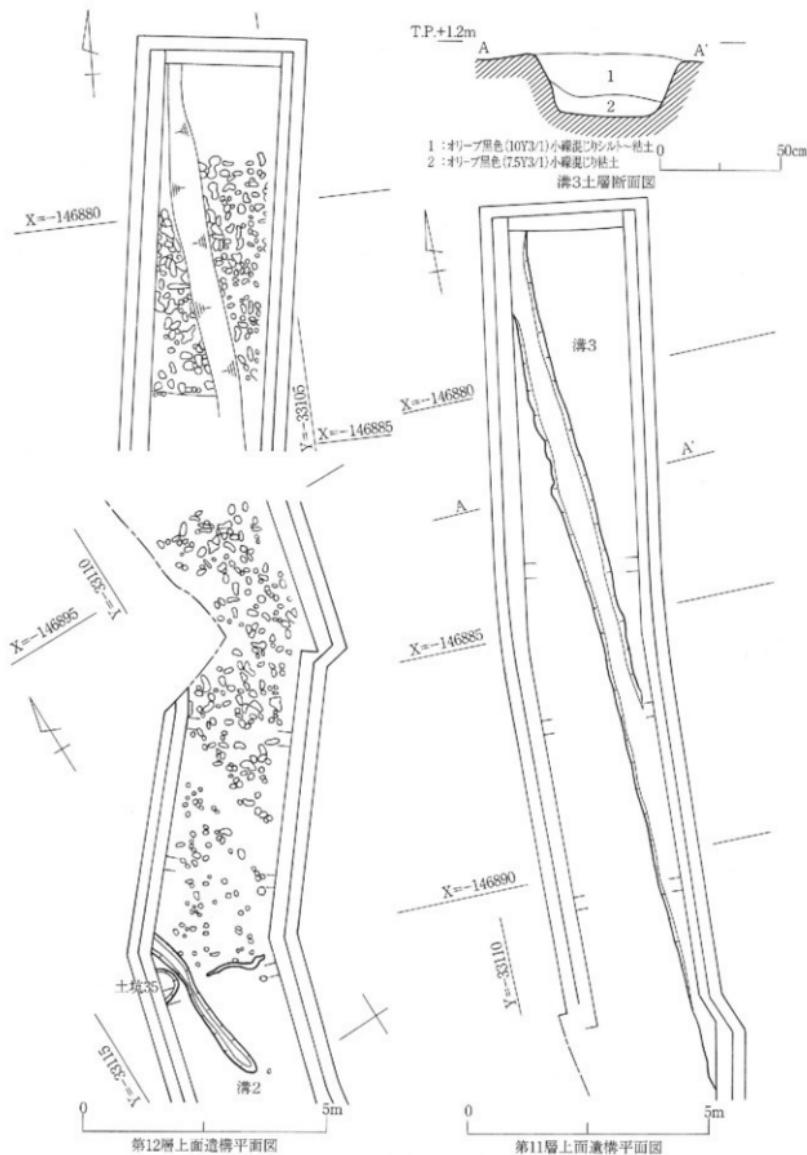
第7B層上面では、溝1条を検出した。

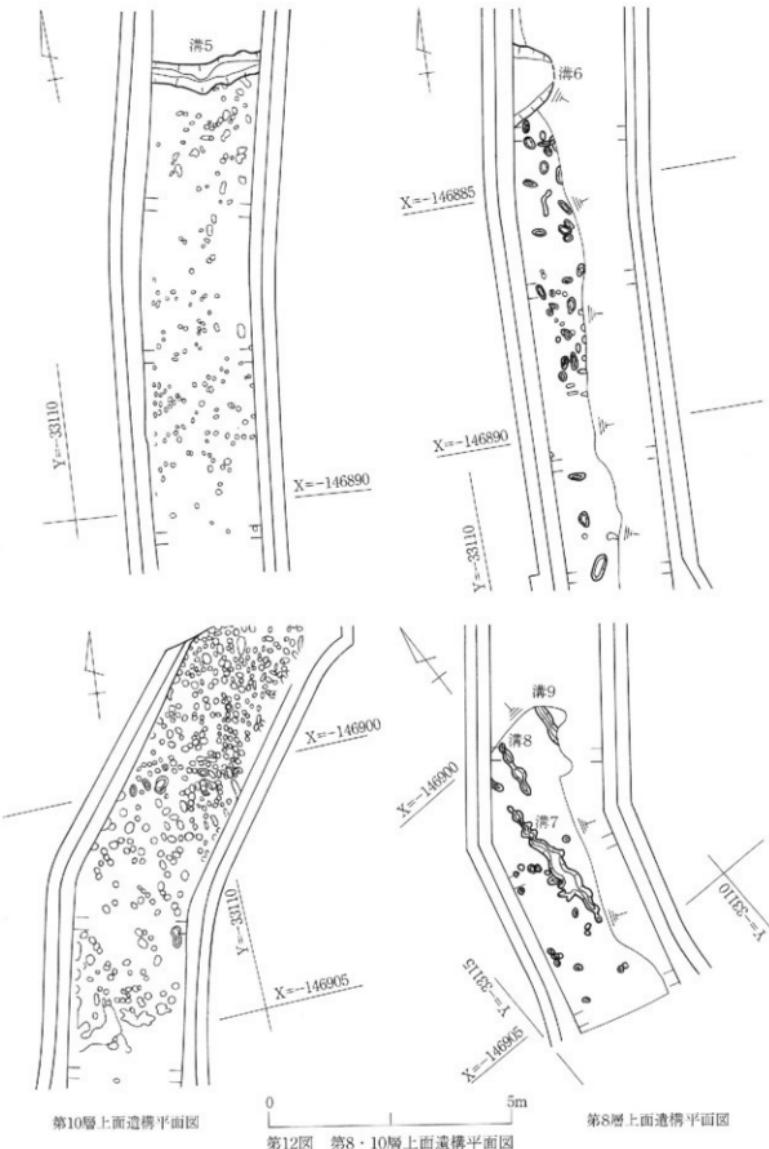
溝10（3～6地区）は南北へ延びる溝である。溝の東肩は大部分が井路によって削平されており、全形は不明である。検出長約9.7m、検出幅約80cm、深さ約15cmを測る。断面形は皿状を呈する。埋土は北半と南半では異なる。北半では上層がオリーブ黒色（10Y3/1）粘土～シルト、下層が暗オリーブ灰色（5GY3/1）粗～細粒砂である。南半では上層がオリーブ黒色（10Y3/1）粗粒砂混じり粘土、下層がオリーブ黒色（10Y3/1）粗粒砂である。遺物は出土しなかった。

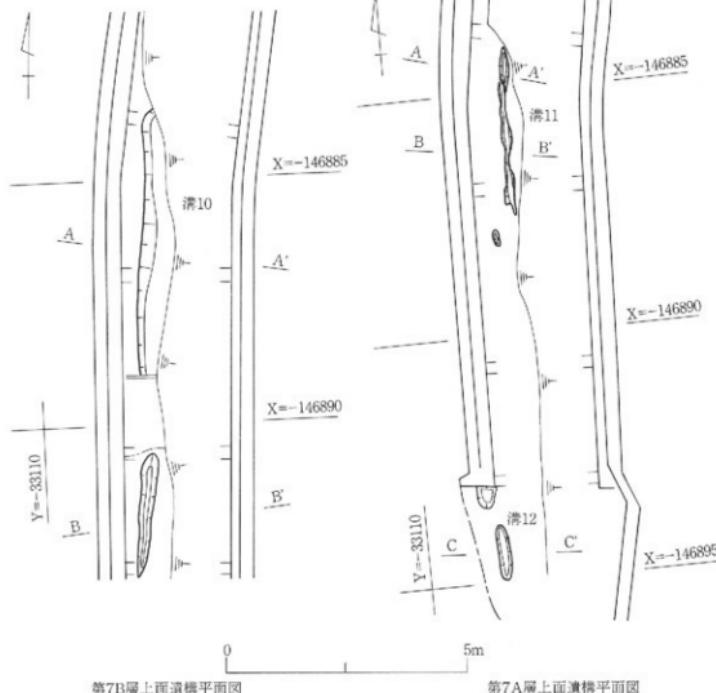
〔近・現代〕

第3層上面遺構（第14図 図版23～25）

第3A層上面では、溝2条（大溝を含む）、井路を検出した。井路は掘り上げ田に伴うものである。

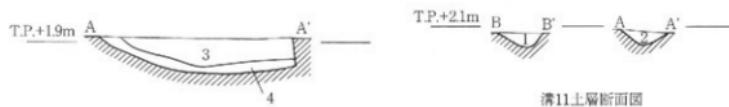




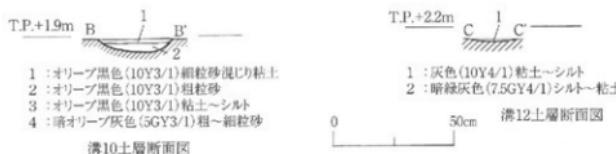


第7B層上面造構平面図

第7A層上面造構平面図



溝11上層断面図

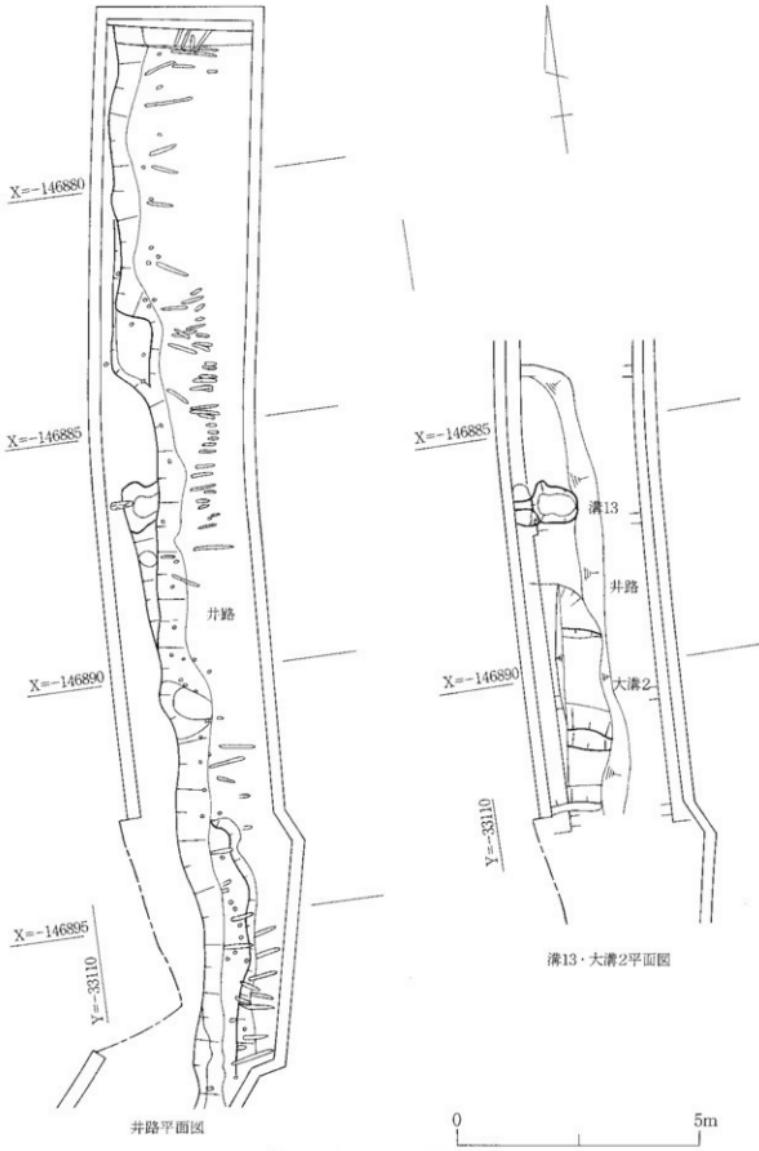


第13図 第7層上面造構平面・断面実測図

大溝2（4、5地区）は東西へ延びる溝である。井路によって切られている。西は調査地外へ延びるため、全形は不明である。検出長約1.0m、幅約4.5m、深さ約1.1mを測る。断面形は皿状を呈する。埋土は大きく3層に分けられる。上層ではオリーブ黒色（5Y3/2）砂質シルト、中層では暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）砂質シルト、下層では暗緑灰色（10GY4/1）粘土である。遺物は近世の陶器などが出土したが、細片であるため詳細な時期は不明である。

溝13（3地区）は東西へ延びる溝である。調査地西側に延びるため、全形は不明である。検出長約1.3m、幅約1.2m、深さ約40cmを測る。断面形は皿状を呈する。埋土はオリーブ黒色（7.5Y3/1）シルトを主体とし、極細粒砂層と粘土層に分かれる。極細粒砂層には木柵を埋設していた。

井路（1～6地区）は西肩を検出した。東肩は調査地外にあるため幅は不明である。井路の肩には直径が約30cmを測る木製の杭が多数打設されていた。これは護岸用と考えられる。遺物は弥生土器から近・現代までのものが出土した。



c. 遺物

弥生時代～中世期の遺物が出土した。遺物は土器、土製品、骨角製品、石器などがある。以下、各項目ごとに分けて記す。

1) 土器

弥生時代～中世期の土器が出土した。弥生時代の土器が特に多い。各時代の遺構及び遺物包含層に分けて記す。弥生土器は胎土中に石英・長石・角閃石・雲母を含むものを生駒西麓産とする。生駒西麓産の中には上記の鉱物が微粒や微量のものも含まれる。それ以外は非河内産で記す。色調は生駒西麓産が褐色～灰色、非河内産は乳白色～桃灰色が多い。

弥生土器

弥生土器は I ～ IV 様式に分類する。III 様式と IV 様式の土器は明確に分類できないので III ～ IV 様式として扱う。II ～ IV 様式に分けられない土器は中期と記す。また、II 様式の中には I 様式の可能性がある甕や鉢も含まれる。本文中に調整法を記しているが口縁部と据端部のヨコナデ調整は普遍的なのであえて記さない。

遺構出土土器

大溝 1 (第15～20図 1～140)

弥生土器は壺・無頸壺・長頸壺・鉢・高杯・甕・壺蓋の器種がある。

1～45は壺である。

1は口頸部が大きく外反し、口縁端部が面を持つ。口縁端部にヘラ描絵文を施す。頸部外面に3条の沈線文が残る。I 様式。生駒西麓産。

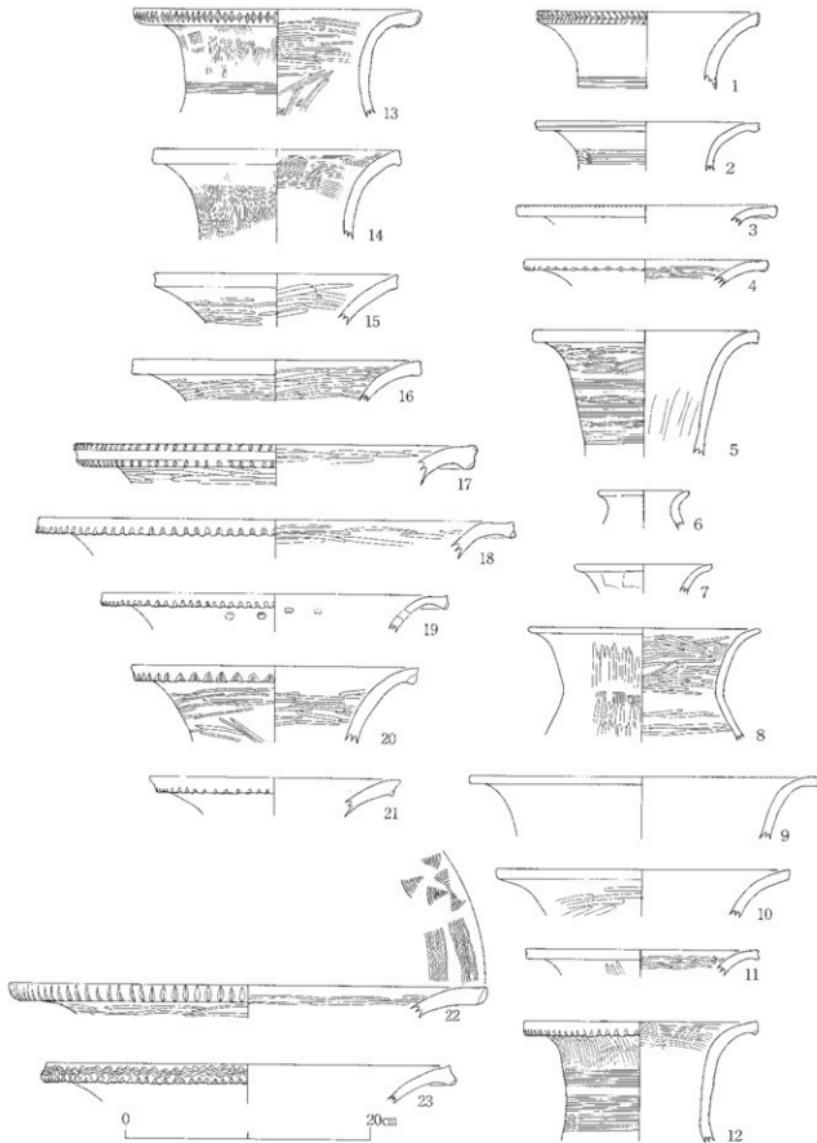
2～11は口頸部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わるものとやや面をもつものがある。2は口縁端部に1条のヘラ描沈線文を施す。頸部外面に1帯の櫛描直線文が残る。3・4は口縁端部に刻み目を施す。5の口縁端部は無文である。頸部外面に3帯の櫛描直線文が残る。6～11は無文である。頸部内外面はヘラミガキ調整とナデ調整するものが多い。II 様式。7は非河内産。他は生駒西麓産。

12～26は口頸部が大きく外反し、口縁端部が面を持つ。口縁端部は刻み目や櫛描波状文を施すものと無文のものがある。12・13は頸部外面に櫛描直線文を施す。12は3帯、13は1帯が残る。22は口縁端部内面に櫛描扇形文と波状文を施す。頸部内外面はヘラミガキ調整するものが多い。一部、ハケメ調整で終わるものもある。II 様式。12・14・21は非河内産。他は生駒西麓産。

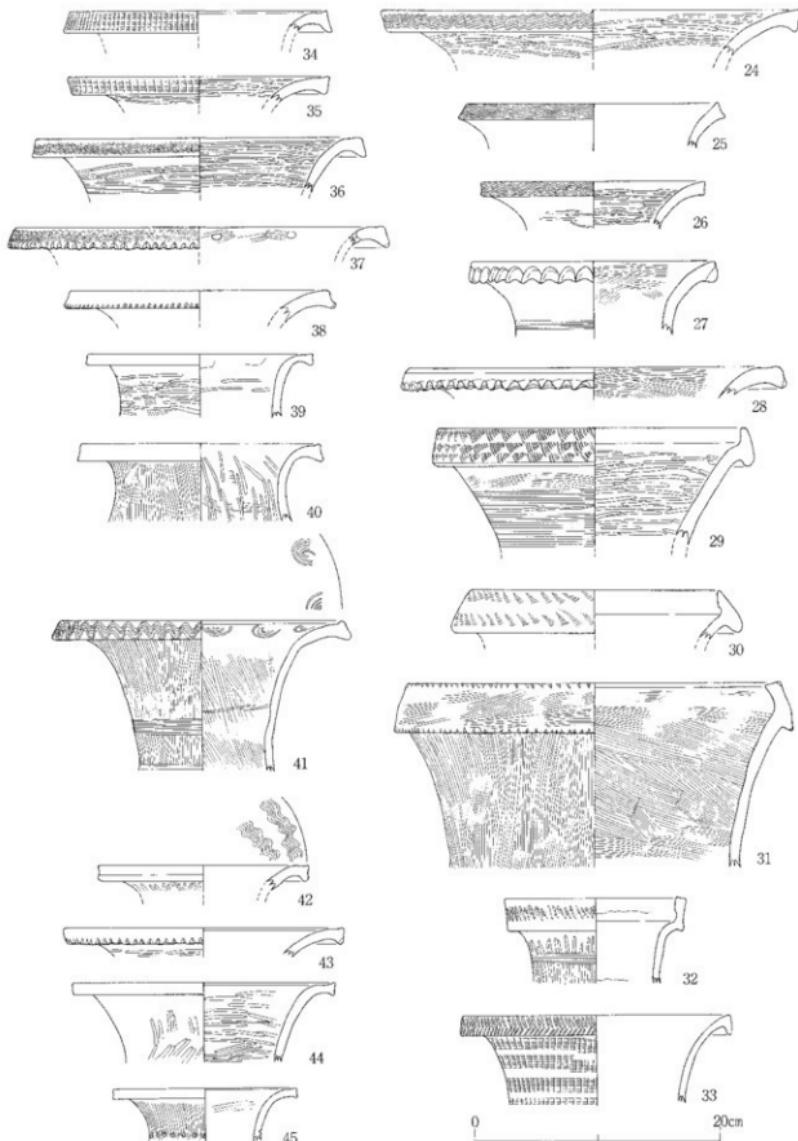
27・28は口頸部が大きく外反し、口縁端部が面を持つ。口縁下端部は指による押圧を施し文様とする。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。27は頸部外面に櫛描直線文を施す。II 様式。非河内産。

29・30は口縁部が大きく外反し、口縁端部を上下へ拡張する。口縁端部が幅広の面を持つ。口縁端部や頸部外面に櫛描文様を施す。29は口縁端部に3帯の扇形文と頸部外面に3帯の直線文が残る。30は口縁部に2帯の扇形文を施す。III ～ IV 様式。生駒西麓産。

31・32は口縁部が大きく外反し、口縁端部を上方へ拡張する。口縁端部が幅広の面を持つ。31は口縁端部に刻み目を施す。頸部内外面はハケメ調整する。32は口縁端部に櫛描波状文を施す。頸部外面に1帯の直線文が残る。頸部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。III ～ IV 様式。生駒西麓産。



第15図 第62次大溝1出土土器実測図



第16图 第62次人沟1出土土器实测图

33~39は口縁部が大きく外反し、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部や頸部外面に櫛描文様や刻み目などを施すものが多い。櫛描文様は簾状文、波状文、直線文がある。一部、無文のものもある。頸部内外面はヘラミガキ調整するものが多い。37は口縁部に円孔を2孔穿つ。Ⅲ~Ⅳ様式。38・39は非河内産、他は生駒西麓産。

40~45は口縁部が大きく外反し、口縁端部を上方へ摘み上げ気味に拡張する。口縁端部や頸部外面に櫛描文様や刻み目などを施すものが多い。櫛描文様は扇形文、波状文、列点文などがある。45は頸部外面に竹管文を施す。無文のものもある。頸部内外面はヘラミガキ調整やハケメ調整するものが多い。Ⅲ~Ⅳ様式。41~43は非河内産、他は生駒西麓産。

46は無頸蓋である。体部が内傾する。口縁端部は段を持つ。口縁端部に細長い刻み目、体部外面に櫛描簾状文を施す。簾状文は2帯が残る。体部内外面はナデ調整する。Ⅲ~Ⅳ様式。生駒西麓産。

47は長頸蓋である。口頭部が外上方へ伸び、口縁端部に至る。口縁端部は丸く終わる。頸部外面に2帯の櫛描直線文が残る。頸部内面はナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

48~59は鉢である。

48・49は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。48は体部外面をヘラミガキ調整する。内面はハケメの後、ナデ調整する。49は体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

50~54は体部が外上方へ立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部は丸く終わる。50・51は体部外面に櫛描直線文を施す。4帯が残る。他は無文である。体部内外面はヘラミガキ調整やハケメ調整するものが多い。Ⅱ様式。生駒西麓産。

55は体部が内傾する。口縁部は強く外反し、口縁端部が面を持つ。口縁端部に細長い刻み目、体部外面に櫛描簾状文を施す。簾状文は1帯が残る。文様帶間は研磨する。体部内面はヘラミガキ調整する。Ⅲ~Ⅳ様式。生駒西麓産。

56は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面を持つ。口縁端部に刻み目、体部に櫛描直線文を施す。直線文は2帯が残る。文様帶間は研磨する。内面はヘラミガキ調整する。Ⅲ~Ⅳ様式。生駒西麓産。

57~59は体部が外上方へ立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部は面を持つ。57は口縁端部に1帯の櫛描波状文、体部外面に直線文を施す。直線文は2帯が残る。他は無文である。体部内外面はヘラミガキ調整するものが多い。Ⅲ~Ⅳ様式。生駒西麓産。

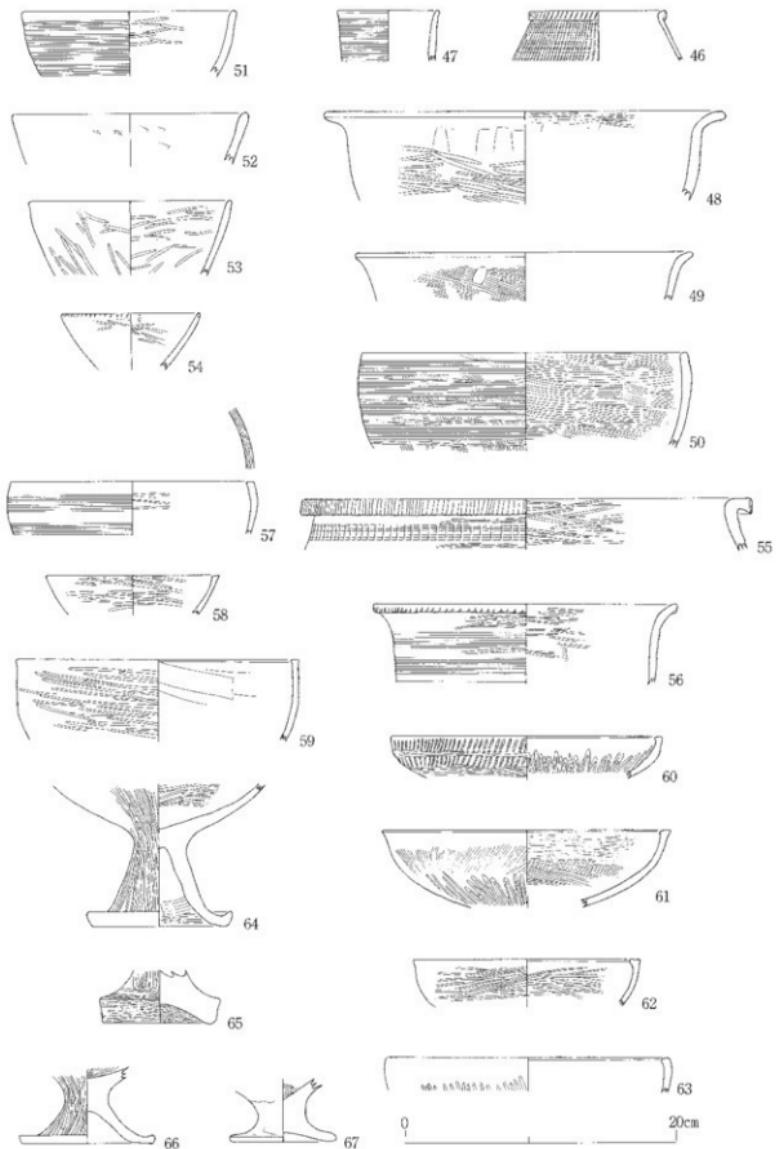
60~67は高杯である。

60~63は杯部が浅い椀状を呈し、口縁端部は面を持つ。有文と無文がある。60は口縁部に2帯の櫛描列点文を施す。他は無文である。杯部内外面はヘラミガキ調整するものが多い。Ⅲ~Ⅳ様式。生駒西麓産。

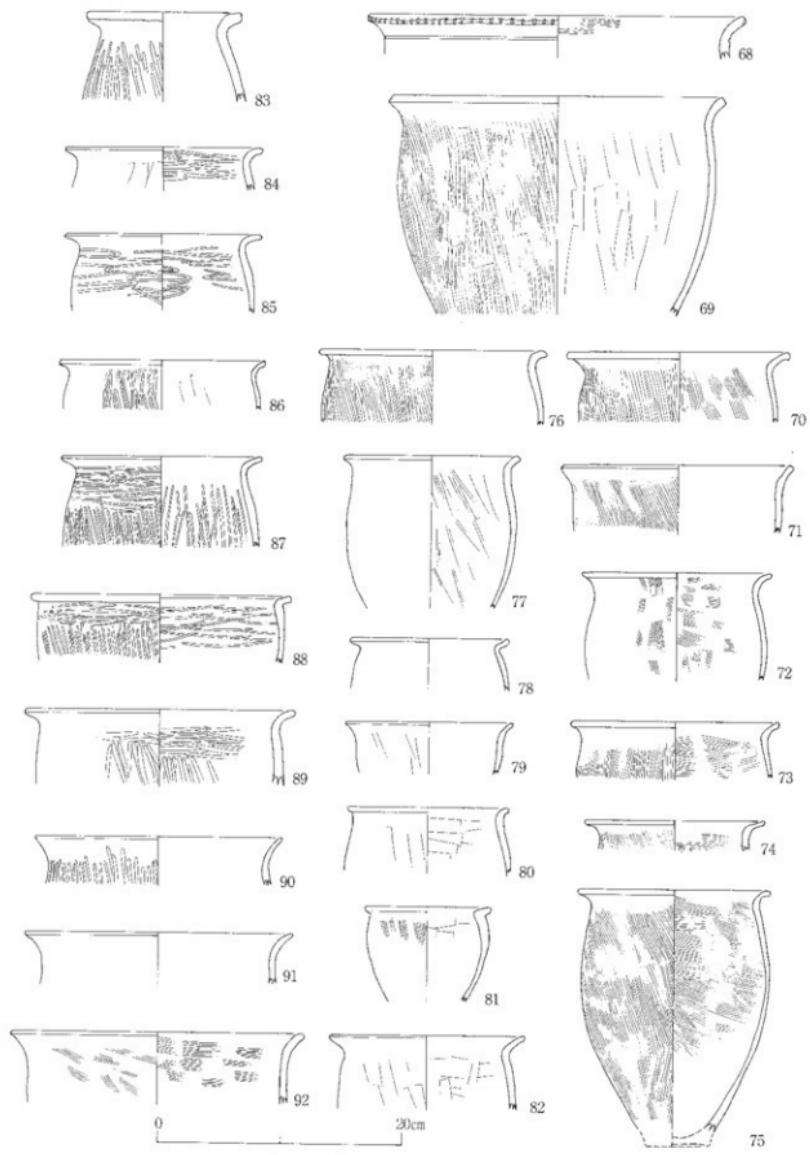
64~67は脚部である。裾部の立ち上がりが急である。裾端部は上方へ拡張する。中空である。65~67は立ち上がりがゆるい。裾端部は面を持つものと丸く終わるものがある。中実である。脚部外面はヘラミガキ調整やナデ調整するものが多い。67は高杯以外の可能性もある。中期。67は非河内産、他は生駒西麓産。

68~131は壺である。

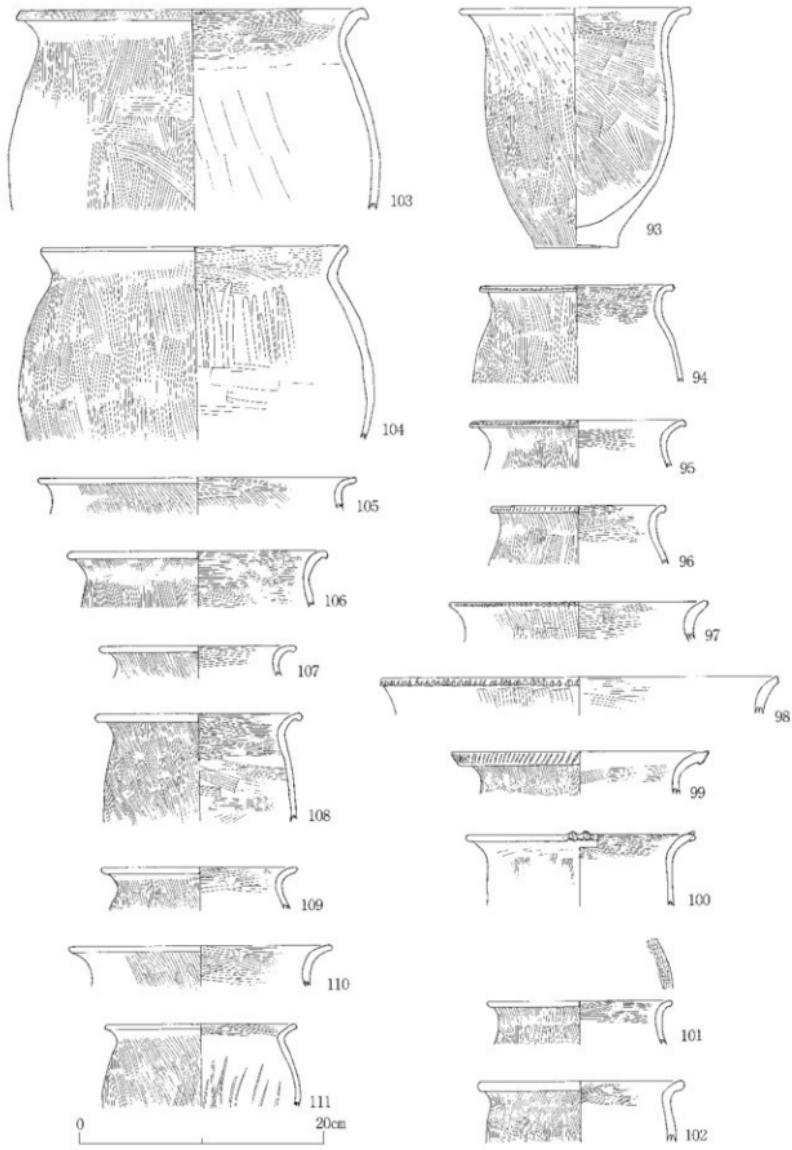
68は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目、体部外面に1条のヘラ描沈線文を施す。体部外面はナデ調整する。内面はハケメの後、ナデ調整する。Ⅰ様式。生駒西麓産。



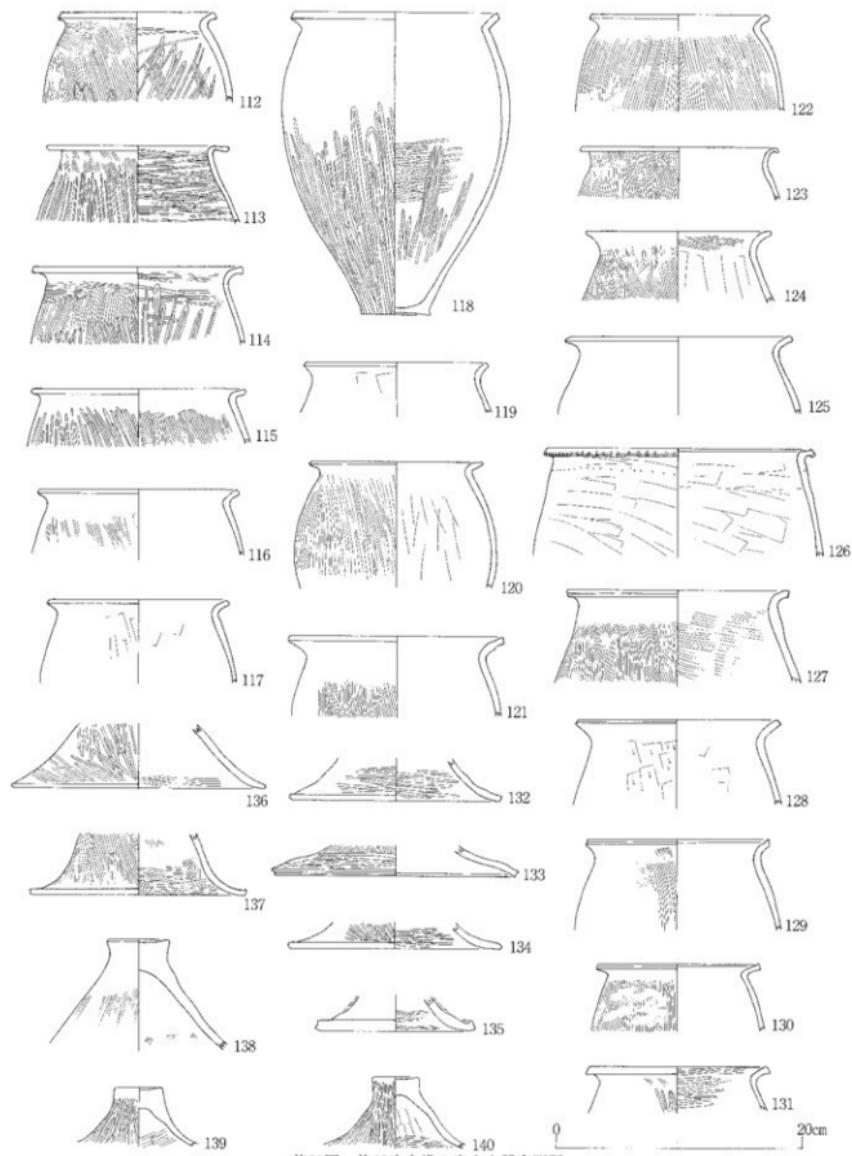
第17图 第62次大清1出土土器实测图



第18圖 第62次大溝1出土土器實測圖



第19図 第62次大溝1出土土器実測図



第20图 第62次大溝1出土土器実測図

69~93は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面を持つものと丸く終わるものがある。体部内外面はヘラミガキ調整、ハケメ調整、ナデ調整など多種である。II様式。69·76·80·82は非河内産。他は生駒西麓産。

94~98は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は外側へ巻き込む。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。口縁端部に刻み目を施す。II様式。非河内産。

99~101は94と形態、調整が類似する。99は口縁端部に櫛描列点文を施す。100は口縁端部が丸く終わり、波状口縁を呈する。101は口縁部内面に櫛描列点文を施す。II様式。非河内産。

102~111は94と形態、調整が同様であるが、口縁端部に刻み目を施さない。II様式。非河内産。

112~125は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つものと丸く終わるものがある。体部内外面はヘラミガキ調整やハケメ調整するものが多い。III~IV様式。112~117は生駒西麓産。他は非河内産。

126は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は上下へ拡張する。口縁端部に刻み目、体部外面に刺突文を施す。体部内外面はナデ調整する。III~IV様式。非河内産。

127~129は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部に1条の凹線文を施す。127·129は体部内外面をハケメ調整する。128は体部外面をヘラケズリ調整、内面をナデ調整する。III~IV様式。127は非河内産、他は生駒西麓産。

130は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は上方へ摘み上げ気味に拡張する。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。III~IV様式。生駒西麓産。

131は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は下方へ拡張する。体部内外面はハケメの後、ヘラミガキ調整する。III~IV様式。生駒西麓産。

132~140は甕蓋である。体部が大きく立ち上がる。口縁端部は丸く終わるものとやや面を持つものがある。摘み部は円形を呈する。体部内外面はヘラミガキ調整やハケメ調整するものが多い。中期。138は非河内産、他は生駒西麓産。

遺物包含層出土土器

第15層（第21~47図 141~788）

弥生土器は壺、長頸壺、無頸壺、細頸壺、壺蓋、甕蓋、高杯、鉢、水差形土器、甕の器種がある。

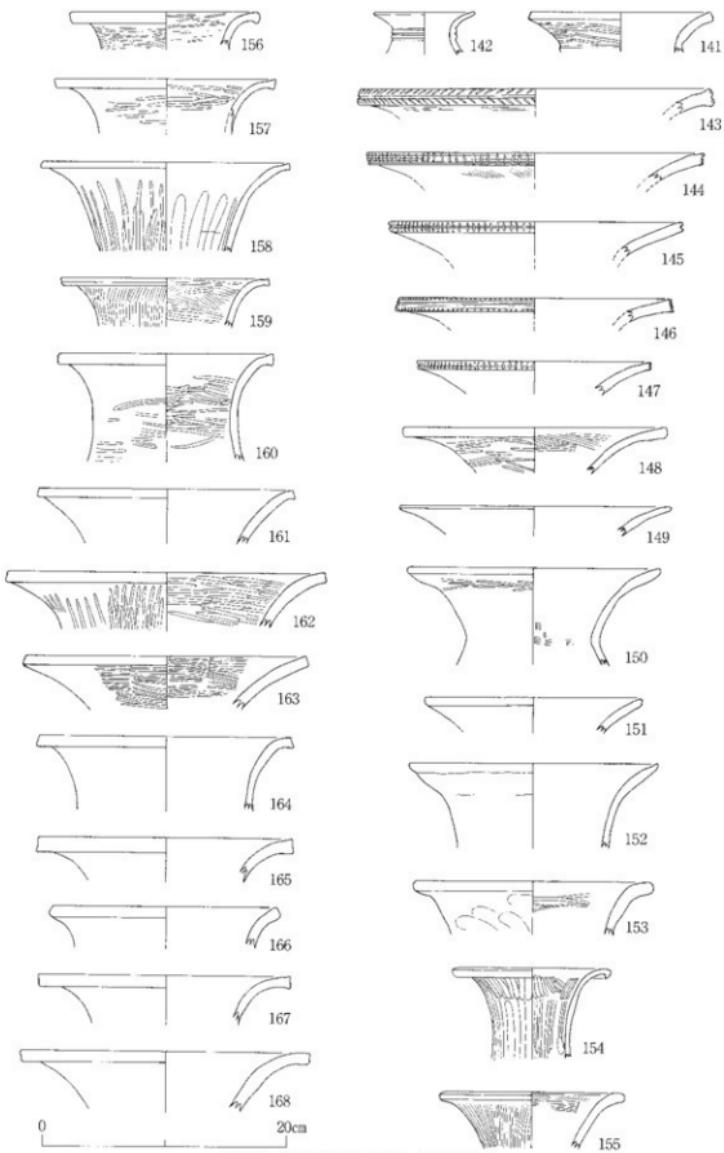
141~374は壺である。

141·142は口縁部が短く外反する。141は口縁端部がやや面を持つ。外面の肩部と体部境に削り出し凸帶を施す。1帯が残る。外面はヘラミガキ調整する。内面は風化が著しく、調整法は不明である。142は口縁端部が丸く終わる。外面の肩部と体部境に削り出し凸帶を施す。凸帶の上に1条のヘラ描沈線文を施す。体部内外面は風化が著しく、調整法は不明である。I様式。生駒西麓産。

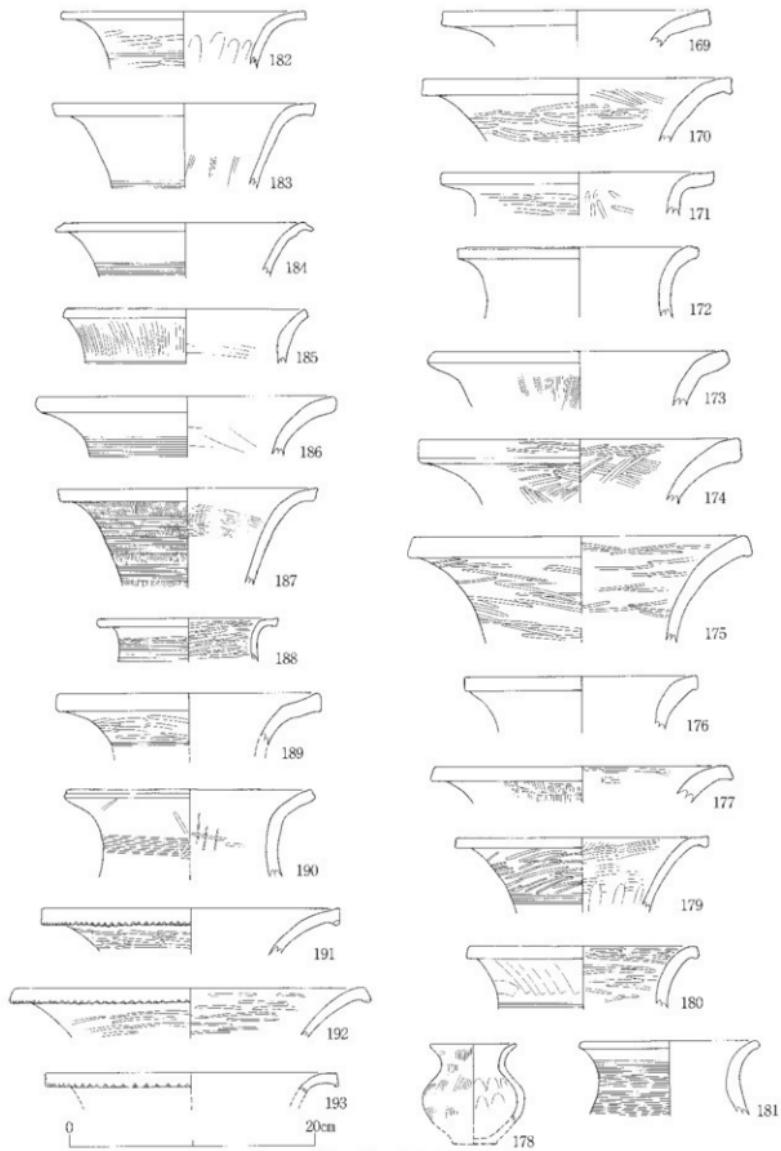
143~147は口縁部が大きく外反し、口縁端部は面を持つ。口縁端部にヘラ描文様や刻み目を施す。ヘラ描文様は綾杉文や沈線文がある。風化が著しく調整法は不明なものが多い。I様式。生駒西麓産。

148~168·178は口頭部が大きく外反し、口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。無文である。頸部内外面はヘラミガキ調整するものが多い。II様式。155·157·159·161は非河内産、他は生駒西麓産。

169~177は口頭部が大きく外反し、口縁端部はやや広い面を持つ。無文である。頸部内外面はヘラミガキ調整するものが多い。II様式。172·173は非河内産、他は生駒西麓産。



第21図 第62次第15層出土土器実測図



第22圖 第62次第15層出土土器實測圖

179～190は口頸部が大きく外反し、口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。頸部外面に櫛描直線文を施す。頸部外面はヘラミガキ調整するものが多い。Ⅱ様式。183・187・189は非河内産、他は生駒西麓産。

191～203は口頸部が大きく外反し、口縁端部が面を持つ。口縁端部は刻み目を施す。頸部外面に櫛描文様を施すものもある。頸部内外面はヘラミガキ調整やハケメ調整するものが多い。Ⅱ様式。192・195～199は非河内産、他は生駒西麓産。

204～215は口頸部が大きく外反し、口縁端部が面を持つ。口縁端部は刻み目や櫛描文様を施す。櫛描文様は直線文、波状文などが多い。212は口縁端部にヘラ描繊杉文と頸部外面に櫛描直線文を施す。頸部外面に櫛描文様を施すものもある。頸部内外面はヘラミガキ調整するものが多い。Ⅱ様式。211・214は非河内産、他は生駒西麓産。

216～218は頸部が短く、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。頸部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。無文である。Ⅱ様式。生駒西麓産。

219は頸部が非常に長く伸び、口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つ。外面は剥離が著しいが頸部に10帯の櫛描直線文が残る。頸部内面はナデ調整する。所謂、和泉に多い「日明山型」の壺である。Ⅱ様式。非河内産。

220～297は口縁部が大きく外反し、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部や頸部外面に櫛描文様や刻み目などを施すものが多い。櫛描文様は簾状文、波状文、直線文が多い。凹線文も一部ある。また、円形の刺突文を施すものがある。円形浮文や棒状浮文を貼り付けるものがある。一部、無文のものもある。頸部内外面はヘラミガキ調整やナデ調整するものが多い。Ⅲ～Ⅳ様式。249・259・268・270・273・277・279・281・285・291・295は非河内産、他は生駒西麓産。

298～320は口縁部が大きく外反し、口縁端部を上方へ摘み上げ気味に拡張する。口縁端部や頸部外面に櫛描文様、凹線文、刻み目などを施すものが多い。櫛描文様は波状文、扇形文、列点文、簾状文などがある。また、口縁部内面にも櫛描文様を施すものが多い。無文のものもある。頸部内外面はハケメ調整やナデ調整するものが多い。Ⅲ～Ⅳ様式。299・300・303・305・306・313・314・317は非河内産、他は生駒西麓産。

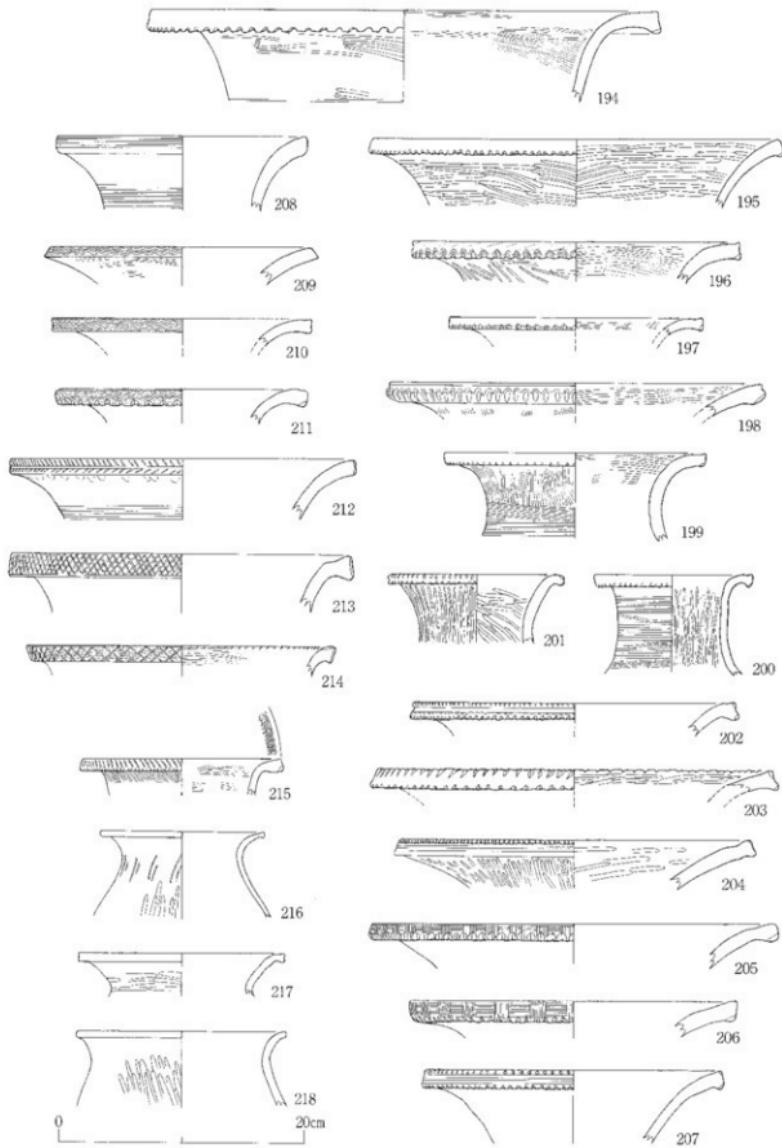
321は口頸部が大きく外反し、口縁端部が丸く終わる。頸部外面に1帯の櫛描簾状文が残る。頸部内外面はハケメの後、ナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

322～327は口頸部が大きく外反し、口縁端部は面を持つ。有文と無文のものがある。322は口縁端部と口縁部内面に櫛描波状文、326は体部外面に直線文と波状文、327は口縁端部と頸部外面に波状文と直線文を施す。他は無文である。頸部内外面はナデ調整やハケメ調整するものが多い。Ⅲ～Ⅳ様式。326・327は非河内産、他は生駒西麓産。

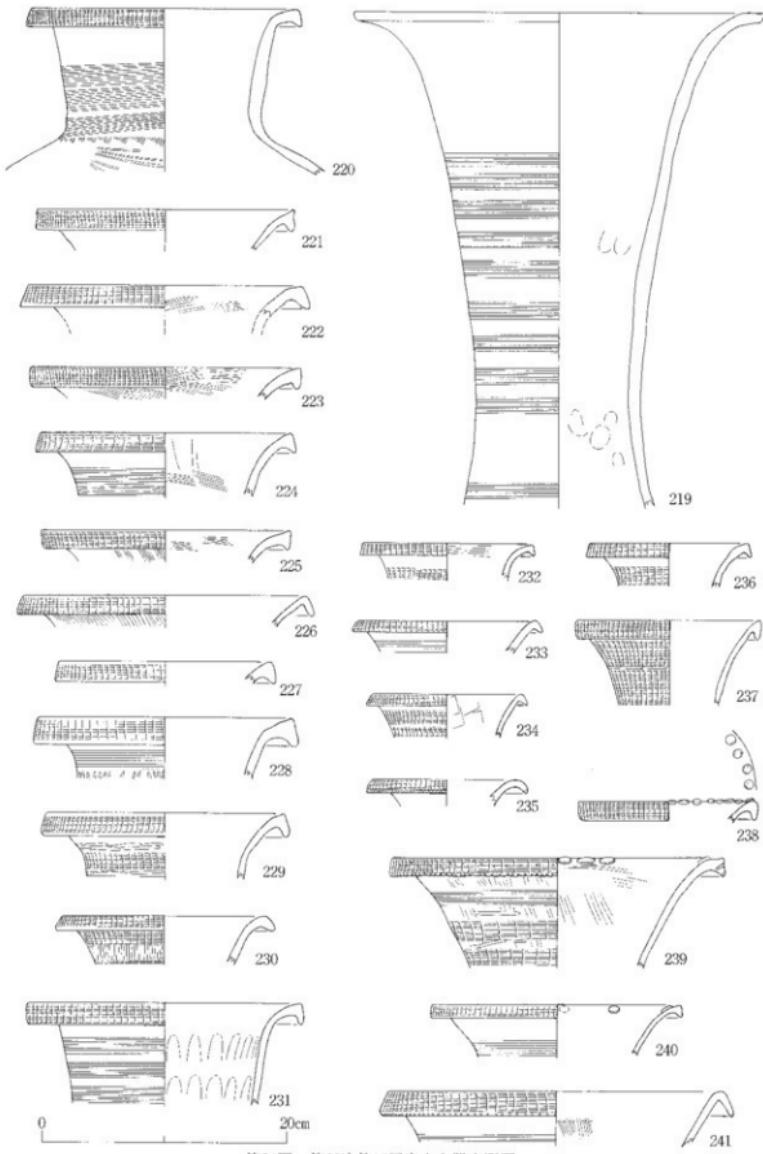
328～332は頸部が短く、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。329は口縁部内面に櫛描扇形文、頸部外面に直線文を施す。他は無文である。頸部内外面はナデ調整やハケメ調整するものが多い。Ⅲ～Ⅳ様式。329・331は非河内産、他は生駒西麓産。

333～355は口縁部が大きく外反し、口縁端部を上下へ拡張する。口縁端部が幅広の面を持つ。口縁端部や頸部外面に櫛描文様を施す。櫛描文様は簾状文が多く用いられるが扇形文や波状文もある。口縁端部に円形の刺突を加えるものも多い。355は口縁端部に焼成後に△状の記号を線刻する。頸部外面はナデ調整やヘラミガキ調整するものが多い。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

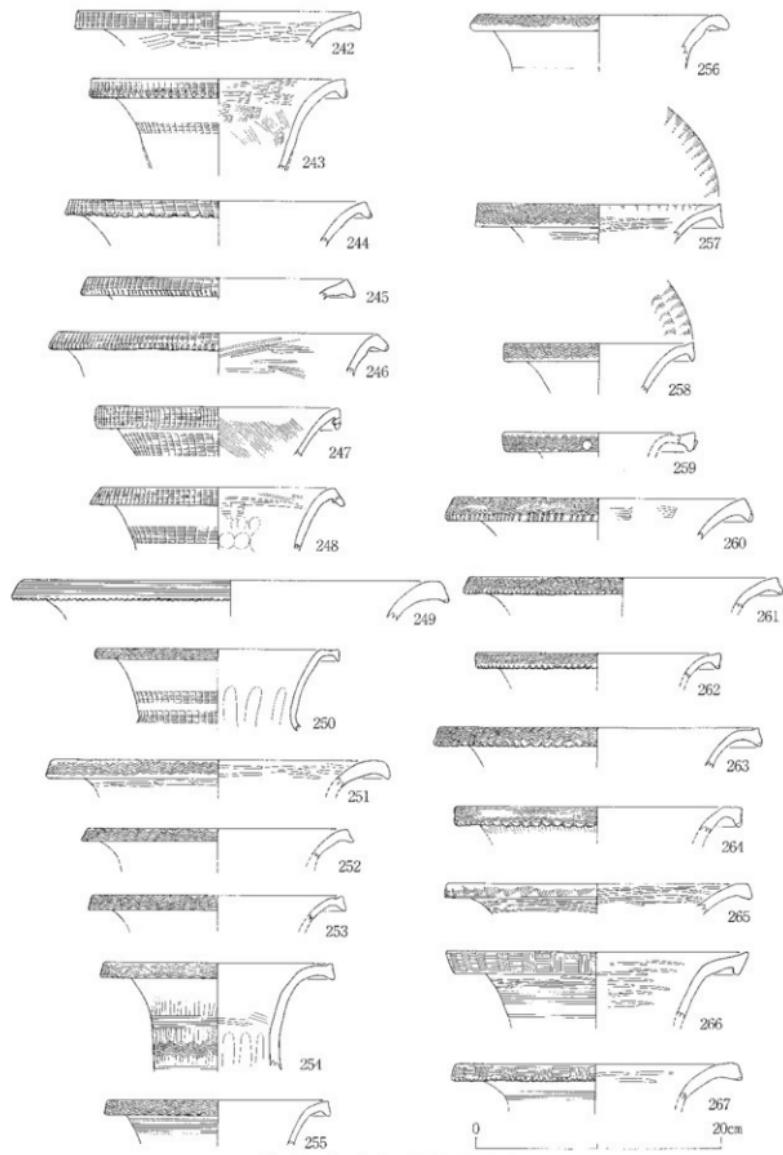
356～369は口縁部が大きく外反し、口縁端部を上方へ拡張する。口縁端部が幅広の面を持つ。有文と無文のものがある。有文のものは櫛描文様、凹線文などがある。櫛描文様は波状文、直線文、簾状



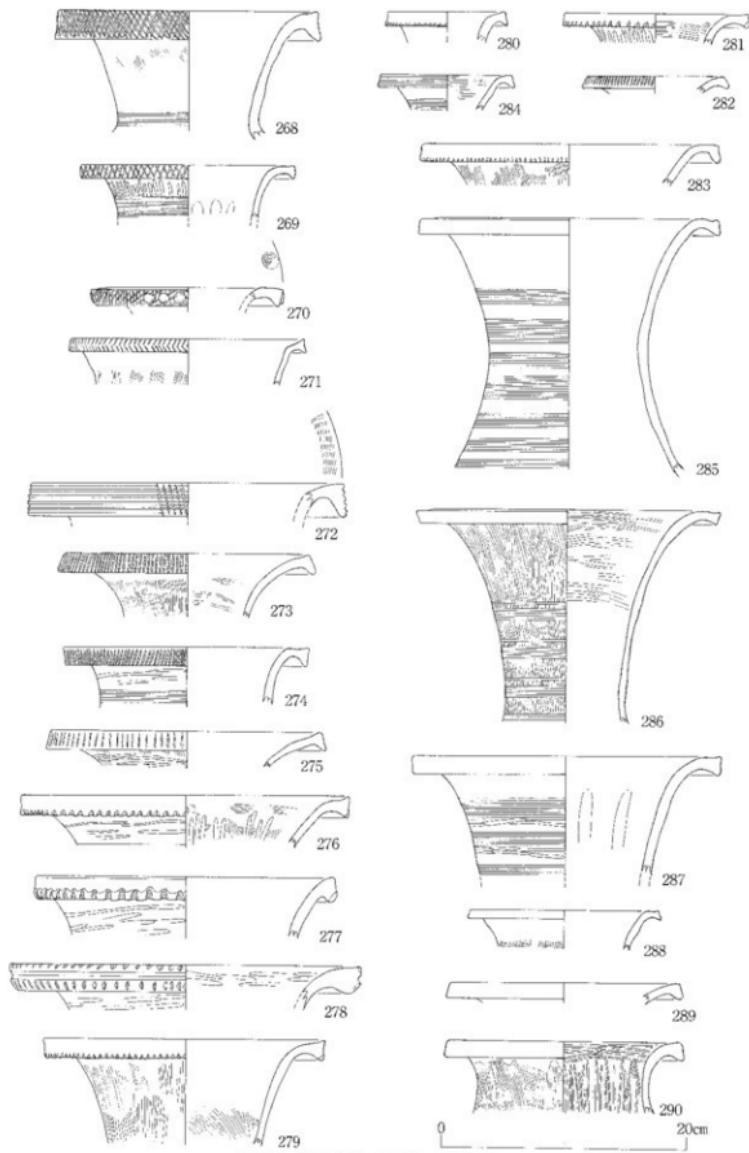
第23图 第62次第15层出土土器实测图



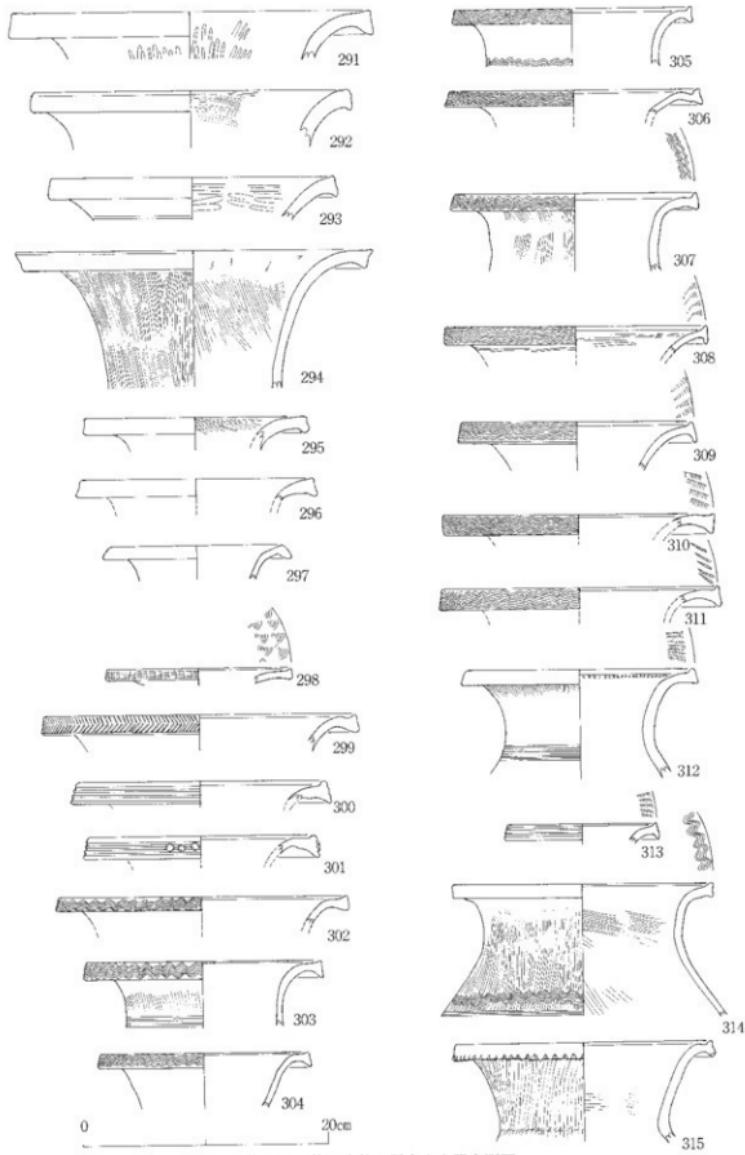
第24圖 第62次第15層出土土器尖測圖



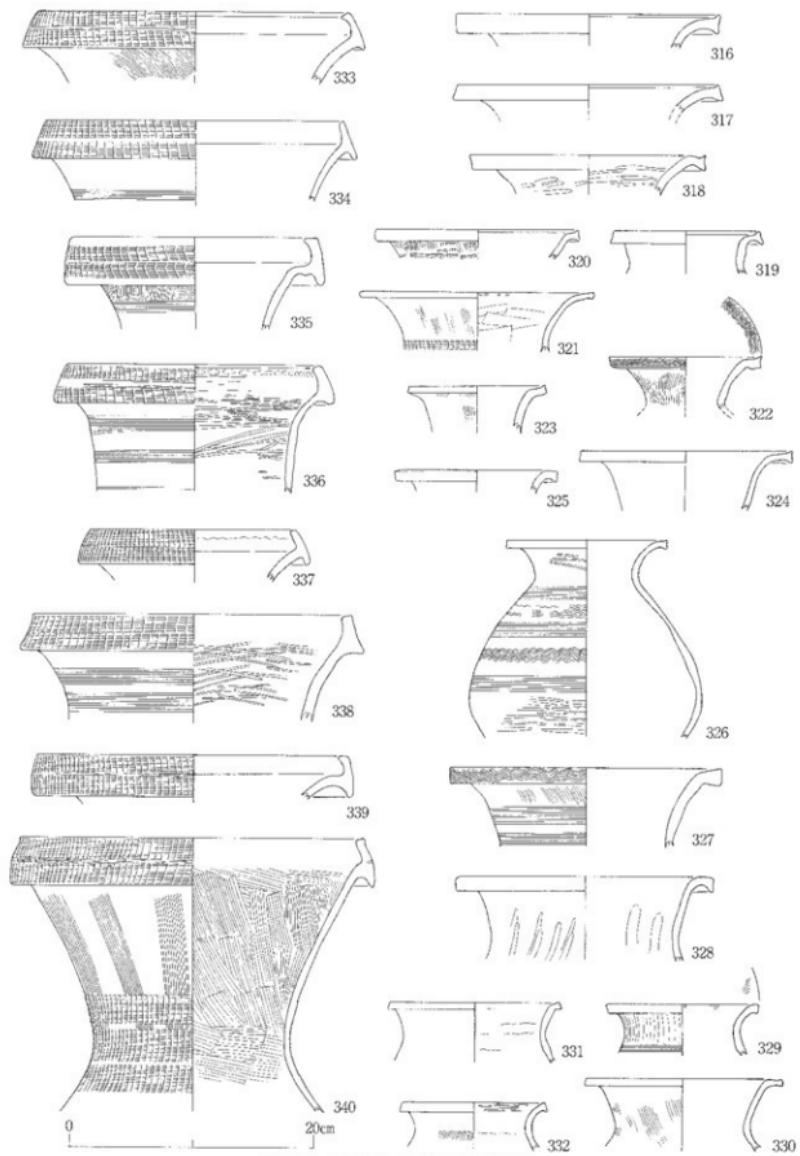
第25圖 第62次第15層出土土器實測圖



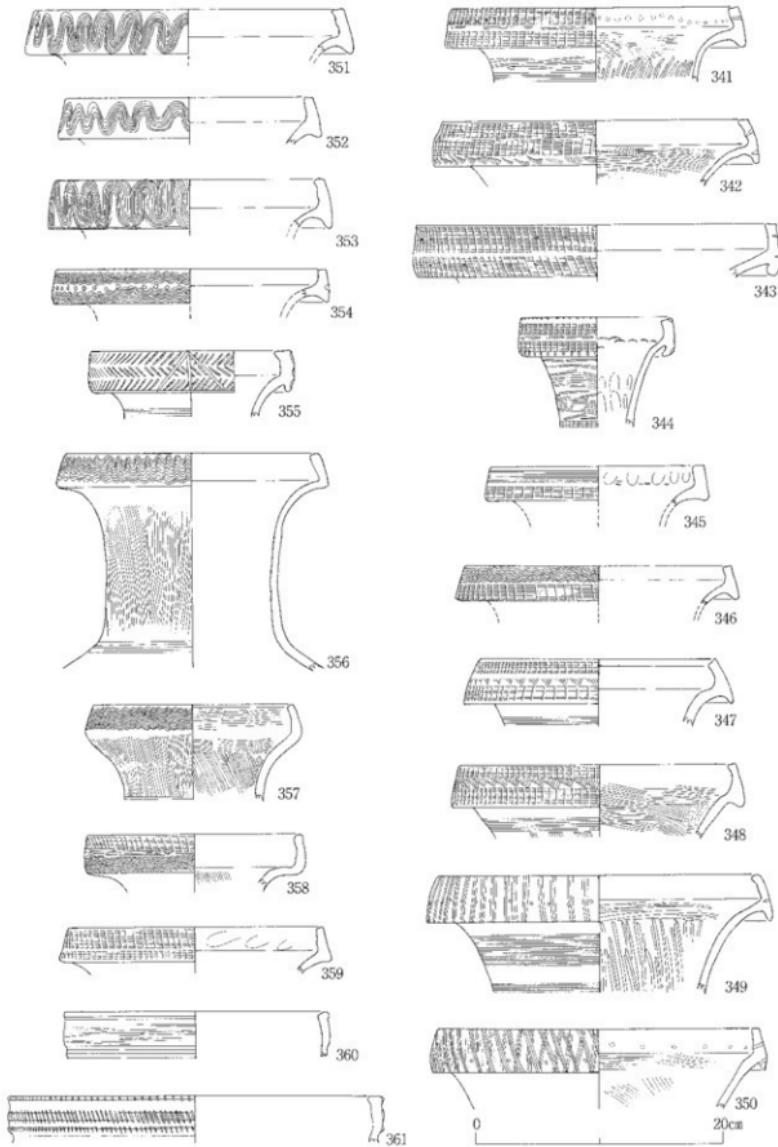
第26図 第62次第15層出土土器実測図



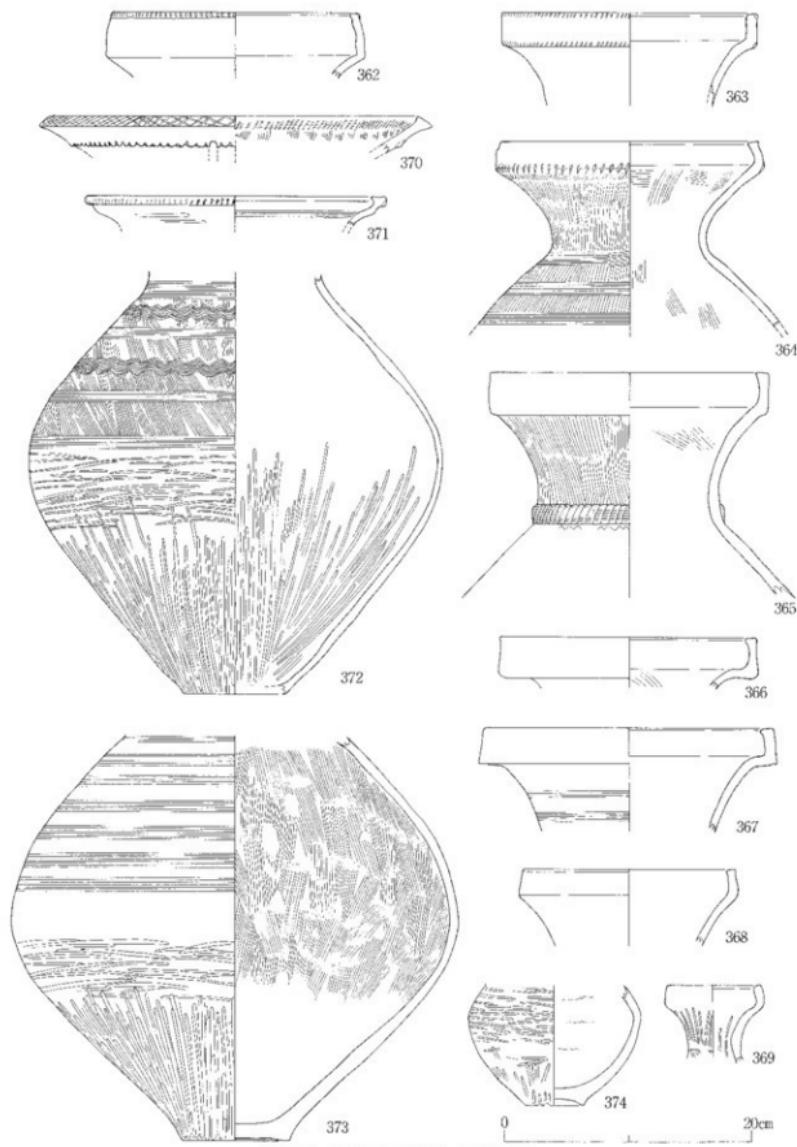
第27图 第62次第15层出土土器实测图



第28図 第62次第15層出土土器実測図



第29图 第62次第15层出土土器实测图



第30図 第62次第15層出土土器実測図

文などがある。また、刻み目も多い。365は外面頸部と肩部境に粘土帯を貼り付け、櫛状工具によつて押圧を施す。頸部内外面はハケメ調整やナデ調整するものが多い。Ⅲ～Ⅳ様式。356・358～360・366・367は生駒西麓産、他は非河内産。

370は口縁部が大きく外上面へ伸び、口縁端部が面を持つ。口縁端部に櫛描斜格子文を施す。口縁部外面に刻み目凸帯を貼り付ける。1帯が残る。頸部外面にも棒状浮文を貼り付ける。口縁部内面は櫛描列点文と扇形文を施す。頸部内外面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

371は口頸部が外反した後、さらに角度を変えて外反する。口縁端部は内外へ拡張する。口縁端部に櫛描列点文、口縁部内面に直線文を施す。直線文は1帯が残る。頸部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。非河内産。

372～374は底部が平底を呈する。体部の張りは大きい。372・373は体部外面に櫛描文様を施す。直線文と波状文がある。374は無文である。体部内外面はヘラミガキ調整するものが多い。Ⅲ～Ⅳ様式。374は非河内産、他は生駒西麓産。

375～381は無頸壺である。

375・376は体部の張りが大きく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。375は体部外面をヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。376は口縁端部に刻み目を施す。体部外面に5帯の櫛描直線文が残る。体部内外面はナデ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

377～380は体部が内傾する。口縁部は強く外反し、口縁端部は面を持つ。377は無文、他は櫛描文様を施す。直線文、波状文、簾状文、流水文がある。379は口縁端部に細長い刻み目を施す。378・380は口縁部直下に2ヶ1対の小円孔を穿つ。体部内外面はナデ調整やヘラミガキ調整するものが多い。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

381は体部が大きく内傾する。口縁部はわずかに外反し、口縁端部が面を持つ。体部外面に4条の凸帯を施した後に縱方向の棒状浮文を貼り付ける。4帯が残る。体部外面はナデ調整する。内面はハケメの後、ナデ調整する。中期。生駒西麓産。

382は長頸壺である。口頸部が外上方に伸び、口縁端部に至る。口縁端部は丸く終わる。頸部外面に4帯の櫛描直線文が残る。頸部外面はハケメ調整する。内面はハケメの後、ナデ調整する。Ⅱ様式。非河内産。

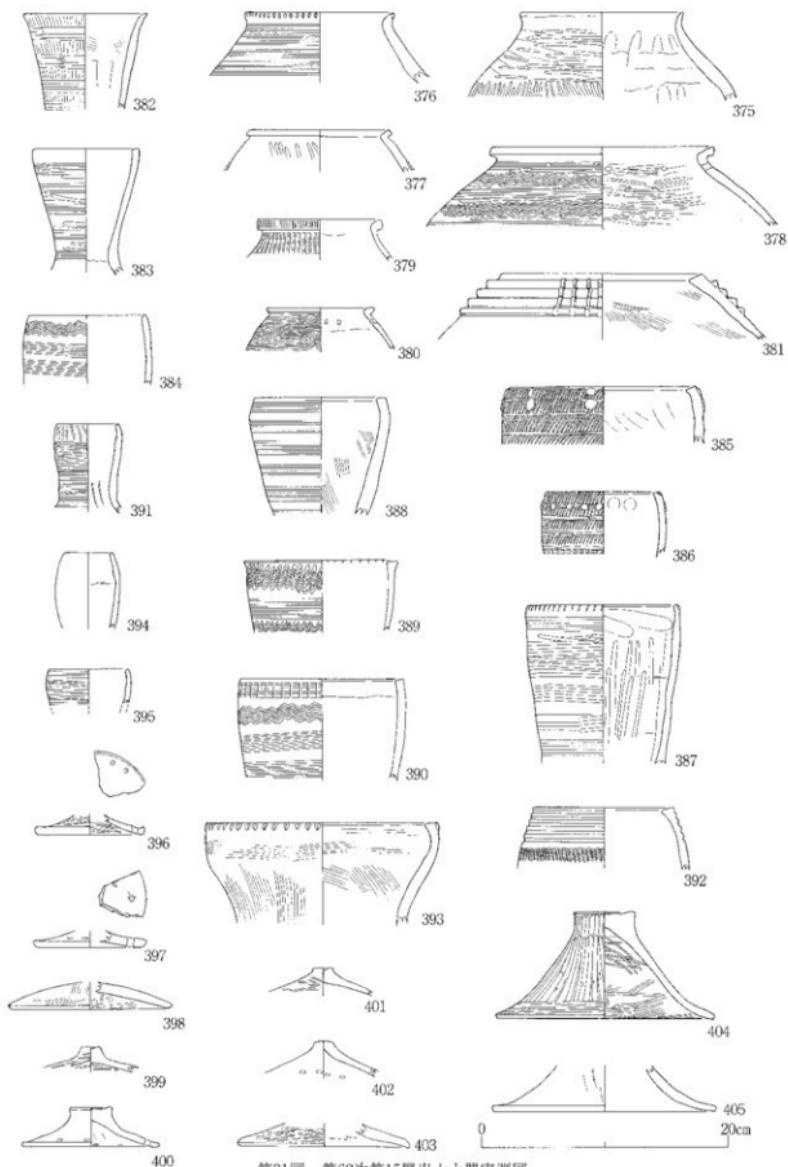
383～395は細頸壺である。口頸部は内湾するものが多い。一部、上方へ直線的に伸びるものもある。口縁端部は面を持つものと丸く終わるものがある。有文と無文がある。有文のものは櫛描文様や凹線文を施す。櫛描文様は直線文、波状文、簾状文などがある。円形浮文を加えるものもある。387・393は口縁端部に刻み目を施す。頸部内外面はナデ調整やヘラミガキ調整するものが多い。Ⅲ～Ⅳ様式。383・388・389・394は非河内産、他は生駒西麓産。

396～403は壺蓋である。体部はゆるく立ち上がり、口縁端部は丸く終わるものとやや面を持つものがある。摘み部は円形を呈する。口縁部に2ヶ1対の小円孔を穿つ。体部内外面はヘラミガキ調整やナデ調整するものが多い。Ⅲ～Ⅳ様式。402は非河内産、他は生駒西麓産。

404～412は壺蓋である。体部は大きく立ち上がる。口縁端部は丸く終わるものとやや面を持つものがある。摘み部は円形を呈する。体部内外面はヘラミガキ調整やナデ調整するものが多い。中期。生駒西麓産。

413～474は高杯である。

413～419は杯部が外上方へ立ち上がり、口縁部が水平方向へ伸びる。口縁端部は下方へ大きく拡張する。口縁部と杯部の内面境に凸帯を廻らす。414は柱状部が中実である。裾部はゆるく広がる。杯



第31図 第62次第15層出土土器実測図

部内外面はヘラミガキ調整するものが多い。Ⅲ～Ⅳ様式。416は非河内産、他は生駒西麓産。

420・421は杯部が浅い椀状を呈し、口縁端部が段を持つ。420は口縁部と杯部外面に櫛描列点文を施す。杯部外面はヘラミガキ調整する。421は口縁部に櫛描列点文、杯部外面の下半に簾状文を施す。杯部外面の上半に斜格子の暗文を施す。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

422～433・435～442は杯部が浅い椀状を呈し、口縁端部が面を持つ。422～433は有文である。杯部外面に櫛描文様や凹線文を施す。櫛描文様は簾状文、列点文、波状文、直線文がある。口縁端部に刻み目を加えるものもある。435～442は無文である。杯部外面はヘラミガキ調整するものが多い。Ⅲ～Ⅳ様式。442は非河内産、他は生駒西麓産。

434は杯部が浅い椀状を呈し、口縁端部が面を持つ。口縁端部に刻み目を施す。杯部外面に2帯の刻み目凸帯を貼り付ける。杯部外面はハケメ調整、内面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。非河内産。

443～447は脚部である。裾部はゆるく立ち上がり、柱状部が上方へ伸びる。裾端部は面を持つものと上方へ拡張するものがある。447は裾端部に刻み目を施す。中実である。脚部外面はヘラミガキ調整やナデ調整するものが多い。444は裾部内面にリング状の煤が付着しており、壺の蓋に転用している。中期。生駒西麓産。

448～466は443と形態、調整がほぼ同様であるが、裾端部の拡張が大きい。中空である。脚部内面はヘラケズリ調整するものもある。448・453～455・459・460は裾部内面にリング状の煤が付着しており、壺の蓋に転用している。Ⅲ～Ⅳ様式。449・454・455・458は非河内産、他は生駒西麓産。

467～473は448と形態、調整がほぼ同様である。脚部外面に文様を施す。467はヘラ描凹線文と鋸齒文、468・471はU字形の竹管文、469・470は小円孔、471は小円孔と竹管文、472は竹管文を施す。471は裾端部にも竹管文と刻み目を加える。脚部外面はヘラミガキ調整するものが多い。高杯以外の可能性があるものもある。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

474は台付無頭壺と考えられるが高杯の中で扱う。脚部の立ち上がりは急であり、短い。裾端部は丸く終わる。裾端部よりやや上に段が付く。脚部上面には円孔を穿つ。外面はヘラミガキ調整する。体部内面はヘラミガキ調整、脚部内面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

475・476は器種が不明であるが脚部である。高杯の中で扱う。脚部は上方へ伸び、筒状を呈する。裾端部はやや面を持つ。475は2条の凹線文を施す。風化が著しく調整法は不明である。476は外面をハケメ調整する。内面の裾部をヘラケズリ調整、他はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。非河内産。

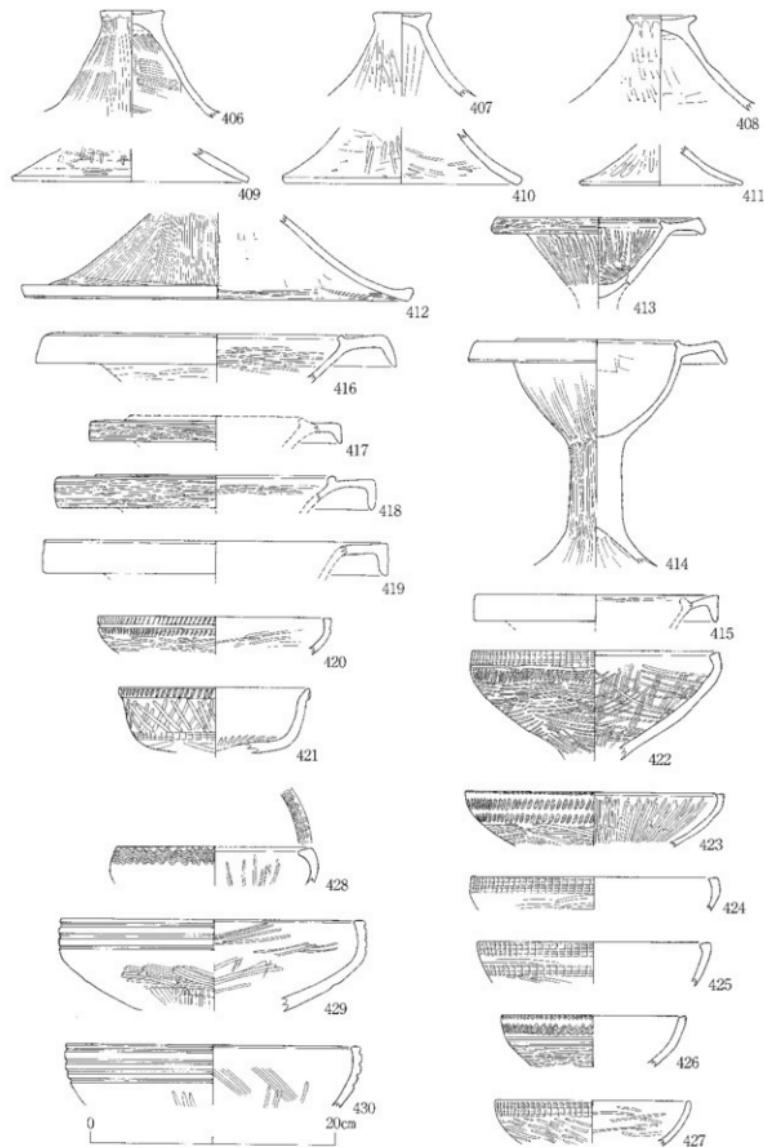
477～560は鉢である。

477は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面に3条のヘラ描沈線文を施す。体部外面はナデ調整する。Ⅰ様式。生駒西麓産。

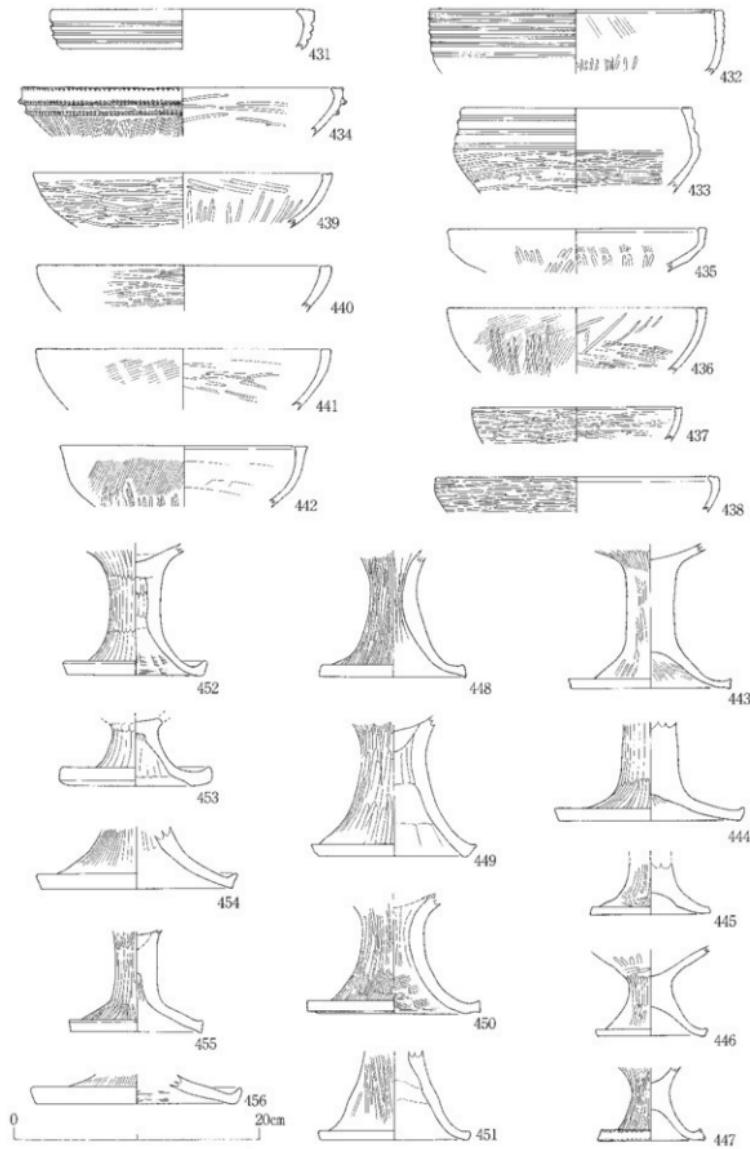
478～488は体部が外上方へ立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部は丸く終わる。478～480は体部外面に櫛描直線文を施す。他は無文である。体部外面はヘラミガキ調整やハケメ調整するものが多い。Ⅱ様式。生駒西麓産。

489は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は面を持つ。体部外面はヘラミガキ調整する。体部内面はハケメの後、ヘラミガキ調整する。Ⅱ様式。生駒西麓産。

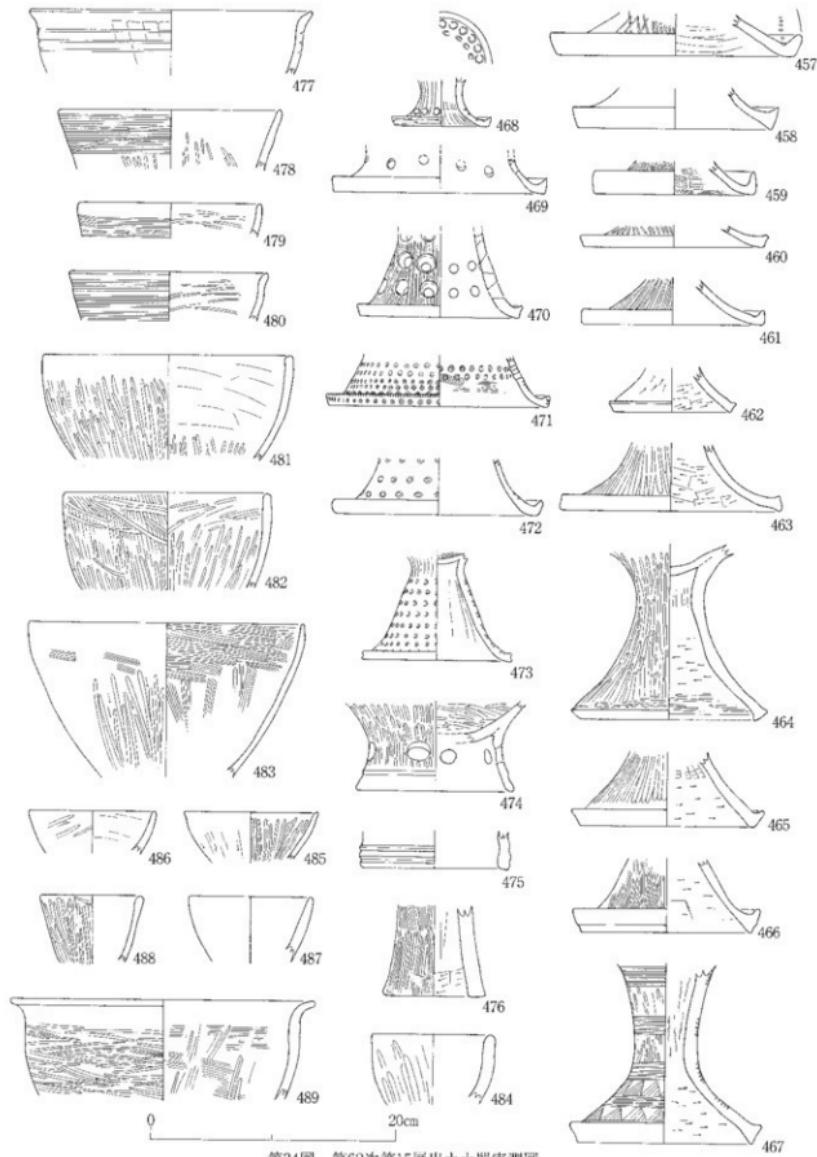
490～507は体部が外上方へ立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部は面を持つ。490～499は体部外面に櫛描文様や凹線文を施す。櫛描文様は簾状文、波状文、直線文がある。496は口縁端部に櫛描波状文を施す。490・500・501は口縁端部に刻み目を施す。502～507は無文である。体部外面はヘラミガキ調整するものが多い。Ⅲ～Ⅳ様式。497・498は非河内産、他は生駒西麓産。



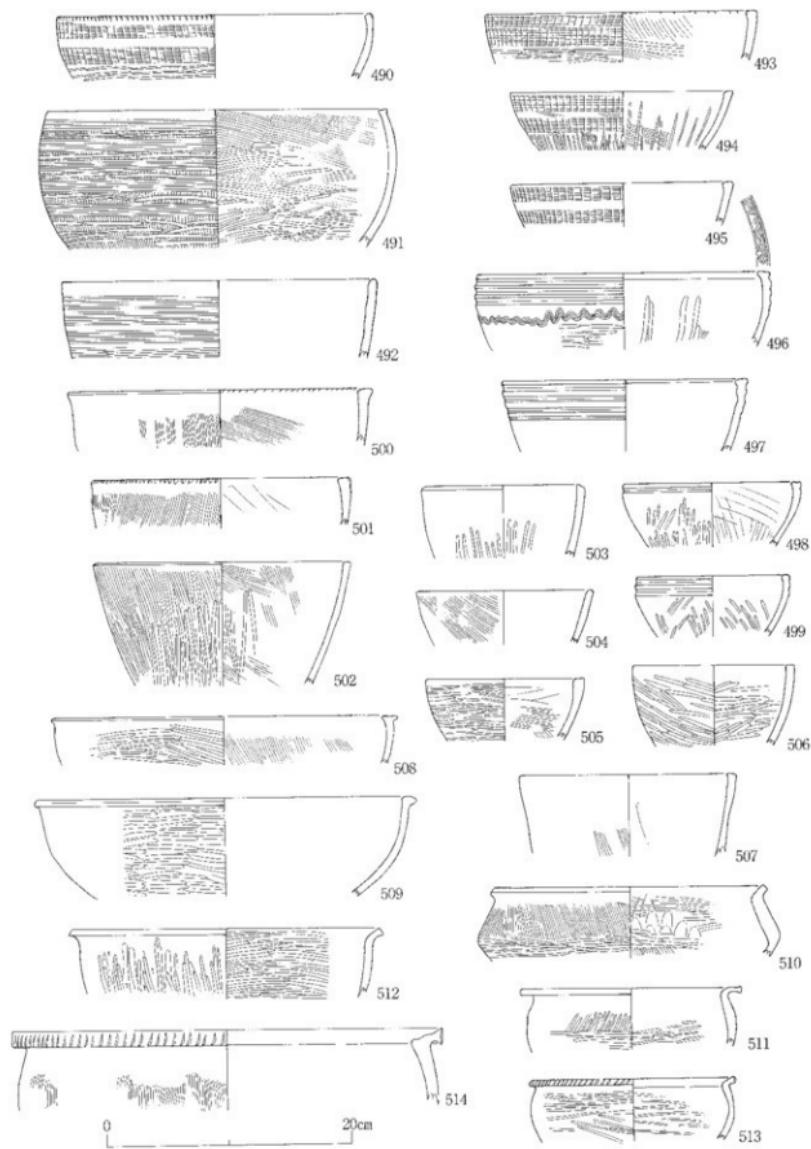
第32图 第62次第15层出土土器尖测图



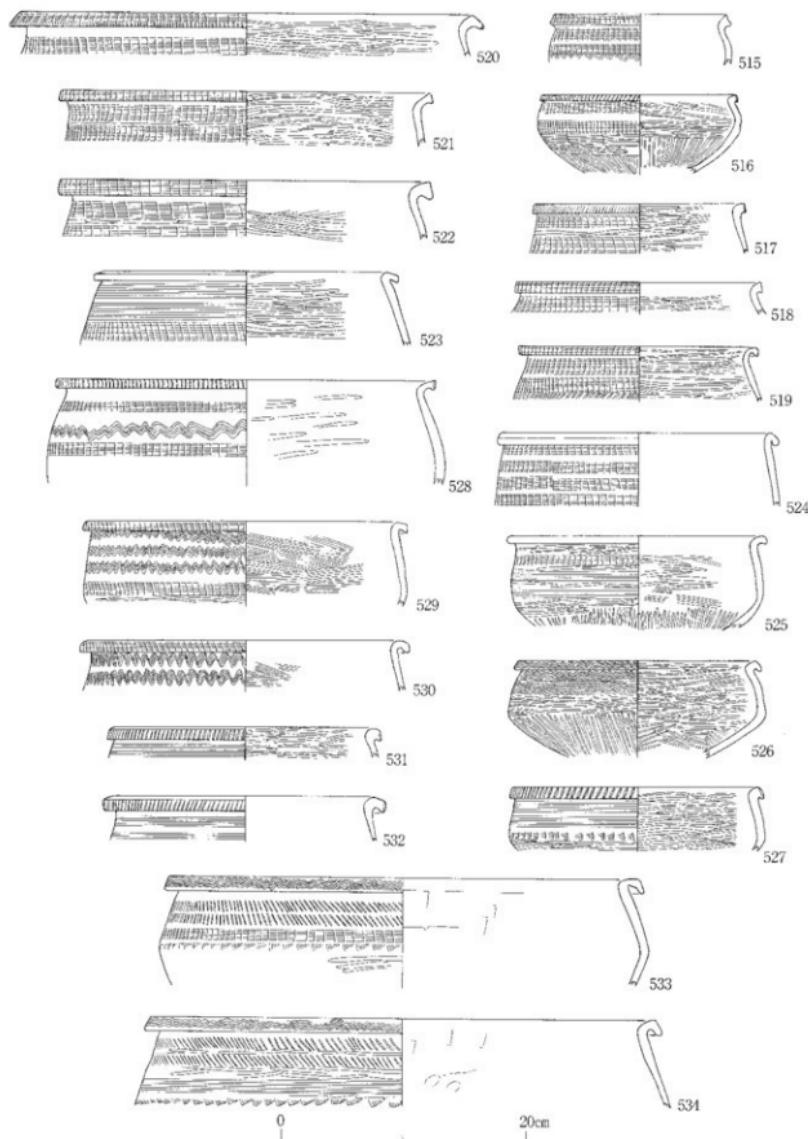
第33図 第62次第15層出土土器実測図



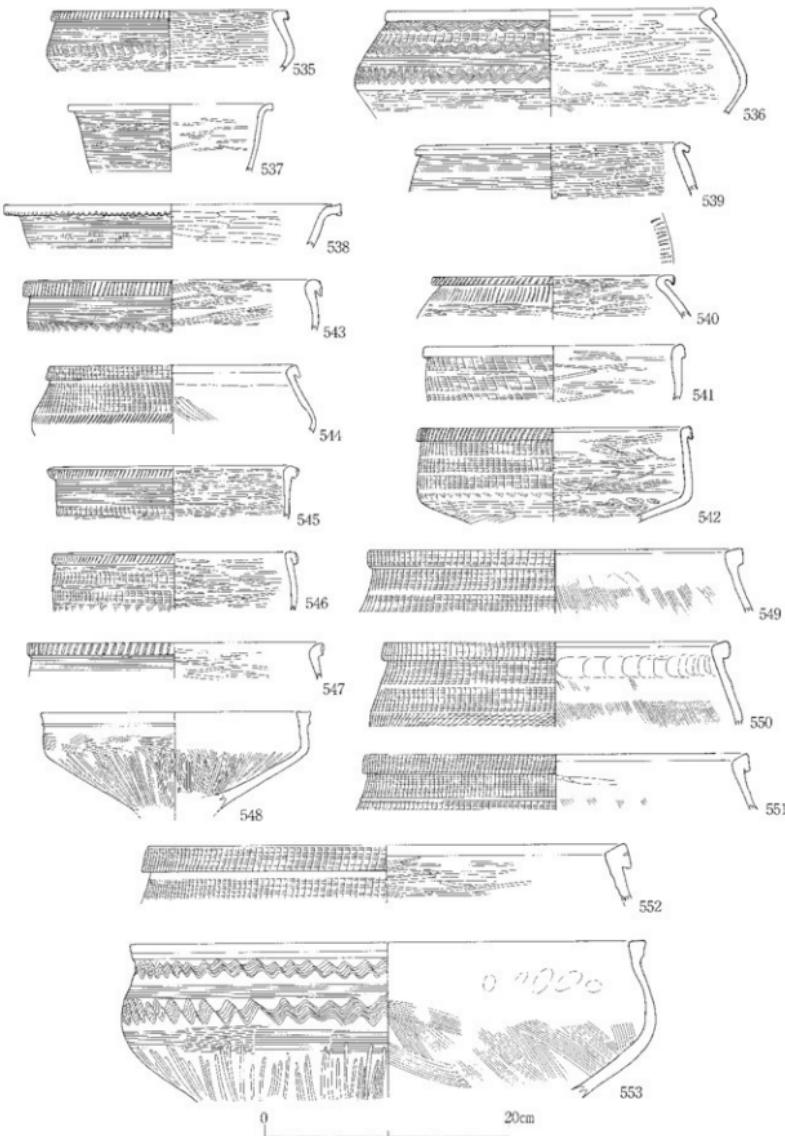
第34図 第62次第15層出土土器実測図



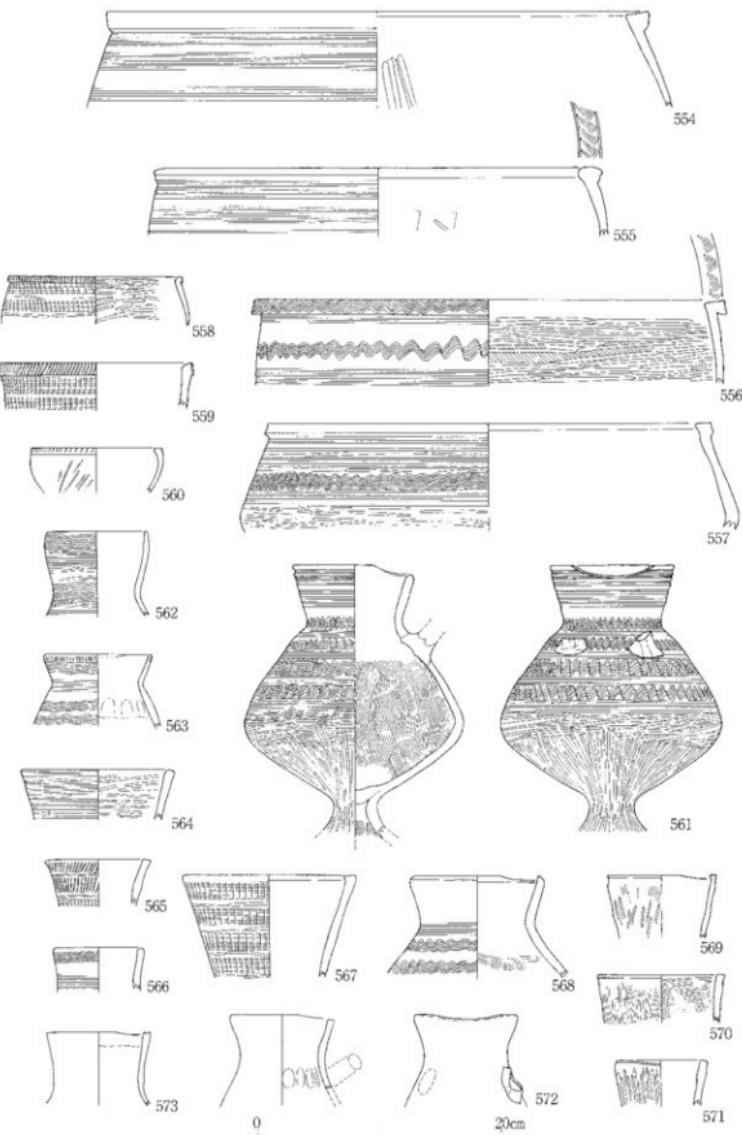
第35圖 第62次第15層出土器物測量圖



第36図 第62次第15層出土土器実測図



第37图 第62次第15层出土器物实测图



第38図 第62次第15層出土土器実測図

508・509は体部の張りが少なく、口縁部に至る。口縁端部は外側へ肥厚する。508は体部外面をヘラミガキ調整、内面をハケメ調整する。509は体部外面をヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

510～514は体部の張りが少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。513・514は口縁端部に刻み目を施す。514は内面に赤色顔料が付着する。体部内外面はヘラミガキ調整するものが多い。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

515～536・539・540は体部が内傾する。口縁部は強く外反し、口縁端部が面を持つ。体部外面に櫛描文様を施す。523～525・536・539以外のものは口縁端部にも櫛描文様や刻み目を施す。櫛描文様は簾状文、波状文、直線文、列点文などがある。体部内外面はヘラミガキ調整するものが多い。537・538は体部が外上方へ伸び、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は面を持つ。体部外面は櫛描直線文を施す。538は口縁端部に刻み目を加える。体部外面はハケメ調整、内面はヘラミガキ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。528は非河内産、他は生駒西麓産。

541～560は体部が内傾する。口縁部は直線的に終わる。口縁端部が段を持つ。548・560以外は体部外面に櫛描文様、541・553・554・557以外のものは口縁端部にも櫛描文様や刻み目を施す。櫛描文様は簾状文、波状文、直線文、列点文などがある。体部内外面はヘラミガキ調整やハケメ調整するものが多い。Ⅲ～Ⅳ様式。548・555・560は非河内産、他は生駒西麓産。

561～573は水差形土器である。

561は脚が付く水差形土器である。脚部はゆるく伸びる。体部の張りは大きく、算盤玉状を呈する。口頭部は外上方へ伸び、口縁端部が丸く終わる。口縁部にゆるいU字形の抉りを入れる。把手の一部が残る。口頭部外面に4条の凹線文と1帯の櫛描直線文を施す。体部外面に波状文と直線文を交互に4帯ずつ施す。脚部から体部の外面はヘラミガキ調整、内面はハケメ調整する。頭部外面はナデ調整する。Ⅲ～Ⅳ様式。非河内産。

562～573は口頭部が外上方へ伸びる。口縁端部は面を持つものと丸く終わるものがある。口縁部にゆるいU字形の抉りを入れる。把手の一部が残るものもある。562～568は口頭部外面に櫛描文様を施す。直線文、波状文、簾状文がある。569～573は無文である。頭部外面はナデ調整やヘラミガキ調整するものが多い。Ⅲ～Ⅳ様式。568・570・572は非河内産、他は生駒西麓産。

574～788は壺である。

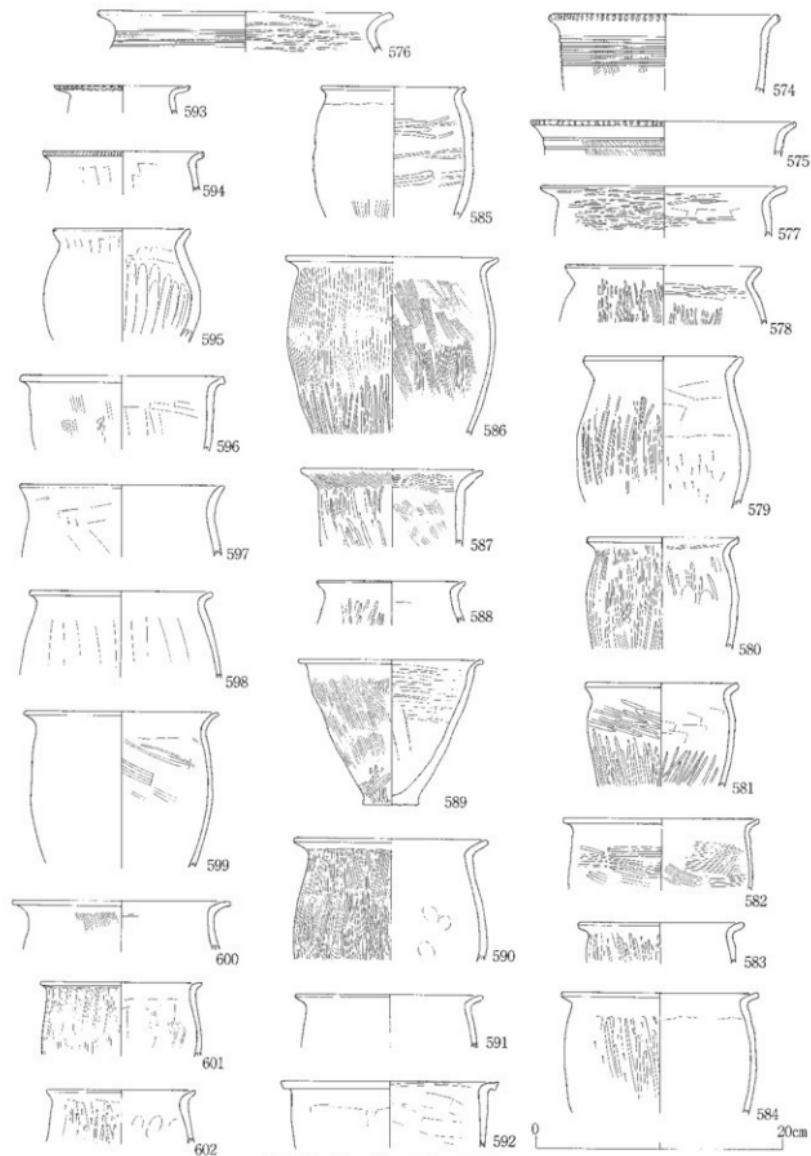
574・575は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。口縁端部に刻み目、体部外面にヘラ描沈線文を施す。574は6条、575は2条が残る。体部外面はハケメの後、ナデ調整する。内面はナデ調整する。I様式。生駒西麓産。

576は口縁部がゆるく外反し、口縁端部が丸く終わる。体部外面に櫛描直線文を施す。体部外面はナデ調整、内面はヘラミガキ調整する。II様式。生駒西麓産。

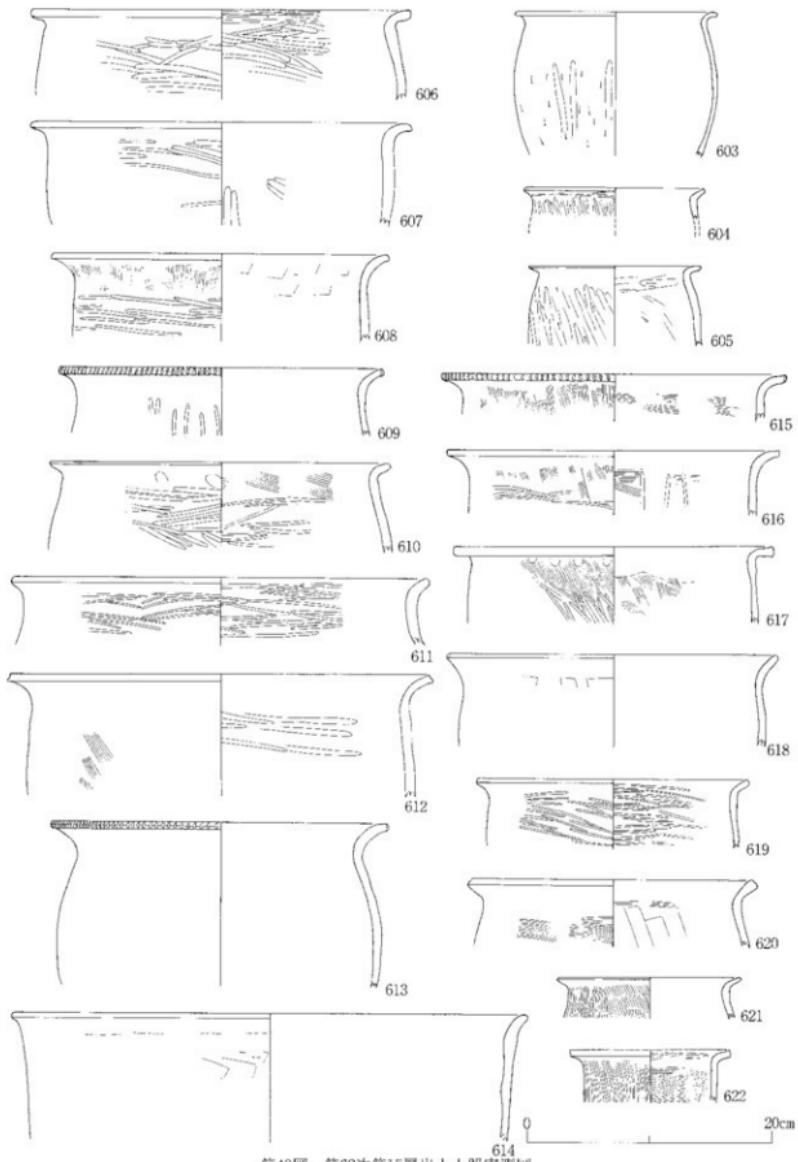
577～632は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面を持つものと丸く終わるものがある。体部内外面の調整法はヘラミガキ調整、ハケメ調整、ナデ調整など多種である。II様式。588・590・593・595・598～600・624～626・631・632は非河内産。他は生駒西麓産。

633・637～644は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は外側へ巻き込むものが多い。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。II様式。637～641は生駒西麓産、他は非河内産。

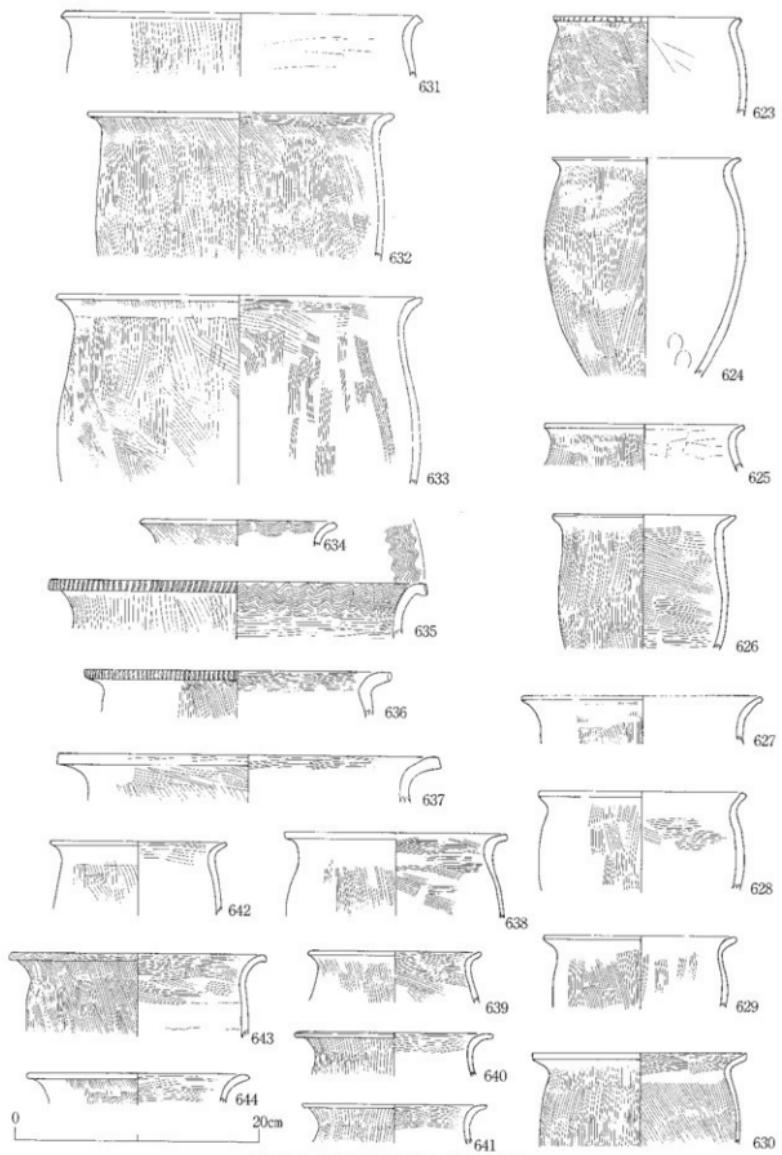
634・635は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は面を持つ。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。口縁部内面に



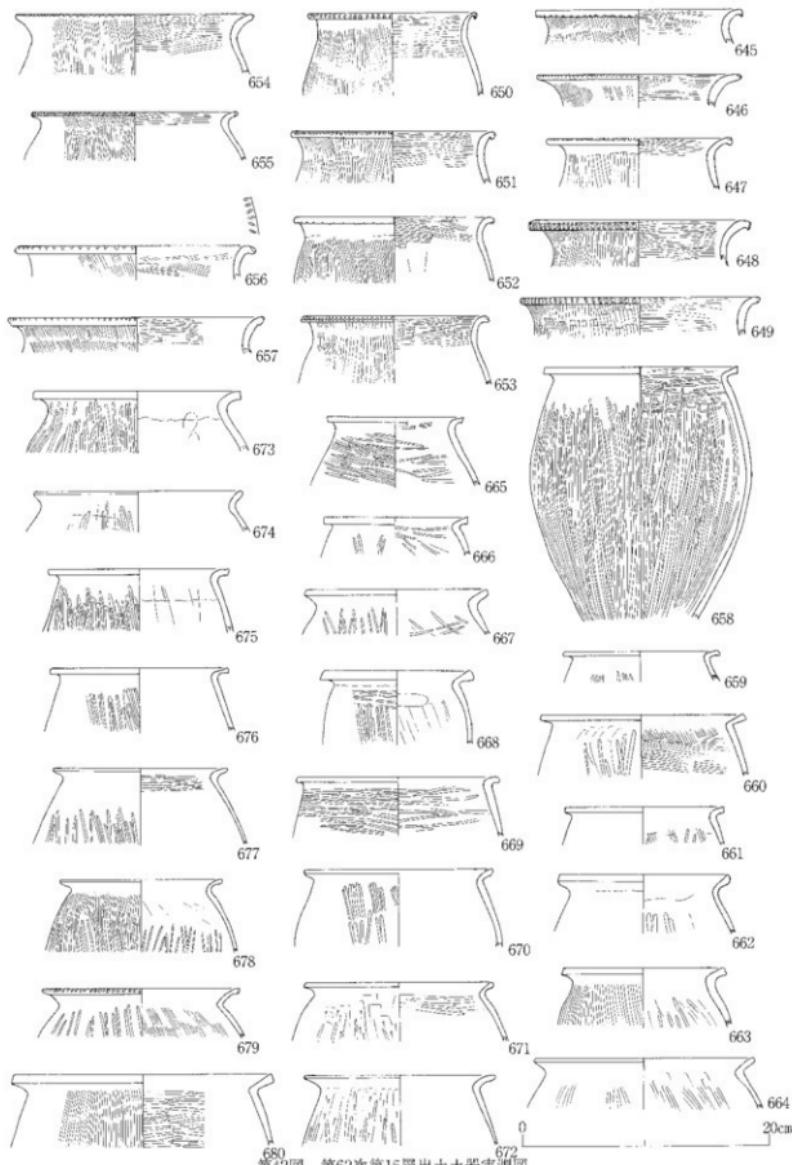
第39图 第62次第15层出土土器实测图



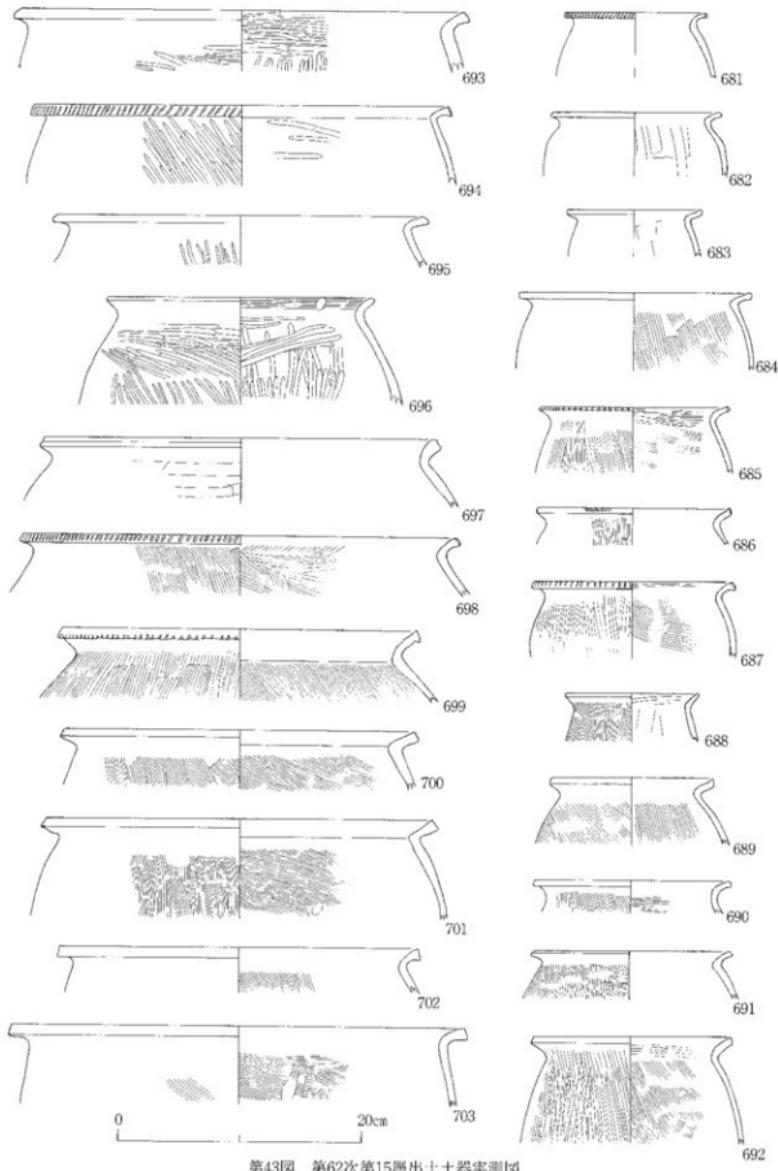
第40圖 第62次第15層出土土器實測圖



第41図 第62次第15層出土土器実測図



第42圖 第62次第15層出土土器實測圖



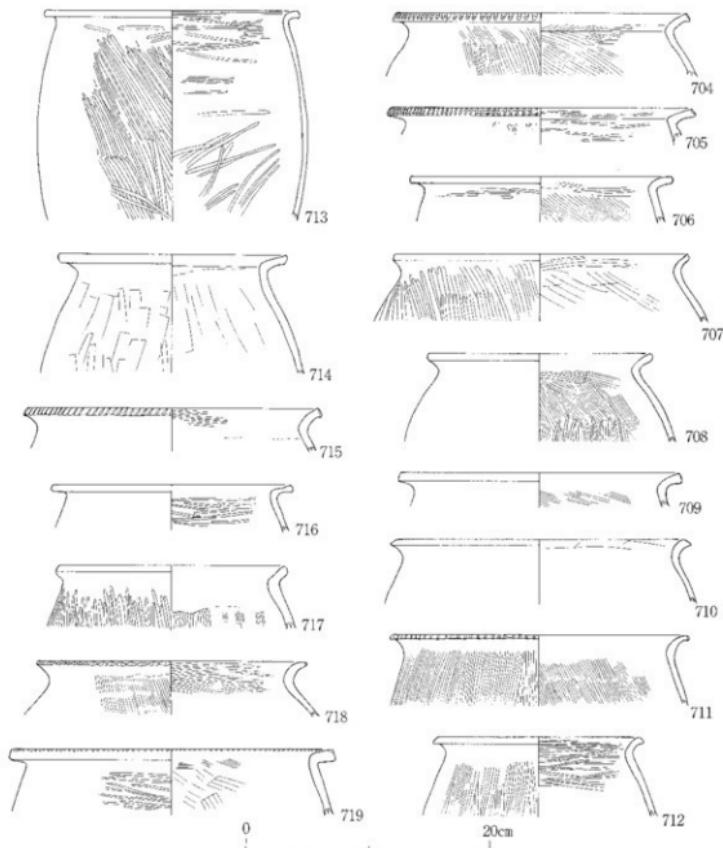
第43図 第62次第15層出土土器実測図

櫛搔波状文を施す。635は口縁端部にも列点文を加える。Ⅱ様式。非河内産。

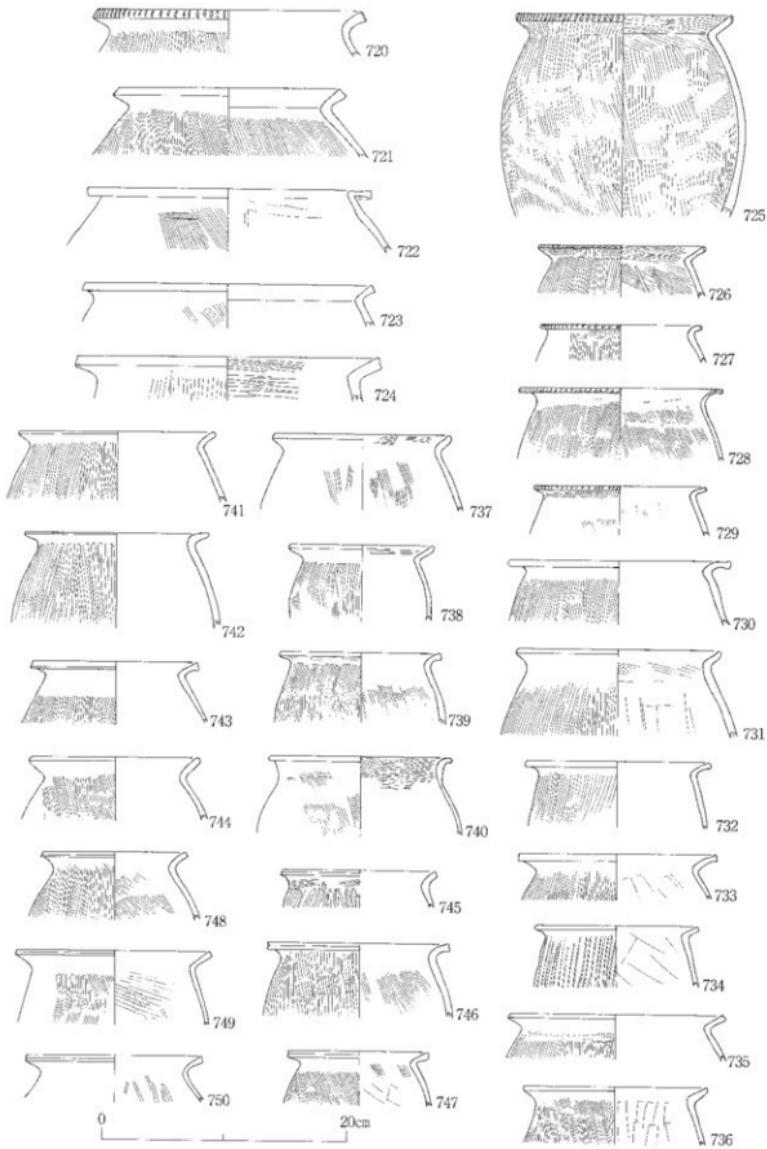
636・645～657は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は外側へ巻き込む。体部外面はハケメ調整、内面はナゲ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。口縁端部に刻み目を施す。Ⅱ様式。非河内産。

658～744は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つものと丸く終わるものがある。口縁端部に刻み目を施すものもある。体部外面はヘラミガキ調整やハケメ調整するものが多い。Ⅲ～Ⅳ様式。664・672・680・684・686・699・711・718・721～723・725～727・740は非河内産、他は生駒西麓産。

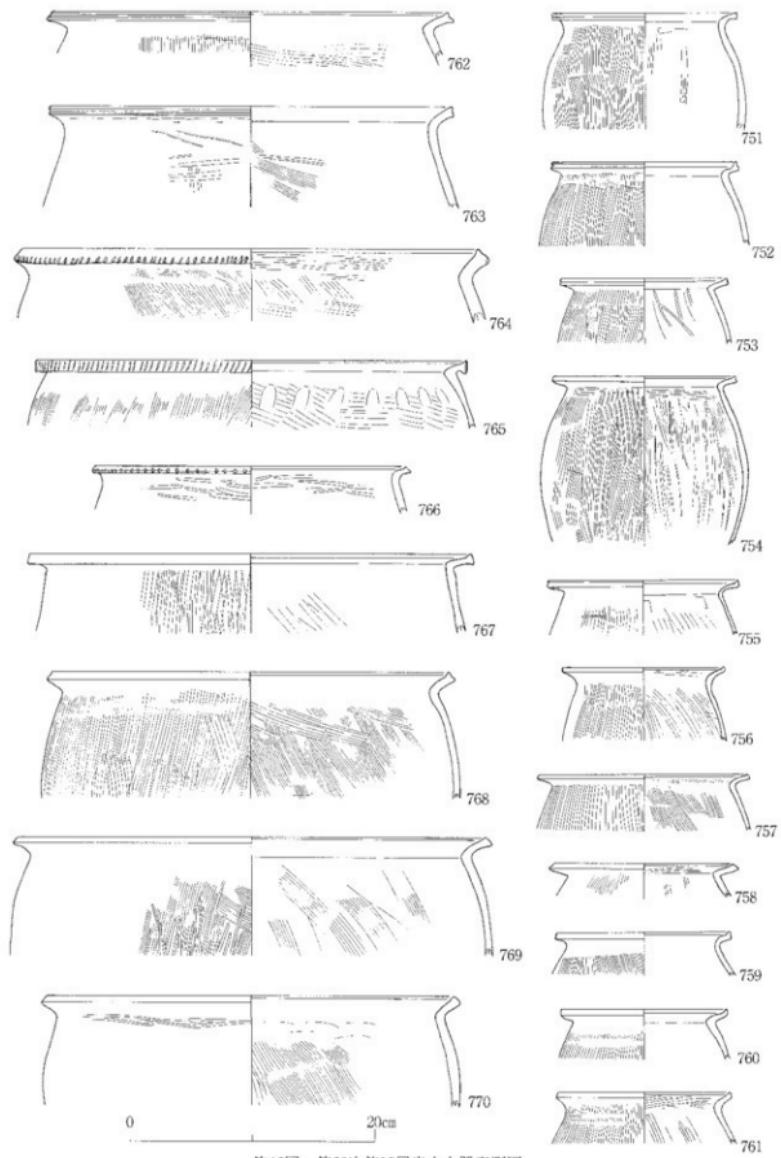
745～753・762・763は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端



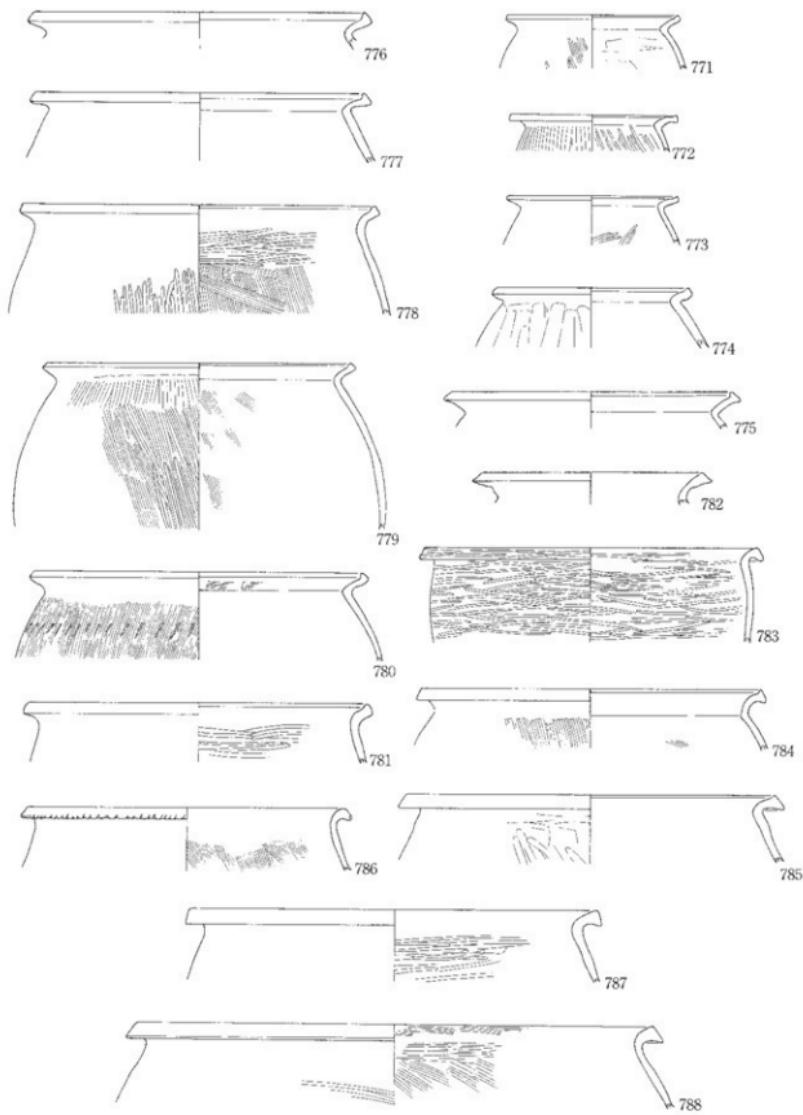
第44図 第62次第15層出土土器実測図



第45図 第62次第15層出土土器実測図



第46図 第62次第15層出土土器実測図



第47圖 第62次第15層出土土器實測圖

部に1条の凹線文を施す。体部外面をハケメ調整、内面はナデ調整するものが多い。Ⅲ～Ⅳ様式。749・751は非河内産、他は生駒西麓産。

754～761・764～781は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は上方へ捲み上げ気味に拡張する。口縁端部に刻み目を施すものもある。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整するものが多い。Ⅲ～Ⅳ様式。761・765・774～776は非河内産、他は生駒西麓産。

782～788は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は下方へ拡張する。体部内外面をナデ調整やヘラミガキ調整するものが多い。Ⅲ～Ⅳ様式。782は非河内産、他は生駒西麓産。

第15層より上層（第48図 789～797）

789は須恵器の壺である。口頸部は大きく外反し、口縁端部が面を持つ。口縁端部に2条の沈線文を施す。頸部外面は2条の凸線を廻らし、櫛描波状文を施す。2帯が残る。頸部内外面は回転ナデ調整する。第13層より出土した。古墳時代。

790は須恵器の壺である。体部の張りは大きく、内傾する。口縁部は短く上方へ伸びる。口縁端部は丸く終わる。体部内外面は回転ナデ調整する。第10～11層より出土した。奈良時代。

791は須恵器の壺である。体部は外上方へ伸びる。底部は平底を呈し、断面形がやや変形した逆台形の高台を貼り付ける。体部内外面は回転ナデ調整する。出土層位は不明である。奈良時代。

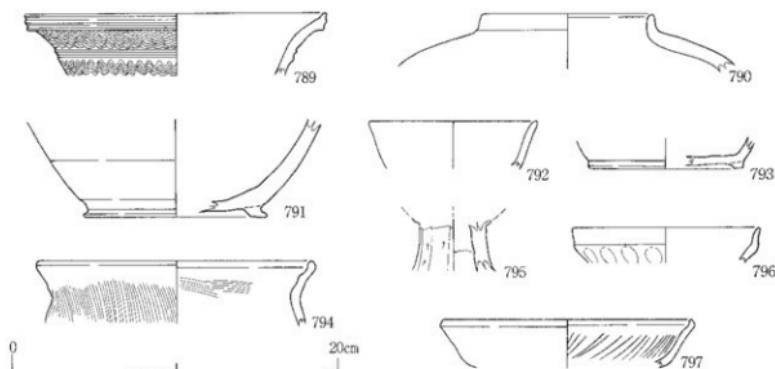
792は須恵器の杯である。体部は外上方へ伸び、口縁部がわずかに外反する。口縁端部は丸く終わる。体部内外面は回転ナデ調整する。第14層より出土した。奈良時代。

793は須恵器の底部である。杯と考えられる。平底の底部に断面形が逆台形を呈する高台を貼り付ける。底部内外面は回転ナデ調整する。第7層より出土した。奈良時代。

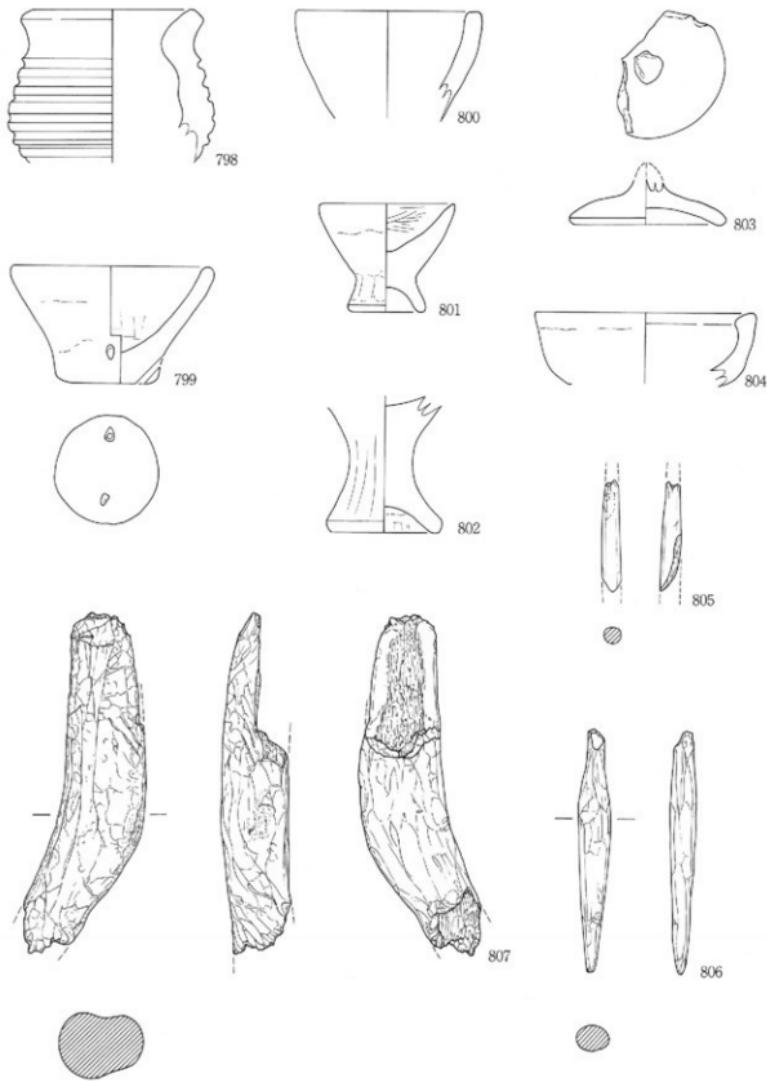
794は土師器の壺である。体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は内側へ肥厚する。体部外面はハケメ調整する。内面はハケメの後、ナデ調整する。第10層より出土した。奈良時代。

795は土師器の高杯である。脚の柱状部である。外面は面取りする。内面はナデ調整する。第8層より出土した。奈良時代。

796は土師器の椀である。体部は外上方へ伸び、口縁部が直線的に終わる。口縁端部は丸く終わる。



第48図 第62次上層出土土器尖測図



第49図 第62次ミニチュア土器・骨角製品実測図

体部外面はユビオサエ調整、内面はナデ調整する。第8層より出土した。平安時代。

797は土師器の杯である。体部は外上方へ伸び、口縁部がわずかに外反する。口縁端部は内側へ肥厚する。体部内面に放射状の暗文を施す。体部内外面はナデ調整する。第10層より出土した。奈良時代。

ミニチュア土器（第49図 798～804）

弥生時代のものである。壺・鉢・高杯・蓋の器種がある。

798は壺である。体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部外面にヘラ描沈線文を施す。7条が残る。体部内面はナデ調整する。器壁が非常に厚い。第15層より出土した。第I様式。

799～801は鉢である。体部が外上方へ伸び、口縁部に至る。口縁端部は丸く終わる。799は底部が平底、801は凹底を呈する。体部内外面はナデ調整する。799は底部から底面に小円孔を穿ち貫通する。相対する位置に穿つ。799は大溝1、他は第15層より出土した。I～IV様式。

802・804は高杯である。802は高杯の脚部である。据部は急に立ち上がる。杯部は外上方へ伸びる。中実である。脚部内外面はナデ調整する。804は杯部である。杯部は浅い皿状を呈し、口縁端部が丸く終わる。杯部内外面はナデ調整する。第15層より出土した。I～IV様式。

803は蓋である。体部は内湾気味に立ち上がる。口縁端部は丸く終わる。中央に一部欠損するが円形のつまみが付く。内外面はナデ調整する。第15層より出土した。I～IV様式。

骨角製品（第49図 805～807）

刺突具と加工痕の残る骨と角がある。

805は骨製の刺突具である。先端部と基部を欠損する。細長く削った後、研磨する。断面形が円形を呈する。第15層より出土した。I～IV様式。

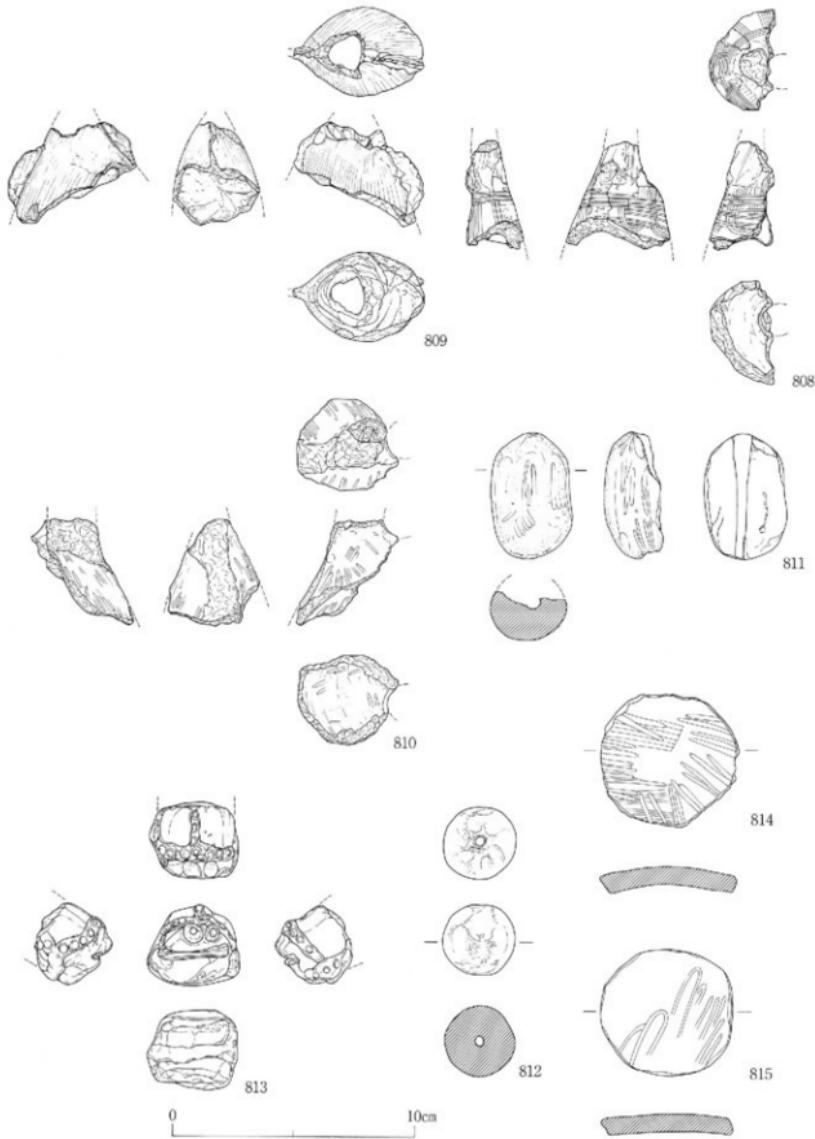
806は加工痕の残る骨である。棒状を呈する。中央部で厚く、両端で細くなる。粗い削り痕が残る。断面形が円形を呈する。骨櫛の未成品の可能性がある。第15層より出土した。I～IV様式。

807は加工痕の残る角である。両端に粗く削り痕が残る。断面形が瓢箪形を呈する。第15層より出土した。I～IV様式。

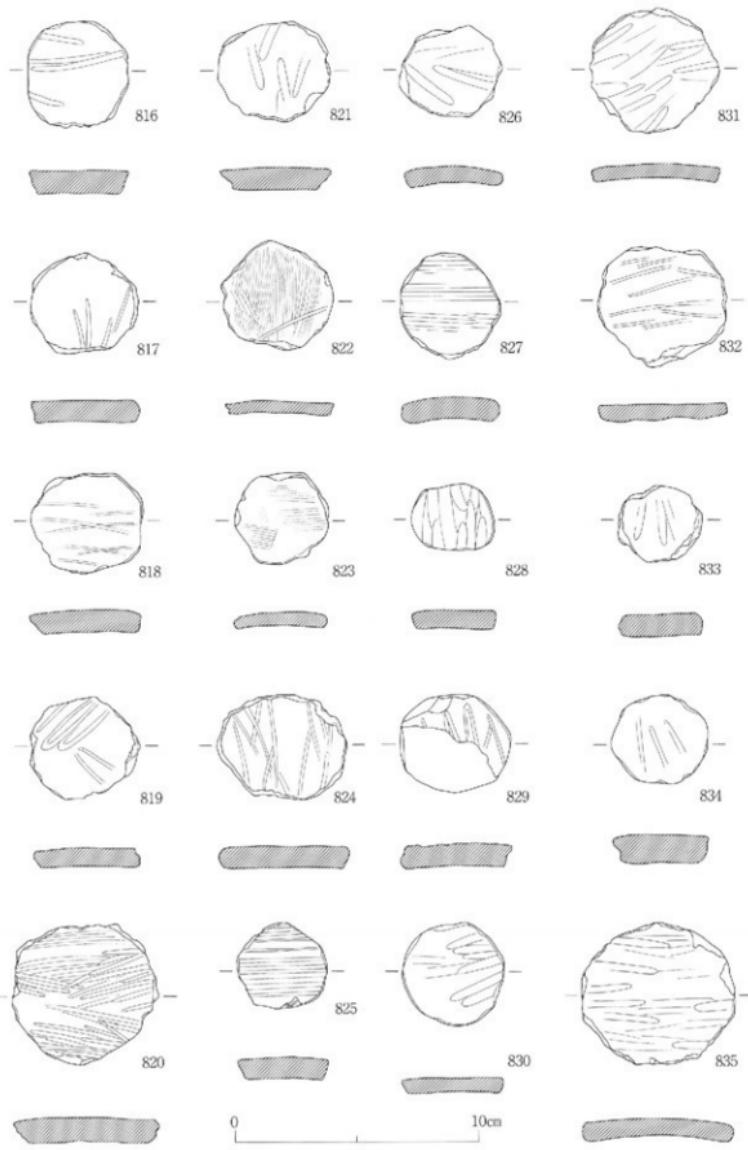
土製品（第50～52図 808～855）

弥生時代と奈良時代のものがある。弥生時代のものは銅鐸型土製品・土錘・土玉・円板状土製品がある。奈良時代のものは土馬がある。

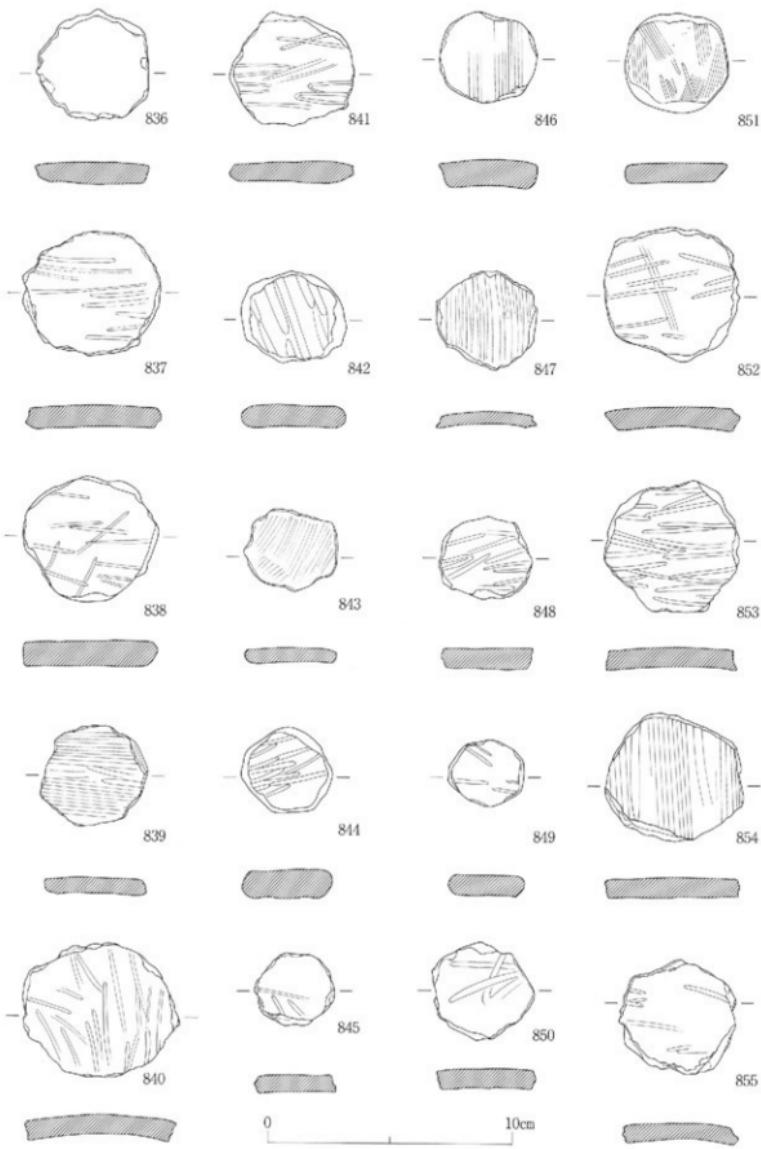
808～810は銅鐸形土製品である。3点出土しているが部分的にしか残っていない。有文と無文のものがある。808は錘と鐸身の一部が残る。錘は棒状を呈する。舞には円孔を穿っており舞孔の表現と考えられる。鐸身には樹描文様を施す。縱方向の直線文を施した後、直線文を止めて扇形文を描く。その後、横方向の直線文を加える。2帯が残る。粗雑ではあるが流水文としている。内面はナデ調整する。809は鐸身と舞の一部が残る。錘の有無は不明である。鐸身は無文である。両端に粘土帶を貼り付けて舞を表現する。舞には刻み目を加える。外面はハケメ調整する。内面はナデ調整するが粘土の接合痕が残る。舞には円孔を穿っており舞孔の表現と考えられる。810は錘と鐸身の一部が残る。残存部は少ないが錘は棒状を呈すると考えられる。鐸身は無文である。舞の剥落痕が残る。内外面はナデ調整する。舞には円孔を穿っており舞孔の表現と考えられる。第15層より出土した。中期。



第50圖 第62次土製品実測図



第51図 第62次土製品実測図



第52図 第62次土製品実測図

811は土錘である。約1/2を欠損する。平面形は橢円形を呈する。長軸の中央に孔を穿つ。断面形は円形を呈する。外面はナデの後、部分的なハラミガキ調整する。第15層より出土した。I～IV様式。

812は土玉である。球形を呈し、中央に径の小さい孔を穿つ。外面は丁寧なナデ調整する。第15層より出土した。I～IV様式。

814～855は円板状土製品である。破損した土器の円周部を打ち欠いて円形に加工する。打ち欠いただけのものが多いが、円周部を研磨するものもある。土器の器種に関係なく利用されている。径が約3～6cmを測る。一部は紡錘車として使用されたと考えられる。未掲載の資料も多量にあり、紡錘車の製作途中のものとしてはやや量が多い。第15層より出土した。I～IV様式。

813は土馬である。体部は欠損する。馬具を装着した飾り馬の頭部である。口と鼻の表現が残る。口はヘラ状工具で横一線の線刻を施す。鼻は竹管状工具によって鼻孔を入れる。また、粘土糰を貼り付けて面繋を表現する。鼻革、頬革、鼻梁革、咽喉革がある。鼻革の下部以外は竹管文を加えている。土師質である。第2～5層より出土した。奈良時代。

2) 石器

弥生時代の遺構と遺物包含層から出土した。銅劍鋳型、磨製石器、砥石、打製石器がある。出土地を記載した以外のものは第15層より出土した。石器の各部名称については『弥生時代の石器』(平井勝著 ニューサイエンス社)を参照した。

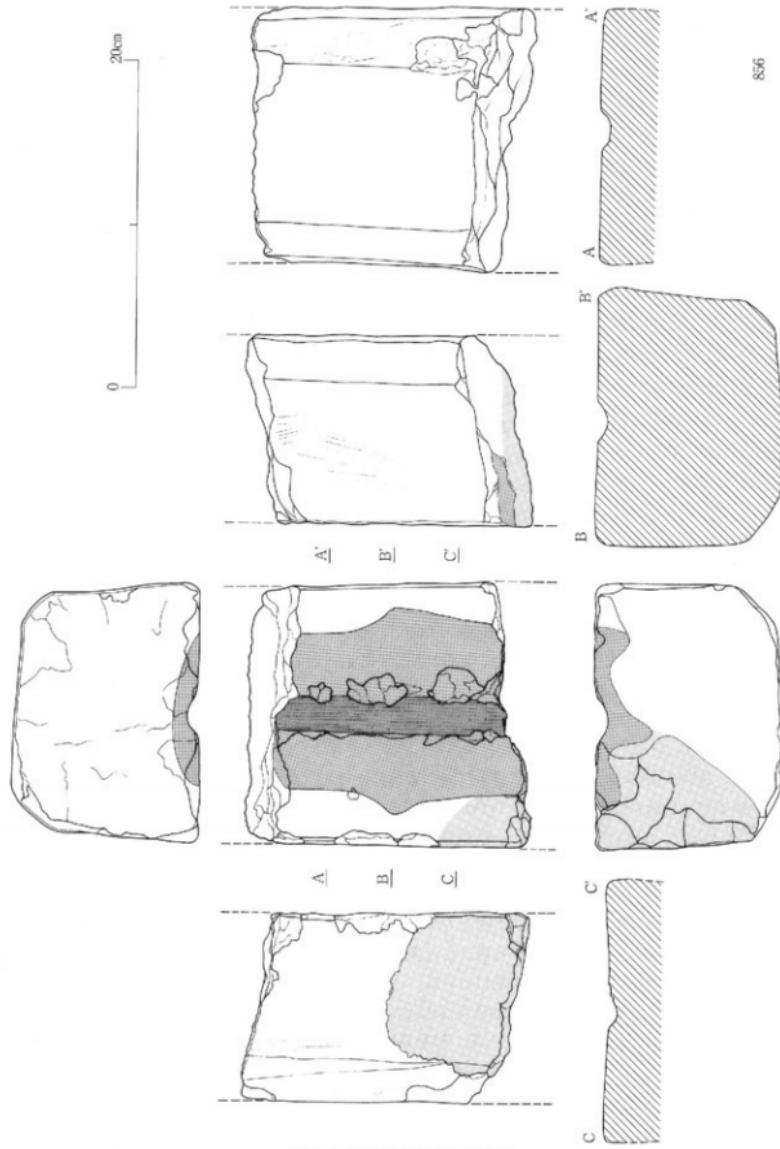
銅劍鋳型（第53図 856）

856は銅劍鋳型である。黒変した面をA面とし、その裏面をB面、左右側面をC・D面、上下端面をE・F面とする。鋳型各面名称及び銅劍各部名称については第54・55図を参照。A面の黒変が突起部を有する銅劍の形であることから鋳型と考えられる。破損後に砥石として転用しており、磨滅で銅劍の輪郭は消失するが、脊部の彫り込みが残る。脊部には強い光沢が残るが、劍身部には見られない。この光沢は鋳造当時のものであり、劍身部の光沢は砥石転用による摩滅で消失している。鋳型はE・F面を欠損し、鋳造品の全形は不明である。残存長8.8cm、幅は7.9～8.2cm、厚さ5.8cm、重さ690gを測る。脊部の彫り込みの深さは0.35～0.4cmを測る。脊は茎側で厚みを増すことから、彫り込みの深い側が劍身下半と考えられる。断面形は台形状を呈する。これは砥石転用による変形ではなく、鋳型本来の形状を残している。A面に残る劍身の突起部翼幅は6.3cm、突起部脊幅は1.0～1.1cmを測る。E面に脊から弧状に広がる黒変が見られ、最大深は0.8cmを測る。これは石材内部に高熱が伝わったことを示し、鋳造が行われたことが窺える。A・D・F面にはやや薄い黒変が広がる。これは鋳造時に鋳型が割れ、青銅が流れ出たためである。5地区より出土した。

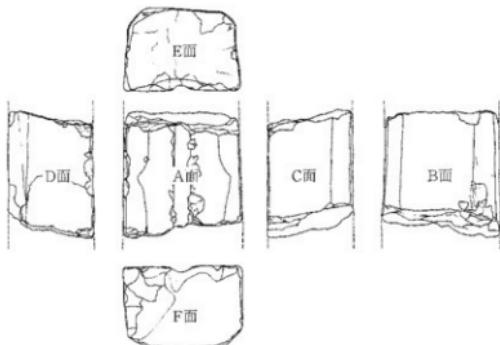
磨製石器（第56～58図 857～886）

大型蛤刃石斧・柱状片刃石斧・石庖丁・大型石庖丁・石庖丁未成品がある。

857～862・864・867は大型蛤刃石斧である。857は刃部とその周辺にかけて、全体の約1/4が残る。表面の研磨は丁寧で滑らかに仕上げる。残存長6.0cm、幅6.9cm、厚さ3.3cmを測る。858は基端部から基部にかけて、全体の約1/4が残る。表面には研磨されていない部分が残り、着柄時の滑り止めとして意図的に残したと考えられる。残存長7.2cm、幅6.3cm、厚さ4.8cmを測る。859は全体の約1/2が残る。刃面に研ぎ直しの痕跡と考えられる擦痕がある。基端部から側縁にかけて被熱による変色が見られ、細かな裂痕はその時のものと考えられる。表面の研磨は丁寧で滑らかに仕上げる。長さ12.5cm、残存



第53図 第62次銅劍鋤型実測図

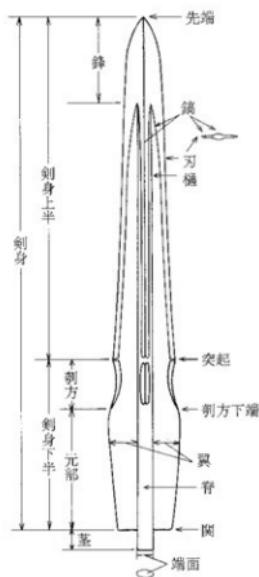


第54図 鑄型各面名称

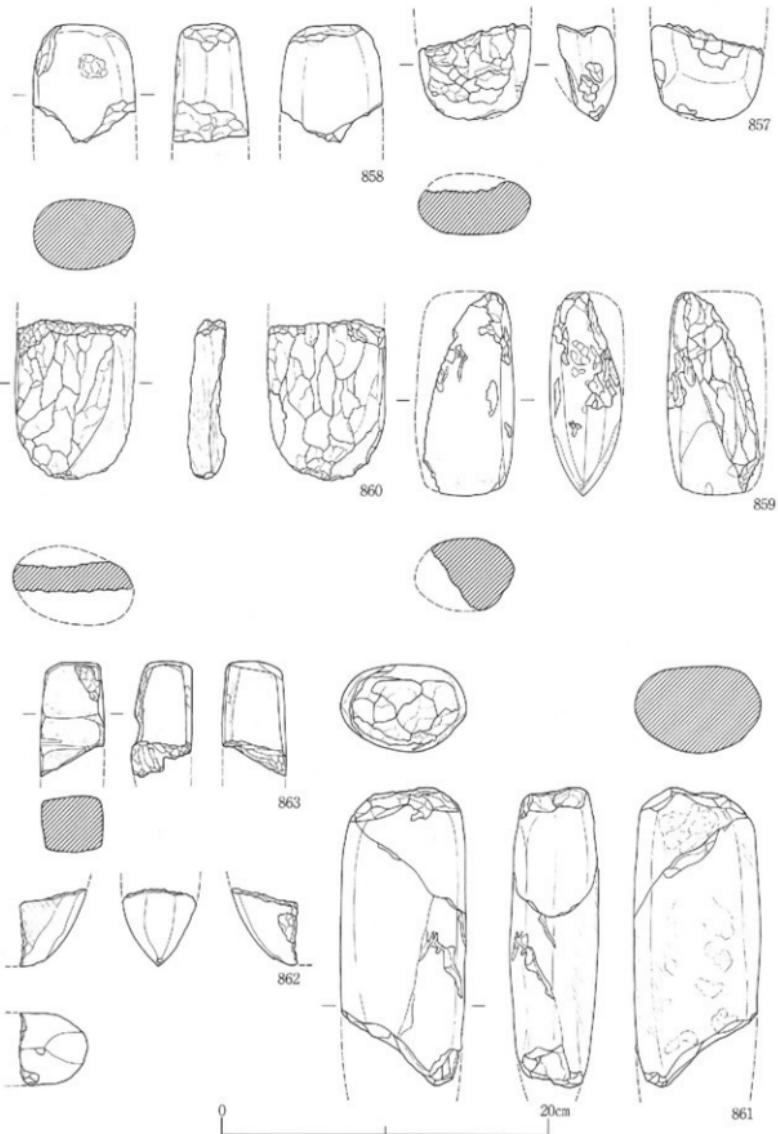
幅5.6cm、厚さ4.4cmを測る。860は刃部である。左右側縁の傾斜が異なるのは、研ぎ直しによるものである。表面の研磨は丁寧で滑らかに仕上げる。残存長9.8cm、幅7.4cm、厚さ2.3cmを測る。861は円柱状の基部をもち、全体の約3/4が残る。刃部を欠く。基端部に敲打痕が残る。研磨は全体に施すが部分的に原面が残る。残存長18.4cm、幅7.6cm、厚さ5.4cmを測る。862は刃部の半分が残る。刃面に被熱によるものと思われる黒変がある。表面の研磨は丁寧で滑らかに仕上げる。残存長4.8cm、幅4.1cm、厚さ4.4cmを測る。864は基部と刃部の境界付近が残る。表面の研磨は丁寧で滑らかに仕上げる。残存長2.3cm、幅6.1cm、厚さ4.3cmを測る。大溝1より出土した。867は基部である。表面の研磨は丁寧で滑らかに仕上げる。残存長7.7cm、幅7.2cm、厚さ5.8cmを測る。

863・866は柱状片刃石斧である。863は基端部から基部にかけて、全体の約1/2が残る。1面に溝状の抉りを施す。左側面に被熱による変色がある。表面の研磨は丁寧で滑らかに仕上げる。残存長7.1cm、幅3.9cm、厚さ3.2cmを測る。866は基部半ばから刃部にかけて、全体の約1/2が残る。表面に若干の擦痕が残るが、表面の研磨は丁寧で滑らかに仕上げる。残存長6.4cm、幅2.9cm、厚さ3.1cmを測る。大溝1より出土した。865は石斧片である。研磨された2面がほぼ直交することから、柱状片刃石斧もしくは扁平片刃石斧と考えられる。表面の研磨は丁寧で滑らかに仕上げる。残存長6.1cm、幅4.5cm、厚さ1.0cmを測る。

868～879は石庖丁である。全形が不明なものを除いて、半月形を呈し、刃部が片刃で直線的なものがある。刃部を研ぎ出している面をA面とし、裏面をB面とする。868は全体の約1/4が残る。刃部と紐部の間隔が接近し、刃部が丸く磨滅している。これは数回にわたる研ぎ直しと考えられる。残存長3.8cm、幅3.1cm、厚さ0.5cmを測る。869は全体の約1/3が残る。紐穴の一部が残る。体部と刃部の境界が明瞭である。背部には背潰れ痕がある。残存長5.4cm、幅3.6cm、厚さ0.7cmを測る。870は全体の約1/3が残り、紐穴の一部が残る。体部と刃部の境界が明瞭である。刃部には使用痕と思われる磨滅した微細な刃こぼれがある。背部には背潰れ痕がある。残存長6.1cm、幅4.3cm、厚さ0.8cmを測る。871は全体の約1/2が残り、体部と刃部の境界が不明瞭である。B面に紐擦れ痕がある。背部に紐穴の痕跡が残ることから、欠損後に研磨し、成形している。刃部には使用痕と思われる磨滅した微細な刃こ



第55図 銅剣各部名称（註1）



第56図 第62次石器実測図

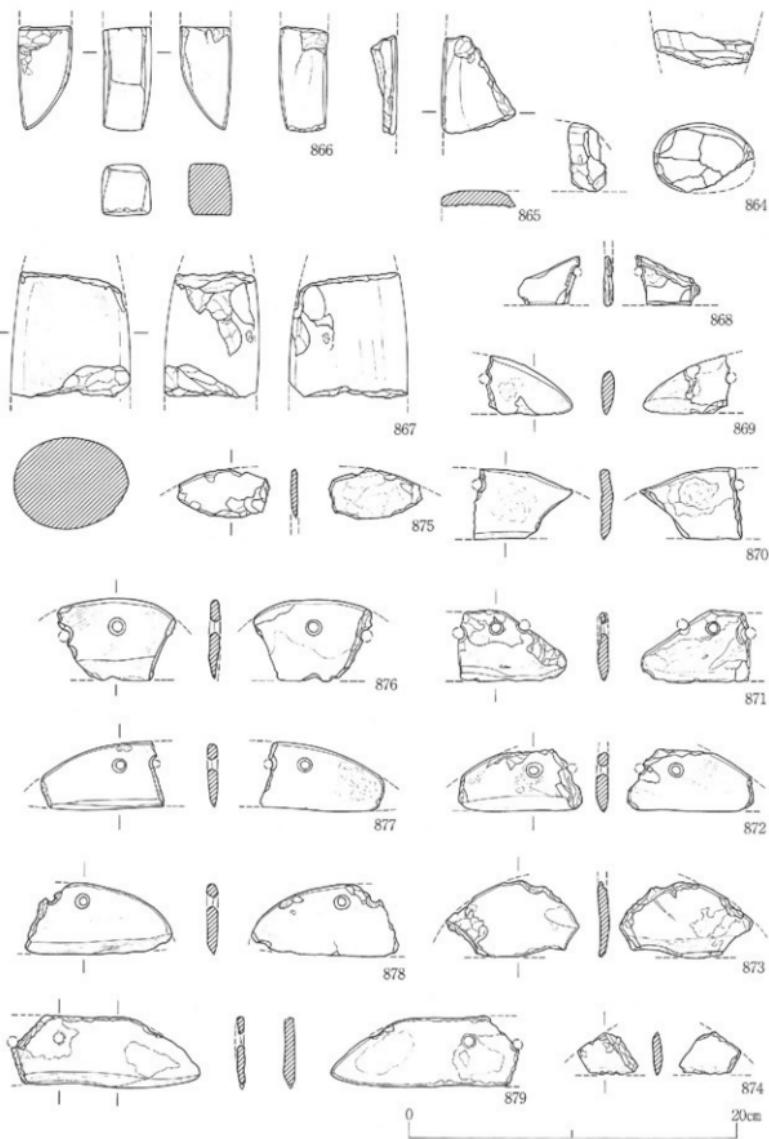
ぼれがある。残存長6.6cm、幅4.4cm、厚さ0.7cmを測る。872は全体の約1/2が残る。体部と刃部の境界が明瞭で、B面に穿孔の痕跡がある。使用により、わずかに刃部が内湾している。刃面に刃部と平行する擦痕がある。残存長7.6cm、幅3.7cm、厚さ0.7cmを測る。873は全体の約1/2が残る。体部と刃部の境界が明瞭である。紐穴が見られないため、後述する879のような細長い形状のもの、または大型石庖丁が剥離したものを再び研磨し、刃部を研ぎ出した可能性がある。残存長8.1cm、幅4.7cm、厚さ0.6cmを測る。874は端部が残る破片である。体部と刃部の境界が不明瞭である。表面の研磨は丁寧で滑らかに仕上げる。残存長3.2cm、幅2.7cm、厚さ0.5cmを測る。875は全体の約1/3が残る。背部の一部が残る。全体的に風化と剥離が著しい。残存長5.7cm、幅3.1cm、厚さ0.4cmを測る。876は全体の約1/2が残る。体部と刃部の境界が明瞭である。B面に紐擦れ痕がある。刃部には使用痕と思われる磨滅した微細な刃こぼれがある。残存長7.2cm、幅5.0cm、厚さ0.7cmを測る。877は全体の約1/2が残る。体部と刃部の境界が明瞭である。B面に紐擦れ痕がある。刃部には使用痕と思われる磨滅した微細な刃こぼれがある。表面の研磨は丁寧で滑らかに仕上げる。残存長7.5cm、幅4.2cm、厚さ0.6cmを測る。878は全体の約1/2が残る。体部と刃部の境界が明瞭である。刃部には使用痕と思われる磨滅した微細な刃こぼれがある。表面の研磨は丁寧で滑らかに仕上げる。残存長8.9cm、幅4.4cm、厚さ0.7cmを測る。879は全体の約1/2が残る。細長い台形状を呈する。体部と刃部の境界が明瞭である。表面の研磨は丁寧で滑らかに仕上げる。背部には背潰れ痕がある。残存長11.6cm、幅4.4cm、厚さ0.4cmを測る。

880～884は大型石庖丁である。刃部が両刃で厚みがあり、台形を成す形状のものがある。880は刃部である。風化しているため、表面の研磨は不明である。残存長3.4cm、幅4.9cm、厚さ0.9cmを測る。881は背部と紐穴の一部が残る。風化しているため、表面の研磨は不明である。残存長4.2cm、幅4.4cm、厚さ0.8cmを測る。882は刃部が残るのみである。表面に研磨痕が残るが滑らかな仕上げである。残存長5.2cm、幅5.1cm、厚さ0.8cmを測る。883は体部から刃部の一部が残る。刃部には使用痕と思われる磨滅した微細な刃こぼれがある。表面の研磨は丁寧で滑らかに仕上げる。残存長8.2cm、幅6.9cm、厚さ0.9cmを測る。884は全体の約1/4が残る。表面に研磨痕があり、紐穴の一部が残る。残存長8.9cm、幅7.4cm、厚さ1.2cmを測る。

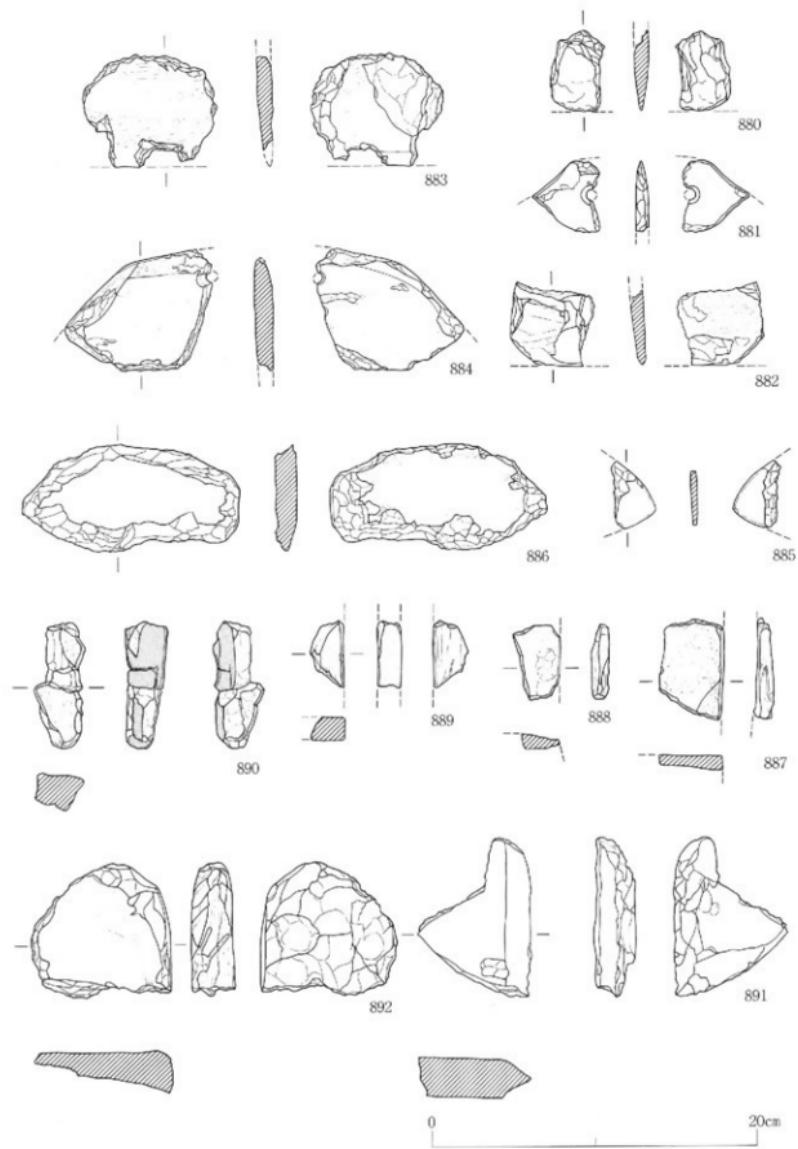
885・886は石庖丁未成品である。石庖丁の製作工程については『史跡池上曾根99』（和泉市教育委員会 2004）を参照した（註2）。885は刃部研ぎ出し工程のものである。全体に研磨を施しているが、銳角な刃部を研ぎ出していない。仕上げ研磨もまだ行われていないため、背部に滑らかな曲線ではなく若干の角度がある。残存長2.9cm、幅4.2cm、厚さ0.4cmを測る。886は表面及び端部片方に研磨面が残る。剥離整形を行なった後の研磨工程のものである。残存長13.3cm、幅6.5cm、厚さ1.4cmを測る。

砥石（第58図 887～892）

887～892は砥石である。石材については第IV－2章を参照。887は2面を利用する。表面に黒変がある。残存長6.2cm、幅4.1cm、厚さ1.0cmを測る。888は2面を利用する。表面に黒変がある。残存長4.7cm、幅2.9cm、厚さ1.0cmを測る。889は小片であるが、3面を利用する。きめの細かい石を用いていることから、仕上げ研ぎに使用したものと考えられる。残存長4.1cm、幅2.2cm、厚さ1.5cmを測る。890は平坦な面が2面あり、一面は長軸に直交する緩やかな凹みをもつ。もう一面は長軸に平行する溝状の面をもち、被熱により黒変する。この面は鋳型の可能性がある。残存長7.7cm、幅3.1cm、厚さ2.3cmを測る。891は安山岩を用いており、他の砥石とは石材が異なる。少なくとも2面を利用する。残存長8.2cm、幅8.5cm、厚さ2.6cmを測る。892は1面を利用する。側面は凸面で成形されていることから、他の製品であった可能性がある。残存長9.9cm、幅6.9cm、厚さ2.5cmを測る。



第57圖 第62次石器實測圖



第58図 第62次石器実測図

打製石器（第59～61図 893～934）

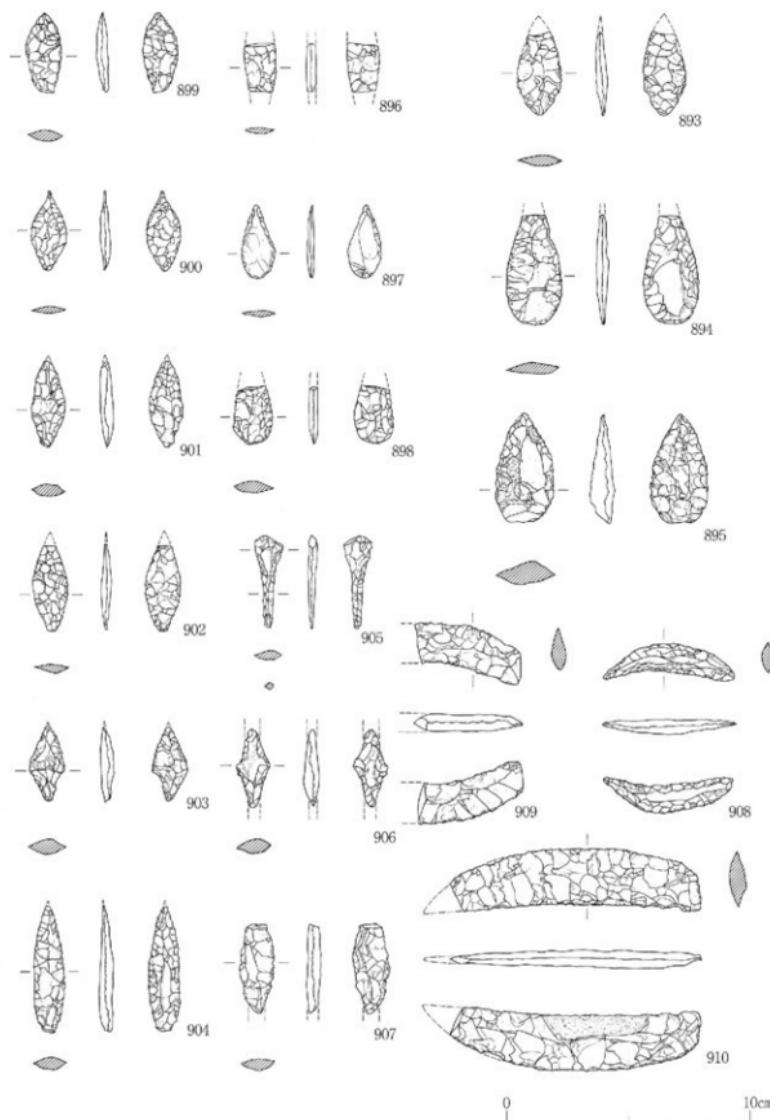
石鎚・石錐・石小刀・石剣（註3）・不定形刃器がある。全てサヌカイト製である。最終調整は押圧剥離で仕上げている。

893～904は石鎚である。凸基無茎式、凸基有茎式、円基式のものがある。893・899～902・904は凸基無茎式である。893は全体の約3/4が残る。先端部を欠く。縁辺を丁寧な押圧剥離で仕上げる。残存長3.5cm、幅1.7cm、厚さ0.4cmを測る。899は完形である。風化により灰白色を呈する。長さ3.3cm、幅1.4cm、厚さ0.5cmを測る。900は完形である。長さ3.2cm、幅1.4cm、厚さ0.4cmを測る。901はほぼ完形で、わずかに先端部を欠く。残存長3.5cm、幅1.4cm、厚さ0.5cmを測る。902はほぼ完形で、わずかに先端部を欠く。風化により灰白色を呈する。残存長3.5cm、幅1.4cm、厚さ0.4cmを測る。904はほぼ完形で、わずかに先端部を欠く。残存長5.2cm、幅1.3cm、厚さ0.6cmを測る。894・895・897・898は円基式である。894は全体の約3/4が残る。先端部を欠く。円基部を研磨で仕上げる。残存長4.5cm、幅2.2cm、厚さ0.5cmを測る。大溝1より出土した。895はほぼ完形で、先端部付近を欠損する。表面に原面が残る。残存長4.5cm、幅2.4cm、厚さ0.9cmを測る。897は剥片に押圧剥離を施して石鎚に仕上げた二次加工品である。風化により灰白色を呈する。長さ3.0cm、幅1.4cm、厚さ0.3cmを測る。898は全体の約3/4が残る。先端部を欠く。残存長2.4cm、幅1.6cm、厚さ0.4cmを測る。896は全体の約1/2が残る。先端部、基部とともに欠損する。残存長2.0cm、幅1.3cm、厚さ0.4cmを測る。903は凸基有茎式である。ほぼ完形で、わずかに先端部を欠く。残存長2.4cm、幅1.4cm、厚さ0.5cmを測る。

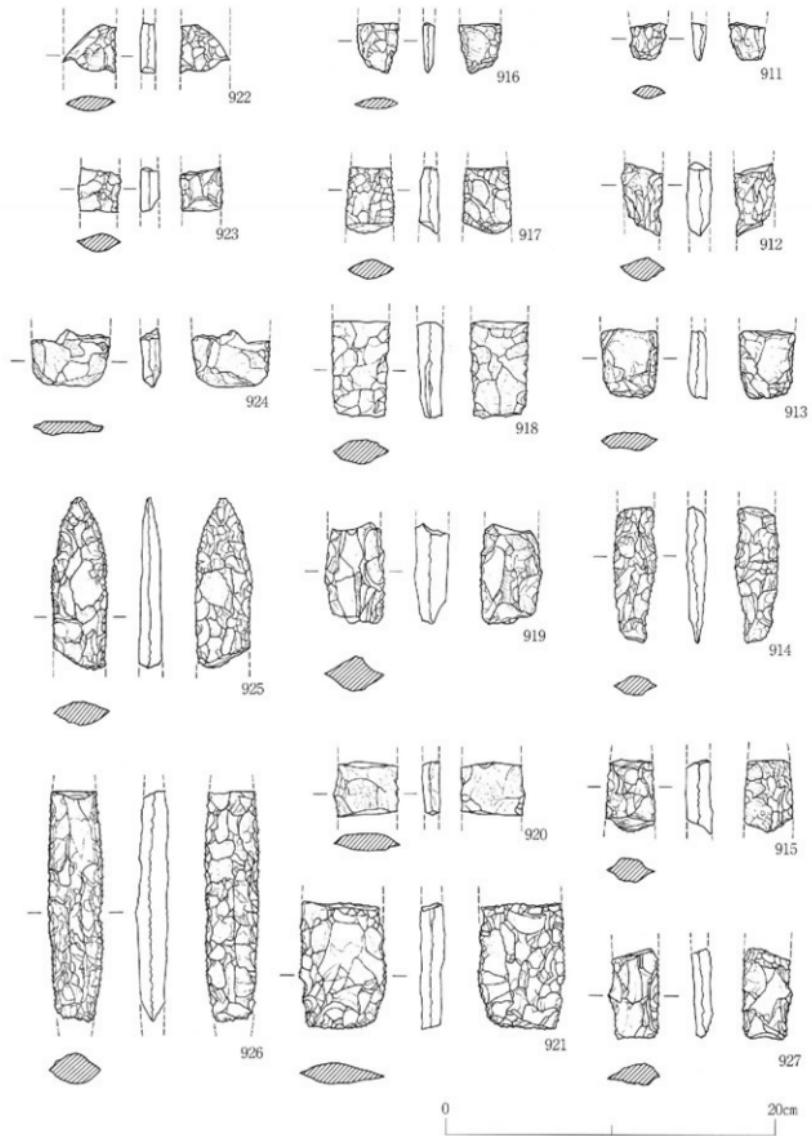
905～907は石錐である。905は完形である。頭部と錐部の境界が明瞭である。錐部を押圧剥離で細長く仕上げる。断面は菱形で錐部先端は使用により磨滅している。長さ3.8cm、幅1.1cm、厚さ0.3cmを測る。906は両端部が磨滅していることから、それぞれが錐部をなす両錐である。厚みがあり、断面が菱形を呈する。長さ3.2cm、幅1.4cm、厚さ0.7cmを測る。907は頭部と錐部の境界が不明瞭で、棒状を呈する。錐部は使用により磨滅している。長さ3.7cm、幅1.5cm、厚さ0.6cmを測る。

908～910は石小刀である。908は小型で内湾する形の完形品である。大きな剥離面が残る。刃部を押圧剥離で丁寧に仕上げる。長さ5.4cm、幅1.2cm、厚さ0.6cmを測る。909は全体の約1/2が残る。内湾する形の基部である。全体を押圧剥離で丁寧に仕上げる。残存長4.4cm、幅1.7cm、厚さ0.7cmを測る。910はほぼ完形で先端部を欠く。ほぼ直線的な刃部をもつ。原面が残るが、全体を押圧剥離で丁寧に仕上げる。残存長10.3cm、幅2.4cm、厚さ0.8cmを測る。

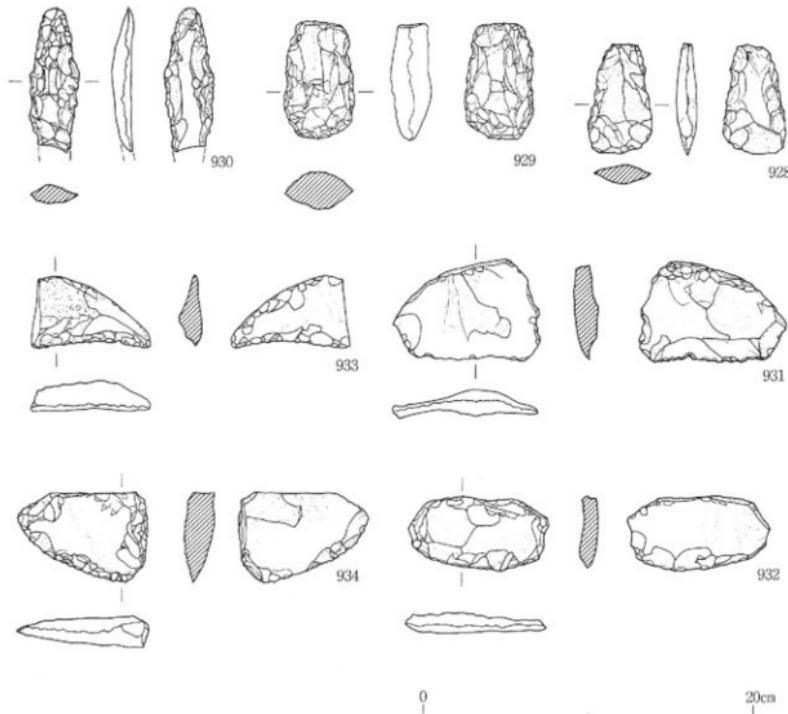
911～926は石剣である。911は基部である。剥離面が大きく調整は粗い。残存長2.2cm、幅2.3cm、厚さ0.9cmを測る。912は身部である。調整は粗い。残存長4.5cm、幅2.6cm、厚さ1.4cmを測る。第16層より出土した。913は基部である。大きな剥離面が残り、刃潰れがある。残存長4.2cm、幅3.5cm、厚さ1.1cmを測る。914は全体の3/4が残る。先端部を欠く。比較的、長さ・幅が小さいことから小型のものと考えられる。残存長8.2cm、幅2.6cm、厚さ1.2cmを測る。915は身部である。残存長4.4cm、幅3.1cm、厚さ1.6cmを測る。916は基部である。他に比べて薄い。残存長3.0cm、幅2.6cm、厚さ0.7cmを測る。大溝1より出土した。917は身部である。押圧剥離で仕上げた刃部は銛利である。残存長4.2cm、幅3.0cm、厚さ1.3cmを測る。918は基部である。全体の約1/3が残る。基端部に原面が残る。残存長3.0cm、幅2.6cm、厚さ0.7cmを測る。919は基部である。全体の約1/3が残る。調整は粗く、表面に原面と擦痕が残る。残存長6.2cm、幅3.6cm、厚さ2.1cmを測る。920は身部である。刃部の剥離は大きく、刃潰れがある。残存長3.3cm、幅4.0cm、厚さ1.1cmを測る。921は基部である。全体の約1/3が残る。他に比べて幅があり、扁平である。側縁に茎状の段差を設けている。残存長7.7cm、幅5.3cm、厚さ1.5cmを測る。922は身部である。刃部は刃潰れがある。残存長3.0cm、幅3.1cm、厚さ0.9cmを測る。923は身部である。残存長2.7



第59図 第62次石器実測図



第60图 第62次石器实测图



第61図 第62次石器実測図

cm、幅2.6cm、厚さ1.1cmを測る。924は基部である。全体の約1/4が残る。扁平で基端部に原面が残る。側縁は刃潰れがある。表面に擦痕が見られる。残存長3.5cm、幅4.7cm、厚さ1.2cmを測る。925は先端部から身部にかけて、全体の約1/2が残る。基部を欠く。押圧剥離による調整は丁寧で、表面に擦痕が見られるほか、一部に刃潰れがある。残存長10.5cm、幅3.4cm、厚さ1.3cmを測る。926は身部である。全体の約3/4が残るが、先端部と基部を欠く。残存長14.1cm、幅3.2cm、厚さ1.9cmを測る。

927~934は不定形刃器である。剥片等を用い、押圧剥離により刃部を仕上げているが上記の器種には当てはまらないものを不定形刃器とした。刃部に平行する軸を長軸とする。927は原面が残り、左右非対称な刃部をもつ。突起を有する石小刀の可能性がある。残存長5.5cm、幅3.0cm、厚さ1.2cmを測る。928は原面が残り、縁辺に刃部をもつ。折れた石剣に調整を施して再加工した可能性がある。長さ6.8cm、幅3.8cm、厚さ1.2cmを測る。929は原面が残り、縁辺に刃部を持つ。厚みがあり、刃部全間に刃潰れがある。長さ7.2cm、幅4.2cm、厚さ2.5cmを測る。930は大きな剥離面が残り、縁辺の刃部を押圧剥離で仕上げる。石剣のような形状であるが、側面が屈曲していることから不定形刃器とした。残存長8.8cm、幅3.0cm、厚さ1.2cmを測る。931は原面が残り、大きな剥離面が残る。押圧剥離で刃部を仕上げているが、やや刃潰れがある。表面は風化し灰色である。長さ9.0cm、幅6.2cm、厚さ1.6cmを測る。932は原

面が残り、大きな剥離面が残る。刃部は刃潰れがある。長さ8.6cm、幅4.6cm、厚さ1.3cmを測る。933は表面に原面が残る。押圧剥離で刃部を仕上げ、対する側縁には擦痕が残る。長さ7.3cm、幅4.5cm、厚さ1.3cmを測る。934は表裏面に大きな剥離面、側縁には原面が残る。押圧剥離で刃部を仕上げている。長さ7.9cm、幅5.5cm、厚さ1.8cmを測る。

註1

・『出雲神庭鬼神谷遺跡』島根県教育委員会 1996より引用

註2

・第1段階：素材獲得、第2段階：粗削、第3段階：剥離整形、第4段階：研磨、第5段階：穿孔、完成品（第6段階：補足仕上げ研磨）の6段階があり、今回鬼虎川遺跡で出土したのは、第4段階のものである。

註3

・「劍」と「槍」の区別は困難であるが、忍智遺跡や当遺跡から、基部に樹皮を巻き付けた、劍と考えられる出土例や、木製の鞘に収まった出土例があることから「劍」の名称を用いる。

IV. 自然化学

1. 鬼虎川遺跡の動物遺体の分析

安部 みき子（大阪市立大学大学院医学研究科）

東大阪市鬼虎川遺跡の第62次調査において、弥生時代から近世までの遺物包含層より動物遺体が出土した。出土数は弥生時代中期が約260点と最も多く、次いで弥生から古墳時代が10点、古代から中世が4点で、時期の特定できないものは36点であった。種まで同定できたものは哺乳類が4種、爬虫類が1種、魚類が3種であった。鳥類は種の判定ができたものではなく、中型の大きさの上腕骨の破片が数点みられた。また、人骨も数点出土している。

今回の調査で出土した動物遺体は破片が多く、また、火を受けて炭化したものや白色に変色したもののが多かった。同定できた哺乳類は、各時期と層位や遺構ごとに最小個体数を求め、骨計測が可能なものは計測をおこなった。

弥生時代中期

出土数、種数ともに最も多く、種が同定できた出土骨はイノシシとシカが大半を占めていた。これらの最小個体数はともに4である（第5表）が、骨片数はイノシシのほうがやや多かった。イノシシは環椎の後弓が未癒合のものや距骨の骨質が脆弱なもの、小白歯は乳臼歯で第1大臼のみ萌出している1才未溝の下顎骨などの幼体がみられ、非常に若い個体まで捕獲されていた。シカも寛骨が未癒合のものなど若い個体も見られ、イノシシ同様、狩猟の対象は幼体も含んでいたと考えられる。また、両骨端未癒合で骨幹長が約2cmの左上腕骨は胎兒の可能性が高く、妊娠しているシカが捕獲されたと推測される。イスは尺骨の近位端から骨幹中央までと犬歯の歯根が遺存しているのみであった。

魚類では、ウシサワラやトビエイの仲間の歯板、コイ科の咽頭歯が少數ながら出土していた。また人骨の破片も包含層で数点みられたが、その出来は不明である。

・ピット13、土坑3・32・33

ピット13と土坑33では哺乳類の骨片のみ出土したが、土坑32では下顎犬歯と第2小臼歯との歯冠が短くブタ的な要素を持つイノシシの下顎骨が出土している。また、土坑3ではイノシシの第3大臼歯が見られた（第5表）。

・大溝1

イノシシとシカは第15層に次いで多く、最小個体数は前者が2、後者が3であった（第6表）。またスッポンの骨片が4点みられ、このうち腹骨板は同一個体の可能性が高い。

・第15層

骨片が最も多かった層で、最小個体数はイノシシが3、シカが4であった（第6表）。またこれら以外に、イス、鳥類、スッポン、トビエイ、ウシサワラとコイ科の淡水魚が出土している。しかしこれらの出現頻度は低く、スッポンの11点以外はいずれも1点または2点であった。また、シカの長骨を加工した骨製品やクジラと思われる海綿質の骨片も出土している。人骨は橈骨片と上顎第1切歯が出土し、上顎第1切歯は日本人の特徴であるシャベル状を呈していた。

弥生時代～古墳？

同定できた出土骨はイノシシが後頭骨の一部、上顎第1切歯と中節骨で、シカは下顎骨、環椎、上

腕骨と脛骨であり、長骨はいずれも遠位端のみ出土していた（第5表）。

～古代

出土した動物遺体はイノシシの上顎第3大臼歯のみで、前半が破損しており、遺存している咬頭は未崩出であった（第4表）。

古代～中世

第8B層と第12層から各1点、ウマの上顎第3大臼歯が出土している（第5表）。このうち第8B層のものは歯冠高が約3cmで、老齢と推測される。

まとめ

1. 本調査で出土した骨片は、小片や細片が多く、種の同定ができなかったものも多かった。また、焼骨も多数含まれていた。
2. 弥生時代中期は出土数が最も多く、イノシシとシカが大半を占めた。
3. 出土量は少ないが、魚類ではトビエイやウシサワラなど海水性のものと、後期のもののように淡水性のものが混在していた。
4. スッポンは大溝と第15層に見られ、シカとイノシシに次いで出土骨片数が多かった。

第5表 各時代における哺乳類の出現頻度

	弥生時代中期		弥生～古墳？		一古代 イノシシ	古代～中世 ウマ	中世 ウマ
	イノシシ	シカ	イス	イノシシ	シカ		
後頭骨	~	1			1		
前頭骨	左	1					
	右	1					
側頭骨	左	3					
	右	2					
前上顎骨	右	1					
上顎骨	左	1					
	右	4					
上顎第3大臼歯	左					1	1
	右						1
下顎骨	左	4	3				
	右	4	1				
蝶椎	~	1			1		
頸椎	~	4					
肩平骨	左	1					
	右	1	2				
上腕骨	左	2	4				
	右	3					
尺骨	左	2	2	1			
	右						
桡骨	左	1	3				
	右		1				
有頭小菱形骨	左			1			
寛骨	左			1			
大趾骨	左	1					
	右	2	2				
脛骨	左	3	1				
	右	1	2				
距骨	左	1			1		
	右						
蹠骨	右		1				
立方骨	左	1					
	右	2					
舟状立方骨	左		1				
	右		1				
舟状骨	右	1					
最小割合数	4	4	1	1	1	1	1

第6表 弥生時代中期の遺構および崩位における哺乳類の出現頻度

	土坑32 イノシシ(フタ?)	土坑3 イノシシ	大湊1 イノシシ	シカ	イノシシ シカ	第15層 イヌ
後頸骨	—	—	1	—	1	—
前頭骨	左	—	—	—	1	1
頸椎骨	右	—	1	—	2	—
左	—	—	1	—	1	—
前上顎骨	右	—	—	—	—	—
上顎骨	左	—	1	—	1	—
右	—	—	—	—	2	—
1:頭蓋3大臼歯	左	—	—	—	—	—
下顎骨	右	1	—	2	1	4
環椎	—	—	—	—	1	1
枕椎	—	—	—	—	—	3
肩甲骨	左	—	—	—	1	1
上腕骨	右	—	—	—	2	4
尺骨	左	—	—	—	3	—
橈骨	右	—	—	—	1	1
有歯小菱形骨	左	—	—	—	—	—
寛骨	左	—	—	—	1	1
大寛骨	左	—	—	—	1	2
脛骨	右	—	—	—	2	2
腓骨	左	—	—	—	1	2
舟状立方骨	右	—	—	—	—	1
舟状骨	右	—	—	—	1	1
最小個体数	1	1	2	3	3	4
						1

第7表 下顎骨の計測値

資料番号	3	
種名	イノシシ	
左右	左	右
下顎骨全長 (1) id-goc	—	150.85
下顎骨全長 (2) id-Cm	—	163.49
下顎枝長M後縁よりgoc	51.47	50.70
gocよりPm 2 前縁まで	110.85++	109.33
歯槽最大長id-M後縁	—	105.34
頬臼歯長 (1) Pm 1 - M後縁	—	72.25
頬臼歯長 (2) Pm 2 - M後縁	—	63.71
小臼歯長 (1) Pm 1 - Pm 4	—	46.46
小臼歯長 (2) Pm 2 - Pm 4	36.87+	38.00
大臼歯長 M 1 - M後縁	26.72	28.59
C後縁よりPm2前縁まで	—	14.22
顆高 gov - 4	74.56	76.34
下顎枝中間高 gov - 5	67.28	68.35
下顎体高 (1) M後縁	28.58	37.79
下顎体高 (2) M 1 - Pm 4	25.70	25.54
下顎体高 (3) Pm 2 の前	—	27.28
下顎体厚 M 1 - M 2	16.80	16.37
下顎体中心長	—	39.63
下顎体中心高	—	14.24

単位はmm

第8表 肩甲骨の計測値

資料番号	223	243
種名	シカ	イノシシ
左右	右	右
全長(関節窓～棘突起後方まで)	162.57++	
関節窓最大長	36.39	30.17
関節窓長	29.50	24.54
関節窓幅	27.20	21.85
頸部前後径	21.53	22.23
頸部最小厚	13.88	13.94
肩甲棘高	31.73	16.38

単位はmm

第9表 尺骨の計測値

資料番号	252
種名	イヌ
左右	左
鈎状突起幅	14.99
滑車切痕高	18.11
肘頭長	25.41
肘頭最小深(滑車切痕で)	12.94
鈎状突起深	17.49

単位はmm

第10表 動物遺体の差異・留立別山十一観

資料 番号	同定 番号	地区	初期・晩期	時期	種名	出土部位		計測値 (mm)	備考
						右石	部位名		
1	1-1	9	土塹33	弥生中期	福丸蟹 触孔類	骨片	7		-部炭化
2	1-2	9	土塹33	弥生中期		骨片	2		
3	21	2	大溝1	弥生中期	イノシシ	左石 下顎骨		1才未満	
4	22	2	大溝1	弥生中期	シカorイノシシ	骨片			
5	31	3	大溝1	弥生中期	イノシシ	左 頸部骨			
6	32	3	大溝1	弥生中期	イノシシ	胸椎 (後位)			
7	33	3	大溝1	弥生中期	イノシシ	右 大腿骨			
8	41	4	大溝1	弥生中期	シカ	右 燃骨			
9	42	4	大溝1	弥生中期	シカorイノシシ	右 脊椎			
10	43	4	大溝1	弥生中期	シカorイノシシ	左 楔骨			
11	44	4	大溝1	弥生中期	シカorイノシシ	左 長骨片			
12	51	5	大溝1	弥生中期	イノシシ	左石 下顎骨			
13	52	5	人溝1	弥生中期	シカorイノシシ	右 下顎骨			
14	53	5	大溝1	弥生中期	シカorイノシシ	骨片			
15	54	5	大溝1	弥生中期	シカ	右 扇甲骨			
16	55	5	大溝1	弥生中期	シカ	右 扇甲骨			
17	61	6	人溝1	弥生中期	イノシシ	右 扇甲骨			
18	62	6	人溝1	弥生中期	イノシシ	右 扇甲骨			
19	63	6	人溝1	弥生中期	イノシシ	右 扇甲骨			
20	64	6	人溝1	弥生中期	イノシシ	右 扇甲骨			
21	65	6	大溝1	弥生中期	イノシシ	右 前頭骨+頭頂骨			
22	66	6	人溝1	弥生中期	イノシシ	右 後頭骨			
23	67	6	大溝1	弥生中期	イノシシ	右 大腿骨			
24	69	6	大溝1	弥生中期	イノシシ	右 上顎骨			
25	6-10	6	大溝1	弥生中期	シカ	左 頸部		P4- M2までの頸椎遺存、P4- M2まで計長	
26	6-11	6	人溝1	弥生中期	シカorイノシシ	左 頸部		M1-頸骨後端、M1-頸骨後端16.68	
27	71	7	大溝1	弥生中期	シカorイノシシ	右 頸部		M2-頸骨後端16.85、近心16.68	
28	72	7	大溝1	弥生中期	シカorイノシシ	右 頸部		近心16.68	
29	73	7	大溝1	弥生中期	シカorイノシシ	左 頸部		近心16.68	

資料番号	同定地名	地区・場所	時期	種名	片手部位		計測値 (mm)	備考
					左右	部位名		
30	81	大溝1	弥生中期	シカ	左	腕骨	近位端 新10cm遺存	近位端矢状径22.11、横径39.14
31	82	大溝1	弥生中期	シカ	左	腕骨	近位端 新16cm遺存	近位端矢状径18.62、横径35.72
32	83	大溝1	弥生中期	シカ	右	腕骨	近位端 内側面のみ遺存	
33	84	大溝1	弥生中期	イノシシ	M3	腕骨	関節窓 大耳孔周辺のみ遺存	
34	85	8 大溝1	弥生中期	イノシシ	右	上顎骨	M1關節後半～M3關節前半 M3關節部1cm間	M3關節部まで遺存は前槽に複数 M3關節部1cm間 M2・3前槽
35	86	8 大溝1	弥生中期	イノシシ	左	尺骨	滑車切迹長 1.9cm	滑車切迹長 大きい
36	87	8 大溝1	弥生中期	シガorイノシシ	右	腕骨	滑車切迹長 1.6cm	滑車切迹長 大きい
37	88	8 大溝1	弥生中期	シガorイノシシ	左	腕骨	多數	多數
38	89	8 大溝1	弥生中期	シガorイノシシ	左	腕骨	内側部破損	内側部破損
39	8.10	8 大溝1	弥生中期	シガorイノシシ	左	腕骨	一部破損	一部破損
40	8.11	8 大溝1	弥生中期	シガorイノシシ	左	腕骨	左腕骨	左腕骨
41	8.12	8 大溝1	弥生中期	シガorイノシシ	左	腕骨	右腕骨	右腕骨
42	8.13	8 大溝1	弥生中期	シガorイノシシ	右	腕骨	左大齒齒槽内側～右P4齒槽まで 遺存	左大齒齒槽内側～右P4齒槽まで CとPの間に短くブタ的 出瀬不可
43	9.1	5 上井32	弥生中期	イノシシ(?)	左	下顎骨	頬舌径17.68	近遠心径28.11
44	10.1	1 上井3	弥生中期	イノシシ	左	上顎第3大臼歯	頬舌径17.68	近遠心径28.11
45	11.1	1 P.13	弥生中期	シガorイノシシ	左	上顎骨片	1	
46	12.1	8 第8下脣	~中世	ウマ	右	下顎第3臼歯	1	歯高約2cmで老練
47	12.2	8 第8下脣	~中世	ウマ	右	骨組織	1	
48	13.1	2 第12脣	古代～中世	ウマ	左	上顎第3大臼歯	頬舌径20.35	近遠心径26.40
49	14.1	9 第11脣	~古代	イノシシ	左	上顎第3大臼歯	高径27.96	
50	15.1	1 第15脣	弥生中期	イノシシ	左	前頭骨	後方の吸頭のみ遺存、未萌出	
51	15.2	1 第15脣	弥生中期	イノシシ	左	上顎骨	M1～M3前半の齒槽遺存、M2・ 3前槽	M1～M3前半の齒槽遺存、M2・ 3前槽
52	15.3	1 第15脣	弥生中期	イノシシ	左	肩甲骨	M3後半施用	M3後半施用
53	15.4	1 第15脣	弥生中期	シカ	不明	角	新5cm遺存	加工痕あり、一部焼化
54	15.5	1 第15脣	弥生中期	イノシシ	右	大臍骨	後弓ののみ遺存	後弓ののみ遺存
55	16.1	2 第15脣	弥生中期	シカ	骨片	内側部のみ遺存	後弓骨後径24.07	後弓骨後径24.07
56	16.2	2 第15脣	弥生中期	鳴喉頭	1			
57	16.3	2 第15脣	弥生中期	イノシシ	右	上顎骨	P4～M2の前半の齒槽まで遺存、 I～かL.M1.2の歯根は完成してい るのかTMA	P4～M2の前半の齒槽は完成してい るのかTMA
58	16.4	2 第15脣	弥生中期	シカ	左	尺骨	滑車切跡開口部5cm遺存	滑車切跡開口部5cm遺存
59	16.5	2 第15脣	弥生中期	シカ	角	腕骨	分子部約6cm遺存	分子部約6cm遺存
60	16.6	2 第15脣	弥生中期	シガorイノシシ	長骨片	台輪の一部のみ遺存	1	切削痕あり
61	16.7	2 第15脣	弥生中期	シガorイノシシ	長骨片			

資料 番号	同定 番号	地区	遺跡・層位	時期	種名	左石	部位名	出土部位		計測値 (mm)	備考
								右石	骨片		
62	16.8	2	第15層	弥生中期	シカ	左	側頭骨	生骨の具状面周辺のみ遺存、Y軸 骨合縫合部→外耳孔周辺のみ遺存			
63	16.9	2	第15層	弥生中期	イノシシ	右	側頭骨 骨片	2			
64	16.10	2	第15層	弥生中期	哺乳類	左	側頭骨	1			
65	16.11	2	第15層	弥生中期	スッポン	右	不明	2 近位側頭部の一部のみ遺存			
66	16.12	2	第15層	弥生中期	シカorイノシシ	左	側頭骨	1			
67	16.13	2	第15層	弥生中期	哺乳類	右	不明	2 近位側頭部の一部のみ遺存			
68	16.14	2	第15層	弥生中期	イノシシ	左	立方骨	1 前位側頭部の一部被損 哺乳類を尾部部のみ遺存			
69	16.15	2	第15層	弥生中期	シカorイノシシ	右	不明	1 前位側頭部の椎体部のみ遺存			
70	17.1	3	第15層	弥生中期	シカ	左	輪状	1 前位側頭部の椎体部のみ遺存			
71	17.2	3	第15層	弥生中期	イノシシ	右	上顎骨	M1.2の齒根部遺存、M1.2鉗植 未測出、直徑のみ形成	M1.2鉗植12.39 M2.2鉗植13.06 直徑14.29	近位側頭部14.25 遠位側頭部14.29	
72	17.3	3	第15層	弥生中期	イノシシ	右	上顎骨2大臼齒	未測出、直徑のみ形成	全長34.26 直位側頭部14.90	近位側頭部16.35 遠位側頭部16.97	
73	17.4	3	第15層	弥生中期	イノシシ	右	不明	1 前位側頭部の一部被損 哺乳類を尾部部のみ遺存	全長14.69		
74	17.5	3	第15層	弥生中期	イノシシ	右	中前骨	1 前位側頭部の一部被損 哺乳類を尾部部のみ遺存	全長25.11		
75	17.6	3	第15層	弥生中期	哺乳類	右	長骨片	1 前位側頭部の一部被損 哺乳類を尾部部のみ遺存	高径18.94		
76	17.7	3	第15層	弥生中期	哺乳類	右	長骨片	2 長骨片			
77	17.8	3	第15層	弥生中期	スッポン	右	不明	1 長骨片			
78	17.9	3	第15層	弥生中期	哺乳類	右	不明	1 長骨片			
79	17.10	3	第15層	弥生中期	シカorイノシシ	右	不明	1 長骨片			
80	17.11	3	第15層	弥生中期	シカorイノシシ	右	不明	2 前位側頭部の一部被損 哺乳類を尾部部のみ遺存			
81	17.12	3	第15層	弥生中期	シカ	右	上腕骨	1 前位側頭部の一部被損 哺乳類を尾部部のみ遺存			
82	17.13	3	第15層	弥生中期	シカorイノシシ	右	上腕骨	1 前位側頭部の一部被損 哺乳類を尾部部のみ遺存			
83	17.14	3	第15層	弥生中期	シカorイノシシ	右	上腕骨	1 前位側頭部の一部被損 哺乳類を尾部部のみ遺存			
84	17.15	3	第15層	弥生中期	シカ	左	有頭小菱形骨	1 骨の風呂磨耗			
85	17.16	3	第15層	弥生中期	シカ	右	距骨	1 骨の風呂磨耗			
86	17.17	3	第15層	弥生中期	シカorイノシシ	右	腰骨	1 前位側頭部の一部被損 哺乳類を尾部部のみ遺存	外側長38.29 内側長35.63 近位側頭部23.71 外側前後径20.87 内側前後径20.60		
87	18.1	4	第15層	弥生中期	シカ	右	長骨片	1 前位側頭部の一部被損 哺乳類を尾部部のみ遺存			
88	18.2	4	第15層	弥生中期	哺乳類	右	不明	1 前位側頭部の一部被損 哺乳類を尾部部のみ遺存			
89	18.3	4	第15層	弥生中期	シカ	左	腰骨	3 骨合縫合部の一部被損 哺乳類を尾部部のみ遺存			
90	18.4	4	第15層	弥生中期	シカ	左	腰骨	1 骨合縫合部の一部被損 哺乳類を尾部部のみ遺存			
91	18.5	4	第15層	弥生中期	哺乳類	左	腰骨	2 骨合縫合部の一部被損 哺乳類を尾部部のみ遺存			
92	18.6	4	第15層	弥生中期	哺乳類	左	腰骨	1 骨合縫合部の一部被損 哺乳類を尾部部のみ遺存			
93	18.7	4	第15層	弥生中期	哺乳類	左	腰骨	2 骨合縫合部の一部被損 哺乳類を尾部部のみ遺存			
94	18.8	4	第15層	弥生中期	シカ	左	腰骨	1 骨合縫合部の一部被損 哺乳類を尾部部のみ遺存			
95	18.9	4	第15層	弥生中期	シカ	左	腰骨	1 骨合縫合部の一部被損 哺乳類を尾部部のみ遺存			
96	18.10	4	第15層	弥生中期	ヒト	左	腰骨	1 骨合縫合部の一部被損 哺乳類を尾部部のみ遺存			
97	18.11	4	第15層	弥生中期	ヒト?	左	仙骨	1 骨合縫合部の一部被損 哺乳類を尾部部のみ遺存			
98	18.12	4	第15層	弥生中期	哺乳類	右	骨片	4 うち3点は茎骨片			

資料番号	同定番号	地区・遺構・層位	時期	種名	出土部位	詳細		計測値 (mm)	備考
						左	右		
99	18-13	4 第15層	弥生中期	シカ	骨幹4cm、端部まで約1.4cm遺 在	左	尾管	前後径29.00 横径32.28	解体頭あり
100	18-14	4 第15層	弥生中期	シカorイノシシ	内側上顎骨	右	大樹骨	前後径62 横径51.80	幼体
101	10-15	4 第15層	弥生中期	シカ	頭部	—	—	前後径62 横径50.58	幼体
102	18-16	4 第15層	弥生中期	シカ	角状立方骨	右	舟状立方骨	前後径62 横径30.58	頭部
103	18-17	4 第15層	弥生中期	シカ	舟状立方骨	左	舟状立方骨	前後径62 横径32.89	頭部
104	18-18	4 第15層	弥生中期	イノシシ	上腕骨	左	上腕骨	前後径62 横径32.89	頭部
105	18-19	4 第15層	弥生中期	イノシシ	上腕骨	右	上腕骨	前後径62 横径32.89	頭部
106	18-20	4 第15層	弥生中期	イノシシ	上腕骨	右	上腕骨	前後径62 横径32.89	頭部
107	18-21	4 第15層	弥生中期	イノシシ	加工骨	右	上腕骨	前後径62 横径32.89	頭部
108	18-22	4 第15層	弥生中期	トリ(鳩)	上腕骨	右	上腕骨	前後径62 横径32.89	頭部
109	18-23	4 第15層	弥生中期	サカナ	上腕骨	右	上腕骨	前後径62 横径32.89	頭部
110	18-24	4 第15層	弥生中期	太型哺乳類	上腕骨	右	上腕骨	前後径62 横径32.89	頭部
111	18-25	4 第15層	弥生中期	太型哺乳類	上腕骨	右	上腕骨	前後径62 横径32.89	頭部
112	18-26	4 第15層	弥生中期	哺乳類	上腕骨	右	上腕骨	前後径62 横径32.89	頭部
113	18-27	4 第15層	弥生中期	哺乳類	上腕骨	右	上腕骨	前後径62 横径32.89	頭部
114	18-28	4 第15層	弥生中期	シカorイノシシ	不透明骨片	—	—	前後径62 横径32.89	頭部
115	18-29	4 第15層	弥生中期	シカorイノシシ	不透明骨片	—	—	前後径62 横径32.89	頭部
116	18-30	4 第15層	弥生中期	哺乳類	上腕骨	右	上腕骨	前後径62 横径32.89	頭部
117	18-31	4 第15層	弥生中期	哺乳類	上腕骨	右	上腕骨	前後径62 横径32.89	頭部
118	18-32	4 第15層	弥生中期	哺乳類	上腕骨	右	上腕骨	前後径62 横径32.89	頭部
119	19-1	5 第15層	弥生中期	シカorイノシシ	不透明骨片	—	—	前後径62 横径32.89	頭部
120	19-2	5 第15層	弥生中期	シカorイノシシ	不透明骨片	—	—	前後径62 横径32.89	頭部
121	19-3	5 第15層	弥生中期	シカorイノシシ	不透明骨片	—	—	前後径62 横径32.89	頭部
122	19-4	5 第15層	弥生中期	シカorイノシシ	不透明骨片	—	—	前後径62 横径32.89	頭部
123	19-5	5 第15層	弥生中期	シカ	腰骨	左	腰骨	前後径62 横径32.89	頭部
124	19-6	5 第15層	弥生中期	トリ(鳩)	右上腕骨	右	右上腕骨	前後径62 横径32.89	頭部
125	19-7	5 第15層	弥生中期	イノシシ	大樹骨	左	大樹骨	前後径62 横径32.89	頭部
126	19-8	5 第15層	弥生中期	シカ	大樹骨	右	大樹骨	前後径62 横径32.89	頭部
127	19-9	5 第15層	弥生中期	イノシシ	单片	—	—	前後径62 横径32.89	頭部
128	19-10	5 第15層	弥生中期	シカ	腰骨	左	腰骨	前後径62 横径32.89	頭部
129	19-11	5 第15層	弥生中期	シカorイノシシ	腰骨	右	腰骨	前後径62 横径32.89	頭部
130	19-12	5 第15層	弥生中期	シカorイノシシ	腰骨	右	腰骨	前後径62 横径32.89	頭部
131	19-13	5 第15層	弥生中期	シカ	腰骨	右	腰骨	前後径62 横径32.89	頭部
132	19-14	5 第15層	弥生中期	シカorイノシシ	腰骨	右	腰骨	前後径62 横径32.89	頭部
133	19-15	5 第15層	弥生中期	シカorイノシシ	腰骨	右	腰骨	前後径62 横径32.89	頭部
134	19-16	5 第15層	弥生中期	シカorイノシシ	腰骨	右	腰骨	前後径62 横径32.89	頭部
135	19-17	5 第15層	弥生中期	シカorイノシシ	腰骨	右	腰骨	前後径62 横径32.89	頭部

資料 番号	同定 番号	地区	遺構・部位	時期	種名	左石	部位名	出土部位		計測値 (mm)	備考
								詳細	遺存		
174	20-31	6	第15層	弥生中期	シカ	左	上顎骨	骨幹中央一遺物約5cm遺存	遺物輪	遺物輪19.16	大要名い
175	20-32	6	第15層	弥生中期	シカorノシシ	-	指骨	遠位端末節台	-	-	-
176	23-33	6	第15層	弥生中期	哺乳類	-	骨片	基部近位端	-	-	-
177	20-34	6	第15層	弥生中期	シカ	左	下顎骨	P3一下顎後線まで遺存、M2町下顎体高(M3後縁)34.20 M2町下顎後縁(M3後~goc)55.47++ 筋欠起根損	P3一下顎後縁まで遺存、M2町下顎体高(M3後縁)34.20 M2町下顎後縁(M3後~goc)55.47++ 筋欠起根損	椎体長76.4	椎体長
178	21-1	7	第15層	弥生中期	イノシシ	右	脛骨	遠位端(中位)	多數	椎体長63.79	椎骨
179	21-2	7	第15層	弥生中期	シカ	-	脛骨片	遠位端(中位)	-	-	-
180	21-3	7	第15層	弥生中期	哺乳類	左	上腕骨	遠位端(中位)	多數	-	-
181	21-4	7	第15層	弥生中期	シカ	-	脛骨片	遠位端(中位)	多數	-	-
182	21-5	7	第15層	弥生中期	哺乳類	左	上腕骨	遠位端(中位)	多數	-	-
183	21-6	7	第15層	弥生中期	ヒト	左	上顎1切歯	シャベル状切歯	多數	近位心子6.69	-
184	22-1	8	第15層	弥生中期	シカorノシシ	骨片	-	-	-	-	-
185	23-1	9	第15層	弥生中期	シカorノシシ	右	脛骨	脛骨前面下部から約12mm遺存	-	-	-
186	23-2	9	第15層	弥生中期	シカorノシシ	右	脛骨片	6	-	-	-
187	23-3	9	第15層	弥生中期	シカ	左	脛骨	掏出地點切歴6.5cm遺存、筋根大	成体	-	-
188	23-4	9	第15層	弥生中期	シカ	右	脛骨	近位端の脛骨	成体	-	-
189	23-5	9	第15層	弥生中期	シカorノシシ	-	脛骨	掏出地點の脛骨	成体	-	-
190	23-6	9	第15層	弥生中期	シカ	左	下顎第1大臼齒	6	掏出地點切歴11.5cm遺存	成体	-
191	23-7	9	第15層	弥生中期	シカ	-	脣椎	側体半連合、前開面空起 側面能動臼の一部と助骨空起 右側助骨突起の先端および椎体の 右側の能動臼の先端	成体	短骨10.71	近位心子16.05
192	23-8	9	第15層	弥生中期	シカorノシシ	右	脣椎	右側の能動臼の先端	成体	-	-
193	23-9	9	第15層	弥生中期	シカorノシシ	-	脣骨片	4	-	-	-
194	23-10	9	第15層	弥生中期	シカorノシシ	-	長骨細片	11	-	-	-
195	23-11	9	第15層	弥生中期	シカorノシシ	-	長骨細片	多數	-	-	-
196	23-12	9	第15層	弥生中期	シカorノシシ	-	長骨細片	5	-	-	-
197	23-13	9	第15層	弥生中期	シカorノシシ	-	長骨細片	多數	-	-	-
198	23-14	9	第15層	弥生中期	シカorノシシ	-	長骨細片	多數	-	-	-
199	23-15	9	第15層	弥生中期	哺乳類	-	長骨細片	1	-	-	-
200	23-16	9	第15層	弥生中期	哺乳類	-	長骨細片	3	-	-	-
201	23-17	9	第15層	弥生中期	シカorノシシ	-	脣骨	3	-	-	-
202	23-18	9	第15層	弥生中期	シカorノシシ	左	下顎骨	2	-	-	-
203	23-19	9	第15層	弥生中期	シカ	-	下顎骨	オトガイ乳頭近位1cm遺存	1	-	-
204	23-20	9	第15層	弥生中期	シカorノシシ	右	脣骨	1	-	-	-
205	23-21	9	第15層	弥生中期	シカorノシシ	-	脣骨	近位部のみ遺存	1	先骨	-
206	23-22	9	第15層	弥生中期	シカorノシシ	-	脣骨	内臓器外臓頭のみ遺存	1	先骨	-
207	23-23	9	第15層	弥生中期	シカorノシシ	-	人頭骨	不明	人頭骨	-	-
208	23-24	9	第15層	弥生中期	シカorノシシ	-	中頭骨	近位部の一部被覆	7	1点の塊骨を含	-
209	23-25	9	第15層	弥生中期	シカorノシシ	-	脣骨	1	-	-	-
210	24-1	1.2	第15層	弥生中期	ヌツボン	-	脣骨	1点の塊骨を含	1	-	-

資料同定 番号	地区 場所	層位	時期	種名	出土部位		計測値 (mm)	備考
					左石	部位名		
211	24.2 1・2 第15層	弥生中期	イノシシ?	右上頸骨 左上頸骨 右下頸骨 左下頸骨	左上頸骨 右上頸骨 左下頸骨 右下頸骨	7 縫合は未癒合		幼体
212	24.3 1・2 第15層	弥生中期	イノシシ?	スッコジン	右上頸骨 左上頸骨 右下頸骨 左下頸骨	7 縫合は未癒合		
213	24.4 1・2 第15層	弥生中期	スッコジン					
214	25.1 3・4 第15層	弥生中期	シカ	右 左	右 左	7 縫合は未癒合		
215	26.1 5・6 第15層	弥生中期	イノシシ?	上歯骨 下歯骨	右 左	7 縫合は未癒合		
216	26.2 5・6 第15層	弥生中期	イノシシ?	不明 前歯	右 左	7 縫合は未癒合		
217	26.3 5・6 第15層	弥生中期	ウシサワラ	前歯	右 左	7 縫合は未癒合		
218	26.4 5・6 第15層	弥生中期	イノシシ?	立方骨 上歯骨 下歯骨	右 右 右	7 縫合は未癒合		
219	26.5 5・6 第15層	弥生中期	大型哺乳類	不明 上歯骨? 骨片?	右 右 右	7 縫合は未癒合		
220	26.6 5・6 第15層	弥生中期	大型哺乳類	骨片?	右 右 右	7 縫合は未癒合		
221	26.7 5・6 第15層	弥生中期	大型哺乳類	骨片?	右 右 右	7 縫合は未癒合		
222	26.8 5・6 第15層	弥生中期	触乳類	骨片?	右 右 右	7 縫合は未癒合		
223	27.1 3~6 第15層	弥生中期	シカ	右 左	右 左	7 縫合は未癒合		
224	27.2 3~6 第15層	弥生中期	シカ	左 左	左 左	7 縫合は未癒合		
225	27.4 3~6 第15層	弥生中期	シカ	左 右	下頸骨 上頸第3人臼歛	7 P4~M3までの臼歛部存 P2~P4までの下頸骨遺存、P3以下下頸骨高	大臼歛例尾根55.55 下頸骨高 (M1前線) 24.43	
226	27.5 2~6 第15層	弥生中期	シカ	左 左	下頸第3大臼歛 上頸第3大臼歛	7 P4~M3までの臼歛部存 P2~P4までの下頸骨遺存、P3以下下頸骨高	大臼歛例尾根55.55 下頸骨高 (M1前線) 24.43	
227	27.6 3~6 第15層	弥生中期	シカ	右 右	下頸第3大臼歛 上頸第3大臼歛	7 P4~M3までの臼歛部存 P2~P4までの下頸骨遺存、P3以下下頸骨高	大臼歛例尾根55.55 下頸骨高 (M1前線) 24.43	
228	27.7 3~6 第15層	弥生中期	シカ	右 右	下頸第3大臼歛 上頸第3大臼歛	7 P4~M3までの臼歛部存 P2~P4までの下頸骨遺存、P3以下下頸骨高	大臼歛例尾根55.55 下頸骨高 (M1前線) 24.43	
229	27.8 3~6 第15層	弥生中期	シカ	右 右	下頸第3大臼歛 上頸第3大臼歛	7 P4~M3までの臼歛部存 P2~P4までの下頸骨遺存、P3以下下頸骨高	大臼歛例尾根55.55 下頸骨高 (M1前線) 24.43	
230	27.9 3~6 第15層	弥生中期	シカ	左 左	上頸骨 上頸骨	7 上頸第3人臼歛 上頸第3大臼歛	大臼歛例尾根55.55 下頸骨高 (M1前線) 24.43	
231	27.10 3~6 第15層	弥生中期	シカ	右 右	上頸骨 上頸骨	7 上頸骨 上頸骨	大臼歛例尾根55.55 下頸骨高 (M1前線) 24.43	
232	27.11 3~6 第15層	弥生中期	シカ	右 右	上頸骨 上頸骨	7 上頸骨 上頸骨	大臼歛例尾根55.55 下頸骨高 (M1前線) 24.43	
233	27.12 3~6 第15層	弥生中期	シカ	右 右	上頸骨 上頸骨	7 上頸骨 上頸骨	大臼歛例尾根55.55 下頸骨高 (M1前線) 24.43	
234	27.13 3~6 第15層	弥生中期	イノシシ	右 右	上頸骨 上頸骨	7 上頸骨 上頸骨	大臼歛例尾根55.55 下頸骨高 (M1前線) 24.43	
235	27.14 3~6 第15層	弥生中期	イノシシ	-	第一胸椎 後頸骨	7 第一胸椎 後頸骨	大臼歛例尾根55.55 下頸骨高 (M1前線) 24.43	
236	27.15 3~6 第15層	弥生中期	イノシシ	-	後頸骨 後頸骨	7 後頸骨 後頸骨	大臼歛例尾根55.55 下頸骨高 (M1前線) 24.43	
237	27.16 3~6 第15層	弥生中期	イノシシ	-	後頸骨 後頸骨	7 後頸骨 後頸骨	大臼歛例尾根55.55 下頸骨高 (M1前線) 24.43	
238	27.17 3~6 第15層	弥生中期	イノシシ	左 左	上頸第2大臼歛 上頸第3大臼歛	7 上頸第2大臼歛 上頸第3大臼歛	大臼歛例尾根55.55 下頸骨高 (M1前線) 24.43	
239	27.18 3~6 第15層	弥生中期	イノシシ	-	上頸第3大臼歛 上頸第3大臼歛	7 上頸第3大臼歛 上頸第3大臼歛	大臼歛例尾根55.55 下頸骨高 (M1前線) 24.43	
240	27.19 3~6 第15層	弥生中期	イノシシ	-	上頸第3大臼歛 上頸第3大臼歛	7 上頸第3大臼歛 上頸第3大臼歛	大臼歛例尾根55.55 下頸骨高 (M1前線) 24.43	
241	27.20 3~6 第15層	弥生中期	イノシシ	-	上頸第3大臼歛 上頸第3大臼歛	7 上頸第3大臼歛 上頸第3大臼歛	大臼歛例尾根55.55 下頸骨高 (M1前線) 24.43	
242	27.21 3~6 第15層	弥生中期	イノシシ	-	上頸第3大臼歛 上頸第3大臼歛	7 上頸第3大臼歛 上頸第3大臼歛	大臼歛例尾根55.55 下頸骨高 (M1前線) 24.43	

資料番号	出土部位	種名	左臼	部位名	出土部位	計測値 (mm)	備考
			右	右臼			
243	27.22 3~6 第15層	弥生中期	イノシシ	上歯骨	頭蓋から下顎骨 骨幹中央へ遷るまで遺存 内側上顎と開口部内側被覆	先8共 後位端歯全88.52	
244	27.23 3~6 第15層	弥生中期	イノシシ	左上歯骨	骨幹中央へ遷るまで遺存 内側上顎と開口部内側被覆	後位端歯先55.25、横径41.89	
245	27.24 3~6 第15層	弥生中期	イノシシ	右上歯骨	骨幹中央へ遷るまで遺存 内側上顎6cm遺存、 脛粗面より約6cm遺存	後位端歯先55.60、横径36.04 開口部全86.04	
246	27.25 3~6 第15層	弥生中期	イノシシ	右上歯骨	脛粗面より約6cm遺存、 脛粗面より約6cm遺存	全長35.39 今長22.68	骨質が弱いため歯体 全長21.44
247	27.26 3~6 第15層	弥生中期	イノシシ	左上歯骨	不明 中前臼	不明 中前臼	
248	27.27 3~6 第15層	弥生中期	イノシシ	左上歯骨	不明 中前臼	不明 中前臼	
249	27.28 3~6 第15層	弥生中期	イノシシ	左上歯骨	不明 中前臼	不明 中前臼	
250	27.29 3~6 第15層	弥生中期	イノシシ	左上歯骨	不明 中前臼	不明 中前臼	
251	27.30 3~6 第15層	弥生中期	イス	不明 大歯骨	頭蓋のみ遺存	第9共	
252	27.31 3~6 第15層	弥生中期	イス	左大歯骨	近位端部中央まで遺存		
253	27.32 3~6 第15層	弥生中期	シカ or イノシシ	右大歯骨	遠位端部前面のみ遺存		解体痕あり
254	27.33 3~6 第15層	弥生中期	シカ or イノシシ	左大歯骨	遠位端部のみ遺存		
255	27.34 3~6 第15層	弥生中期	シカ or イノシシ	右大歯骨	2 齒槽部のみ遺存		
256	27.35 3~6 第15層	弥生中期	シカ or イノシシ	右大歯骨	1 齒槽部	1	
257	27.36 3~6 第15層	弥生中期	シカ or イノシシ	右大歯骨	多數		
258	27.37 3~6 第15層	弥生中期	シカ or イノシシ	右大歯骨	多數		焼骨2片合
259	27.38 3~6 第15層	弥生中期	加工骨 (シカ)	加工骨	約5cm遺存		
260	27.39 3~6 第15層	弥生中期	スッポボン	助骨板	約5cm遺存		
261	27.40 3~6 第15層	弥生中期	トビエイ	助骨板	約2cm遺存		
262	27.41 3~6 第15層	弥生中期	シカ	左下頸骨	1 下頸角の一帶		
263	28.1 1 内歯	弥生～古墳?	シカ	左下頸骨	右側後部のみ遺存		
264	29.1 3 西壁	弥生～古墳?	シカ or イノシシ	右下頸骨	骨幹の先端と重複外側限界		- 部炭化
265	30.1 4 西壁	弥生～古墳?	イノシシ	右上頸1切歯	当椎の丸頭と重複外側限界		
266	30.2 4 西壁	弥生～古墳?	シカ or イノシシ	右脛骨	近位端部側面のみ遺存、竹箆未発 合		
267	31.1 5 西壁	弥生～古墳?	シカ	右下頸骨	P3後半～M2までの歯槽遺存 P3～M2半歯根 P3前半歯根、M3遠離齒	大臼歯根部54.51 P4始牙溝後2.02 近遠心径127.1 M1歯臼溝88.72 近遠心径147.1 M2歯臼溝85.53 近遠心径163.2 M3歯臼溝84.04 近遠心径20.15	
268	31.2 5 西壁	弥生～古墳?	シカ	右上頸骨	遠位部のみ遺存	後位端部後20mm 横径38.20	
269	31.3 5 西壁	弥生～古墳?	シカ	左 脊骨	遠位部のみ遺存	遠位端前後径29.19 横径35.30	
270	31.4 5 西壁	弥生～古墳?	シカ or イノシシ	不明 長骨片			幼体
271	32.1 7 西壁	弥生～古墳?	イノシシ	後頭骨			
272	33.1 9 西壁	弥生～古墳?	イノシシ	不明 中前臼	最大長24.61 近位横径16.12 高径16.22		

資料 編號	國籍	性別	年齢	時期	種名	部位名	出土部位		剖測値 (mm)	備考
							左石	右石		
273	Z	第15層	Z	第15層	シカライノシシ 哺乳類	骨幹近部後面約4cm遺存 前乳頭	1	1	内頸線・外頸線間隔25.38	
274	Z	第15層	Z	第15層	シカライノシシ 哺乳類	長骨片 前乳頭	1	1		
275	Z	第15層	Z	第15層	シカライノシシ 哺乳類	前乳頭	1			
276	Z	第15層	Z	第15層	シカライノシシ 哺乳類	前乳頭	1			
277	Z	第15層	Z	第15層	シカライノシシ 哺乳類	長骨板或板管 前乳頭	1	1		
278	Z	第15層	Z	第15層	スッポン	長骨片	1	1	近危端内側部のみ遺存 近危端内側部前後径18.95	成体のメスより大きい
279	Z	第15層	Z	第15層	ヒツボソ	長骨片	1	1		
280	Z	第15層	Z	第15層	ヒツボソ	原円骨	1	1	骨盤第一前部約3mm遺存 P2の歯槽跡約5mm遺存	一部炭化
281	Z	第15層	Z	第15層	ヒツボソ	原円骨	1	1		歯骨
282	Z	第15層	Z	第15層	ヒツボソ	長骨片	1	1		歯骨を含む
283	Z	第15層	Z	第15層	ヒツボソ	骨片	4	1	左方骨部のみ遺存 左方骨立方骨	前後径28.06
284	Z	第15層	Z	第15層	ヒツボソ	骨片	6	1	左方骨立方骨	
285	Z	第15層	Z	第15層	ヒツボソ	前乳頭	1	1	6	前後径約4cm遺存
286	Z	第15層	Z	第15層	ヒツボソ	前乳頭	1	1	前乳頭の先端のみ既耗 後端約7cm遺存	前後径13.04 近遠心径12.00
287	Z	第15層	Z	第15層	ヒツボソ	不明	1	1		
288	Z	第15層	Z	第15層	ヒツボソ	前乳頭	11	1		焼骨を含む
289	Z	第15層	Z	第15層	トリ(?)	小骨立方骨	2	2	2	
290	Z	第15層	Z	第15層	スッポン	小骨立方骨	4	4	骨幹ののみ遺存 約4cm遺存	
291	Z	第15層	Z	第15層	ヒツボソ	不明	1	1	右方骨立方骨	
292	Z	第15層	Z	第15層	ヒツボソ	右角半骨	1	1	右角半骨	
293	Z	第15層	Z	第15層	ヒツボソ	中肱骨	1	1	右角半骨	
294	Z	第15層	Z	第15層	ヒツボソ	骨片	2	2	右角半骨	
295	Z	第15層	Z	第15層	ヒツボソ	右角半骨	2	2	右角半骨	
296	Z	第15層	Z	第15層	ヒツボソ	右角半骨	2	2	右角半骨	
297	Z	第15層	Z	第15層	ヒツボソ	右角半骨	2	2	右角半骨	
298	Z	第15層	Z	第15層	ヒツボソ	右角半骨	2	2	右角半骨	
299	Z	第15層	Z	第15層	ヒツボソ	右角半骨	2	2	右角半骨	
300	Z	第15層	Z	第15層	ヒツボソ	右角半骨	2	2	右角半骨	
301	Z	第15層	Z	第15層	ヒツボソ	右角半骨	2	2	右角半骨	
302	Z	第15層	Z	第15層	ヒツボソ	右角半骨	2	2	右角半骨	
303	Z	第15層	Z	第15層	ヒツボソ	右角半骨	2	2	右角半骨	
304	Z	第15層	Z	第15層	ヒツボソ	右角半骨	2	2	右角半骨	
305	Z	第15層	Z	第15層	ヒツボソ	右角半骨	2	2	右角半骨	
306	Z	第15層	Z	第15層	ヒツボソ	右角半骨	2	2	右角半骨	
307	Z	第15層	Z	第15層	ヒツボソ	右角半骨	2	2	右角半骨	
308	Z	第15層	Z	第15層	ヒツボソ	右角半骨	2	2	右角半骨	

*「Z」は残存せりよりの採集

2. 鬼虎川遺跡出土の銅劍鋤型の石質について

川端 清司（大阪市立自然史博物館）

鬼虎川遺跡第62次発掘調査で出土した、銅劍鋤型の石質について報告する。また、これまでの発掘調査で既出土の石製品の石質についても再検討を行ったので、併せて報告する。なお、資料の観察は全て非破壊による表面観察であり、ルーペおよび実体顕微鏡による観察を併用して行った。

1 銅劍鋤型

今回出土した鋤型の石質は、部分的に中粒砂の粒度を持つものの、基本的には細粒砂岩である。基質は細粒砂質から泥質基質で構成されて量が少なく、砂岩粒子の円磨度が極めて高いという特徴を有する。また粒子の分級度は中程度で、比較的揃っていると言える（第62図）。

本来砂岩の岩石学的調査を行うには岩石薄片を作成して砂岩粒子のモード組成を計測するべきであるが、今回は非破壊での調査に限られるために、鋤型が砥石として再利用された研磨面を実体顕微鏡によって詳細に観察し、砂岩粒子を構成する石英・長石類・岩石片類のおおよその割合を調べた。

ほとんどの粒子が石英と長石から構成されていて、岩石片が非常に少ない。長石粒子より石英粒子がより多く含まれている。まれに含まれる粗粒な粒子では、花こう岩片と識別される岩石片が含まれるほか、泥岩起源の岩石片も含まれるが、岩石片の割合は全体の10%前後かより少ないと見積もられる。まれに碎屑性と考えられる白雲母粒子が観察されるが、花こう岩起源の岩石片に由来するものと考えられる。

以上の情報から、石材の原産地を推定することは困難であるが、いくつかの候補を考察してみる。

- ・石英質で岩石片がごく少ない
- ・砂粒の円磨度は高い
- ・中粒から細粒の砂岩で基質は細粒砂質

これらの条件を満たすのは、大阪周辺では、北摂山地に分布する丹波帯の一部の砂岩（丹波帯II型とされる砂岩、たとえば高槻市北方の「ポンポン山砂岩」）、舞鶴帯を構成する砂岩では篠山周辺の高城山層砂岩などが比較的類似の性質を有する。楠ほかによる砂岩に関する報告（楠ほか、2005）からの類推ではあるが、これらの中ではポンポン山砂岩あるいは高城山層砂岩との類似が高いと考えられる。ただし砂岩は風化の様子や見た感じの岩質、変成度などで見かけが変わるためにここでは可能性だけを述べて、断定は避けることとする。

なお那須・樺野は（1981）、同じく鬼虎川遺跡の第7次発掘調査で出土した銅鋤型の石質について和泉砂岩の可能性を指摘しているように、石製品の石材についてはこれまで和泉砂岩と考えられることが多かった。しかし和泉砂岩は、石英・長石粒子に比べて岩石片粒子、特に酸性火山岩起源の岩石片に富むこと、基質量が比較的多いこと、粒子の円磨度は低いことが特徴であり、今回出土の銅劍鋤型の砂岩の特徴とは明確に異なる。那須らが銅鋤型の石材との類似性を指摘する徳島県美馬郡脇町（現在、美馬市脇町）相立谷産および同県板野郡土成町宮川内産の砂岩標本も比較検討してみたが、その特徴に類似点はなく、少なくとも和泉砂岩の可能性はないと考えられる。

2 その他の砥石製品

第11表にあげられている砥石製品の石質は中粒砂岩が多く、一部に粗粒砂岩がみられる。

銅劍鋸型に比べると、何れも岩石片の割合が高く20%から30%近くになると見積もられる資料もある。酸性火山岩起源の岩石片が目立つ資料も見られる。一方石英の含有量がより少なく、長石と同等、場合によっては長石の方が多くなる資料もある。また基質量もより多く、総じて銅劍鋸型の石材とは異なる特徴を持つ。これらの石材については際だった特徴がみられないことから、原産地の推定については、困難であると考えられる。

3 銅鋸

細粒から中粒の流紋岩質ないし石英安山岩質凝灰岩である。最大0.5mm程度の金雲母化した黒雲母の粒子と石英粒子が目立つ。

4 銅鋸鋸型

鬼虎川遺跡の第7次発掘調査で出土した銅鋸鋸型の石質について、再検討を行ったので結果を報告する。

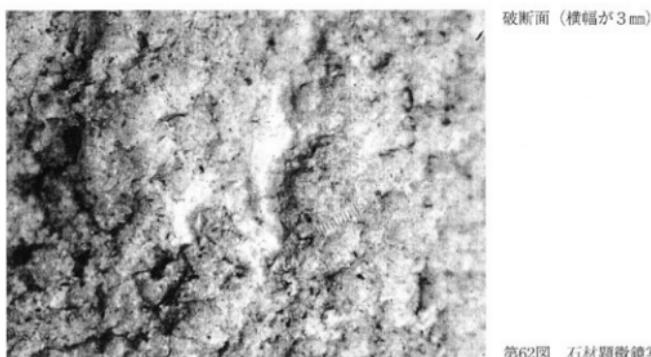
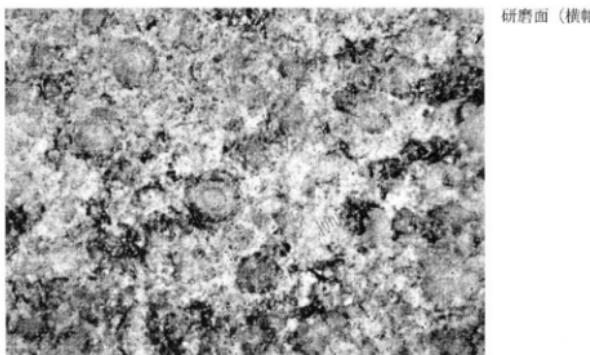
銅鋸鋸型の石質は銅劍鋸型によく似ており、細粒砂岩である。類似点としては石英質で基質量が少ないと、岩石片が少なく10%以下と見積もられること、酸性火山岩起源の岩石片はみられず堆積岩起源の岩石片が少量であることがあげられる。相違点としては、より細粒であること、円磨度はやや低いこと、石英の含有量がやや少なく長石に富むこと、という特徴がある。

那須・樽野は、銅鋸鋸型の石質について和泉砂岩であるとし、その産地についても大阪市立自然史博物館収蔵標本との比較から、徳島県を原産とする可能性が高いことを指摘している。そのため当該標本を比較検討してみた。那須らが類似性を指摘する徳島県美馬郡脇町（現在、美馬市脇町）相立谷産および同県板野郡土成町宮川内産の砂岩標本は、確かに一般的な和泉砂岩の特徴とは異なって石英・長石に富んで岩石片の割合が少ないものの、銅鋸鋸型と比べると岩石片の割合が高く、しかも酸性火山岩起源の岩石片も含まれている。また砂岩粒子の円磨度は不良で、基質の量もより多く含まれるという特徴を持つ。

これら比較検討の結果から、銅鋸鋸型の石材原産地を徳島県の和泉層群産の砂岩とすることは、可能性としては残されるものの、銅劍鋸型の石材との類似性を考えると再考の余地があると考えられる。

文献

- 橋利夫・井本伸広・武藏野實（2006）、京都西南部地域の地質、第4章 丹波帯、地域地質研究報告（5万分の1地質図帳）、産業研地質調査総合センター,p.18-41。
橋利夫・武藏野實（1992）、丹波帯の三疊系-下部ジュラ系の砂岩組成とその意義、地質学論集、38号,p.99-107。
那須恵郎・樽野博幸（1981）、銅鋸鋸型の石質、鬼虎川遺跡の銅鋸鋸型-第7次発掘調査報告1-, 東大阪市遺跡保護調査会,p.12-14。



第62図 石材顕微鏡写真

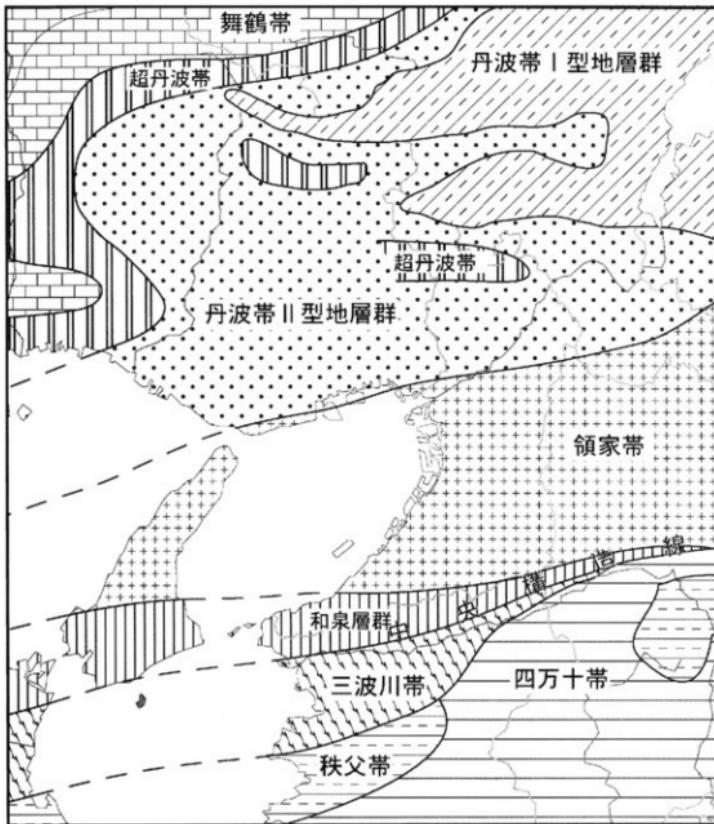
第11表 石材同定表

報告番号	遺物名	出土地区	出土層位	出土造構	備考	鑑定
856	銅劍鋒型	5 地区	第15層			細粒石英砂岩
890	砥石	9 地区	第15層		被熱による黒変有	中粒砂岩
892	砥石	5 地区	第15層		被熱による黒変有	細粒砂岩
未報告	砥石	5 地区	第15層		被熱による黒変有	中細粒砂岩
889	砥石	6 地区	第15層		被熱による黒変有	珪質頁岩
888	砥石	6 地区	第15層		被熱による黒変有	中粒砂岩
未報告	砥石	6 地区	第16層上面	土坑27	被熱による黒変有	中粒砂岩
887	砥石	5 地区	第15層		被熱による黒変有	細粒砂岩
891	砥石	3 地区	第15層			多孔質含角閃石石英安山岩

*890・888は同質。

*891を除き、全体的に丹波帯のものと思われる。

*砂岩は全体として風化が進んでいて、基質部分がなくなり、一見して凝灰岩に見える。



第63図 大阪周辺の基盤地質構造図

新生代以降の新しい時代の地質・火山岩を取り除くと、中生代以前の古い地層・岩石が地下にどのように分布しているかを示している。示している地層・岩石が地表に分布しているとは限らない。

3. 銅剣舞型の螢光X線分析

村上 隆(奈良文化財研究所)

東大阪市出土鉄型に対して行った非破壊的手法による螢光X線分析の結果(wt%)

番号	銅(Cu)	鉛(Pb)	鉄(Fe)	マンガン(Mn)	カリウム(K)	チタン(Ti)	ストロンチウム(Sr)	ルビジウム(Rb)	亜鉛(Zn)	スズ(Sn)	ヒ素(As)	備考
1	0.907	19.603	46.915	0.610	11.242	14.909	0.974	2.460	1.941	0.439	—	—
2	1.119	1.570	65.215	0.538	5.646	16.929	—	4.322	3.729	0.932	—	—
3	1.004	27.347	34.313	0.638	12.332	16.288	0.675	2.585	1.806	0.180	2.831	—
4	1.111	0.736	65.485	0.719	7.069	14.673	1.084	4.073	3.474	0.700	—	0.876
5	0.886	27.063	32.288	0.404	12.835	18.707	0.933	2.190	1.960	0.212	2.539	—

V. 第63次調査の概要

1. 調査に至る経緯

平成17年度末、大阪府八尾土木事務所から東石切町190-8における工事の協議があり、当該地が昭和50年に実施した第1次調査地の西北、平成12年度の第52次調査地と平成15年度第57次調査7区の間隙部にあたることから発掘調査の必要箇所であることを確認した。

第1次調査（第1トレンチ）では弥生時代中期の遺物包含層、近世の掘り上げ田に伴う井路を、第52次調査では弥生時代前期の溝・ピット、中期の溝・自然流路・遺物包含層と弥生土器・石器・古墳時代の遺物包含層と須恵器、中世の自然流路と土師器・瓦器・瓦・板塔婆などの木製品・動物遺体、近世以降の掘り上げ田に伴う井路などを、第57次調査7区では近代の井路、近世の遺物包含層、近世の掘り上げ田に伴う井路、中世の遺物包含層などを検出している。

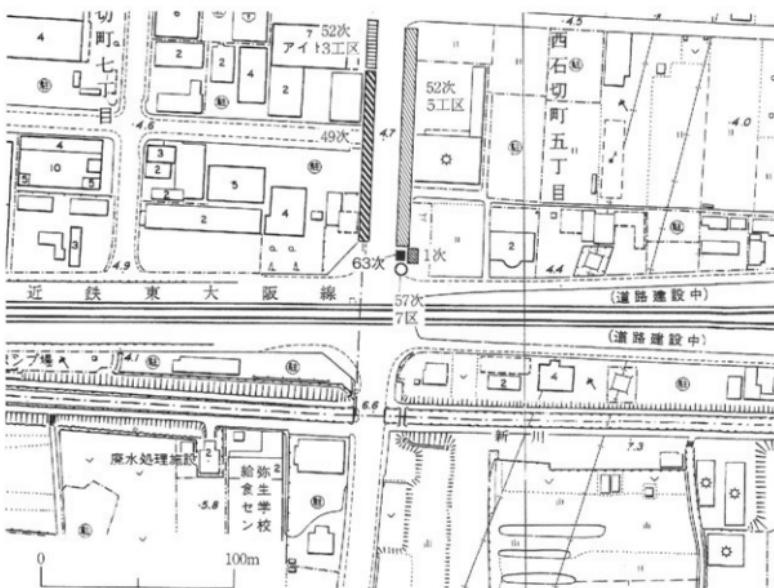
そのため、近世以降の掘り上げ田に伴う井路、古墳時代から中世の遺物包含層、弥生時代の遺構および遺物包含層の存在などが考えられ、平成18年6月に埋蔵文化財の届出をうけて協議を重ね、10月31日から11月21日の間、現地での発掘調査を行ない、その後残土置き場における遺物採取作業を実施した。

＜文献＞

『鬼虎川遺跡第1～3次発掘調査報告』財團法人東大阪市文化財協会 1990

『一般国道170号西石切立体交差事業に伴う鬼虎川遺跡第52次発掘調査報告』東大阪市教育委員会 2002

『透水管布設工事に伴う鬼虎川遺跡第57次発掘調査報告書』財團法人東大阪市文化財協会 2004



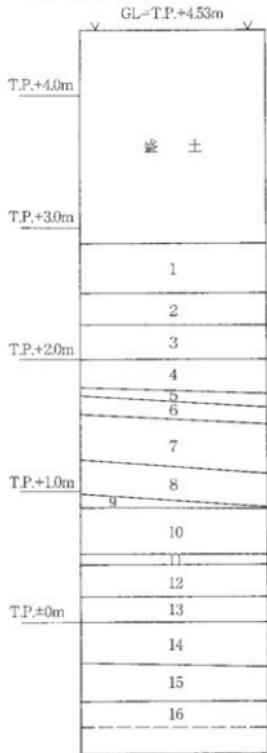
第64図 第63次調査地位置図

2. 調査経過

今回の調査地は国道170号線と国道308号線の交差点北東付近である（第64図）。調査面積は30m²、深さはGL-5.5mである。現地調査は平成18年10月31日から11月2日まで行い、調査の経過は以下のとおりである。

- ・ 10/31 工事現場にて立会し、約60cmごとに断面調査を行い、遺物包含層を掘削する場合に限り、土中より遺物採集を行うことで合意。T.P.+1.5m前後まで掘削し、盛土層以下5層に分層し断面図を作成。
- ・ 11/1 T.P.+0.7m前後まで掘削。土層観察後、第6層から第10層を確認。断面図を作成し、写真撮影。掘り上げ残土より遺物採集。今後、残土内遺物の採集については仮置き場にて確認。
- ・ 11/2 T.P.-0.5m前後まで掘削。土層観察後、第11層から第16層を確認。断面図を作成し、写真撮影。工事底面に達しているため、掘削作業終了。
- ・ 11/21 残土内遺物採集作業。第13層相当残土から須恵器、土師器を採集。第14層相当残土から弥生土器を採集。

3. 層位（第65図）



第65図 第63次層位図

- 第1層 オリーブ黒色 (10Y3/1) 中粒砂混じり粘土。厚さは40cmを測る。
- 第2層 オリーブ黒色 (7.5Y3/1) 粗粒砂混じり粘土。厚さは25cmを測る。
- 第3層 オリーブ黒色 (10Y3/1) 粘土。厚さは25cmを測る。
- 第4層 暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1) 粘土。厚さは30cmを測る。
- 第5層 暗オリーブ灰色 (5GY4/1) 粘土。厚さは10cmを測る。
- 第6層 オリーブ灰色 (5GY5/1) シルト質粘土。厚さは10cmを測る。
- 第7層 暗緑灰色 (7.5GY4/1) 砂混じりシルト質粘土。厚さは40cmを測る。
- 第8層 暗緑灰色 (10GY3/1) 砂混じり粘土。厚さは25cmを測る。
- 第9層 暗オリーブ灰色 (5GY4/1) 砂混じり粘質シルト。厚さは10cmを測る。
- 第10層 オリーブ灰色 (2.5GY5/1) 矮混じり細～粗粒砂。厚さは35cmを測る。
- 第11層 オリーブ黒色 (10Y3/2) 粘土。厚さは10cmを測る。
- 第12層 オリーブ黒色 (7.5Y3/1) シルト質粘土。厚さは25cmを測る。
- 第13層 オリーブ黒色 (5Y3/1) シルト質粘土。厚さは15cmを測る。
- 第14層 黒色 (5Y2/1) シルト質粘土。厚さは35cmを測る。
- 第15層 暗オリーブ灰色 (5GY4/1) 粘質シルト。厚さは30cmを測る。
- 第16層 灰色 (10Y4/1) 粘土。厚さは20cm以上を測る。

4. 各層位の状況

近、現代（第1～9層）

層内から遺物は出土していない。各層上面で遺構は検出しなかった。また、本調査地北の第52次調査（5工区）では、T.P. +1.0m前後までを舗装および盛土層として捉えている。これらの層は近、現代に埋まつた層と考えられる。

中世（第10層）

第10層では中世の土師器が出土している。各層上面で遺構は検出しなかった。第10層出土遺物はローリングを受けているものがあり、混入品と考えられる。

古墳時代～奈良（第11～13層）（図版110-1）

第13層では5、6世紀の須恵器杯が出土している。各層上面で遺構は検出しなかった。

弥生時代～弥生時代以前（第14層以下）（図版110-2）

第14層内からは弥生土器壺の口縁部などが出土したが、細片であるため詳細な時期は不明である。各層上面で遺構は検出しなかった。

5. 小結

当該地は第52次調査南端と第57次調査7区の間に位置していたことから、とくに弥生時代の遺物包含層および遺構の存在を推定していたが、両調査地間が想定していたよりも狭かったこと、砂層からの湧水が考えていた以上に多く、十分な調査を実施する状態ではなかったことは残念である。そのため遺構を検出することはできなかったが、弥生時代から現代に至る層位状況を確認するとともに中世・古代および弥生時代の遺物を検出し、調査地周辺の歴史的状況を再確認することができた。

第13表 第63次・第52次層位対応表

時代	調査次数	
	KTR63	KTR52
近、現代	第1層	第0層 (舗装 及び 搅乱)
	第2層	
	第3層	
	第4層	
	第5層	
	第6層	
	第7層	
	第8層	
	第9層	
中世	第10層	第2a層
古墳～奈良	第11層	第3c層
	第12層	第5b層
	第13層	第11層
弥生～ 弥生以前	第14層	第13a層 第13b層 第13c層 第14a層
	第15層	
	第16層	



第66図 第63次調査地現況写真

VI. 調査の総括

1. 鬼虎川出土銅劍鋳型の型式的位置付け

この鋳型の位置付けを考えるうえで重要なのは、鋳造された銅劍の型式を特定することである。しかし、鋳型は両端を欠損しているため全形が不明である。さらに砥石に転用しているため、銅劍の輪郭が消失し、表面には突起部周辺の黒変と脊が残るのみである。この突起部を有する形と、脊から型式を絞り込むほかない。また、今回の調査で出土した鋳型を岩永省三氏、吉田広氏、宮井善朗氏に実見いただき機会を得た。そこで御教示下さった意見を記す。上記の絞り込みと各氏の意見をまとめてことで鬼虎川銅劍鋳型の型式的位置付けとしたい。

・ 岩永氏の所見

鋳型に残る銅劍の脊幅が1.0～1.1cmで中細形c類よりも細く、さらに細い型式である中細形b類としても細いため、中細形b類とは言えない。また、平形のような突起の強調が見られるが、平形として見るには劍身から関までが直線的ではなく、刃方が残っていることから平形とは言えない。つまり、中細形b類から各型式に分化し、平形I式または平形Cタイプに変化するまでに1～2型式あるとした上で、中細形が平形に変化する過渡期の段階のものであり、中細形b類、平形I式、平形Cタイプのいずれでもない。

・ 吉田氏の所見

中細形A類から中細形D類への変化の中で中細形B類から中細形B'類や中細形B''類といった各型式へと展開する過程のひとつで、主流の変化とは異なる変化を遂げたものと捉えている。平面的な大きさから見ると中細形C類に一致するが、比例的に大きさを増すべき脊幅が中細形のなかでは最も細い。これは中細形A類からD類への変化の方向に相反しており、現行の分類型式に該当しない。また、東部瀬戸内系平形銅劍にも同様の突起部と刃方が見られるが、この銅劍鋳型は刃方の湾入は浅い。東部瀬戸内系銅劍は突起部と側縁を肥厚させているが鋳型彫り込み面にその痕跡が見られないことから該当しない。

・ 宮井氏の所見

銅劍生産は弥生時代中期末から収束していく。このころ中細形Bを起点として銅劍型式の分化が起り、各地で銅劍の異形化が始まる。鬼虎川銅劍はこの異形化のなかで中細形Cに変化する前段階のものであろう。形態的特徴では、香川県瓦谷出土例に類似している。

*型式名は各氏の分類による。

まとめ

突起部の強調から平形銅劍と想定させるものであるが、突起部幅が6.3cmであり刃方をもつことから中細形C類に近いものである。しかし、中細形C類としたときに突起部脊幅が1.0～1.1cmであることからC類よりは一回り小さいものである（C類は概ね1.2～1.3cm）。つまり、この銅劍は後代の突起部を強調する平形銅劍の特徴を示しつつも、刃方を持つ中細形銅劍の特徴を併せ持っている。これは既存の型式には該当しない新型式であることを示している。ここで仮に「鬼虎川型銅劍」としよう。

銅劍鋳型は弥生時代中期末頃の整地土層からの出土である。つまり、鋳造が行われていた時期は最も下ったとしても中期後半～末までと考えられる。そのころには銅劍型式の分化が起り、各地域で独自の生産が始まつた頃であり、青銅器生産の在地化を示す位置例といえよう。加えて、第7次調査

で出土した銅鐸鋳型は外縁付鉢I式と考えられていることから、銅劍鋳型とは鋳造時期の重複が難しい。しかし、銅鐸が鋳造されたいた頃から銅劍の鋳造されていた頃まで、継続的に青銅器生産が行わっていた可能性を秘めている。

鬼虎川遺跡ではこれまでの調査で銅鐸、銅鏡、銅鏡の三種類の鋳型が出土し、今回出土した銅劍鋳型で四種類目の青銅器が確認できた。鬼虎川遺跡がこの地域の青銅器生産の一拠点であり、多種にわたる鋳造を行っていたことを示唆するものである。しかし、鬼虎川遺跡から青銅器や埴輪や輪などの中間遺物も出土していない。この点については今後の発掘調査に期待したい。

本稿執筆にあたり岩永省三氏、吉田広氏、宮井善朗氏には多大な御厚恩をいただいた。末尾ではあるが、記して感謝の意を表したい。

＜参考文献＞

- ・岩永省三1980「弥生時代武器形青銅器型式分類編年再考－剣・矛・戈を中心として－」『九州考古学第55号』九州考古学会
- ・吉田広編2001『弥生時代の武器形青銅器（考古学選集21）』国立歴史民俗博物館泰成研究室
- ・宮井善朗1987「銅劍の流入と波及」『東アジアと考古と歴史 中 菊崎敬先生退官記念論集』同朋舎

2. 第62・63次調査のまとめ

第62・63次調査について、隣接する既調査の結果を念頭に入れながらそれぞれの状況を概観しておこう。

第63次調査地は、第52次調査5工区と第57次調査7区の間に位置していた。両調査地の間隙と、調査範囲が狭く、2調査地の埋め戻し土および盛土・自然堆積層の湧水により、縦密な現地調査を行なうことができなかつたが、弥生時代から室町時代の遺物を検出することができた。調査地周辺はこれまでの調査においても遺構・遺物の検出量は少なく、弥生時代においては環濠集落の北辺にあたり、古墳時代から江戸時代にかけても水田、畑地などの耕作域であったことが今回の調査においても再確認された。

第62次調査での遺構・遺物は、大半は弥生時代のもであったが、弥生時代から江戸時代にわたるもののが検出された。

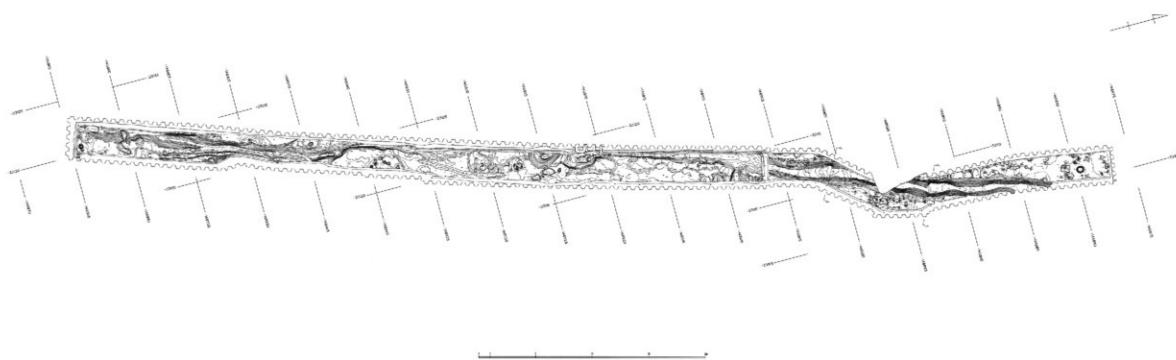
縄文時代晩期の遺構・遺物ではなく、第56次調査9工区南側と第58次調査北側、第53次調査南側と第56次調査北側において突帯文土器の出土が見られ、その地域から南・北へそれぞれ離れるほど出土量が減少していくことと合致する。

弥生時代においては、前期の遺物は少なく遺構も検出されなかつた。それに対し中期は、第17層上面でピット群・溝（中期前葉）、第16層上面でピット・土坑群と大溝などの溝（中期中葉）、第15C層上面で土坑（中期後葉）および中期前葉から末の整地層を検出し、多量の弥生土器をはじめ石器・石製品・土製品・動物遺体などの遺物が出土した。これらの状態は南の第56次調査9工区などと同じ状況といえ、中期前葉から後葉にわたる集落域内に位置していることを確認した。

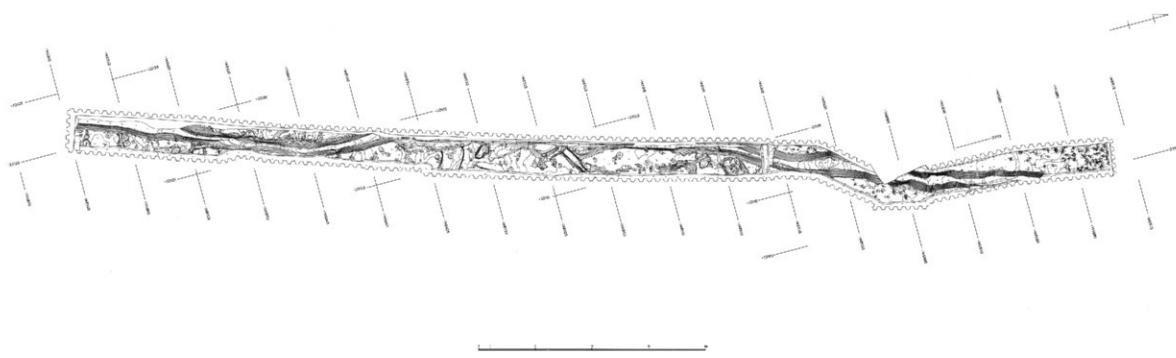
弥生時代後期以降になると、遺物量が激減するとともに遺構も足跡群や溝群で、集落から離れた水田・畑地などの生産域となっていたことも再確認できた。

今回の調査においては銅剣の鋳型片が出土した。本遺跡では第7次調査で銅鐸・銅劍・銅鎌の鋳型（大阪府指定文化財）が出土しており、両調査地からは他にも黒変部を有する石製品も多く出土し、本遺跡がいわゆる拠点集落であるとともに、青銅製品の生産・供給地であったことを物語っている。銅剣の鋳型については出土遺物の項および前項で詳述され、石材鑑定および蛍光X線結果においても新たな知見を得ることができた。本遺物の出土は弥生時代における武器形青銅器のあり方に一石を投ずるものであり、その位置付けについては今後の調査および諸研究に期待したい。

第56次（9工区）・62次 中期中葉遺構 平面図



第56次（9工区）・62次 中期前葉遺構 平面図



第67図 第56次（9工区）・62次調査弥生時代遺構平面図

図 版



1. 調査地周辺航空写真（1950年ごろ）



2. 調査地周辺航空写真（1984年撮影）



1. 第62次調査地遠望 北東より



2. 第62次調査地近景 南より



1. 第62次北壁断面1（第7～9層）



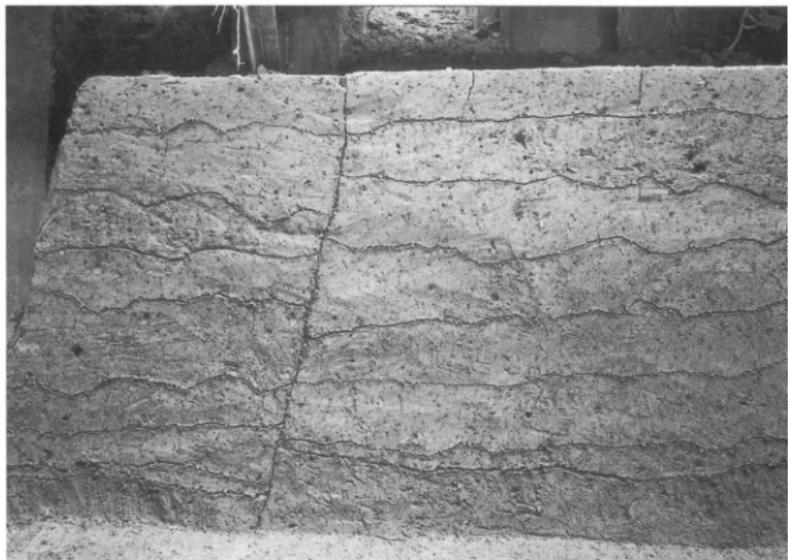
2. 第62次北壁断面2（第9～12層）



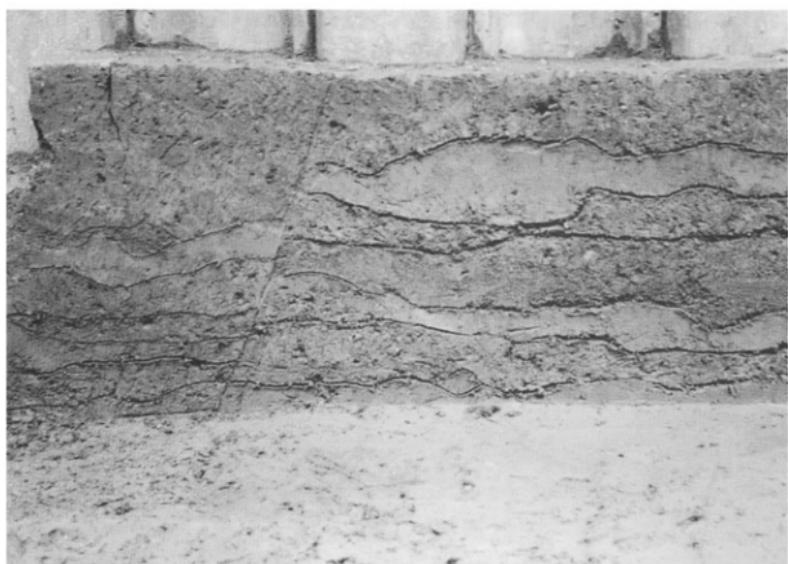
1. 第62次北壁断面3 (第12~15層)



2. 第62次北壁断面4 (第16~20層)



1. 第62次8・9地区付近西壁断面1 (第1~7層)



2. 第62次8・9地区付近西壁断面2 (第7~12層)



1. 第62次8・9地区付近西壁断面3（第12～14層）



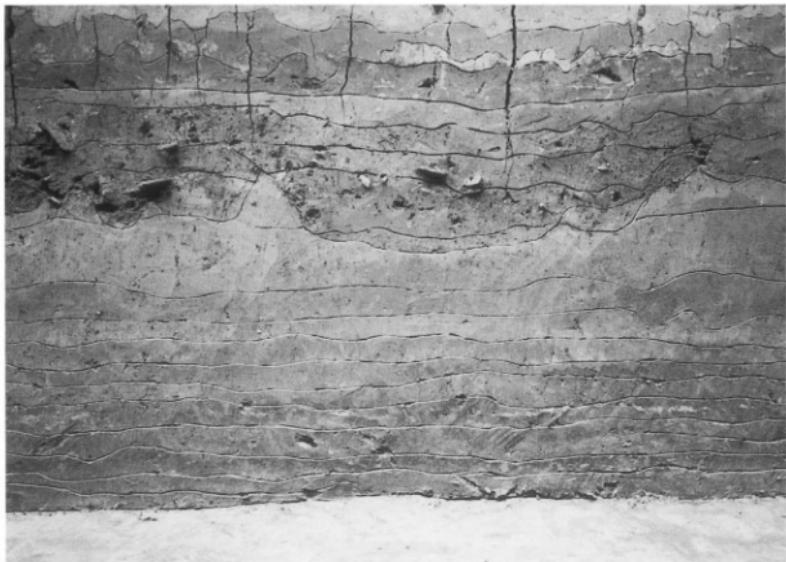
2. 第62次8・9地区付近西壁断面4（第14～23層）



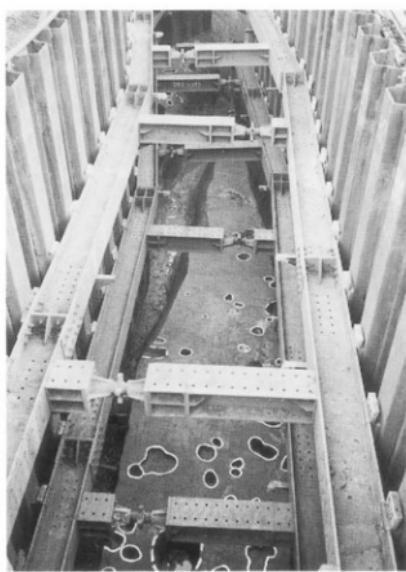
1. 第62次3・4地区付近西壁断面1 (第3～8層)



2. 第62次3・4地区付近西壁断面2 (第9～12層)

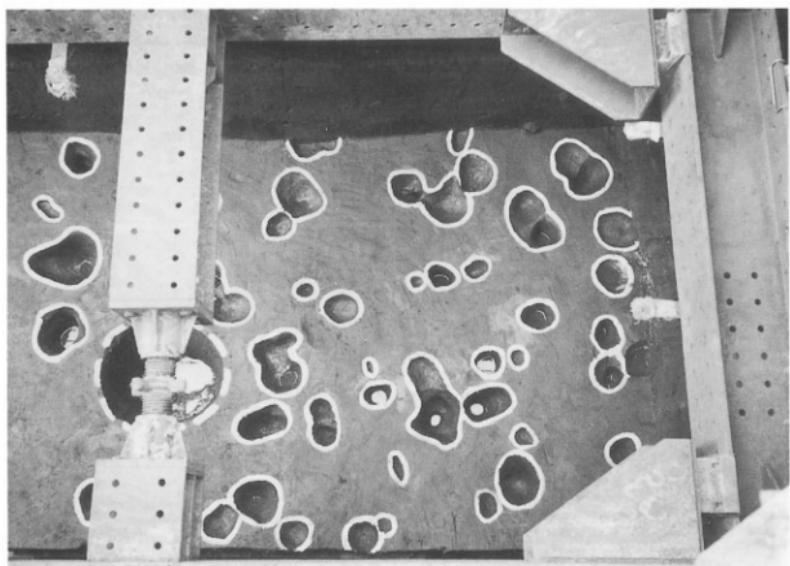


1. 第62次3・4地区付近西壁断面3（第14～23層）

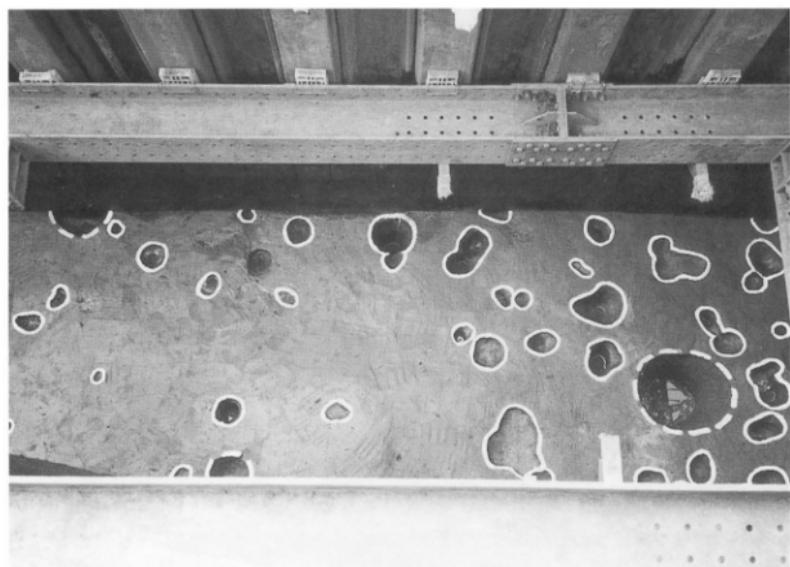


2. 第62次第17層上面遺構1 1～6地区 北より

図版 9 遺構



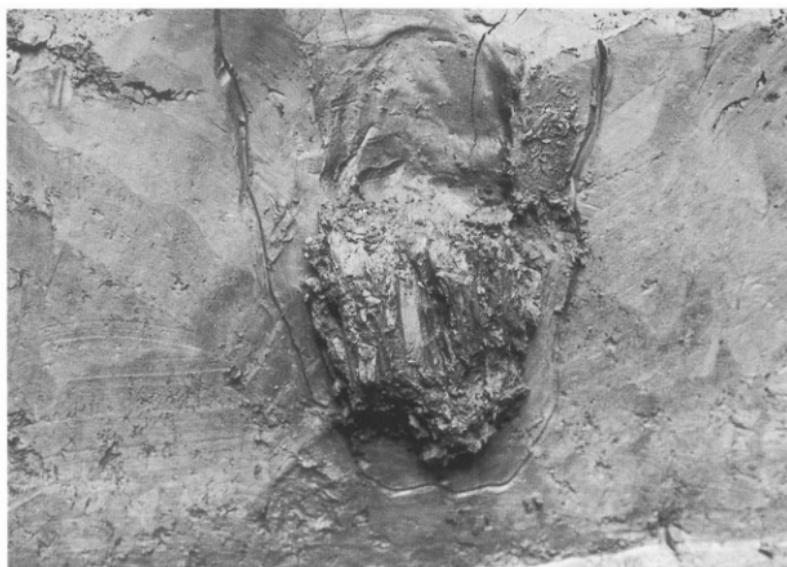
1. 第62次第17層上面遺構 2 1地区 東より



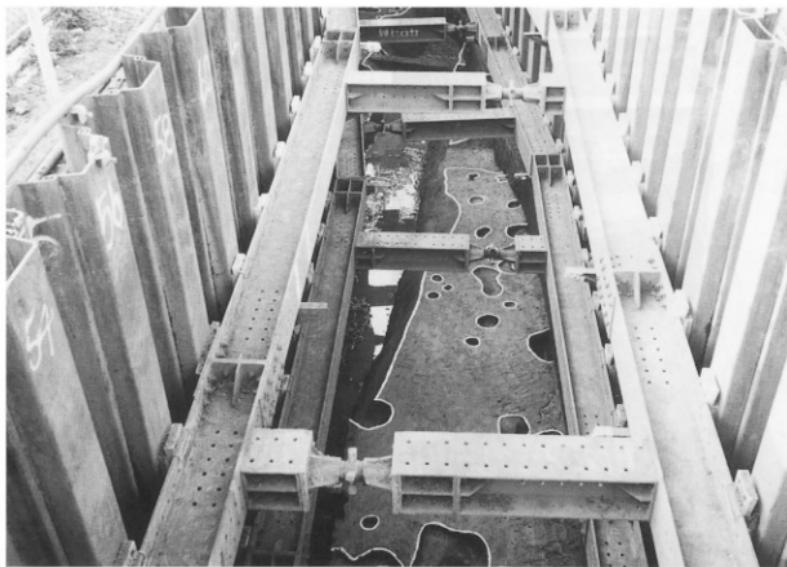
2. 第62次第17層上面遺構 3 2地区 東より



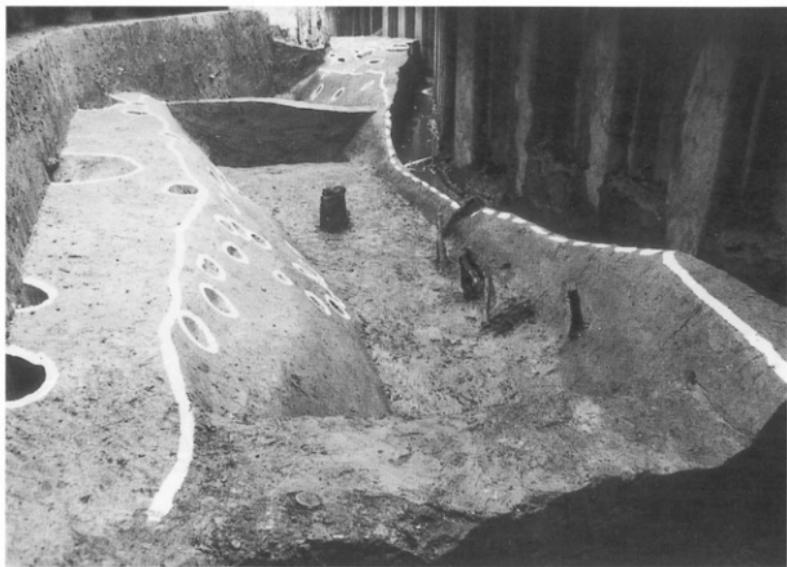
1. 第62次第17層上面遺構 4 6地区 東より



2. 第62次第17層上面遺構 ピット35断面 2地区 南より



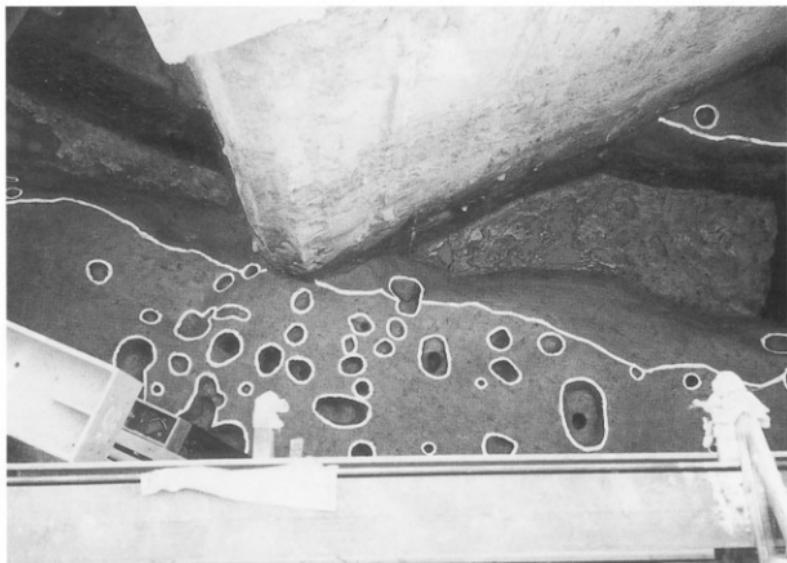
1. 第62次第16層上面遺構 1 1～6地区 北より



2. 第62次第16層上面遺構 2 6～9地区 南より



1. 第62次第16層上面遺構 3 4~6地区 南より



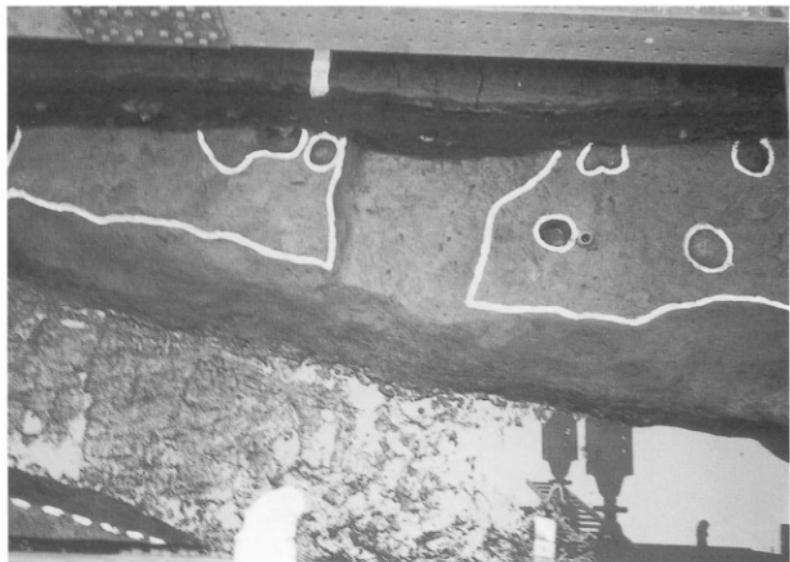
2. 第62次第16層上面遺構 4 6地区 東より



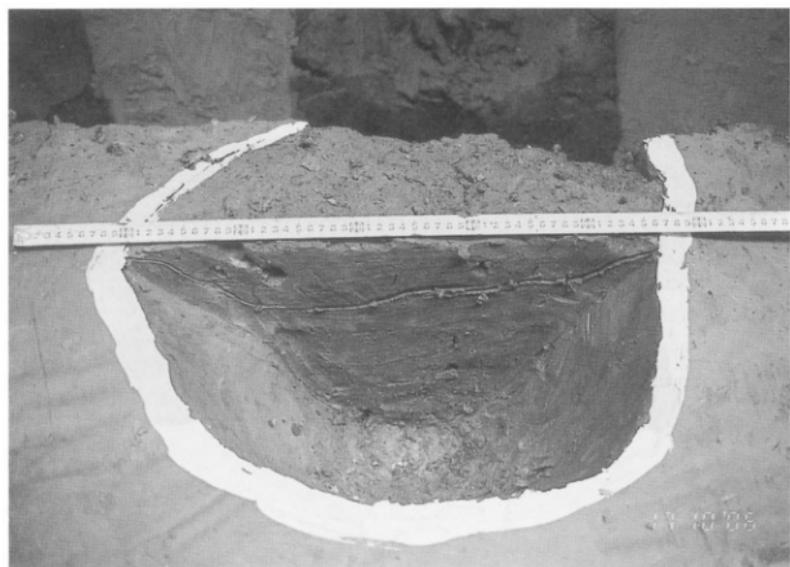
1. 第62次第16層大溝断面1 5地区 南より



2. 第62次第16層大溝断面2 7地区 南より



1. 第62次第16層上面遺構 溝1 土坑19 ピット116・124・126・127・171 4地区 東より



2. 第62次第16層上面遺構 土坑14断面 2地区 西より



1. 第62次第16層上面遺構 土坑25断面 6地区 東より



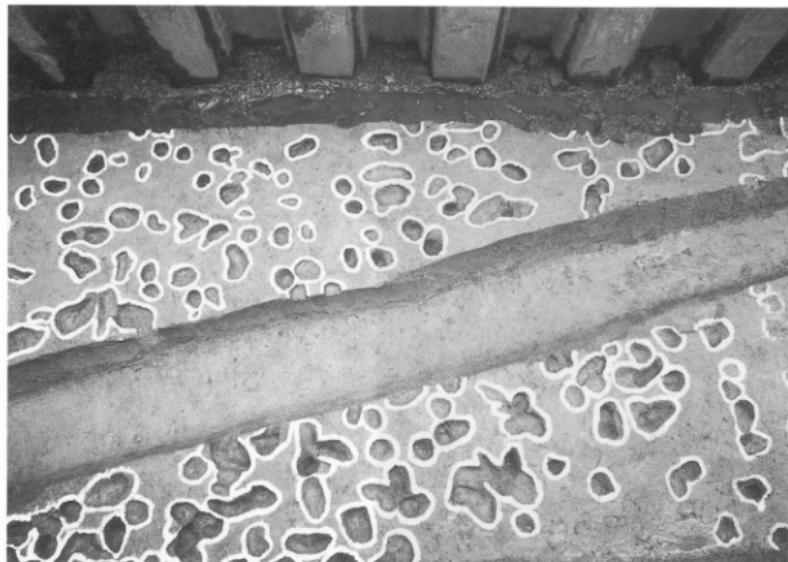
2. 第62次第16層上面遺構 ピット139断面 6地区 西より



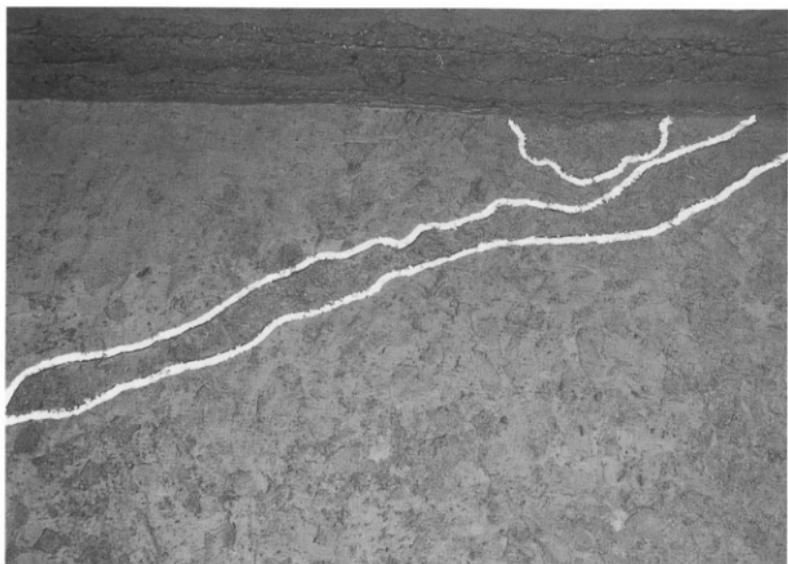
1. 第62次第15C層上面遺構 土坑33 9地区 東より



2. 第62次第15C層上面遺構 土坑33断面 9地区 北東より



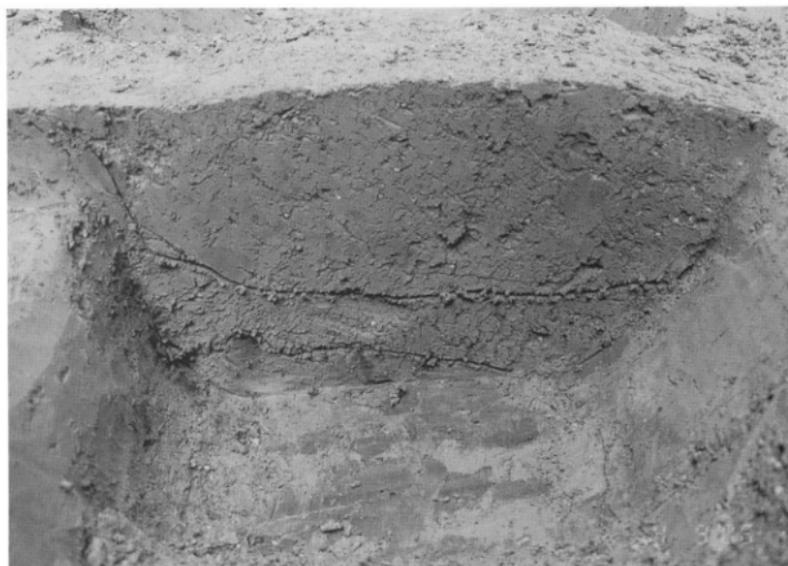
1. 第62次第12層上面遺構 足跡群1 2地区 西より



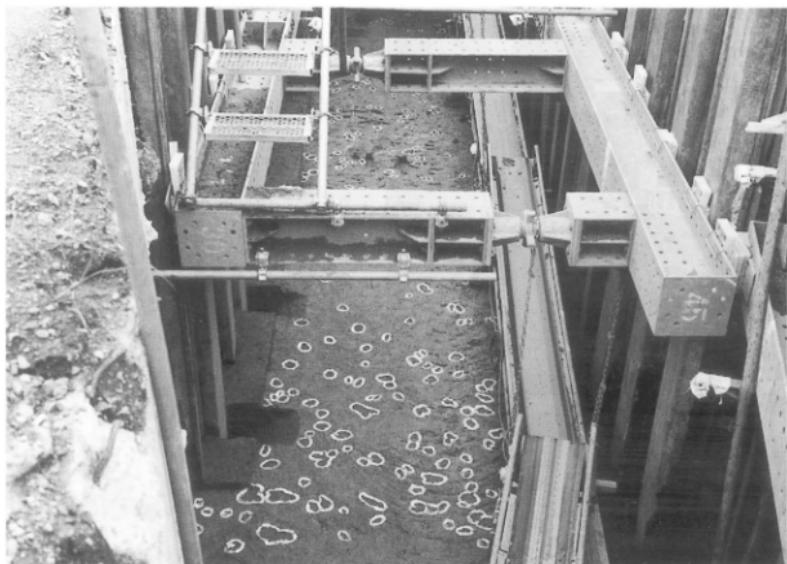
2. 第62次第12層上面遺構 溝2・土坑35 9地区 東より



1. 第62次第11層上面遺構 溝3 1~6地区 北より



2. 第62次第11層上面遺構 溝3断面 2地区 南より



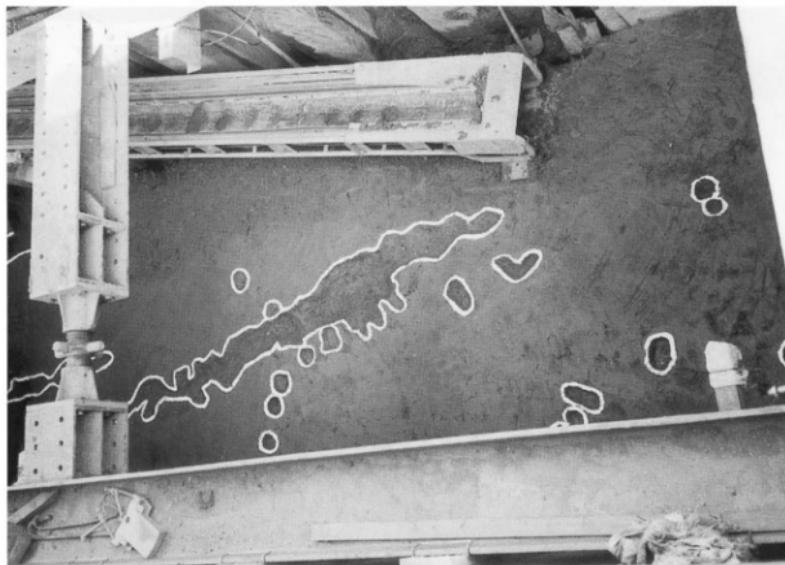
1. 第62次第10層上面遺構 足跡群2 4~6地区 南より



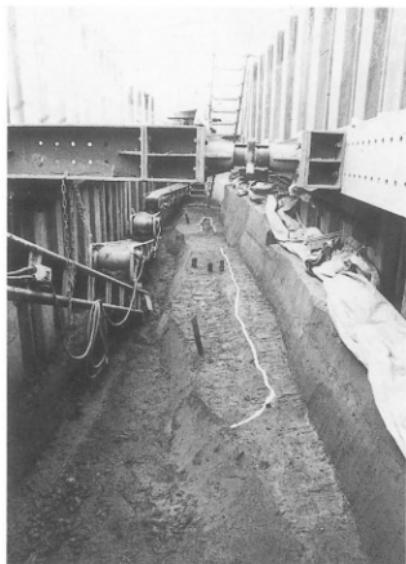
2. 第62次第10層上面遺構 足跡群2 6~9地区 南より



1. 第62次第8層上面遺構 溝6・足跡群3 2~4地区 北より



2. 第62次第8層上面遺構 溝7~9 8・9地区 西より



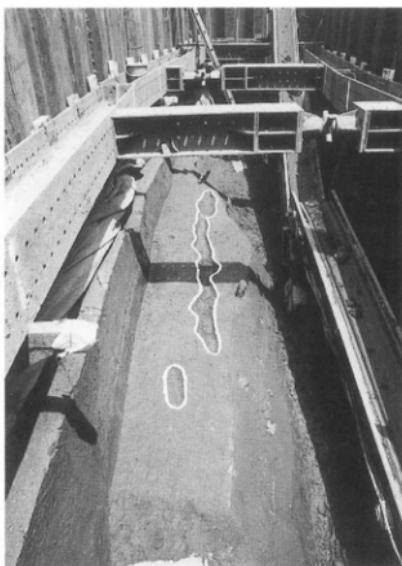
1. 第62次第7B層上面遺構 滝10 3~5地区 北より



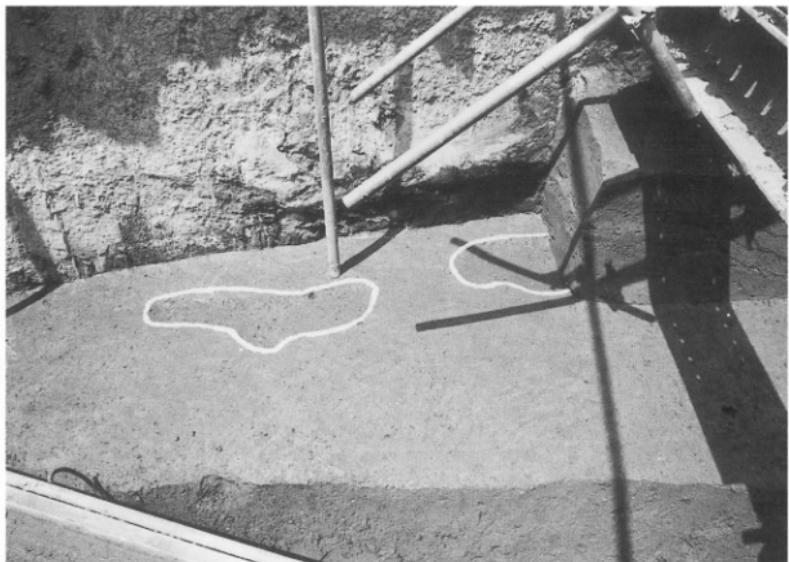
2. 第62次第7B層上面遺構 滝10断面1 3地区 南より



1. 第62次第7B層上面遺構 溝10断面2 5地区 南より



2. 第62次第7A層上面遺構 溝11 3・4地区 南より



1. 第62次第7 A層上面遺構 溝12 6地区 東より



2. 第62次第3層上面遺構 井路 1～6地区 南より



1. 第62次第3層上面遺構 井路 杭打設状況 3地区 西より



2. 第62次第3層上面遺構 井路 杭打設状況 5地区 西より



1. 第62次第3層上面遺構 大溝2 4・5地区 東より



2. 第62次第3層上面遺構 溝13 木桶出土状況 3地区 東より



第62次大溝1出土弥生土器 壺・甕・高杯



111



77



118



93



201



194



103

第62次大溝1・第15層出土弥生土器　甌・壺



286



219



294



237



340



285



349

第62次第15層出土弥生土器 壺



373



364



372



365



374



383

第62次第15層出土弦生土器 壺・細頸壺



413



400'



414



400



422



404



421



412

第62次第15層出土陶土器　蓋・蓋・高杯



453



445



447



444



449



448



443



446

第62次第15層出土弥生土器 高杯



450



462



451



464



452



467



455

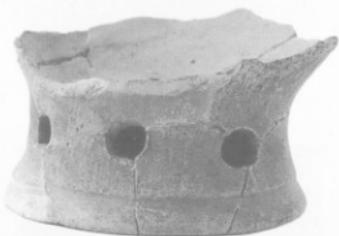
第62次第15層出土泥生土器 高杯



473



468



474



470



561



561'

第62次第15層出土弥生土器 高杯・水差形土器



572



572'



526



548



589



580



590



581



725



650



595



603

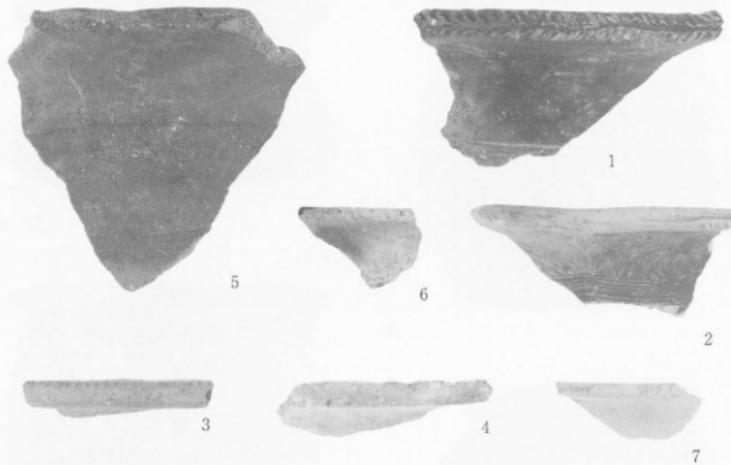


624

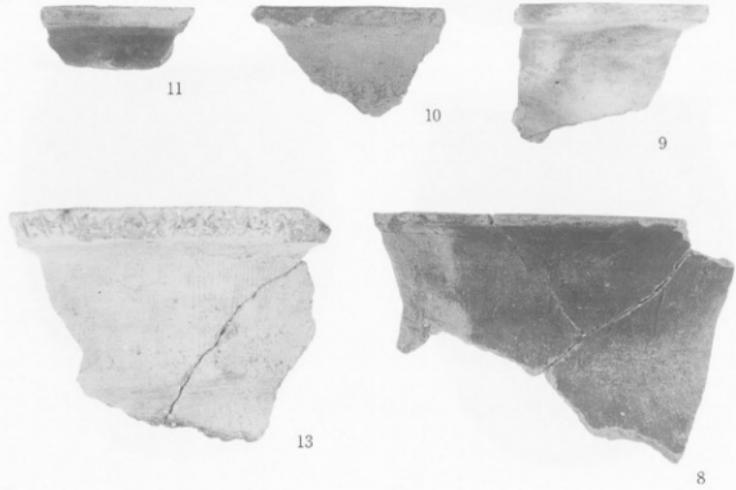


658

第62次第15層出土弦生土器 壺



1. 第62次大溝1出土弥生土器 壺



2. 第62次大溝1出土弥生土器 壺



15



18



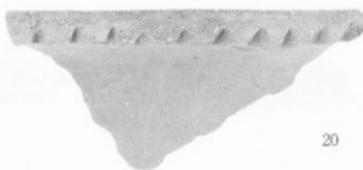
17



19



16



20

1. 第62次大溝1出土弥生土器 壺



21



23



22

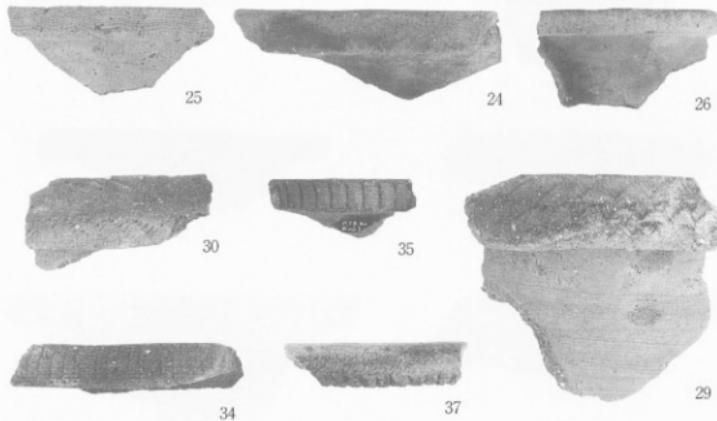


14

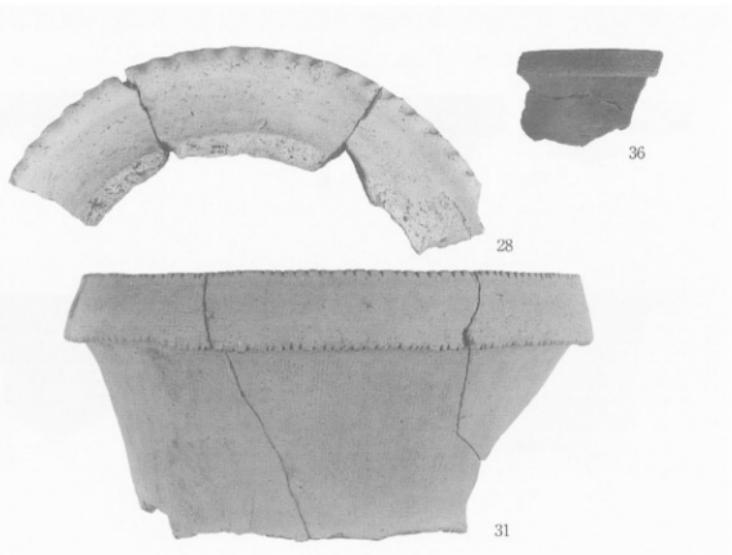


27

2. 第62次大溝1出土弥生土器 壺



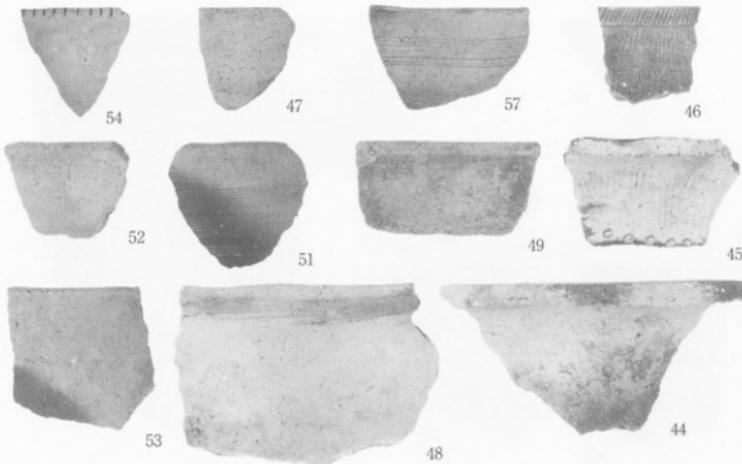
1. 第62次大溝1出土弥生土器 壺



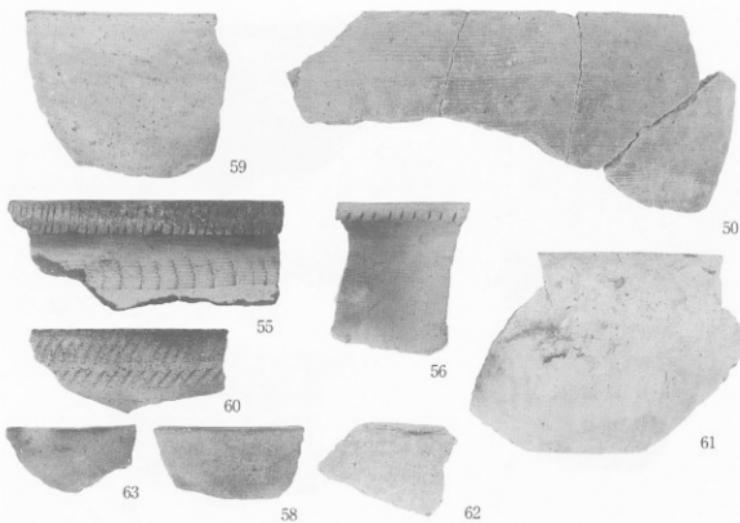
2. 第62次大溝1出土弥生土器 壺



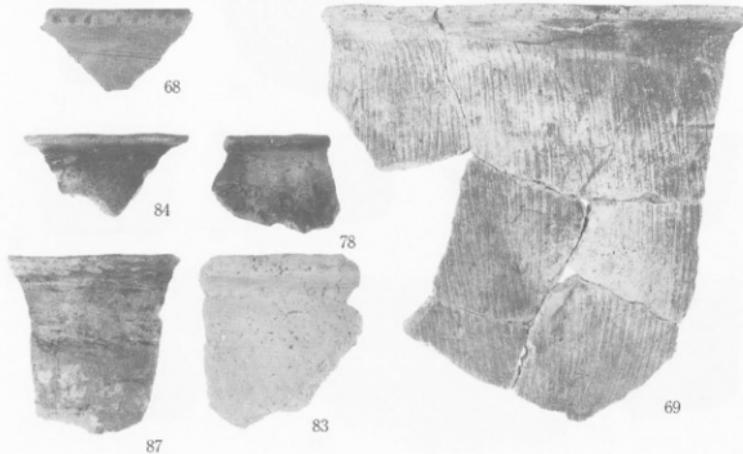
1. 第62次大溝1出土弥生土器 壺



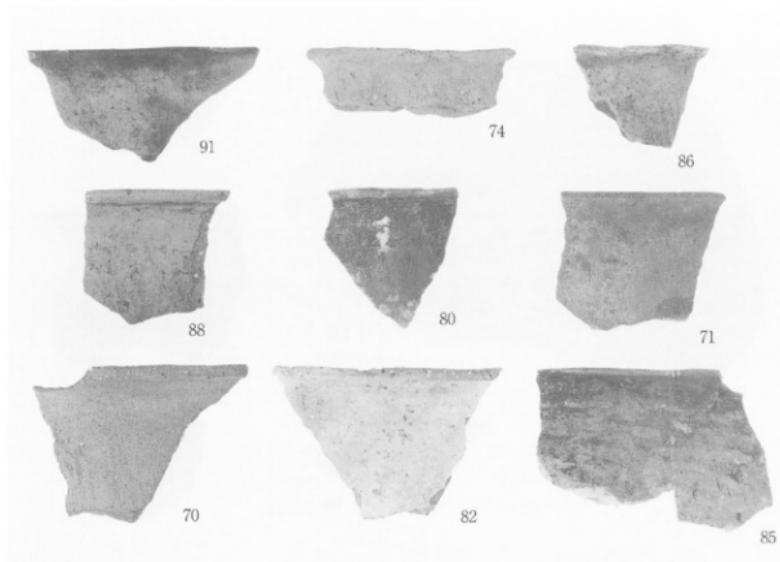
2. 第62次大溝1出土弥生土器 壺・無頭壺・長頭壺・鉢



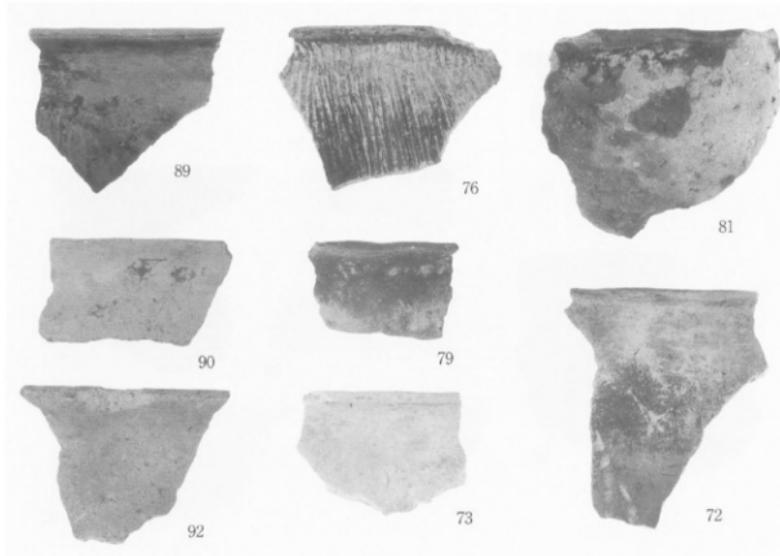
1. 第62次大溝1出土弥生土器 鉢・高杯



2. 第62次大溝1出土弥生土器 壺



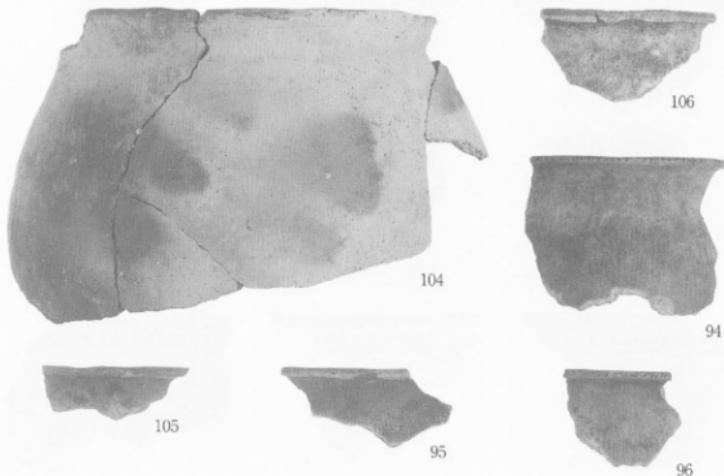
1. 第62次大溝1出土弥生土器 瓢



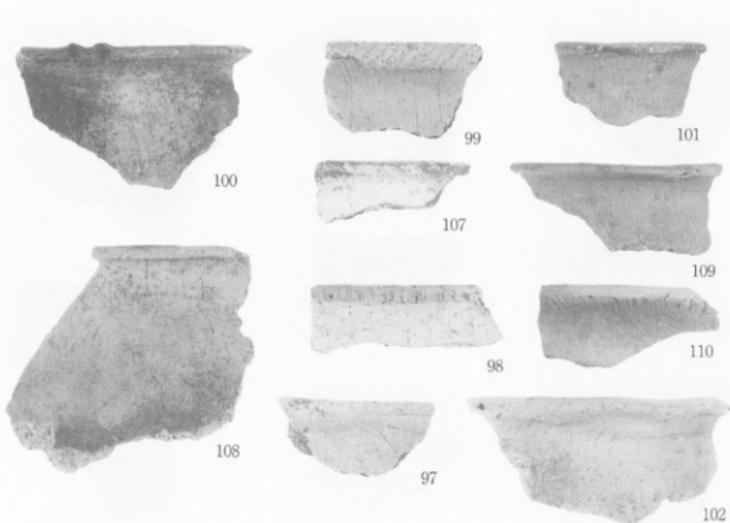
2. 第62次大溝1出土弥生土器 瓢

図版
42

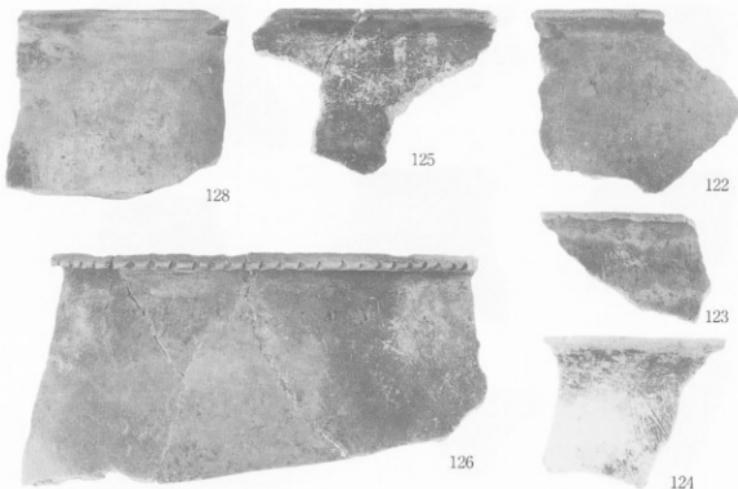
遺物



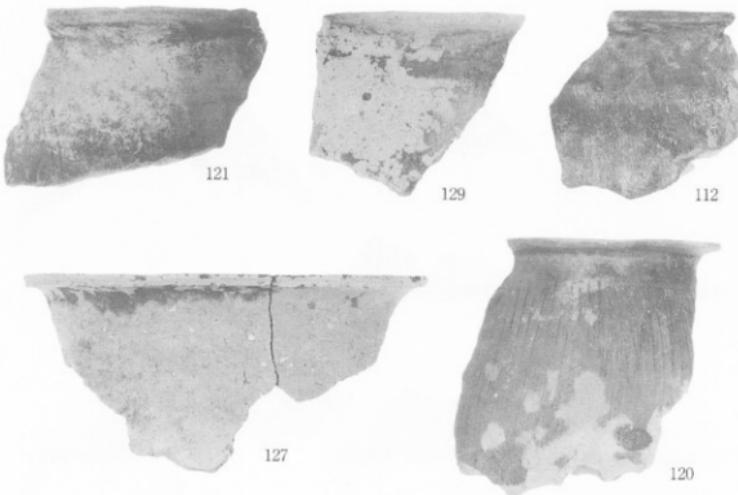
1. 第62次大溝1出土弥生土器 壺



2. 第62次大溝1出土弥生土器 壺



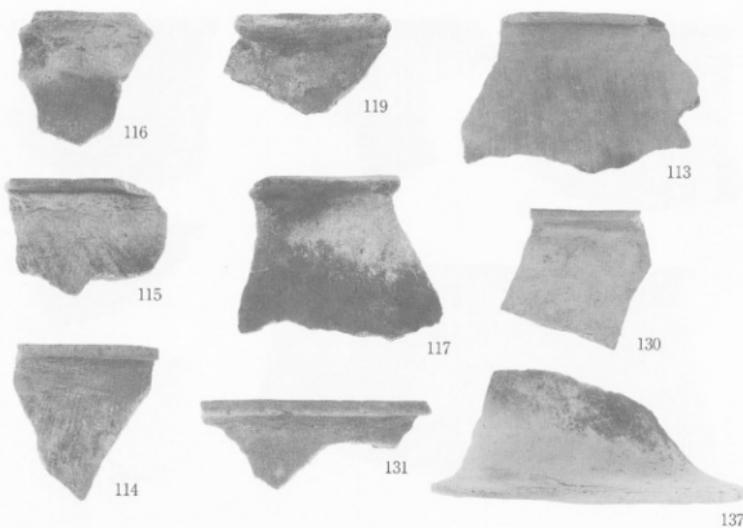
1. 第62次大溝1出土弥生土器 壺



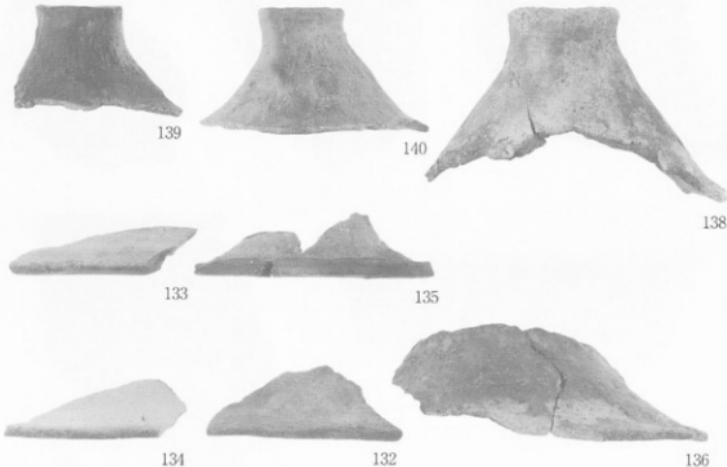
2. 第62次大溝1出土古生土器 壺

図版
44

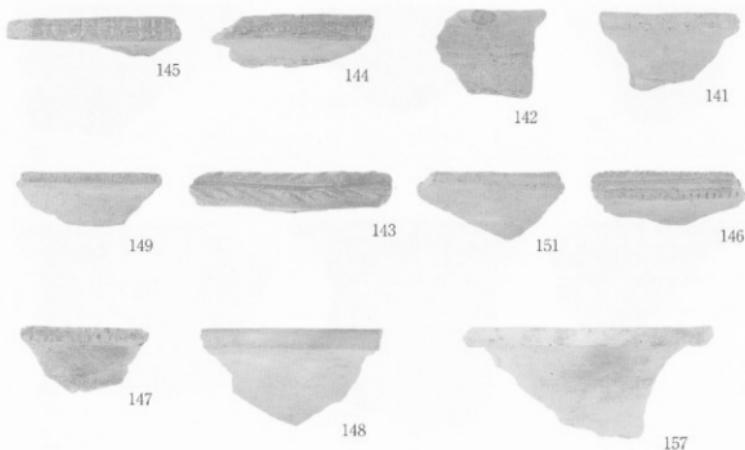
遺物



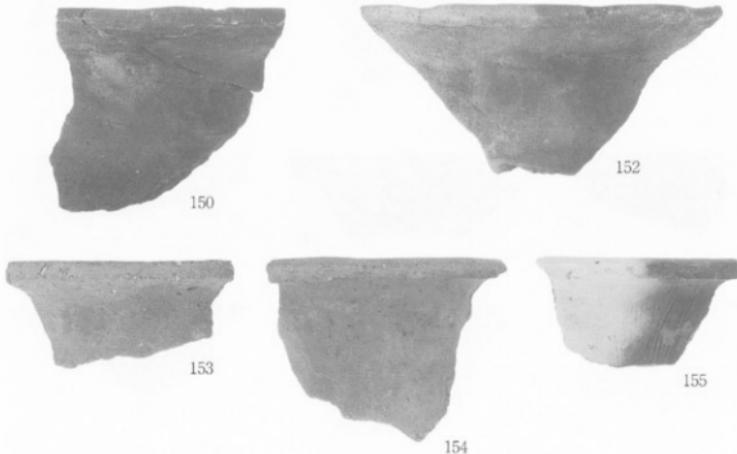
1. 第62次大溝1出土弥生土器 瓢・甕蓋



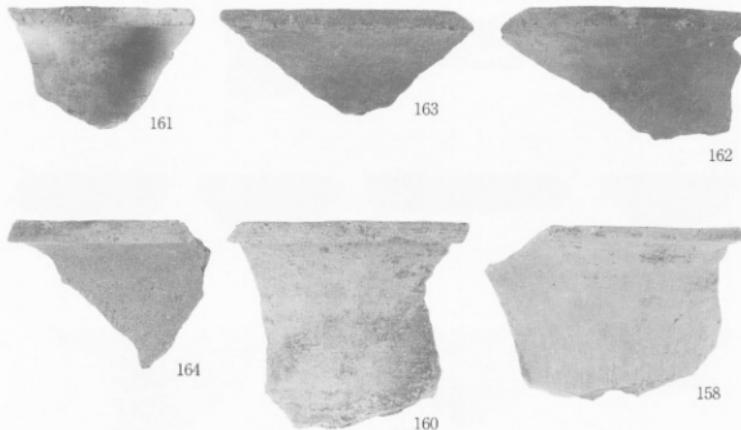
2. 第62次大溝1出土弥生土器 瓢蓋



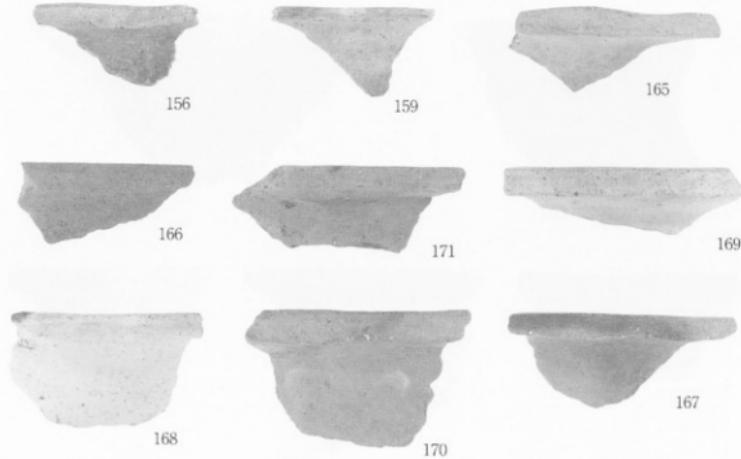
1. 第62次第15層出土弥生土器 壺



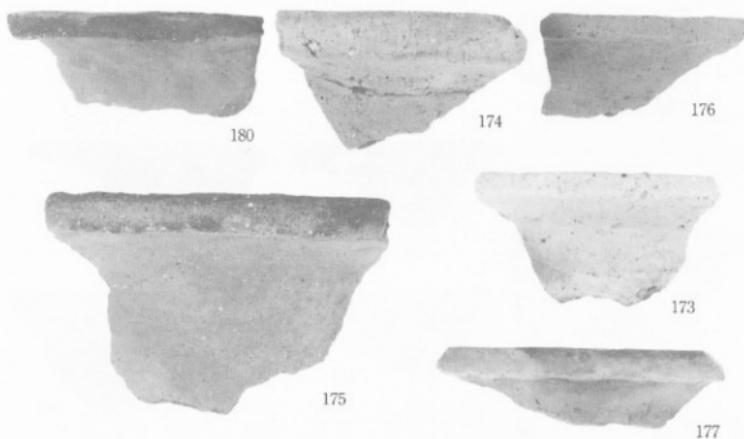
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺



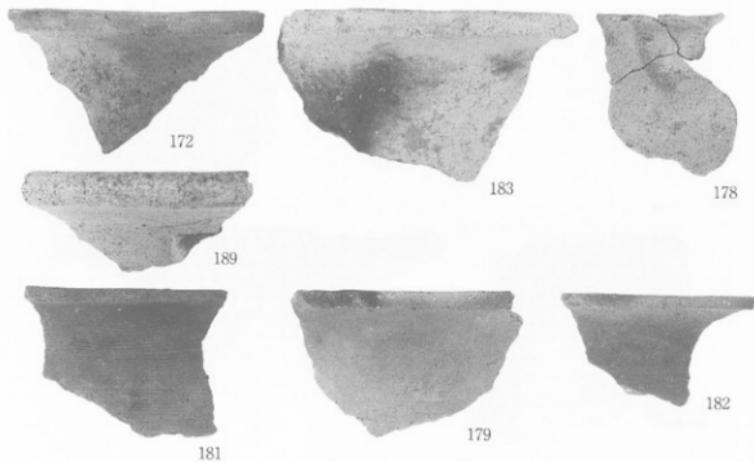
1. 第62次第15層出土弥生土器 壺



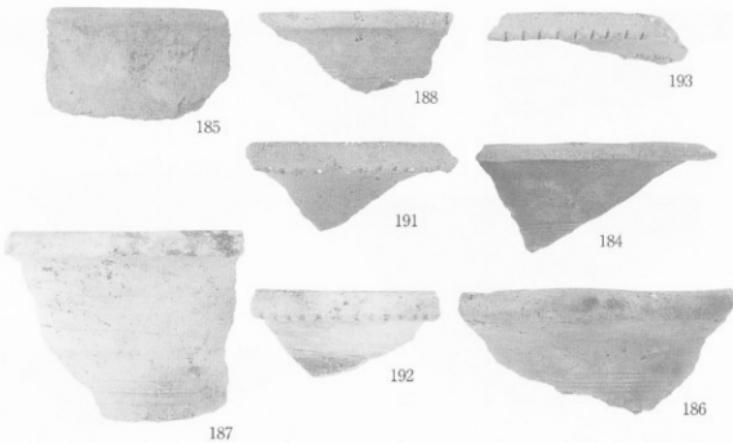
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺



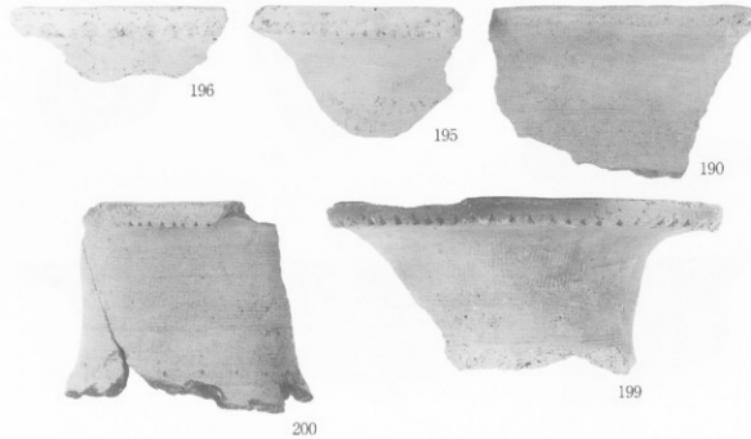
1. 第62次第15層出土赤生土器 壺



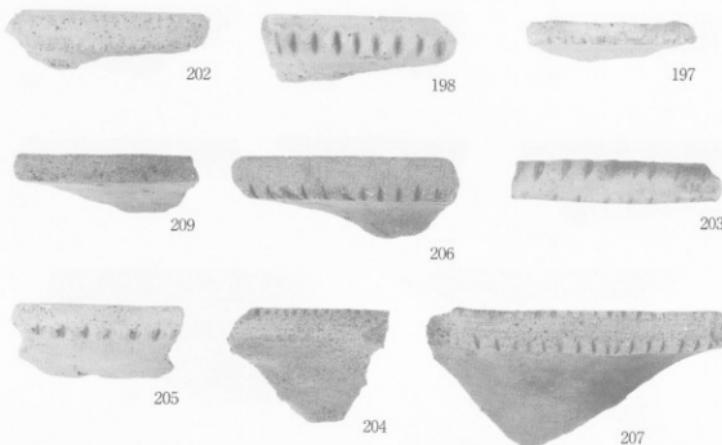
2. 第62次第15層出土赤生土器 壺



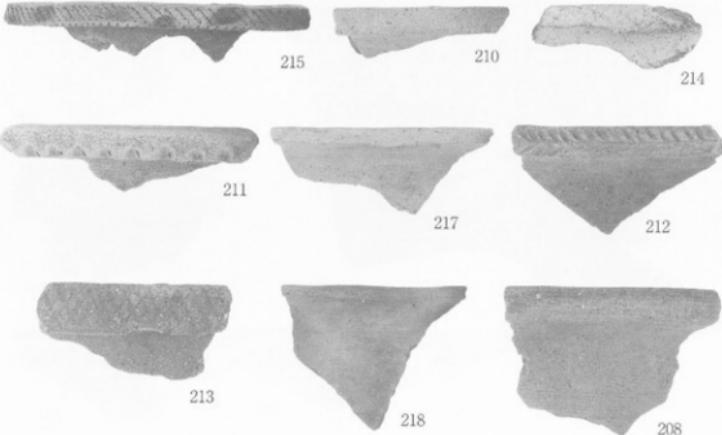
1. 第62次第15層出土弥生土器 瓶



2. 第62次第15層出土弥生土器 瓶

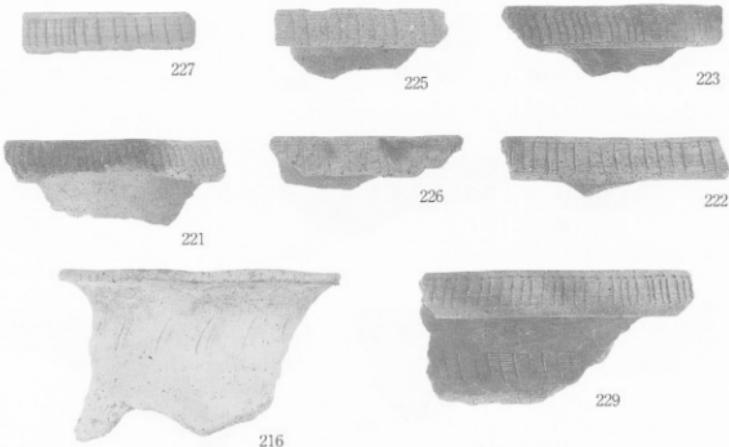


1. 第62次第15層出土弥生土器 壺

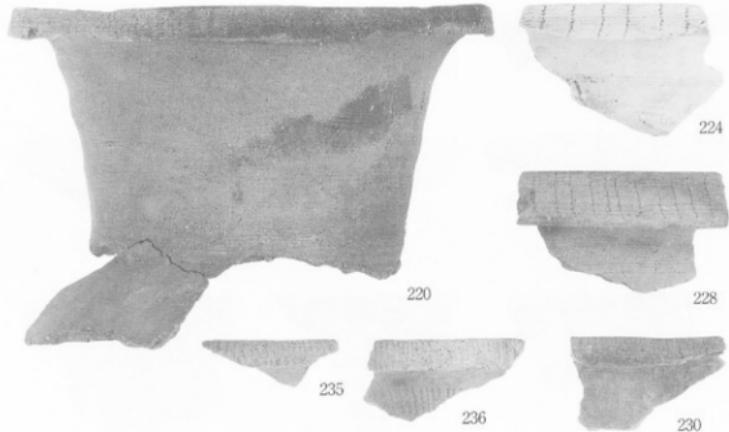


2. 第62次第15層出土弥生土器 壺

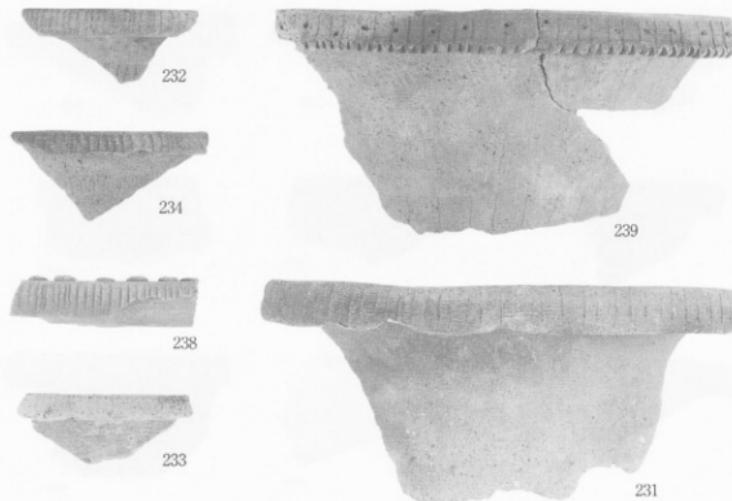
圖版
50
遺物



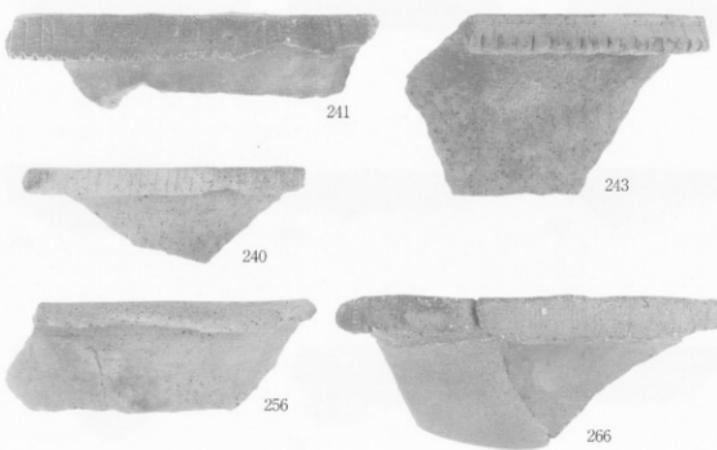
1. 第62次第15層出土弥生土器 瓢



2. 第62次第15層出土弥生土器 瓢

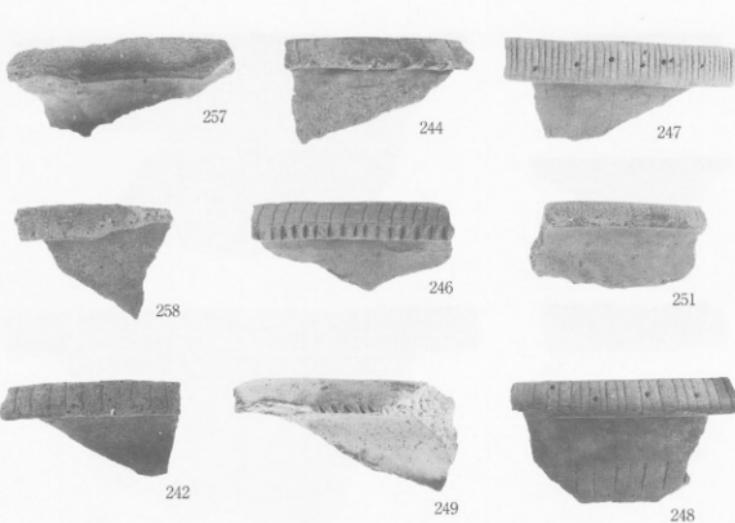


1. 第62次第15層出土弦生土器 壺

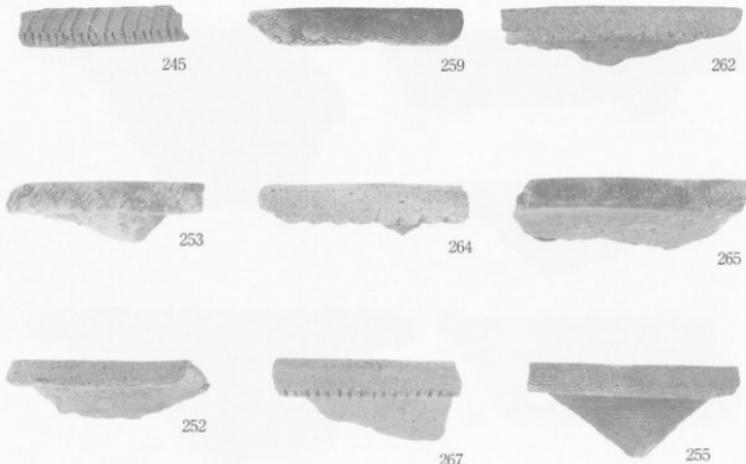


2. 第62次第15層出土弦生土器 壺

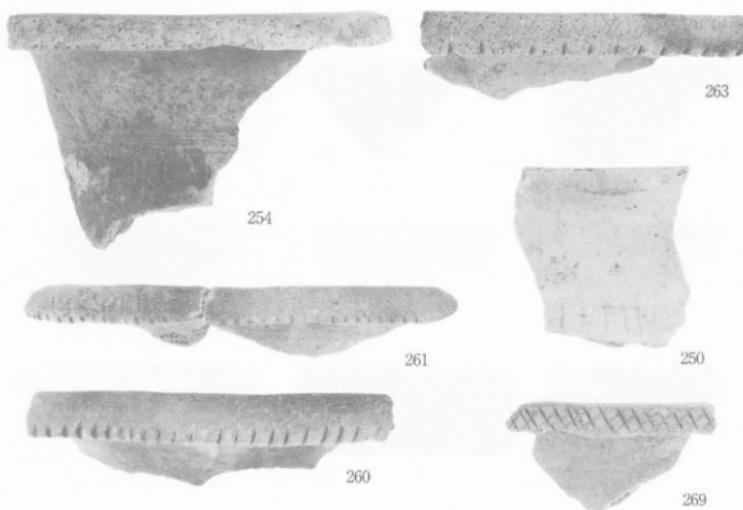
圖版
52
遺物



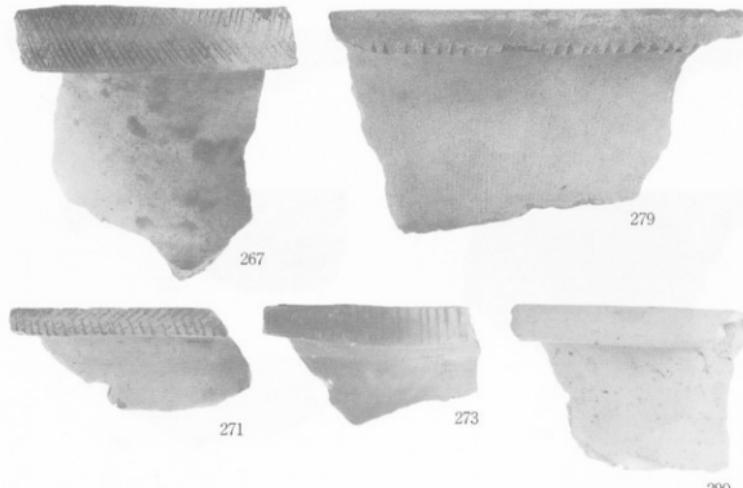
1. 第62次第15層出土弥生土器 壺



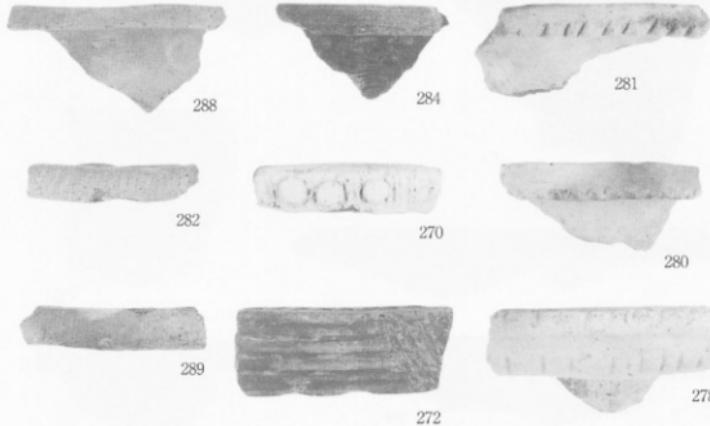
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺



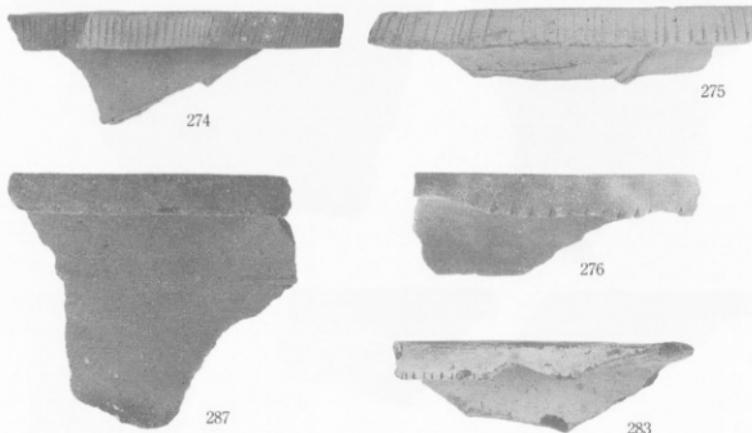
1. 第62次第15層出土弥生土器 壺



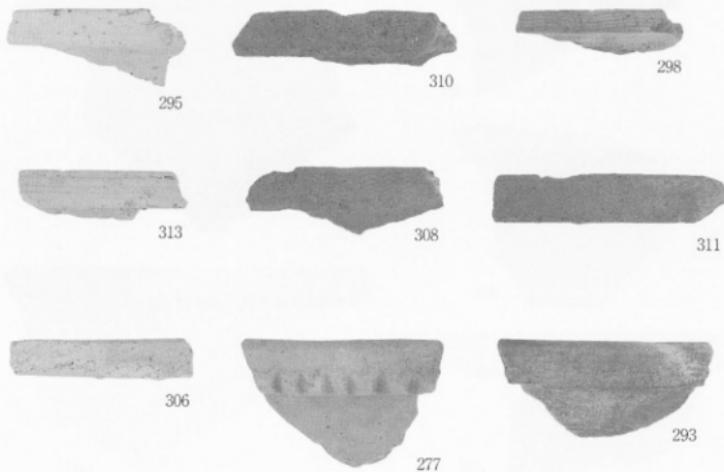
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺



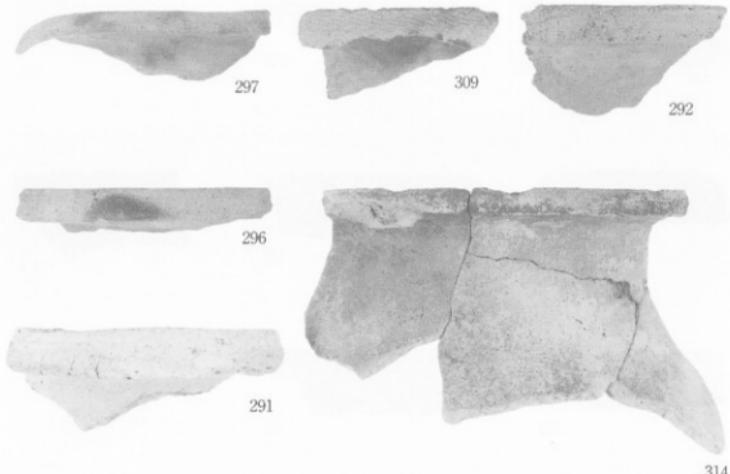
1. 第62次第15層出土弥生土器 瓢



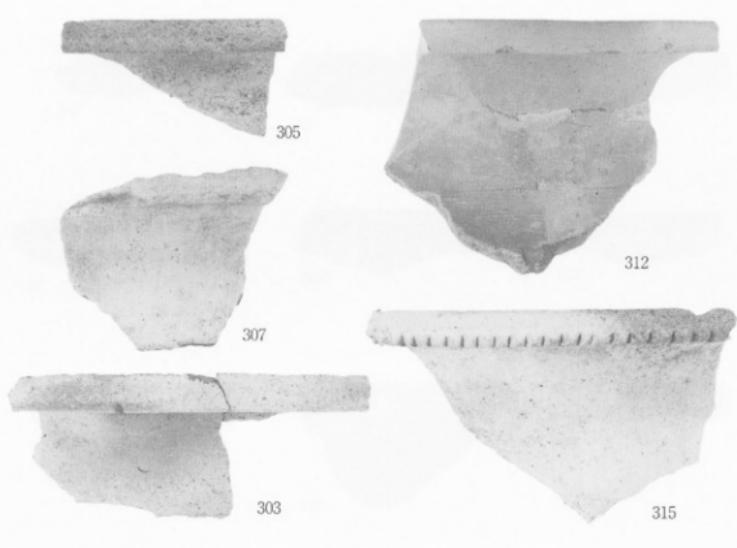
2. 第62次第15層出土弥生土器 瓢



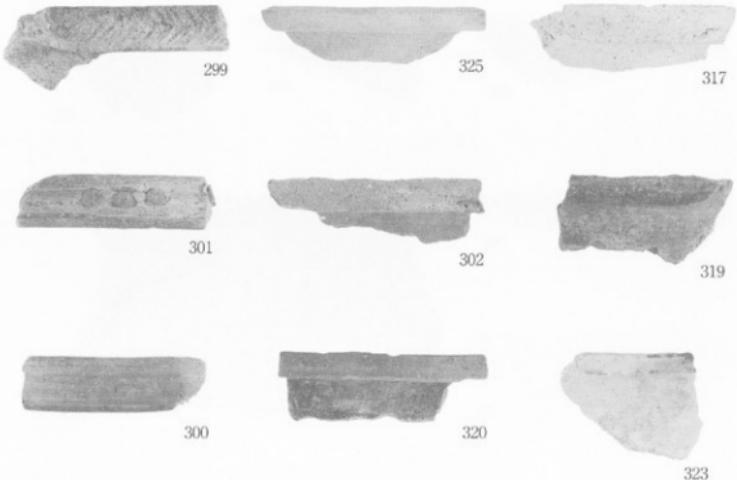
1. 第62次第15層出土弥生土器 壺



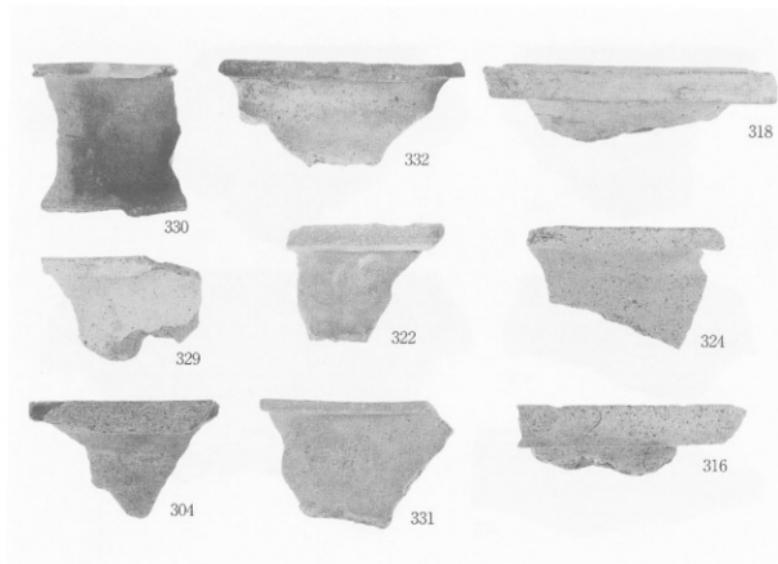
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺



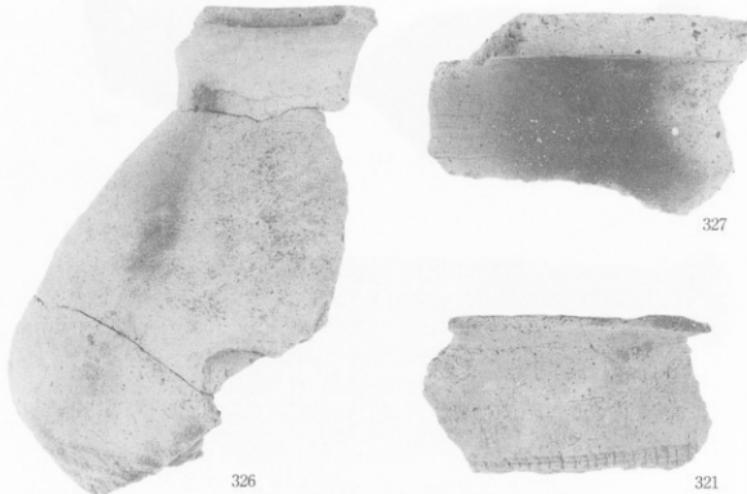
1. 第62次第15層出土弥生土器 壺



2. 第62次第15層出土弥生土器 壺



1. 第62次第15層出土弥生土器 壺

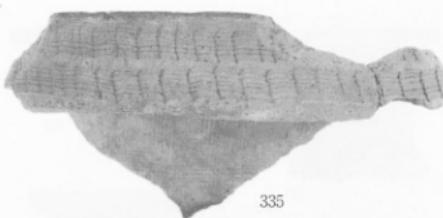


2. 第62次第15層出土弥生土器 壺

圖版
58
遺物



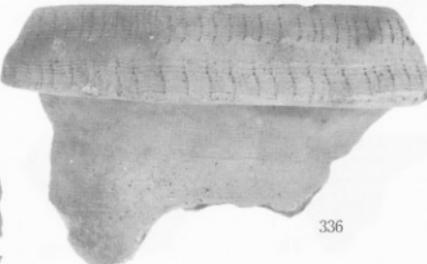
338



335



333



336



337

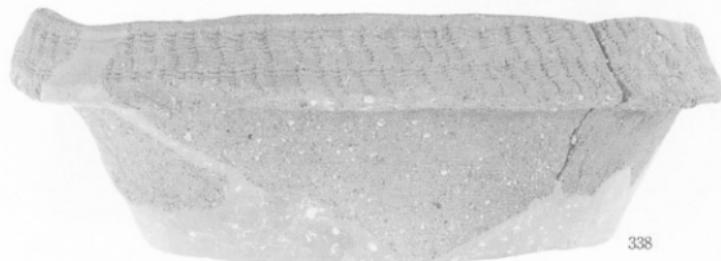
1. 第62次第15層出土弥生土器 壺



334

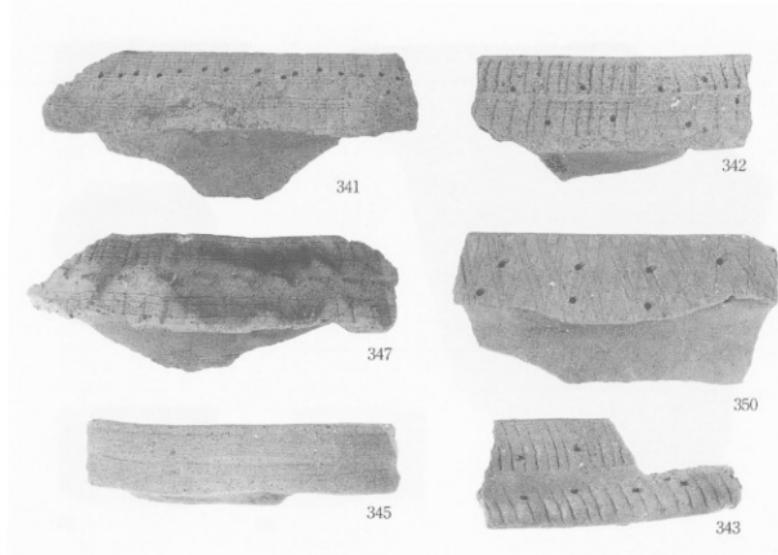


339

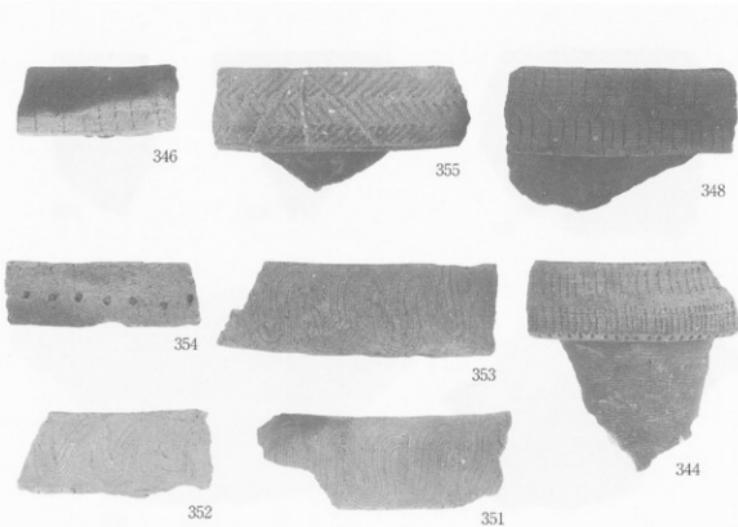


338

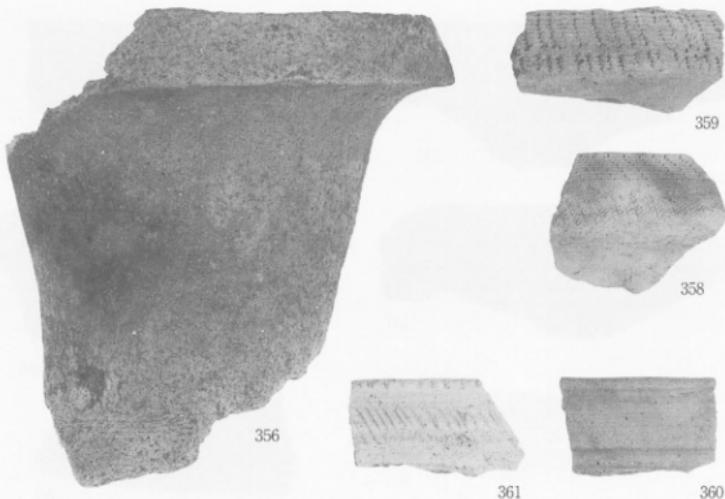
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺



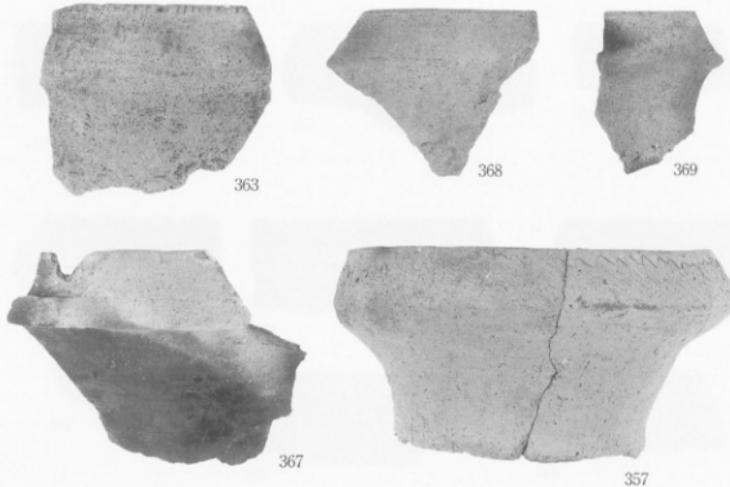
1. 第62次第15層出土弥生土器 壺



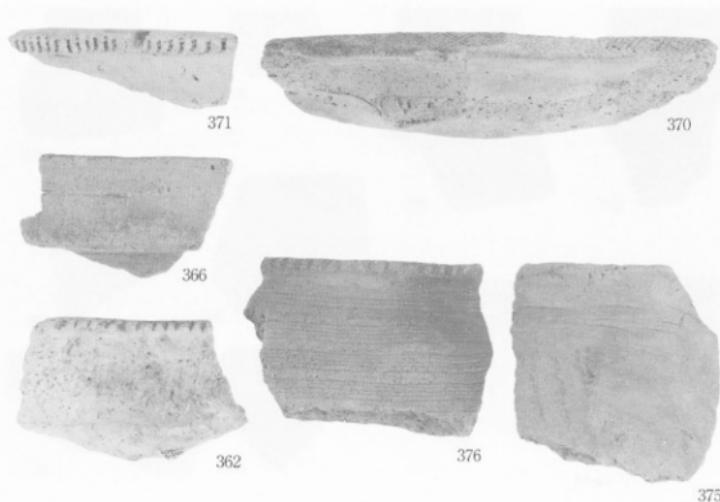
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺



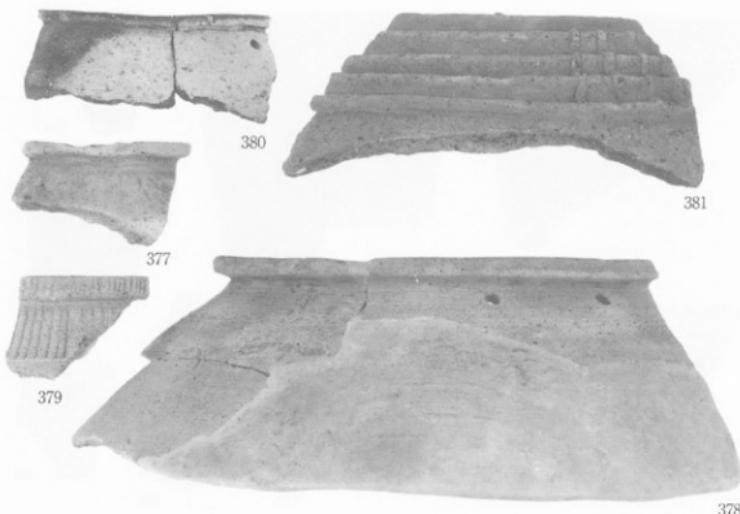
1. 第62次第15層出土弥生土器 壺



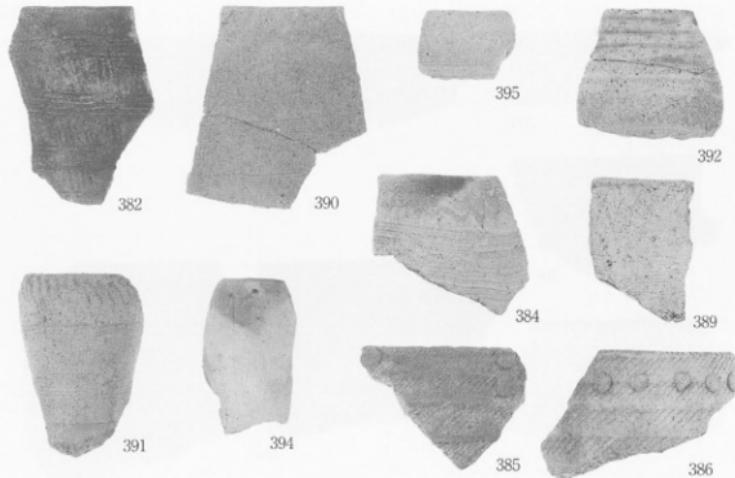
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺



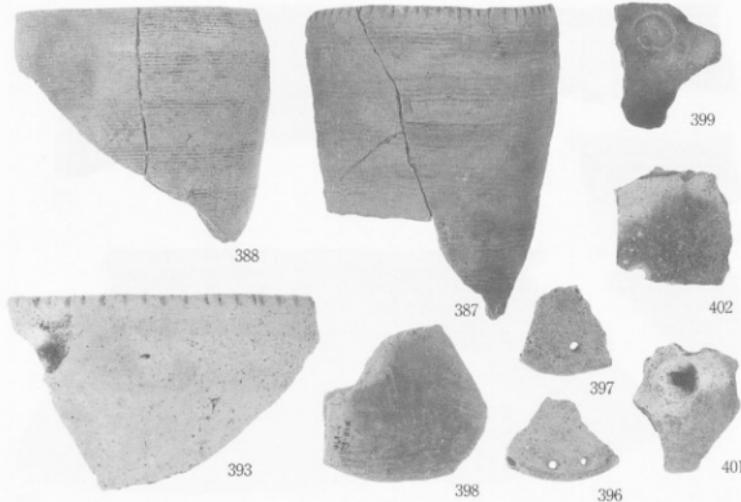
1. 第62次第15層出土赤生土器 壺・無頸壺



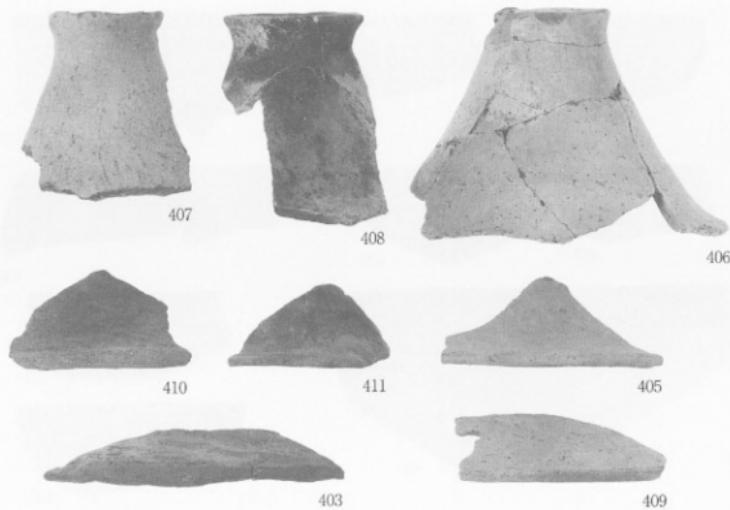
2. 第62次第15層出土赤生土器 無頸壺



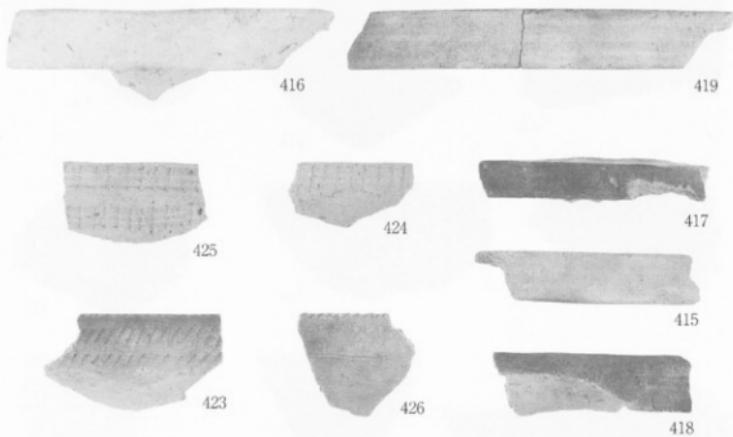
1. 第62次第15層出土弥生土器 長頸壺・細頸壺



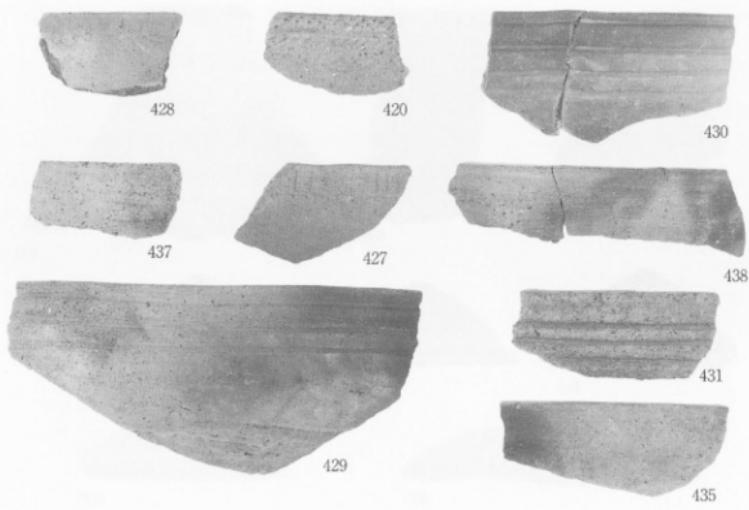
2. 第62次第15層出土弥生土器 細頸壺・壺蓋



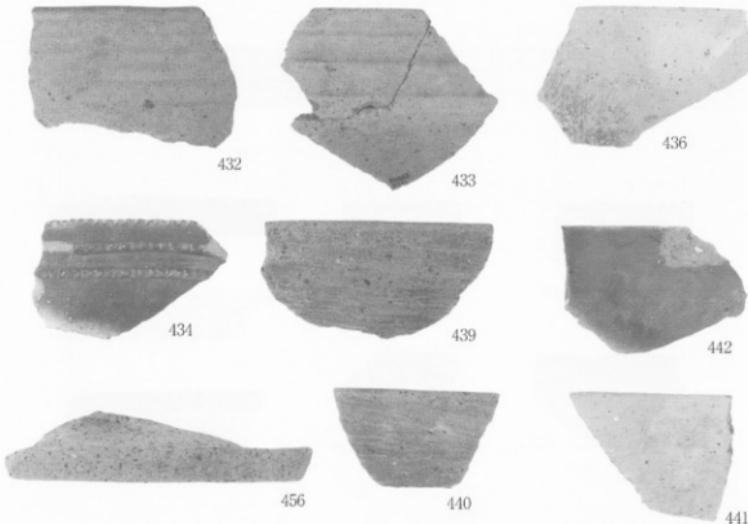
1. 第62次第15層出土弥生土器 麦蓋



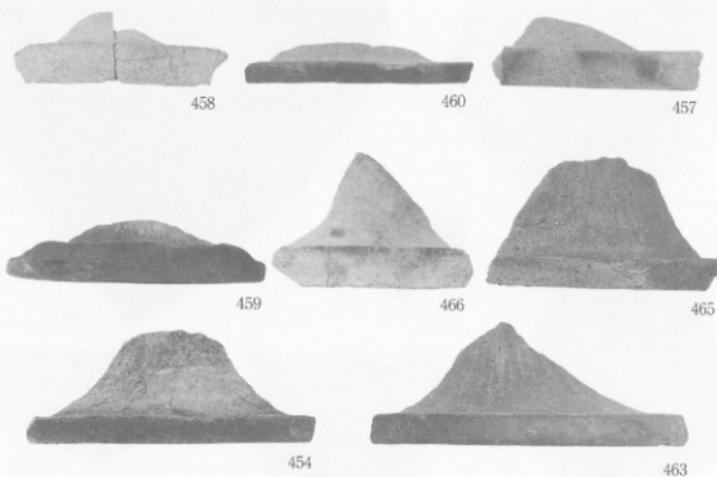
2. 第62次第15層出土弥生土器 高杯



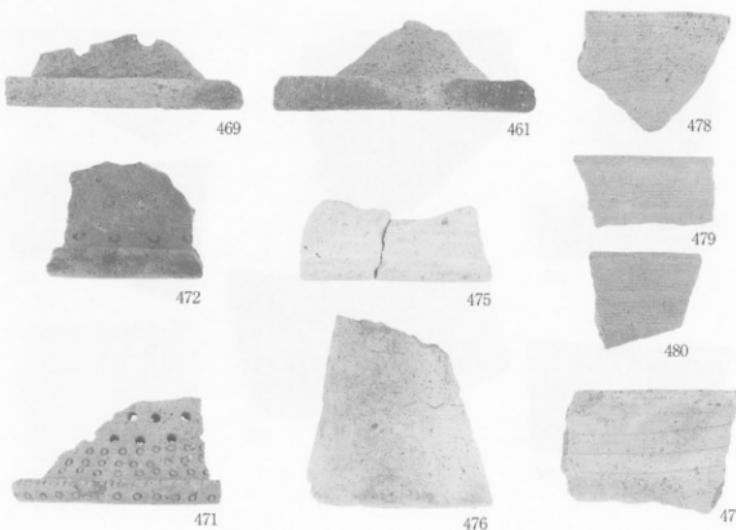
1. 第62次第15層出土弥生土器 高杯



2. 第62次第15層出土弥生土器 高杯

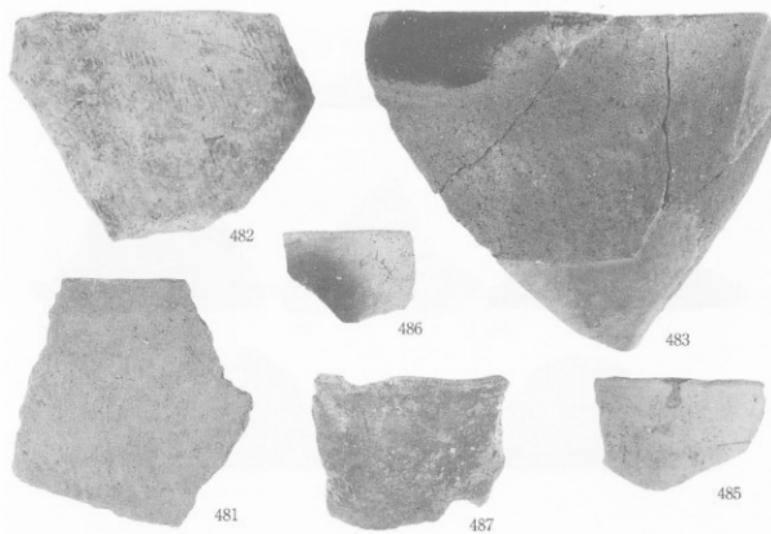


1. 第62次第15層出土弥生土器 高杯

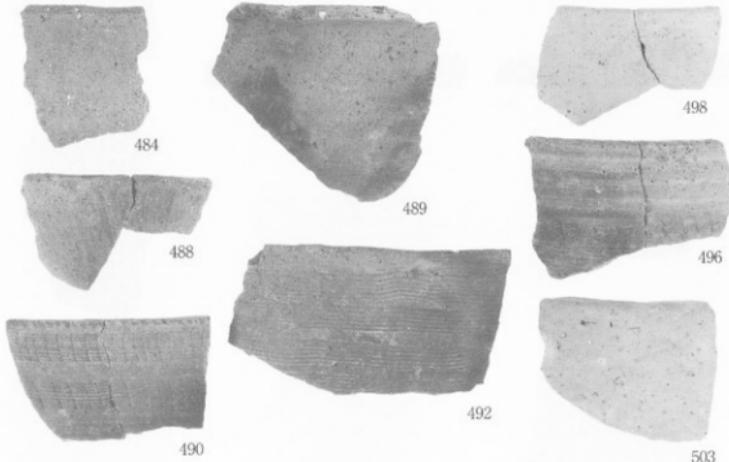


2. 第62次第15層出土弥生土器 高杯・鉢

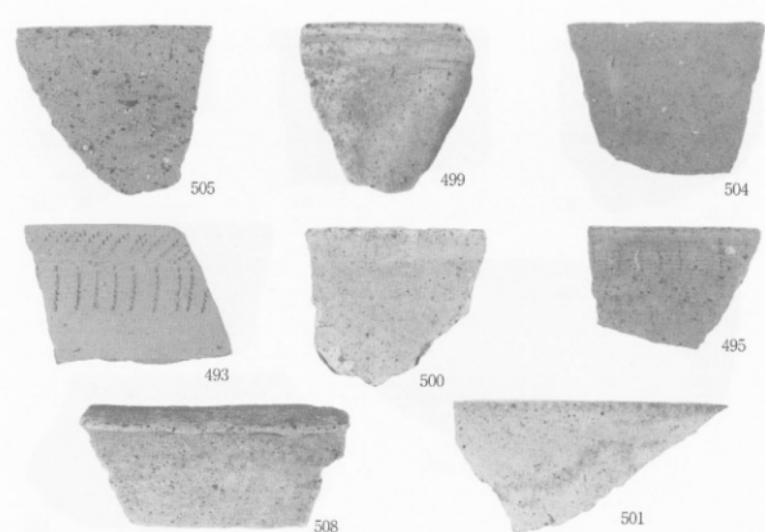
図版
66
遺物



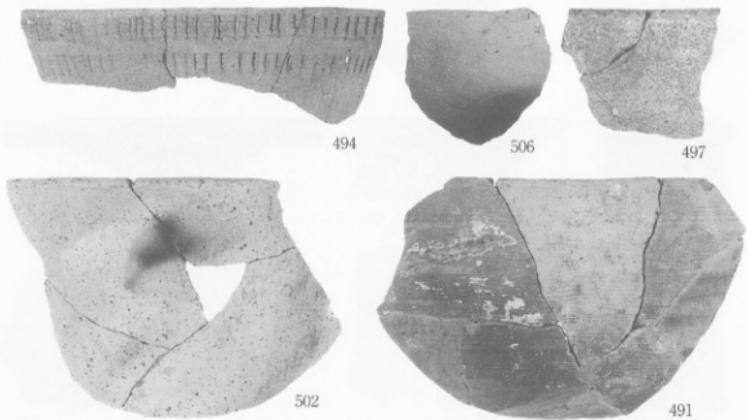
1. 第62次第15層出土弥生土器 鉢



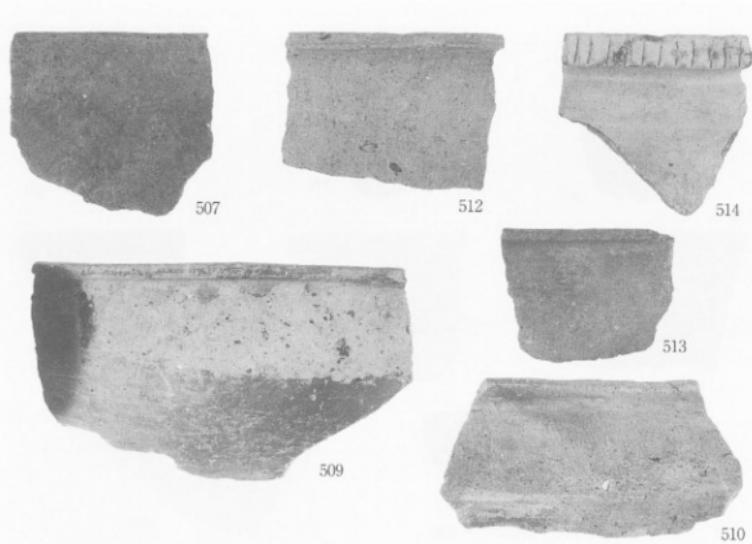
2. 第62次第15層出土弥生土器 鉢



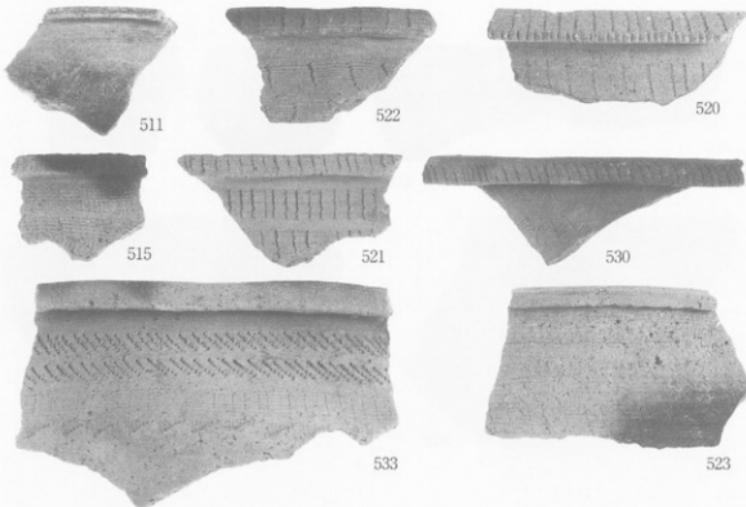
1. 第62次第15層出土Yusheng土器 鉢



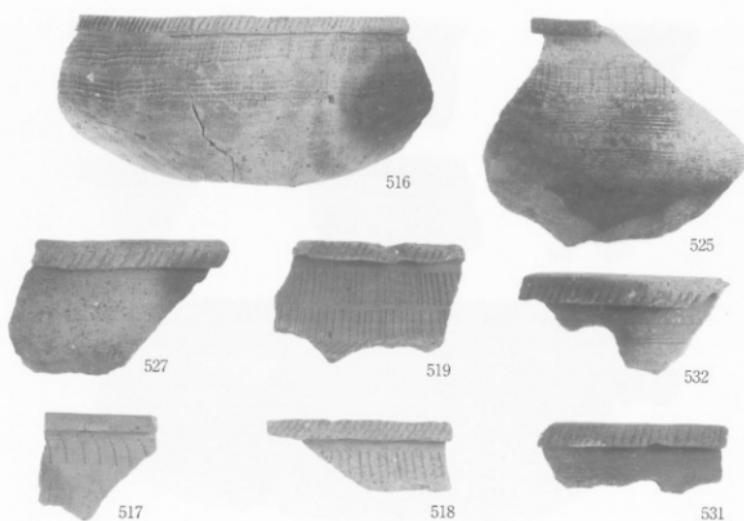
2. 第62次第15層出土Yusheng土器 鉢



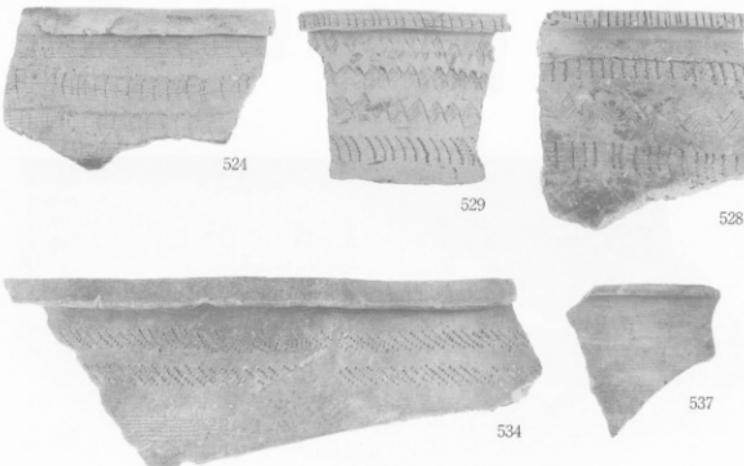
1. 第62次第15層出土弥生土器 鉢



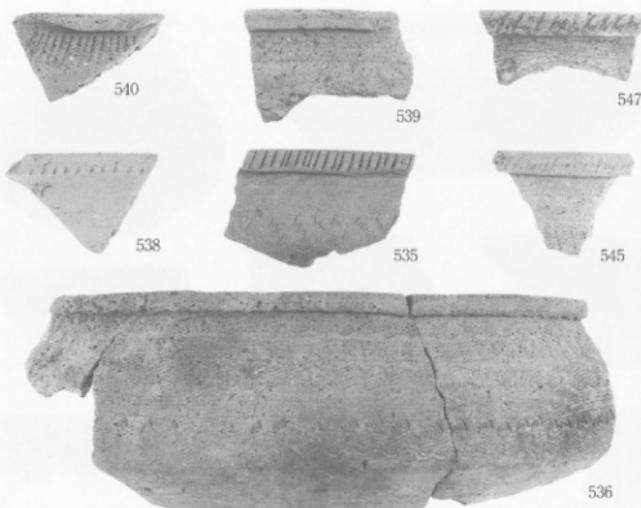
2. 第62次第15層出土弥生土器 鉢



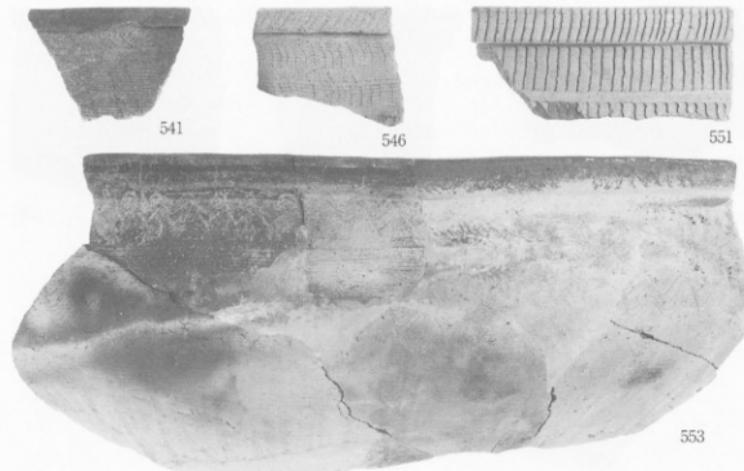
1. 第62次第15層出土弥生土器 鉢



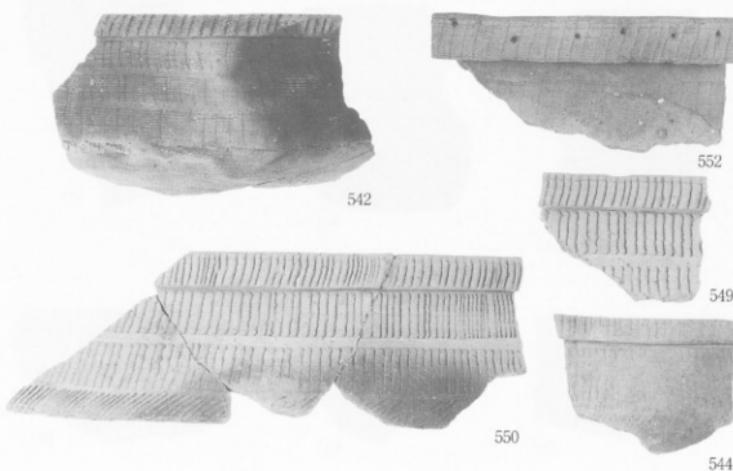
2. 第62次第15層出土蘇生土器 鉢



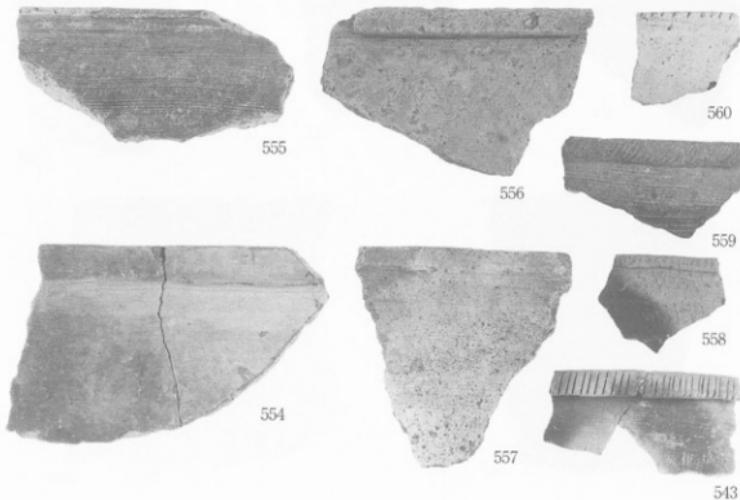
1. 第62次第15層出土弥生土器 鉢



2. 第62次第15層出土弥生土器 鉢



1. 第62次第15層出土弥生土器 鉢



2. 第62次第15層出土弥生土器 鉢

圖版
72
遺物



562



563



573



564

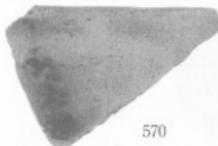


565



566

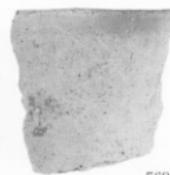
1. 第62次第15層出土弥生土器 瓢



570



571



569

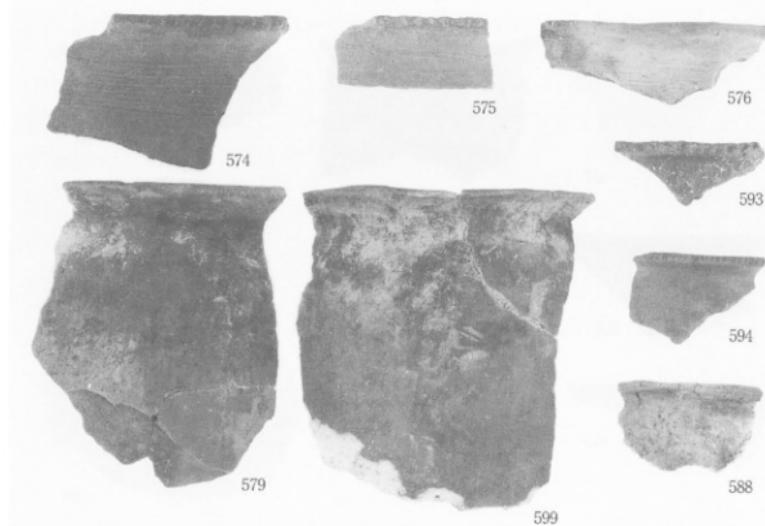


567

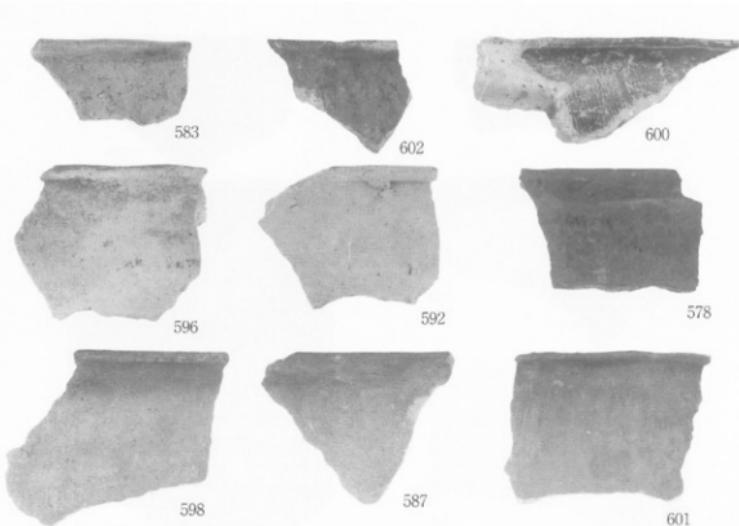


568

2. 第62次第15層出土弥生土器 瓢



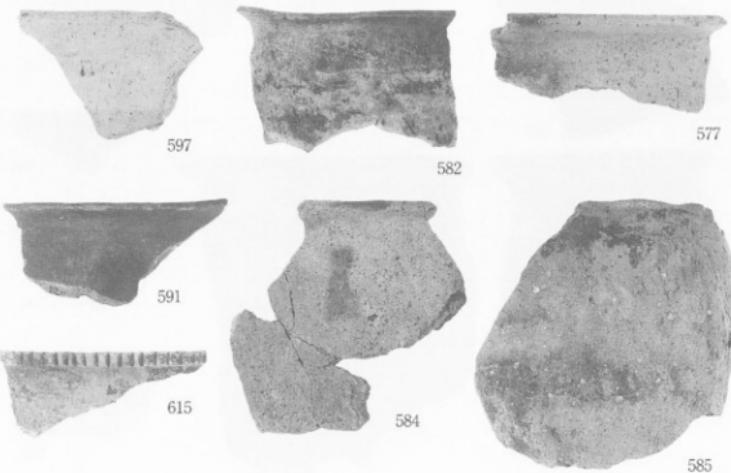
1. 第62次第15層出土弥生土器 壺



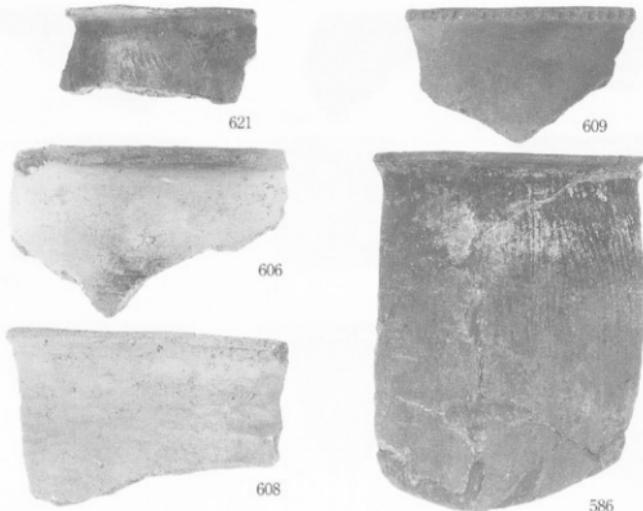
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺

圖版
74

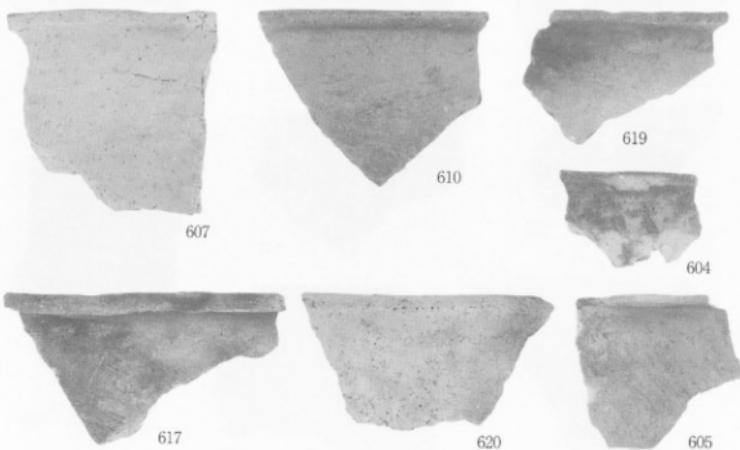
遺物



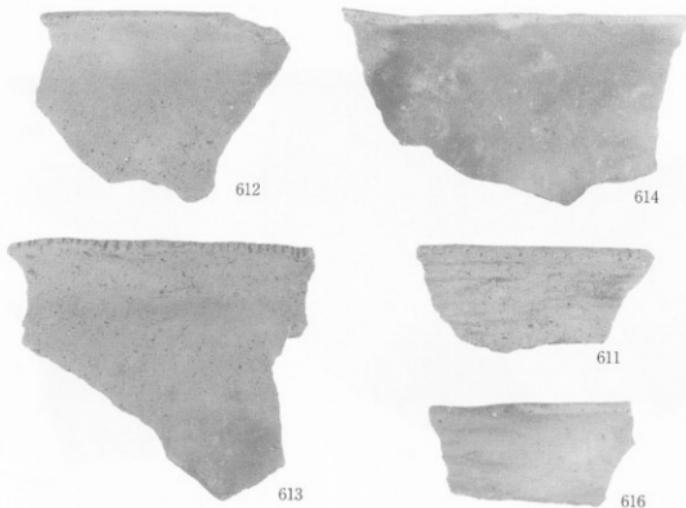
1. 第62次第15層出土弥生土器 烧



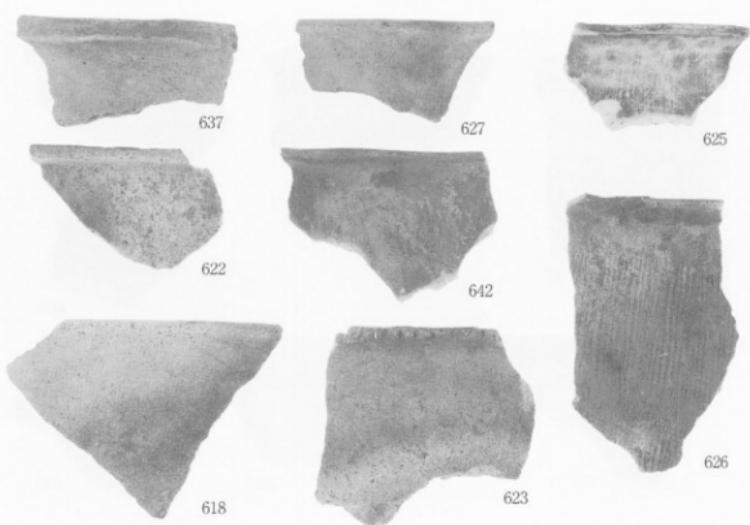
2. 第62次第15層出土弥生土器 烧



1. 第62次第15層出土弥生土器 壺



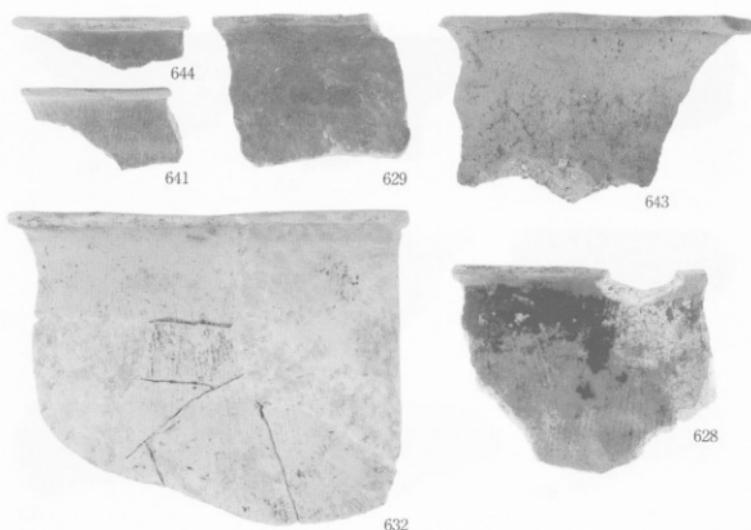
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺



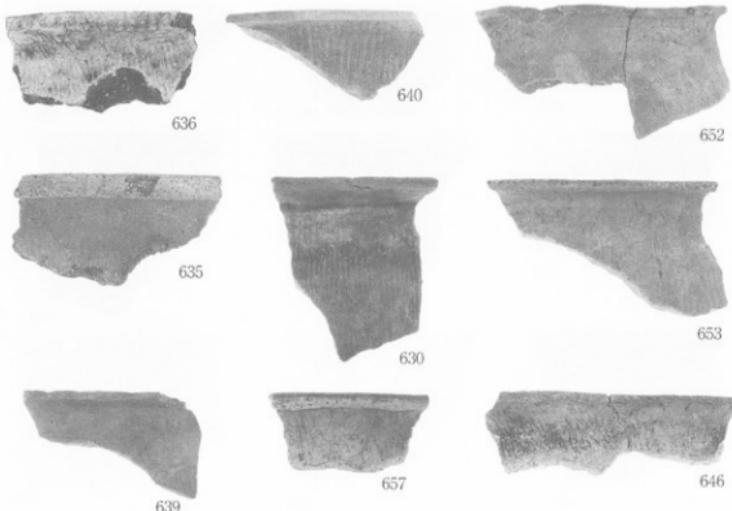
1. 第62次第15層出土弥生土器 壺



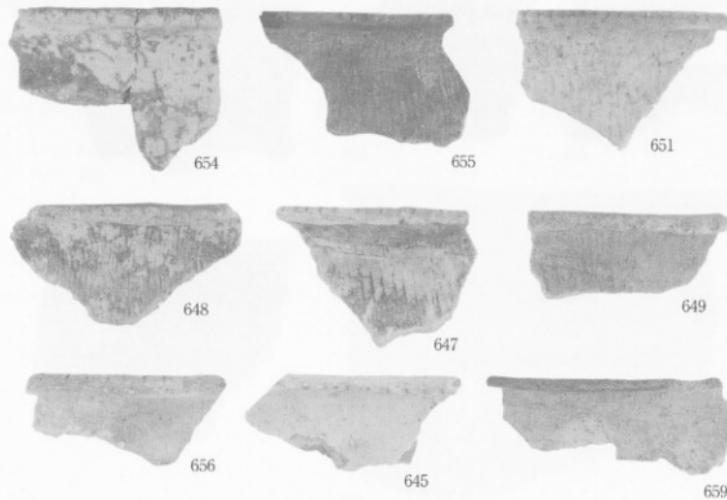
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺



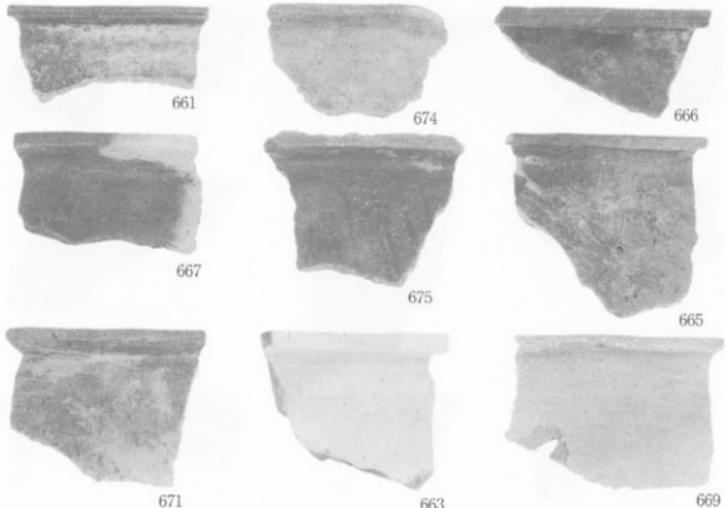
1. 第62次第15層出土弥生土器 瓢



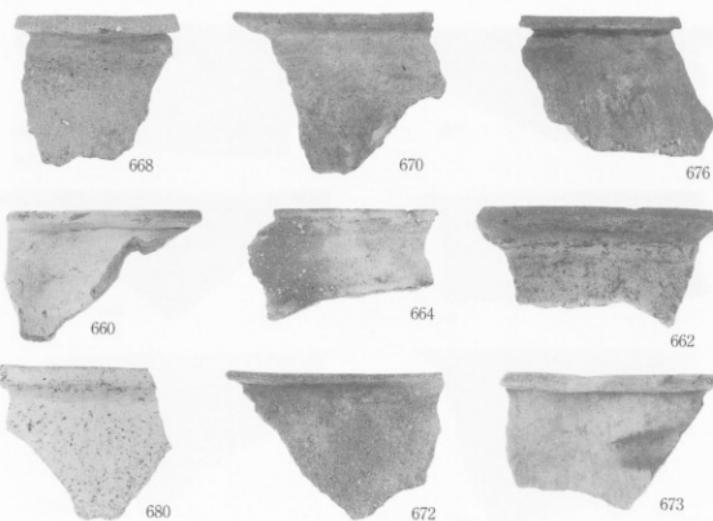
2. 第62次第15層出土弥生土器 瓢



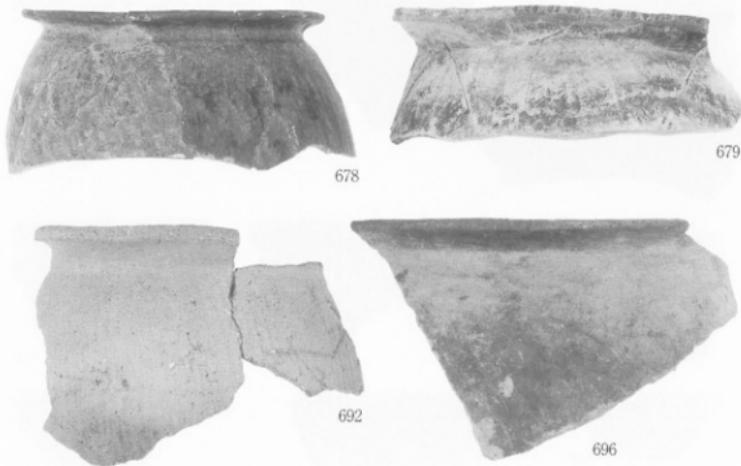
1. 第62次第15層出土弥生土器 瓢



2. 第62次第15層出土弥生土器 瓢

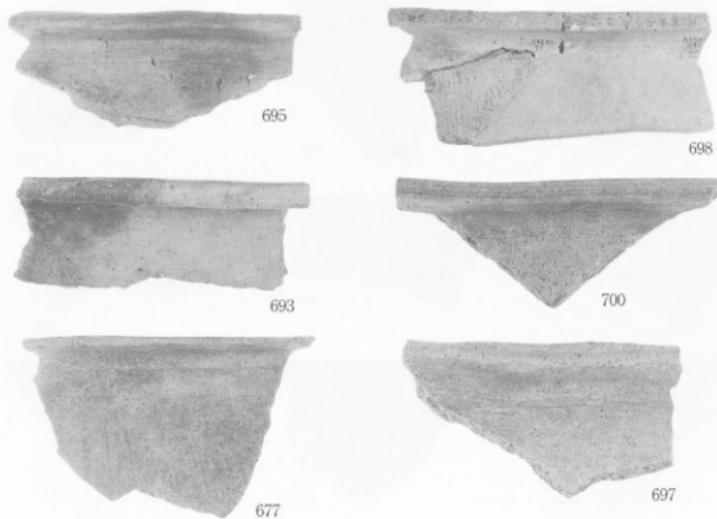


1. 第62次第15層出土器 片

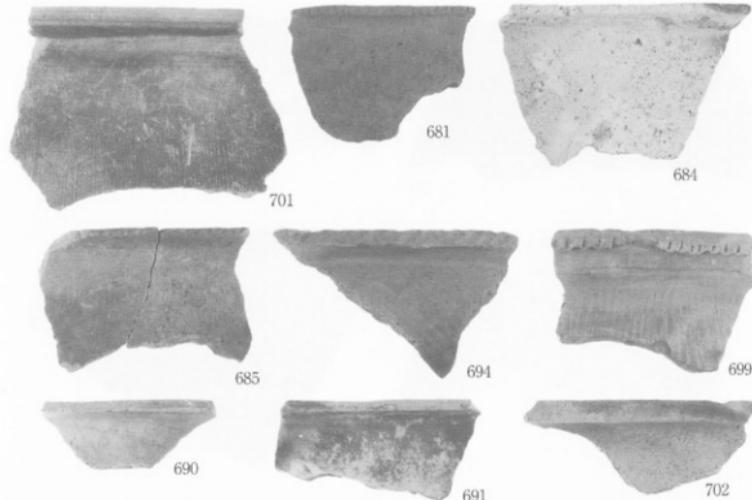


2. 第62次第15層出土器 片

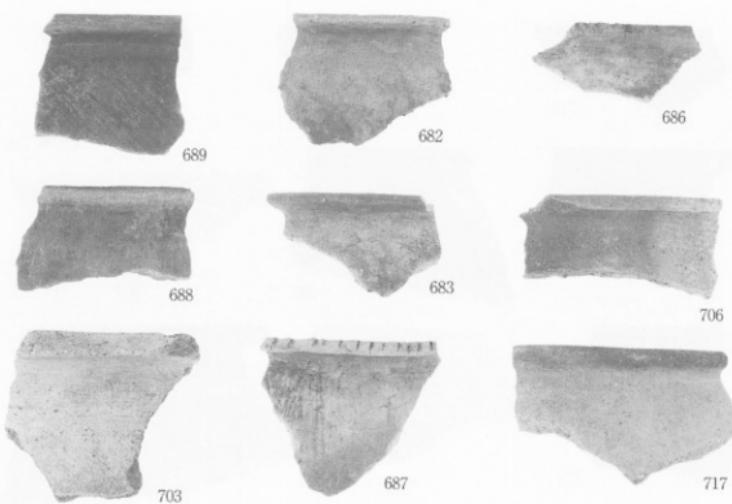
図版
80
遺物



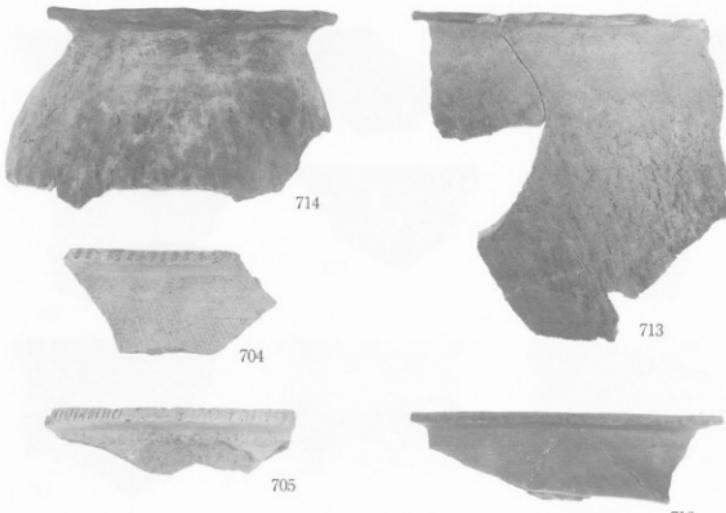
1. 第62次第15層出土弥生土器 壺



2. 第62次第15層出土弥生土器 壺

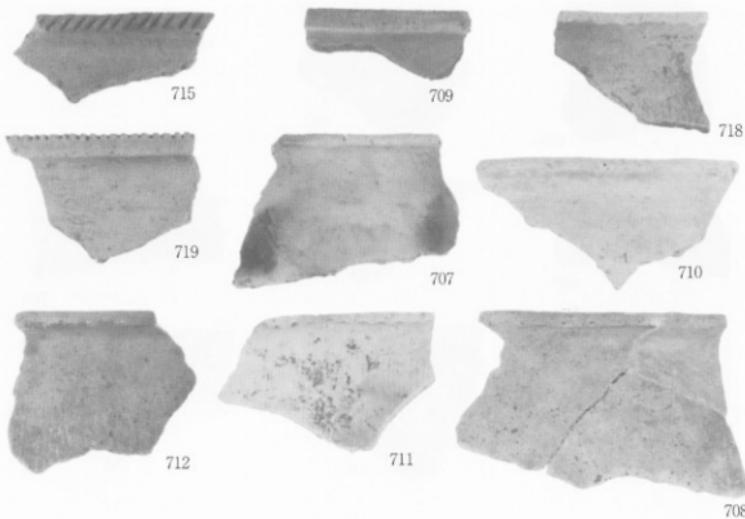


1. 第62次第15層出土弥生土器 瓢

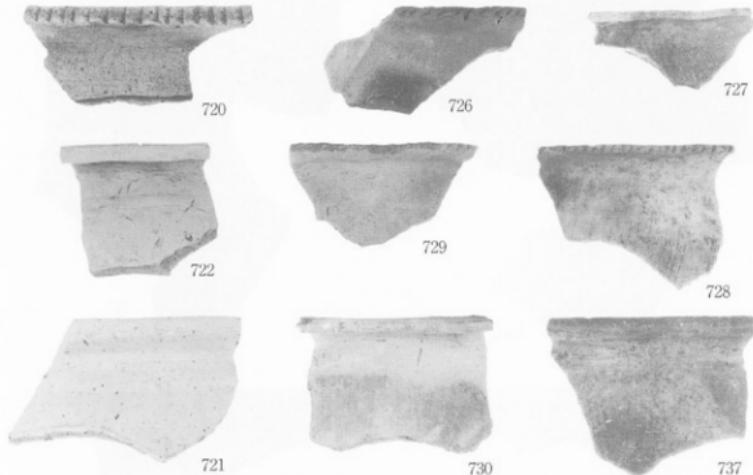


2. 第62次第15層出土弥生土器 瓢

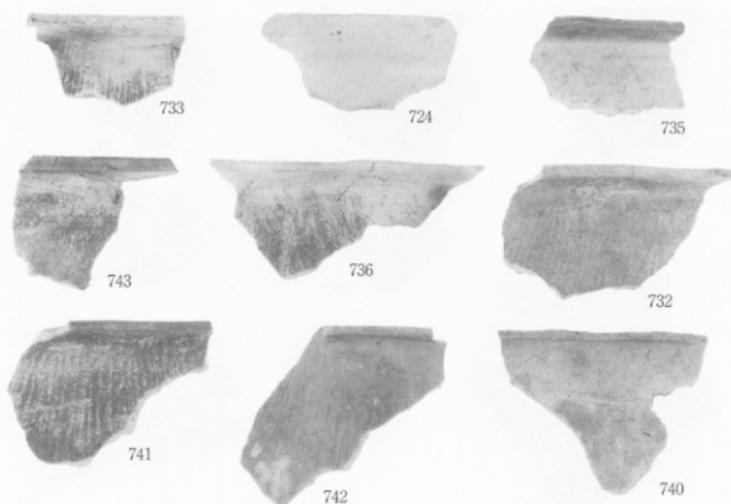
圖版
82
遺物



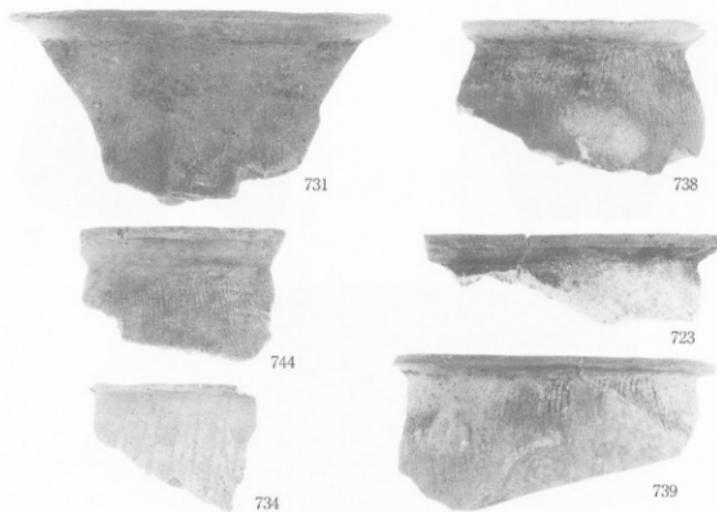
1. 第62次第15層出土弥生土器 瓢



2. 第62次第15層出土弥生土器 瓢

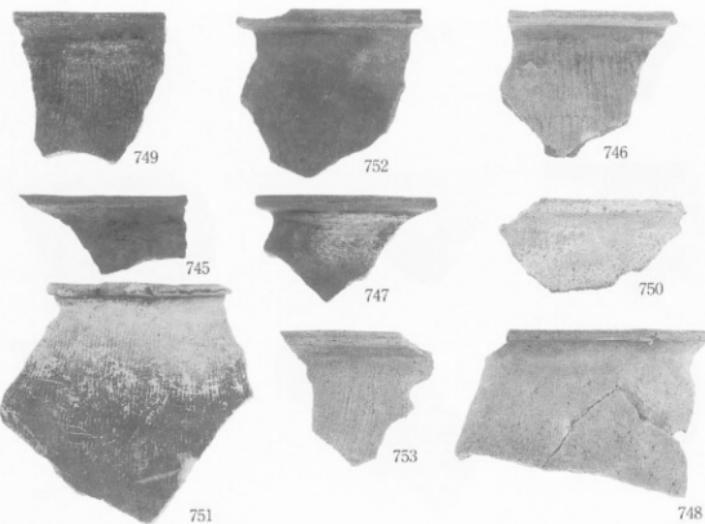


1. 第62次第15層出土赤生土器 壺



2. 第62次第15層出土赤生土器 壺

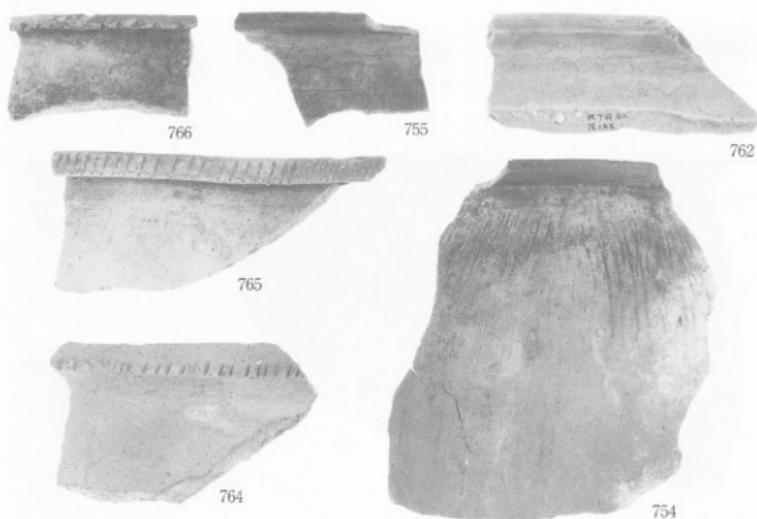
圖版
84
遺物



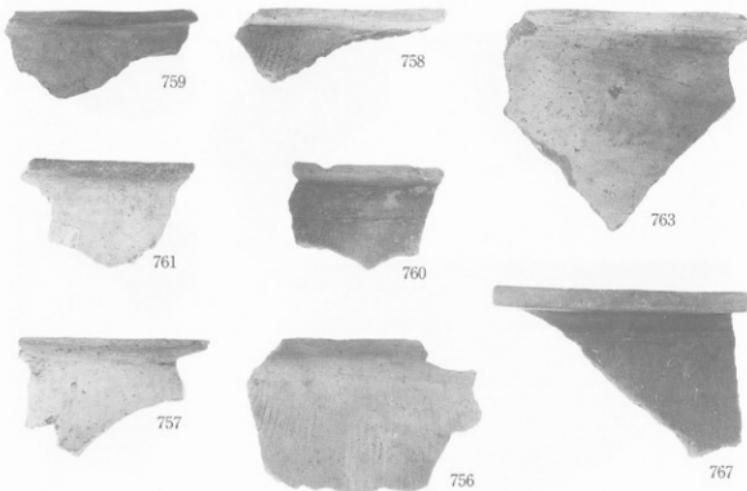
1. 第62次第15層出土弥生土器 壺



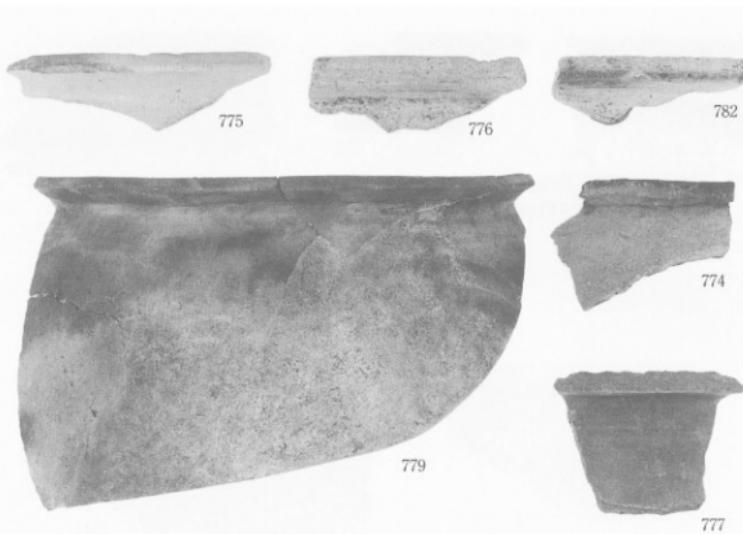
2. 第62次第15層出土弥生土器 壺



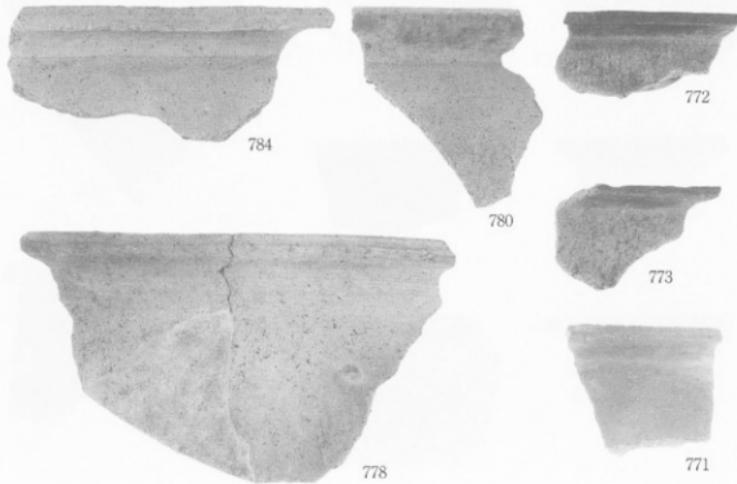
1. 第62次第15層出土弥生土器 瓢



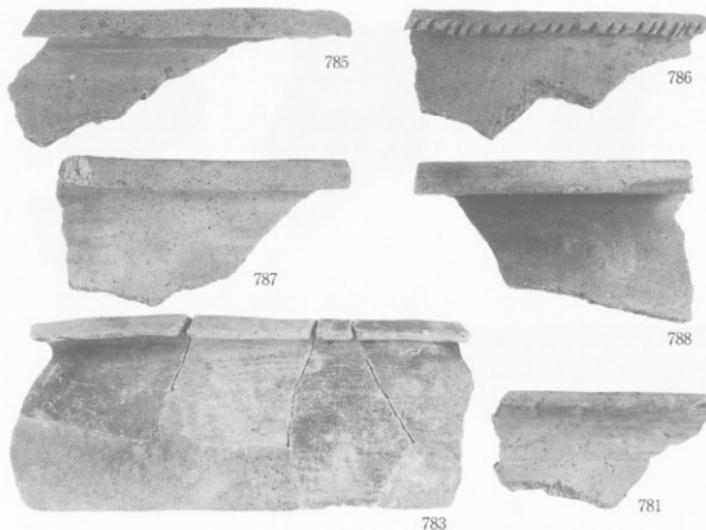
2. 第62次第15層出土弥生土器 瓶



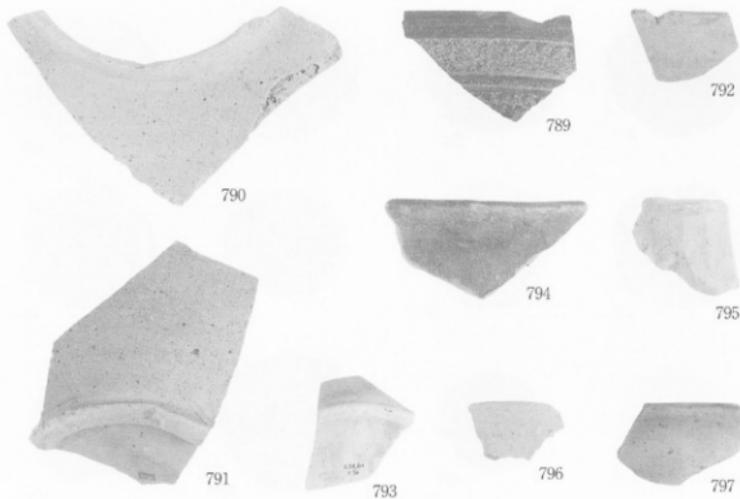
1. 第62次第15層出土弥生土器 瓢



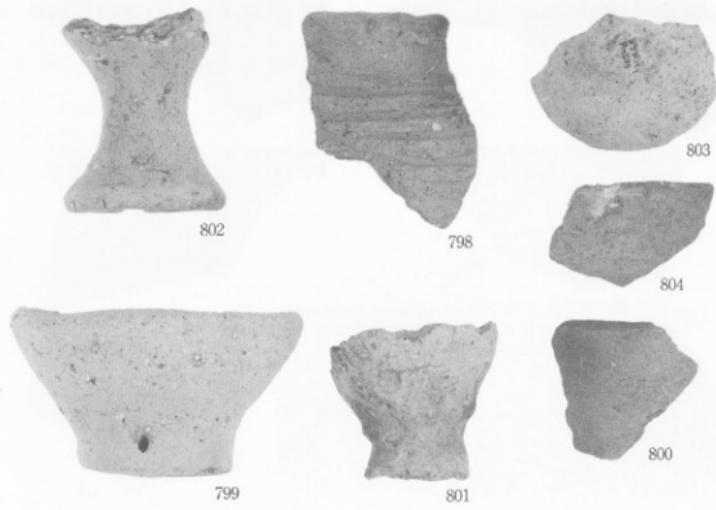
2. 第62次第15層出土弥生土器 瓢



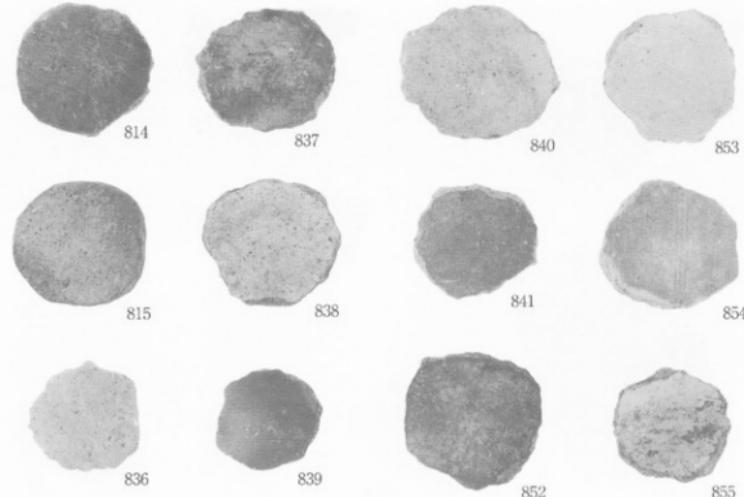
1. 第62次第15層出土弥生土器 壺



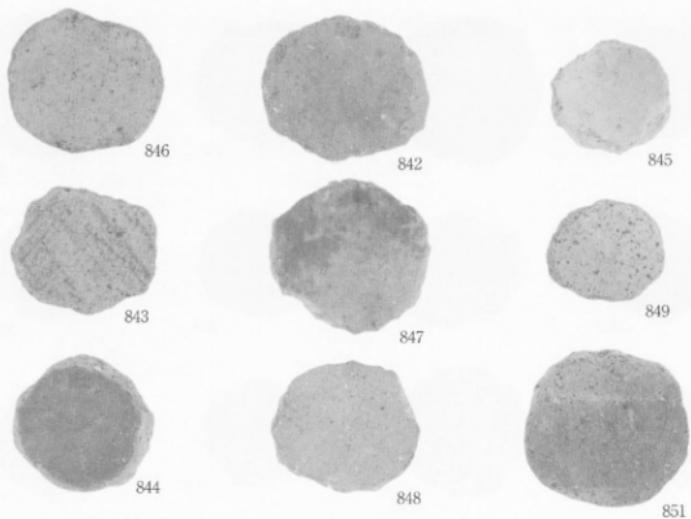
2. 第62次上層出土須恵器 壺・壺・杯、土師器 壺・高杯・椀・杯



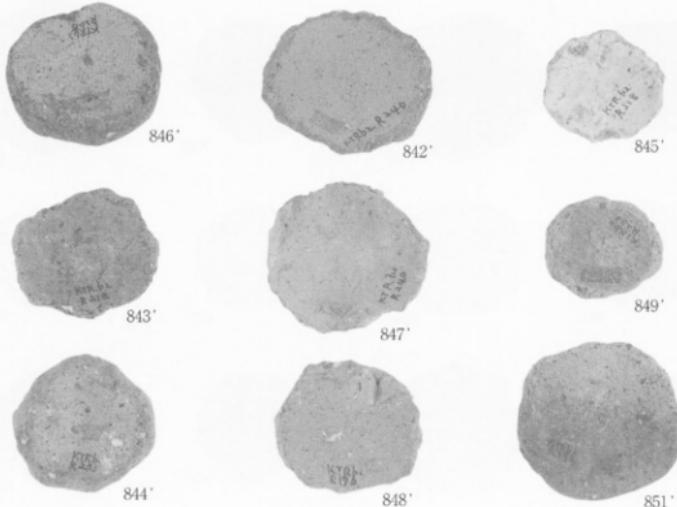
1. 第62次ミニチュア土器 壺・鉢・高杯・蓋



2. 第62次土製品

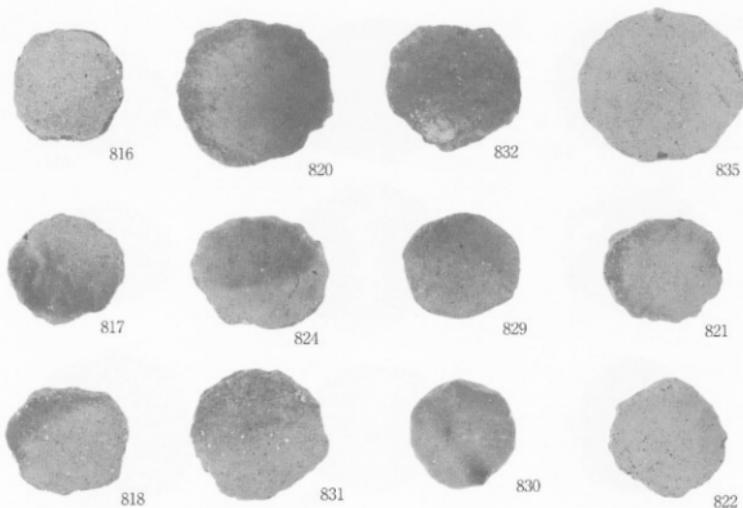


1. 第62次土製品（表）

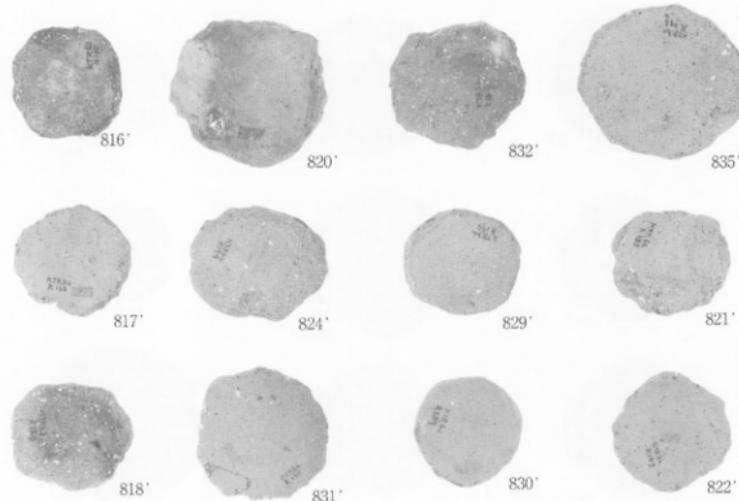


2. 第62次同上（裏）

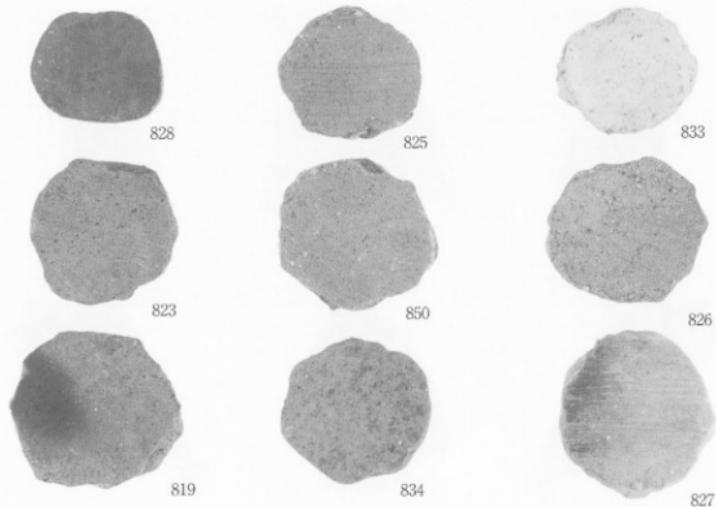
図版
90
遺物



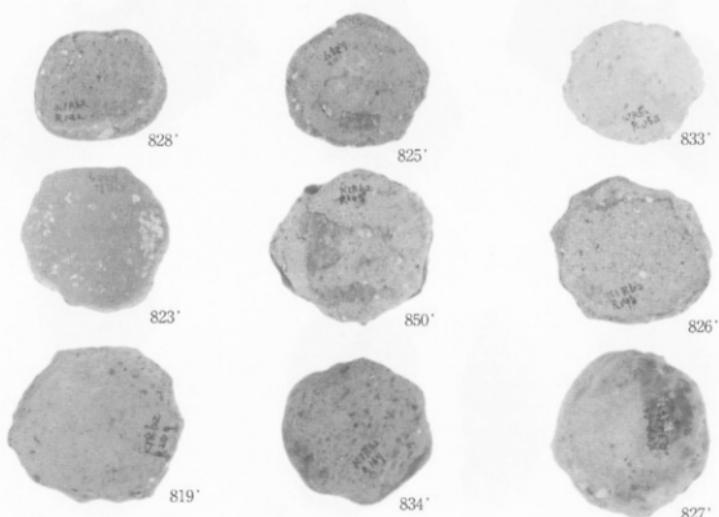
1. 第62次土製品（表）



2. 第62次同上（裏）



1. 第62次土製品（表）

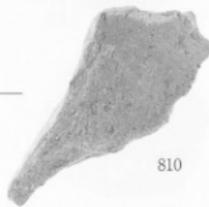
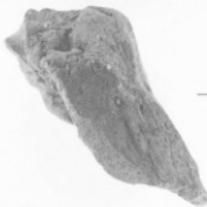


2. 第62次同上（裏）

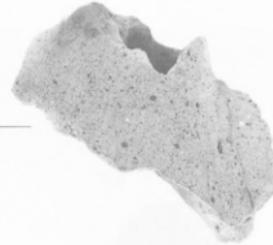
図版
92
遺物



808



810



809

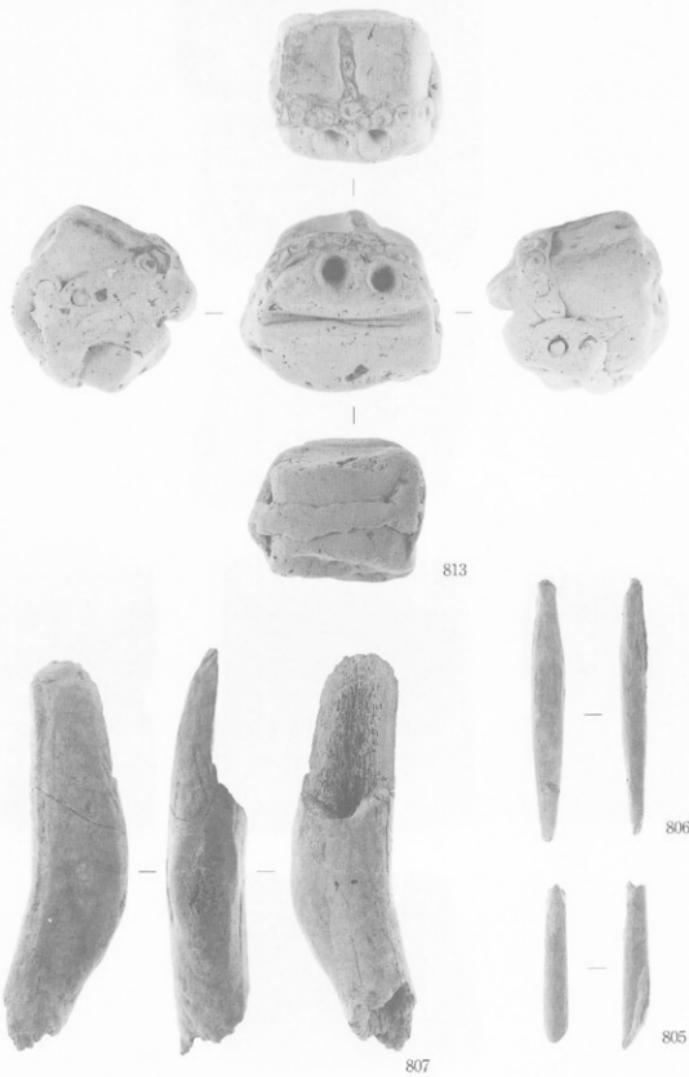


811

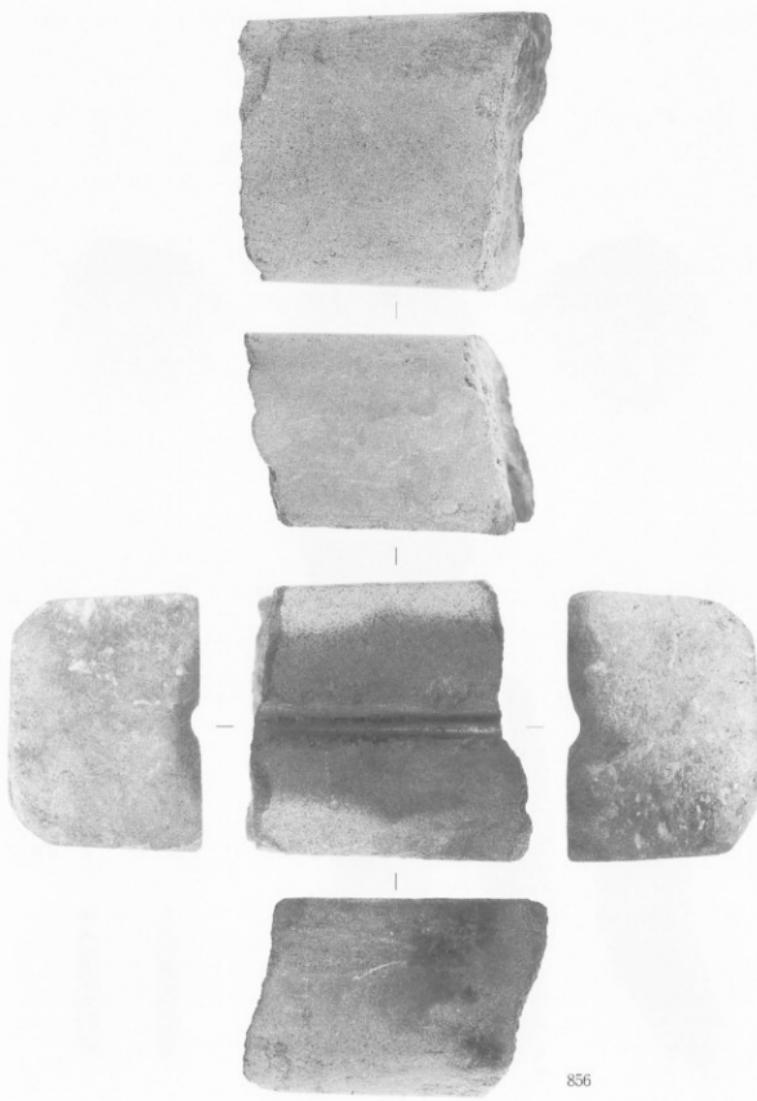


812

1. 第62次上製品

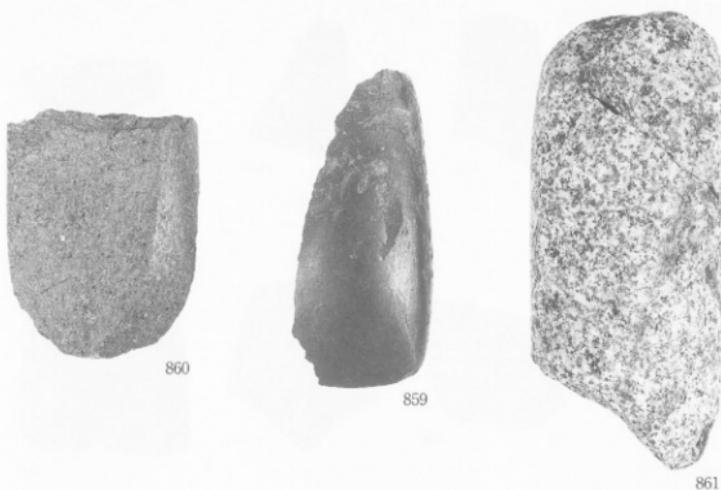


1. 第62次土製品・骨角製品

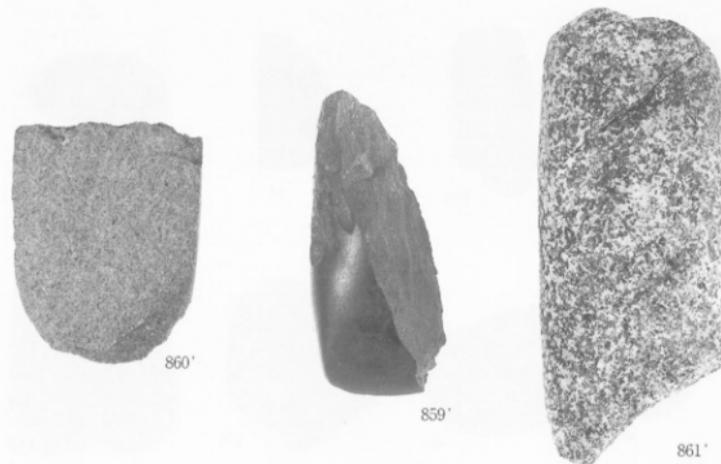


856

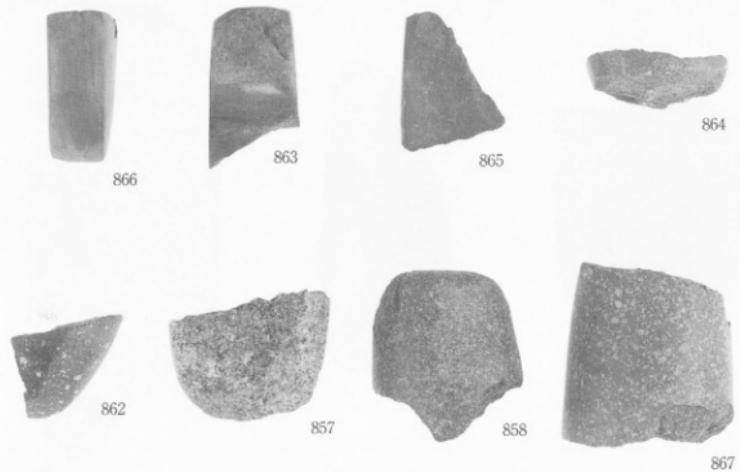
1. 第62次銅劍鉗型



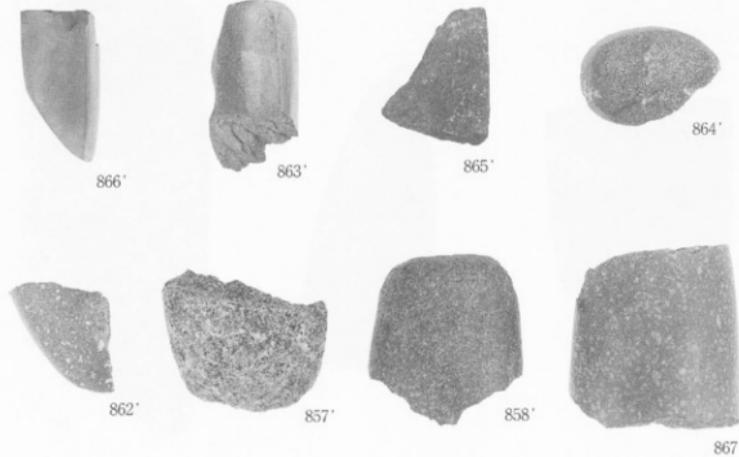
1. 第62次石器(表)



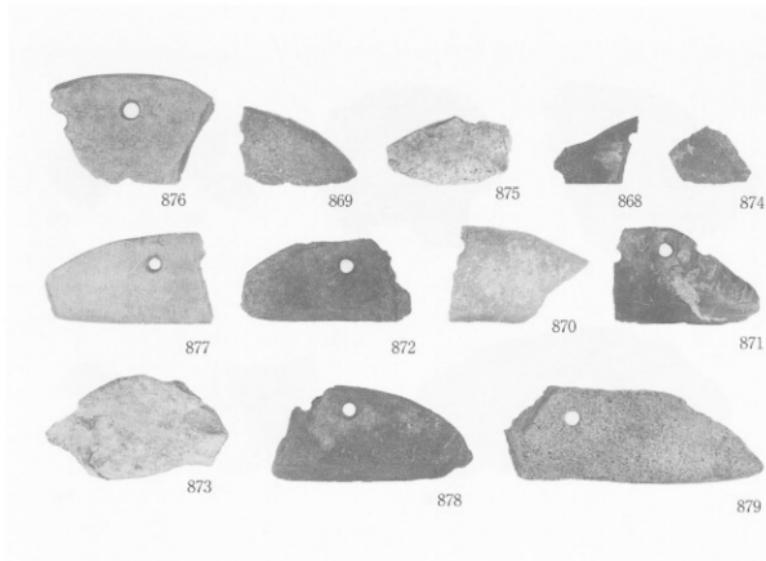
2. 第62次同上(裏)



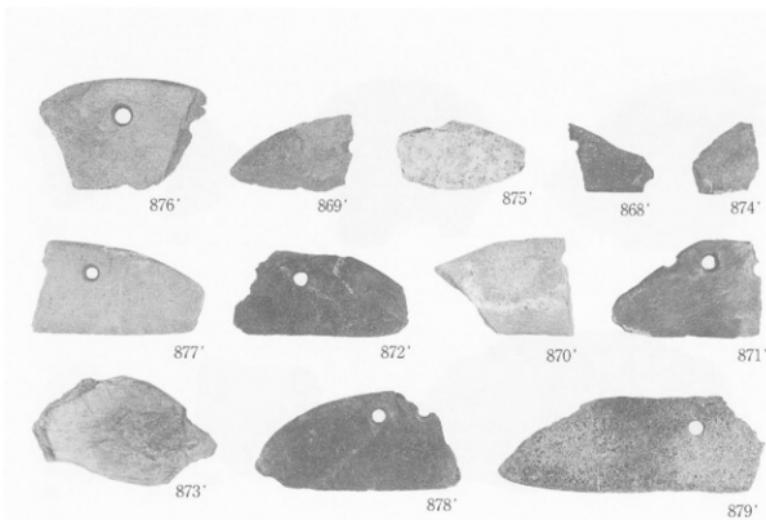
1. 第62次石器（表）



2. 第62次同上（裏・側面）

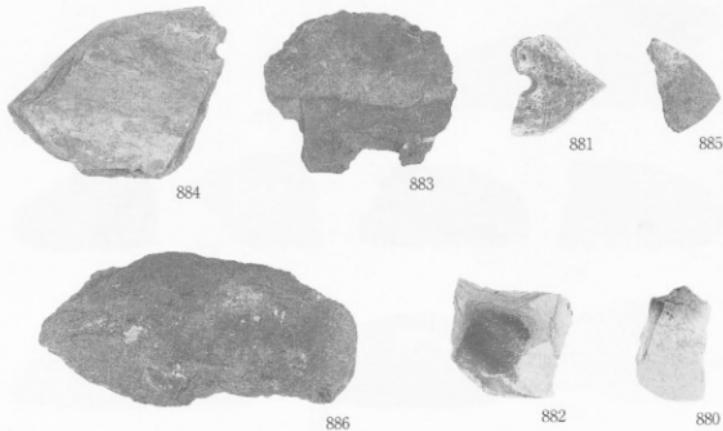


1. 第62次石器（表）

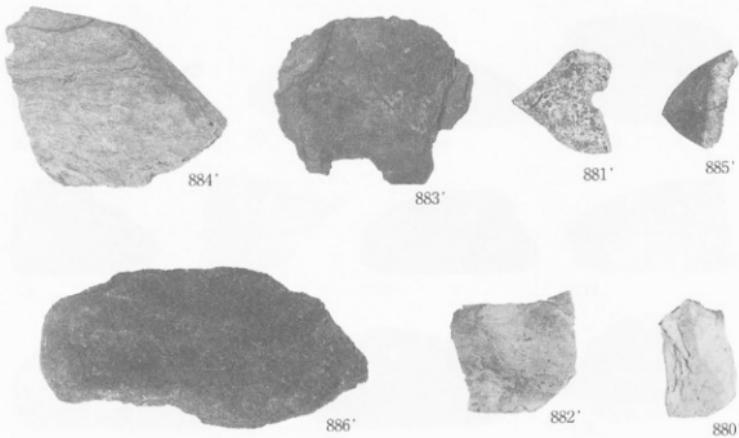


2. 第62次同上（裏）

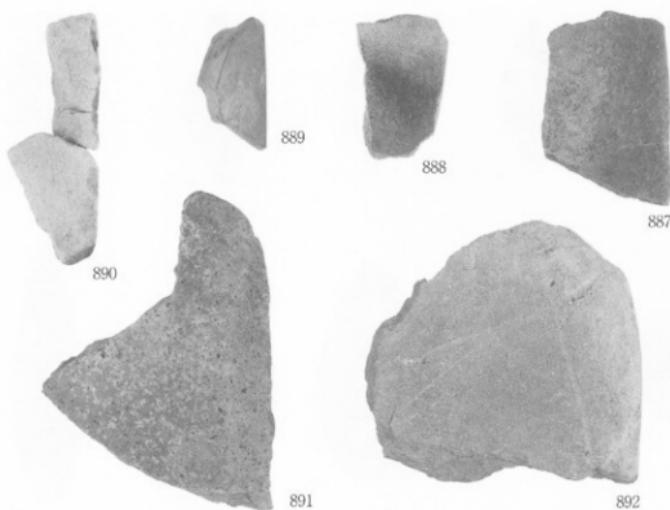
図版
98
遺物



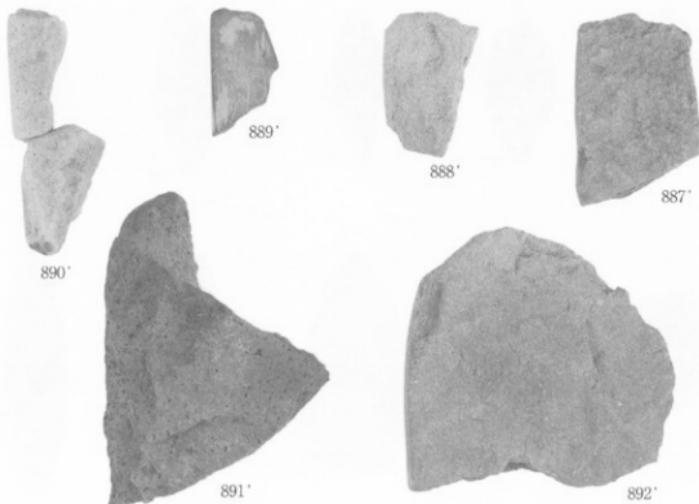
1. 第62次石器（表）



2. 第62次同上（裏）

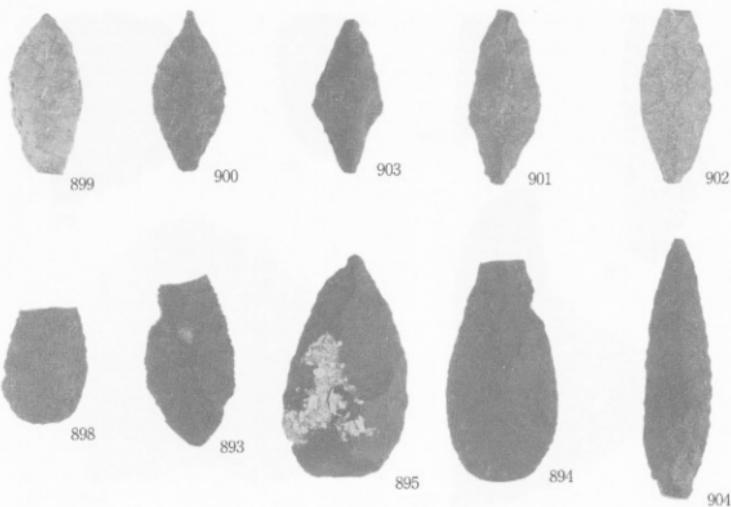


1. 第62次石器（表）

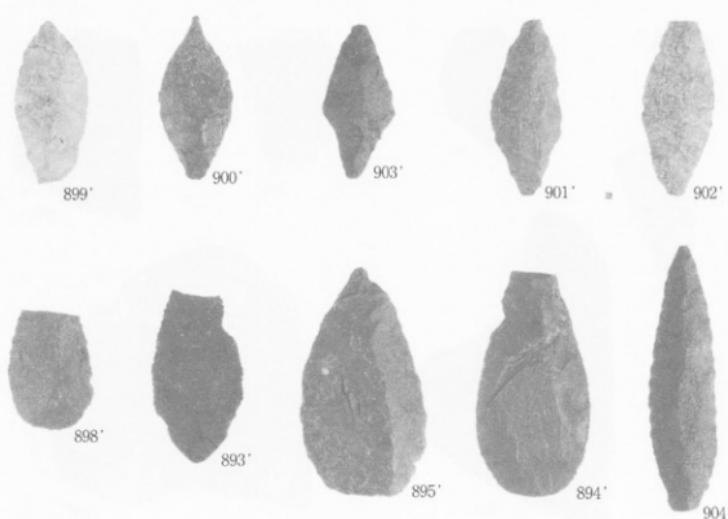


2. 第62次同上（裏）

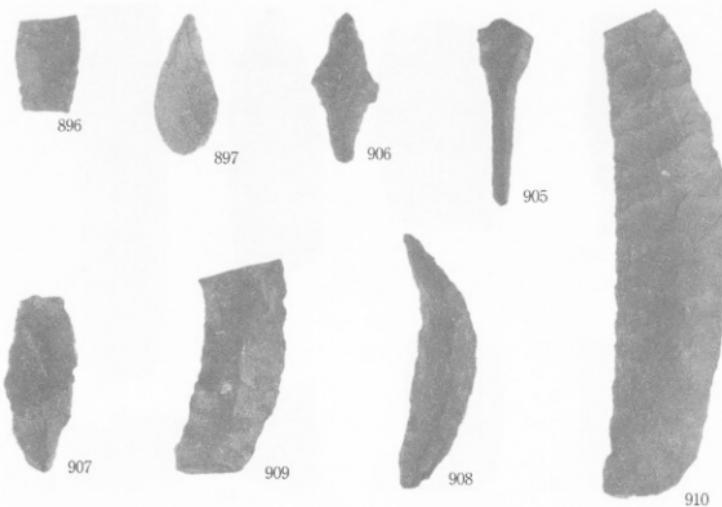
図版
100
遺物



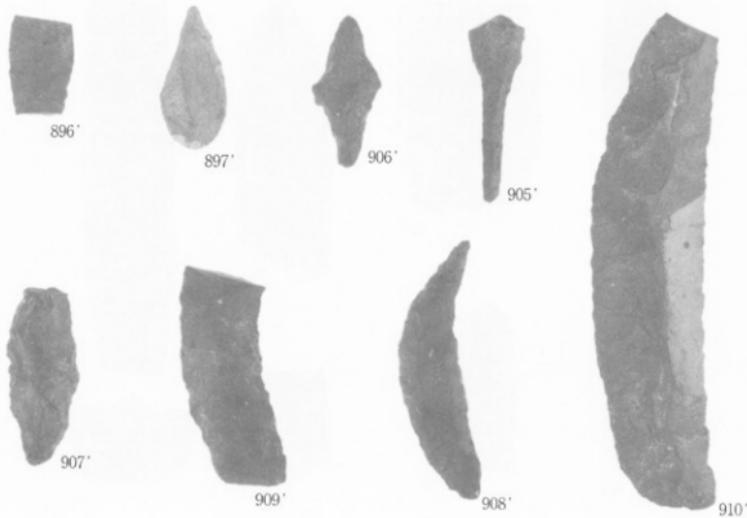
1. 第62次石器（表）



2. 第62次同上（裏）

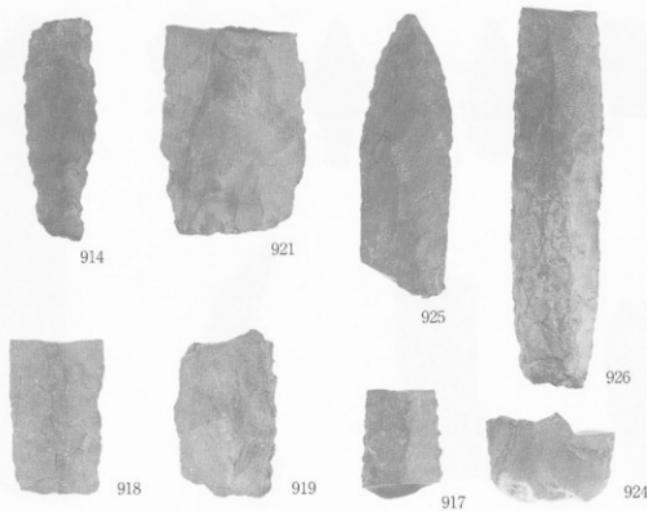


1. 第62次石器（表）

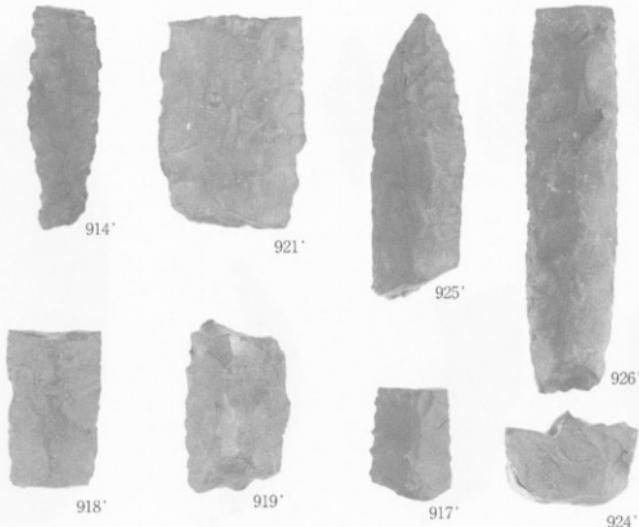


2. 第62次同上（裏）

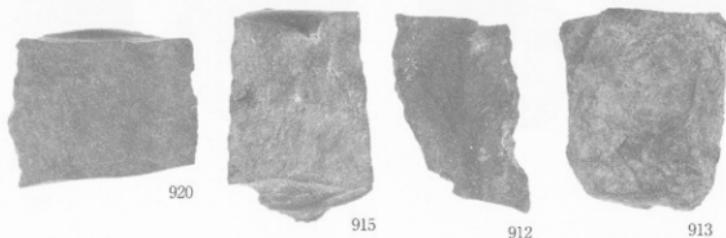
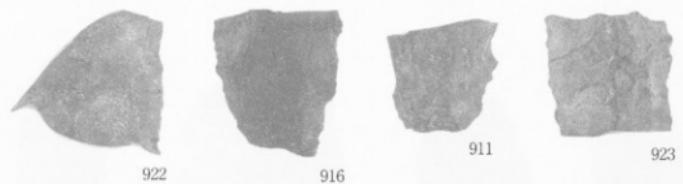
圖版
102
遺物



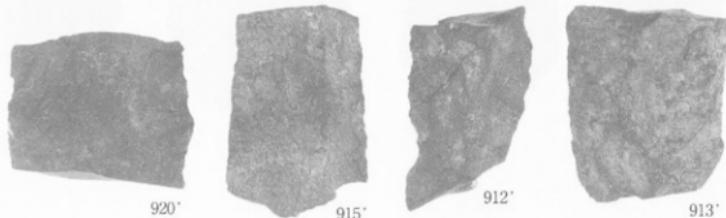
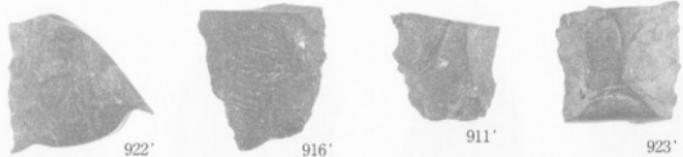
1. 第62次石器（表）



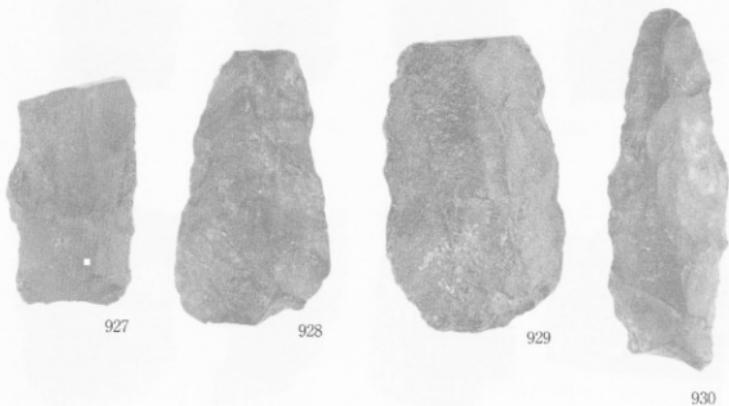
2. 第62次同上（裏）



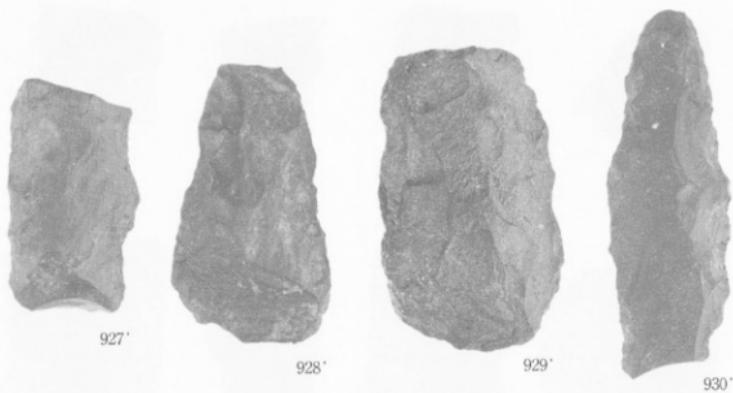
1. 第62次石器(表)



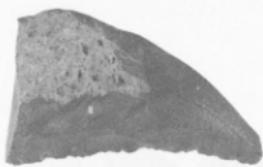
2. 第62次同上(裏)



1. 第62次石器（表）



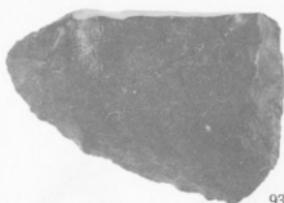
2. 第62次同上（裏）



933



932



934



931

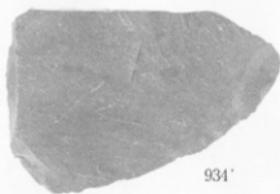
1. 第62次石器(表)



933'



932'

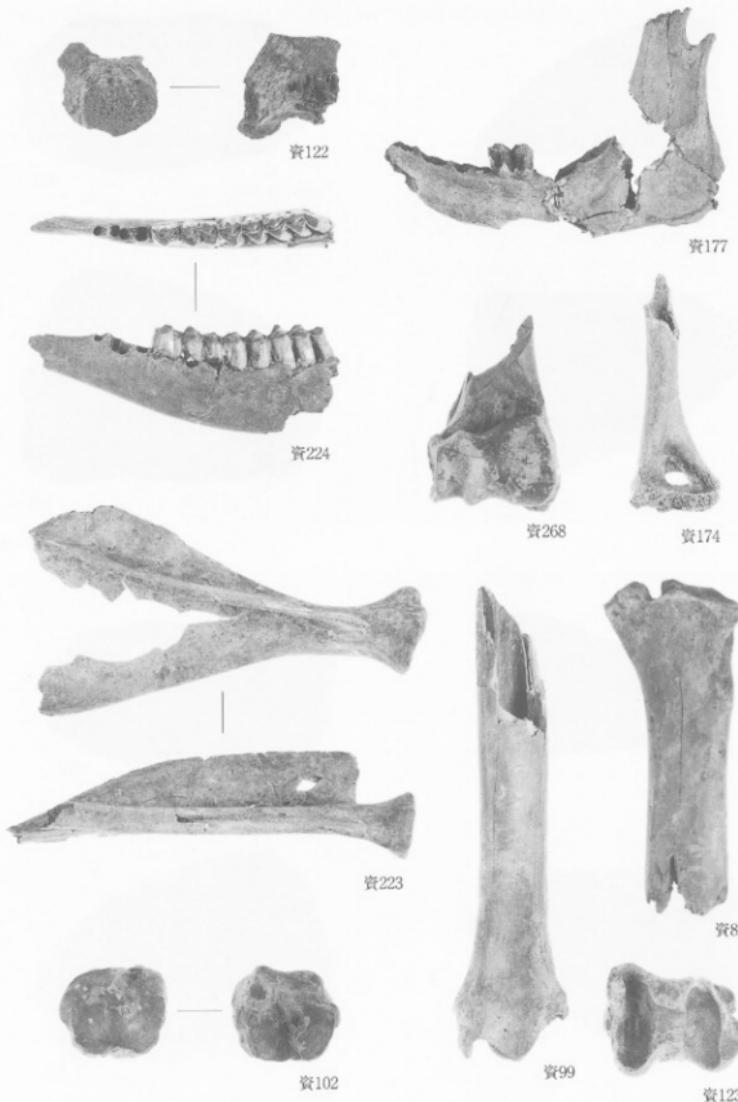


934'



931'

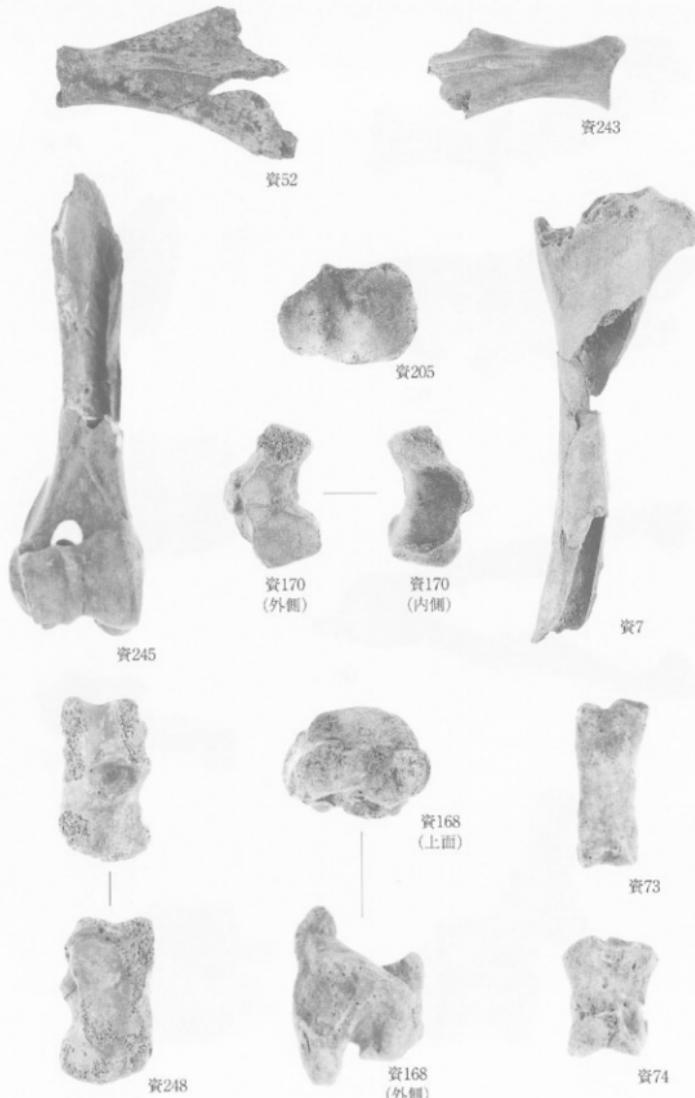
2. 第62次同上(裏)



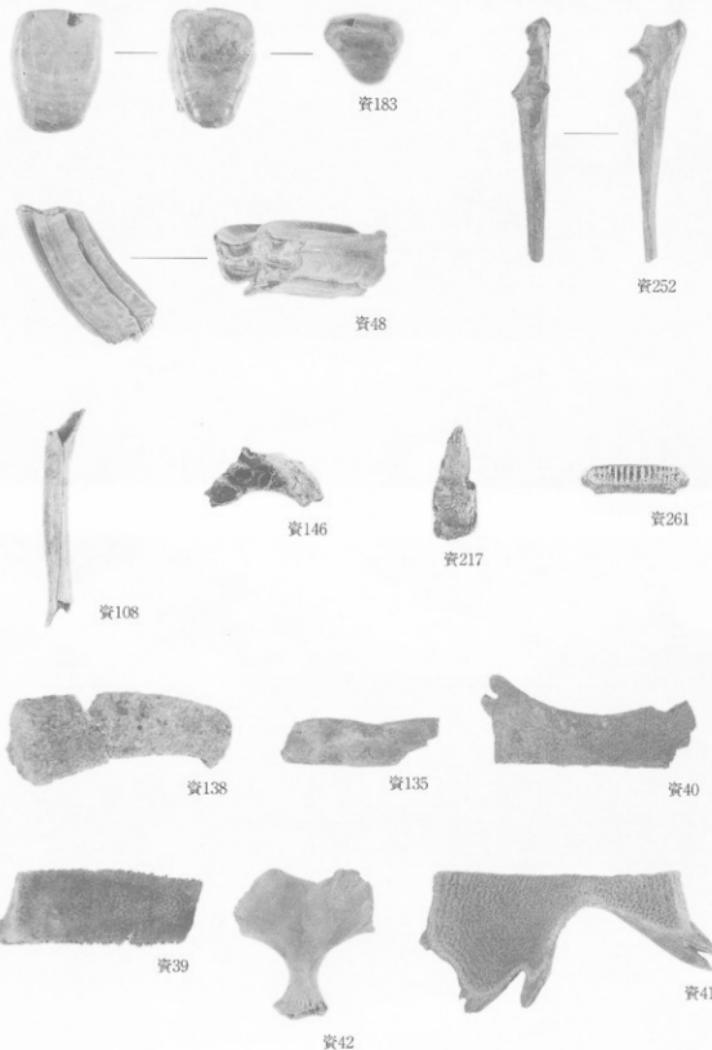
1. 第62次動物遺体 シカ 資123・174 (=1/1)・資8・99・102・268 (=2/3)・資122・177・223・224 (=1/2)



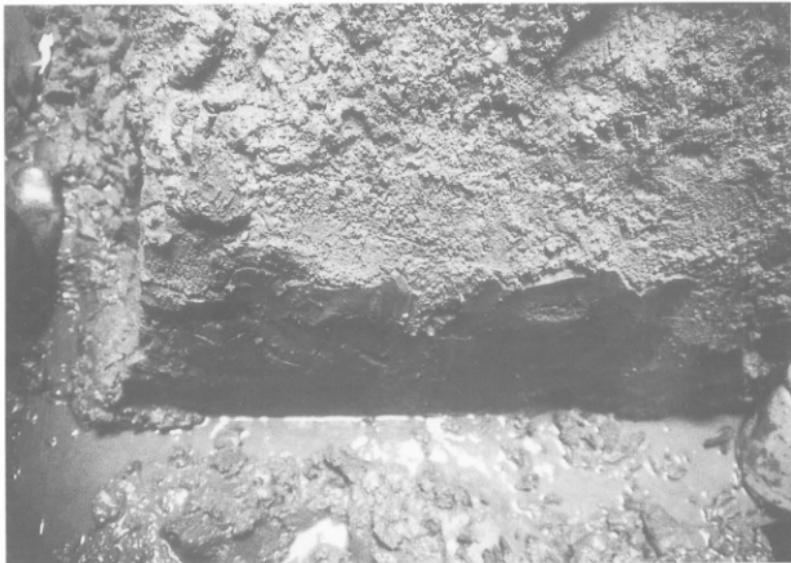
1. 第62次動物遺体 イノシシ 資6・57・265 (=1/1)・資21 (=3/4)・資295 (=2/3)・資3・イノシシ(ブタ?) 資43 (=1/2)



1. 第62次動物遺体 イノシシ 資73・74・168・170・205・248 (=1/1)・資7・245 (=2/3)・資52・243 (=1/2)



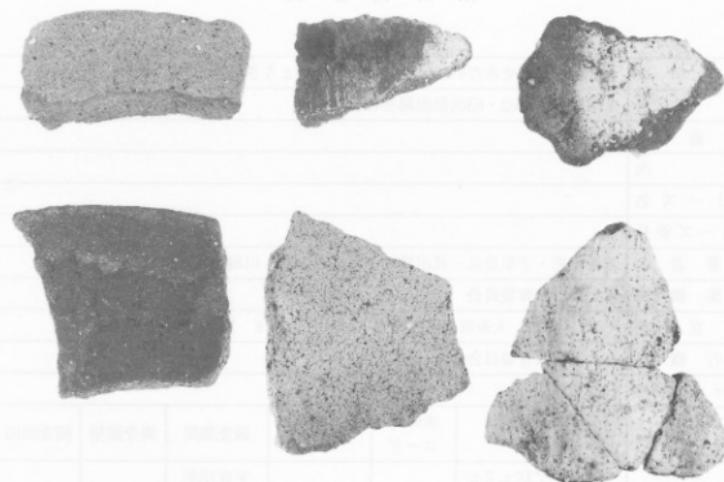
1. 第62次動物遺体 ヒトの歯 資183、コイ科 資146 (2.5倍)、ウシサワラ 資217、トビエイ 資261 (1.5倍)、トリ 資108、スッポン 資39・40・41・42・135・138 (=1/1)、ウマ 資48 (-2/3)、イヌ 資252 (=1/2)



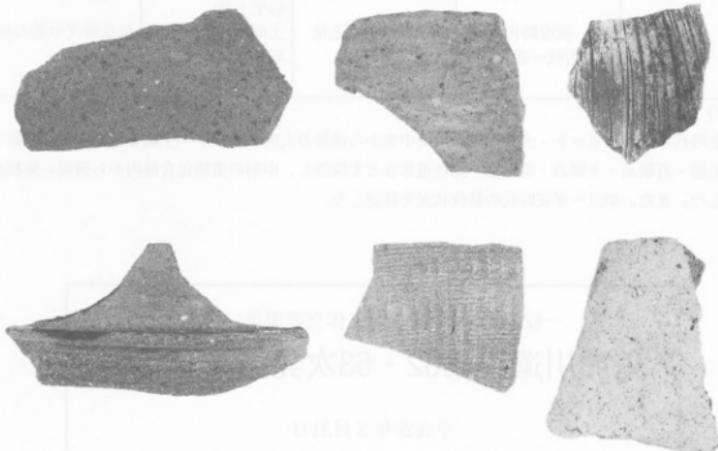
1. 第63次南壁断面1



2. 第63次南壁断面2



1. 第63次出土弥生土器



2. 第63次出土須恵器・土師器

報告書抄録

ふりがな	きとらがわいせきだい62・63じはっくつちょうさほうこく					
書名	鬼虎川遺跡第62・63次発掘調査報告					
副書名						
卷次						
シリーズ名						
シリーズ番号						
編著者名	若松博恵・才原金弘・武田雄志・安部みき子・川端清司・村上隆					
編集機関	東大阪市教育委員会					
所在地	〒577-8521 大阪府東大阪市荒本北50番地の4 Tel.06-4309-3283					
発行機関	東大阪市教育委員会					
発行年月日	2008年3月31日					
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	市町村 コード	遺跡番号	調査期間	調査面積	調査原因
きとらがわいせき 鬼虎川遺跡	おおかわいせき 大阪府東大阪市弥生 町1371-3・4 西石切町5丁目190 -8	27227	46	平成18年 6月7日 ～ 平成18年 11月21日	130m ²	道路建設
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
集落跡	弥生時代 古代～近代	溝・ピット・土坑 足跡・井路		弥生土器 土師器・須恵器 石製品・土製品 骨角器・動物遺体	弥生時代中期の銅 剣鋳型	

《要約》

弥生時代中期前葉ピット・土坑・溝・中期中葉から後葉の大溝・ピット・土坑などの遺構、多量の
弥生土器・石製品・土製品・骨角器・動物遺体などを検出し、中期の遺物包含層内から銅剣の鋳型が
出土した。また、奈良～平安時代の耕作状況を確認した。

一般国道170号西石切立体交差事業に伴う
鬼虎川遺跡第62・63次発掘調査報告

平成20年3月31日

発行所 東大阪市教育委員会

印刷所 (株)近畿印刷センター

